

授 業 概 要

平成30年度

群馬医療福祉大学

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

【社会福祉学部 ディプロマ・ポリシー】

「知識・理解」

(1) 福祉・教育に関する知識を修得し、生活上の課題を多面的に考察できる。

「汎用的技能」

(2) 人の思いを引き出し、分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。

「態度・志向性」

(3) 本学の仁の精神に則り、人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。

(4) 地域や人の変化に対する知識を自ら学び、地域に還元する意欲を持っている。

「統合的な学習経験と創造的思考力」

(5) 多職種の専門性を理解し、自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

【社会福祉学部 カリキュラム・ポリシー】

全学及び社会福祉学部のディプロマ・ポリシーを基に、社会福祉学部は、「1. 知の継承」と「2. 知の還元」という2つの観点から体系的にカリキュラムを編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講する。

知の継承には、(1) 基礎知識の継承と(2) 専門知識の継承という2つの観点があり、知の還元には、(1) 地域への還元と(2) 専門職としての実践という2つの観点が含まれる。

解説

1. 知の継承

知の継承とは、先人が培ってきた知識や技能などの財産を大学で展開するカリキュラムを通して受け継ぐことである。「継承」には、単なる知識の獲得だけでなく、それを活用できる水準まで学生自身が統合する過程を含んでいる。獲得した知識を応用し発展させ、具体的実践の想定ができて初めて、知識は伝達できる形に整理される。したがって、この観点では具体的実践に移る前段階の学修を中心に構成する。

この観点に基づき、社会福祉学部のカリキュラムにはある事象を理解しそれに関する応用や発展、問題解決の方策を想定できる水準に到達するための学修内容を配置する。具体的には、「基礎知識の継承」と「専門知識の継承」という2つに大別される。

(1) 基礎知識の継承

社会福祉学部では、本学の建学の精神である「仁」を中心とした人としての教養と倫理観を身に付けるため、日常生活に即した実践活動において自らを律し、礼儀・真心の修得を目指す。また、生活の基盤となる法律や制度を学び、地域の人や子どもと関わる中から人の生活上の課題を発見し、自分自身の考えを相手の立場に立って表現するための知識・態度の修得を目指す。

これらを修得するために、「仁」に基づく教養と倫理観を学ぶ講義を必修科目として配置する。また、人の尊厳と様々な社会の動向を理解するための基礎となる哲学、法学、社会学、

言語学、文化人類学、情報リテラシーを学ぶための科目を設置する。

上記の修得内容と科目編成を踏まえ、主に講義と演習の授業形式を用いる。また、環境美化活動やボランティア活動をはじめとする本学における日常生活の中に設置された実践活動の中で、学生が分析した生活上の課題やそこでの学びについて講義内で積極的に活用する。

これらの学修成果の評価では、知識の学修状況の評価を目的としたテスト形式・レポート形式と、授業への取り組みの評価を目的としたポートフォリオ形式等を組み合わせて実施する。

(2) 専門知識の継承

社会福祉学部では、福祉・教育の専門職として必要となる知識・技術を身に付けるため、人の成長・発達、地域資源、職業倫理等の知識の修得を目指す。また、人や子どもと関わる中から支援対象者を理解する能力やコミュニケーション能力の修得を目指す。

これらを修得するために、福祉・教育の専門職として必要とされる社会福祉学・教育学・保育学を体系的に学ぶための講義・演習を各段階に配置し、進路選択時に広く福祉・教育の専門知識が活用可能な科目を設置する。

上記の修得内容と科目編成を踏まえ、主に講義と演習、実技の授業形式を用いる。演習形式の授業では、授業内の発表・討議に向けた事前準備と授業後の振り返りを含めて学修を進める。

これらの学修成果の評価では、知識の学修状況の評価を目的としたテスト形式・レポート形式と、授業や演習への取り組みの評価を目的としたポートフォリオ形式、実技の達成状況の評価を行うパフォーマンス形式等を組み合わせて実施する。

2. 知の還元

知の還元とは、修得した知識や技能を磨き、それらを学内外で共有し、さらに次の世代の人々に伝えていく実践である。「還元」を目指す実践には、学生が卒業後にそれぞれ居住する地域での実践活動を含めており、在学中の群馬県を基盤とする様々な実践活動を通して他の地域でも活用できる能力や知識の涵養を目指す。したがって、この観点では、修得した知識や技能を応用し、専門的実践能力の向上や創造的な思考に基づく実践活動を展開することを中心に構成する。

この観点に基づき、社会福祉学部のカリキュラムには専門職としての実践能力を向上するための実習をはじめ、国際化の潮流の中でローカルな問題をグローバルに考える、または、グローバルな問題をローカルなレベルに応用する実践能力を身に付けるための学修内容を配置する。具体的には、「地域への還元」と「専門職としての実践」という2つに大別される。

(1) 地域への還元

社会福祉学部では、獲得した知識を地域に還元する能力を身に付けるため、居住する地域について理解し、地域で生じている問題の解決に向けた手立てを導く力の修得を目指す。

これらを修得するために、群馬県内を中心とした近隣地域の歴史・祭事等の特徴を取り上げる機会を講義内外において設ける事に加え、必修としているボランティア活動において地域の福祉施設・教育機関の現状を実践的に学修する。また、福祉・教育・保育の専門知識を地域に還元する方法を学修する科目を配置する。

上記の修得内容と科目編成を踏まえ、主に講義と演習、実技、フィールドワークの授業形

式を用いる。特に地域の特徴、課題の分析と手立てを考察し、自己の適性や望ましい職業観の理解、地域貢献に繋がるよう指導する。

これらの学修成果の評価では、地域に対する知識とその活用に向けた思考や態度の評価を目的としたテスト形式・レポート形式、フィールドワーク時の記録等を用いたポートフォリオ形式等を組み合わせて実施する。

(2) 専門職としての還元

社会福祉学部では、実践的な活動から課題を具体的に見出し、思考する能力を身に付けるため、獲得した知識を基に実習やボランティア活動の経験を通じて支援対象者の課題を発見し、解決する方法を考察できることを目指す。また、各専門職としての実践場面における課題に対して、職業倫理に則って思考できる能力、よりよい実践に繋げていくための省察を行う能力、実践を円滑に行うための表現スキルの修得を目指す。

これらを修得するために、各実習に向け、福祉・教育・保育の専門知識を用いたアクティブ・ラーニング型の演習科目を配置する。また、実施した実習での経験を省察・検討する事後指導を中心とした演習科目を配置する。

上記の修得内容と科目編成を踏まえ、主に講義と演習、実技、実習の授業形式を用いる。ここでは講義と演習を通じて積み重ねてきた知識を活用した実践の発表とその省察を能動的に行える授業を目指す。

これらの学修成果の評価では、活動の成果と表現の評価を目的としたポートフォリオ形式やパフォーマンス形式等を組み合わせて実施する。

目次

平成30年度 群馬医療福祉大学部 開講科目一覧

〔平成29年度以降入学生（平成30年度1・2年生）〕

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）	1
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）	2
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）	3
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）	4
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）	5

〔平成28年度入学生（平成30年度3年生）〕

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）	6
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）	7
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）	8
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）	9
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）	10

〔平成27年度入学生（平成30年度4年生）〕

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）	11
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）	12
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）	13
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）	14
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）	15

資格カリキュラム一覧	16
------------	----

授 業 内 容

基礎教養科目

哲 学	26
倫理学	27
心理学理論と心理的支援（心理学概論）	29
社会理論と社会システム	30
日本国憲法	31
道德教育	32
健康論	33
スポーツ及びレクリエーション実技	34
情報処理演習	36
福祉情報処理	38
英語Ⅰ（社会福祉専攻）	39
英語Ⅰ（子ども専攻）	40
英語Ⅱ（社会福祉専攻）	41
英語Ⅱ（子ども専攻）	42

英語Ⅲ	43
英語Ⅳ	44
韓国語Ⅰ	45
韓国語Ⅱ	46
中国語Ⅰ	47
中国語Ⅱ	48
英会話	49
経済学	50
政治学Ⅰ	51
政治学Ⅱ	52
人間と宗教	53
生涯学習概論	54
児童文学	55
読書指導と文芸	56
マスメディア論	57
レクリエーション活動援助法	58
特設科目・論語	60
教育原理（社会福祉専攻）	61
教育原理（子ども専攻）	62
日本史Ⅰ	63
日本史Ⅱ	64
世界史	65
地理学	66
国際文化論	67
美術技法	68
基礎演習Ⅰ	70
基礎演習Ⅱ	72
総合演習Ⅰ	74
総合演習Ⅱ	76
ボランティア活動Ⅰ（社会福祉専攻）	78
ボランティア活動Ⅰ（子ども専攻）	80
ボランティア活動Ⅱ（社会福祉専攻）	82
ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	84
ボランティア活動Ⅲ	86
ボランティア活動Ⅳ	87
チームケア入門Ⅰ	88

チームケア入門Ⅱ	89
医療・福祉・教育の基礎	90
海外語学研修(カナダ)	91
海外医療福祉研修(フィリピン)	93

専門科目

人体の構造と機能及び疾病	96
保健医療サービス	97
現代社会と福祉	98
高齢者に対する支援と介護保険制度	100
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	102
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	103
相談援助の理論と方法Ⅰ	105
相談援助の理論と方法Ⅱ	107
相談援助演習Ⅰ	109
相談援助演習Ⅱ	110
相談援助演習Ⅲ	112
相談援助実習指導Ⅰ	114
相談援助実習指導Ⅱ	115
相談援助実習	117
低所得者に対する支援と生活保護制度	118
地域福祉の理論と方法	119
社会福祉特講Ⅰ	121
社会福祉特講Ⅱ	122
社会福祉特講Ⅲ	124
社会福祉特講Ⅳ	126
社会保障	128
権利擁護と成年後見制度	130
更生保護制度	131
社会調査の基礎(社会福祉専攻)	132
社会調査の基礎(子ども専攻)	133
社会調査の基礎(編入組)	134
相談援助の基盤と専門職(社会福祉専攻)	135
相談援助の基盤と専門職(子ども専攻)	137
福祉行財政と福祉計画(社会福祉専攻)	139
福祉行財政と福祉計画(子ども専攻)	140
福祉サービスの組織と経営	141

就労支援サービス	143
福祉心理学	144
社会福祉史	145
福祉事務所運営論	146
精神疾患とその治療	147
精神保健の課題と支援	149
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	151
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	152
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	154
精神保健福祉に関する制度とサービス	156
精神障害者の生活支援システム	158
精神保健福祉援助演習(基礎)	159
精神保健福祉援助演習(専門)	161
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	163
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	164
精神保健福祉援助実習	166
アクティビティ・サービス援助技術	167
心理学研究法	169
学習心理学(学習・言語心理学)	170
発達心理学	171
保育の心理学Ⅰ	173
心理統計学(心理学統計法)	174
老人心理学	176
障害児(者)心理学	177
教育心理学(教育・学校心理学)	178
保育の心理学Ⅱ	179
認知心理学(知覚・認知心理学)	180
社会心理学(社会・集団・家族心理学)	181
臨床心理学(臨床心理学概論)	182
臨床心理学(子ども専攻)	183
カウンセリング(心理実習)	184
青年心理学	185
公衆衛生学	186
心理療法(心理学的支援法)	187
人間関係論(産業・組織心理学)	188
国際福祉論	189

人格心理学（感情・人格心理学）	190
住環境福祉論	191
社会福祉法制（関連行政論）	192
相談心理学（公認心理師の職責）	193
介護技術Ⅰ	194
介護技術Ⅱ	196
卒業論文指導	198
卒業論文	199
心理学実験実習Ⅰ（心理学実験）	200
心理学実験実習Ⅱ	202
心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）	203
発達心理学特講（健康・医療心理学）	204
臨床心理学特講（神経・生理心理学）	205
教職概論	206
教育社会学	207
社会科教育法Ⅰ	208
社会科教育法Ⅱ	210
公民科教育法	212
福祉科教育法	214
特別活動研究	216
教育方法論	217
生徒指導論	219
教育相談論	220
教職実践演習	221
中・高 教育実習事前事後指導（2年生）	222
中・高 教育実習事前事後指導（3年生）	224
高等学校教育実習（公民科）	225
高等学校教育実習（福祉科）	226
学校経営と学校図書館	227
学校図書館メディアの構成	228
学習指導と学校図書館	229
読書と豊かな人間性	230
情報メディアの活用	231
特別支援教育総論	232
障害児支援法総論	233
重複障害教育総論	234

知的障害教育Ⅰ	235
肢体不自由教育Ⅰ	236
知的障害者の心理・生理・病理	237
肢体不自由者の心理・生理・病理	238
知的障害教育Ⅱ	239
肢体不自由教育Ⅱ	240
病弱児の心理・生理・病理	241
病弱教育	242
LD等教育総論	243
教育実習事前・事後指導(特支)	244
特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱)教育実習	246
中学校教育実習(社会科)	247
幼児理解	248
教育実習事前・事後指導(幼稚園)	249
幼稚園教育実習	250
生活科概論	251
地域子育て支援論	252
青少年の理解と援助	253
人権教育論	254
保育原理Ⅰ	255
社会的養護Ⅰ	257
家庭支援論	258
保育内容総論	259
保育内容(健康)	260
保育内容(人間関係)	261
保育内容(環境)	262
保育内容(言葉)	263
保育内容(表現)	264
乳児保育Ⅰ(演習)	265
障害児保育Ⅰ	267
障害児保育Ⅱ	268
保育の表現技術Ⅰ(音楽)	269
保育の表現技術Ⅰ(図画工作)	273
保育の表現技術Ⅰ(体育)	275
保育教職実践演習	276
保育実習指導Ⅰ(施設)	277

保育実習指導Ⅰ（施設）事後指導	279
保育実習指導Ⅰ（保育所）	280
保育実習指導Ⅱ（保育所）	282
社会的養護Ⅱ	283
児童文化（演習）	284
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）	286
保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	288
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	290
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	294
国語科概論	296
社会科概論	297
数学概論	298
理科概論	299
音楽概論	300
美術概論	301
家庭科概論	302
体育概論	303
小学校教科教育法（国語）	304
小学校教科教育法（社会）	306
小学校教科教育法（算数）	308
小学校教科教育法（理科）	310
小学校教科教育法（生活）	312
小学校教科教育法（音楽）	314
小学校教科教育法（図工）	316
小学校教科教育法（家庭）	318
小学校教科教育法（体育）	320
初等教育実習事前・事後指導（3年）	322
初等教育実習事前・事後指導（4年）	324
小学校教育実習	325
教職実践演習（小学校）	326
保育実習Ⅰ（施設）	327
保育実習Ⅰ（保育所）	328
保育実習Ⅱ（保育所）	329
子どもの保健Ⅰ	330
子どもの保健Ⅱ	332
社会的養護内容	333

子どもの食と栄養	334
保育者論	335
保育課程論	336
介護体験実習Ⅰ	337
介護体験実習Ⅱ	338
介護体験実習指導	339
道徳の理論及び指導法	340
中・高 教職対策講座Ⅰ（3年生）	341
中・高 教職対策講座Ⅰ（4年生）	342
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目）	343
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（専門科目）	344
教科書の購入について	347
索引	348

科目一覽

平成 29 年度以降入学生（平成 30 年度 1・2 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1	2		
日本国憲法	2		2	
道徳教育	1	2		
健康論	1	2		
スポーツ及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III（休講）	2		2	
英語 IV（休講）	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	
経済学	2		2	
政治学 I	4		2	
政治学 II	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
国際文化論	1		2	
美術技法	1		2	
音楽（一般）	1		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
総合演習 I	3	2		
総合演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	
チームケア入門 I	1		1	
チームケア入門 II	2		1	
医療・福祉・教育の基礎	1		2	

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2	4		
相談援助の理論と方法 II	3	4		
相談援助演習 I	1	1		
相談援助演習 II	2	2		
相談援助演習 III	3		2	
相談援助実習指導 I	2	1		
相談援助実習指導 II	3		2	
相談援助実習	3		4	
低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
地域福祉の理論と方法	3	4		
社会保障	2	4		
権利擁護と成年後見制度	4	2		
更生保護制度	4	1		
社会調査の基礎	2	2		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉行政と福祉計画	1	2		
福祉サービスの組織と経営	3	4		
就労支援サービス	4	1		
福祉心理学	1	2		
社会福祉史	1	2		
福祉事務所運営論	4	2		
精神疾患とその治療	4		4	
精神保健の課題と支援	4		4	
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1		2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2		4	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	3		4	
精神保健福祉に関する制度とサービス	2		4	
精神障害者の生活支援システム	4		2	
精神保健福祉援助演習（基礎）	3		2	
精神保健福祉援助演習（専門）	4		2	
精神保健福祉援助実習指導 I	3		1	
精神保健福祉援助実習指導 II	4		2	
精神保健福祉援助実習	4		4	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
心理学研究法	1		2	
学習心理学	1		2	
発達心理学 a	1		4	
心理統計学	2		4	
老人心理学	2		2	
障害児（者）心理学	2		2	
教育心理学	1		2	
認知心理学	3		2	
社会心理学	3		2	
臨床心理学	3		2	
カウンセリング	4		2	
青年心理学	2		2	
公衆衛生学	2		2	
心理療法	3		2	
人間関係論	2		2	
国際福祉論	4		2	
人格心理学	3・4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
相談心理学	4		2	
人権教育論	4		2	
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
卒業論文指導	3		2	
卒業論文	4		4	
社会福祉特講 I	1		1	
社会福祉特講 II	2		2	
社会福祉特講 III	3		2	
社会福祉特講 IV	4		2	
介護体験実習 I	4		1	
介護体験実習 II	4		1	
介護体験実習指導	4		1	
社会福祉専攻社会福祉コース 最低履修単位			124 単位	

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			心理学研究法	1	2		
英語Ⅱ	1	2			学習心理学	1	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		発達心理学 a	1	4		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理統計学	2	4		
韓国語Ⅰ	2		2		教育心理学	1	2		
韓国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅰ	2	4		
中国語Ⅰ	2		2		心理学実験実習Ⅱ	3	2		
中国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅲ	3	2		
英会話	4		2		認知心理学	3	2		
経済学	2		2		社会心理学	3	2		
政治学Ⅰ	4		2		臨床心理学	3	2		
政治学Ⅱ	4		2		カウンセリング	4	2		
人間と宗教	4		2		人間関係論	2	2		
生涯学習概論	4		2		老人心理学	2	2		
児童文学	3		2		障害児（者）心理学	2	2		
読書指導と文芸	4		2		青年心理学	2	2		
マスメディア論	4		2		心理療法	3	2		
レクリエーション活動援助法	3		2		人格心理学	3・4	2		
特設科目・論語	4	2			相談心理学	4	2		
教育原理	1		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
日本史Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3	2		
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2	1		
地理学	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3	2		
国際文化論	1		2		相談援助実習	3	4		
美術技法	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
音楽（一般）	1		2		地域福祉の理論と方法	3	4		
基礎演習Ⅰ	1	2			社会保障	2	4		
基礎演習Ⅱ	2	2			権利擁護と成年後見制度	4	2		
総合演習Ⅰ	3	2			更生保護制度	4	1		
総合演習Ⅱ	4	2			社会調査の基礎	2	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉行財政と福祉計画	1	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2			福祉サービスの組織と経営	3	4		
ボランティア活動Ⅲ	3	1			就労支援サービス	4	1		
ボランティア活動Ⅳ	4	1			社会福祉史	1	2		
チームケア入門Ⅰ	1	1			福祉事務所運営論	4	2		
チームケア入門Ⅱ	2	1			公衆衛生学	2	2		
医療・福祉・教育の基礎	1	2			国際福祉論	4	2		
				社会福祉専攻 福祉心理コースは 基礎教養科目に おいては、 必修科目 16科目 32単位の外に 選択科目より 8単位以上履修	住環境福祉論	4	2		
					社会福祉法制	3	2		
					発達心理学特講	4	2		
					臨床心理学特講	3・4	2		
					人権教育論	4	2		
					介護技術Ⅰ	2	2		
					介護技術Ⅱ	3	2		
					精神疾患とその治療	4	4		
					精神保健の課題と支援	4	4		
					精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1	2		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	4		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	4		
					精神保健福祉に関する制度とサービス	2	4		
					精神障害者の生活支援システム	4	2		
					精神保健福祉援助演習（基礎）	3	2		
					精神保健福祉援助演習（専門）	4	2		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2		
					精神保健福祉援助実習	4	4		
					アクティビティ・サービス援助技術	4	2		
					卒業論文指導	3	2		
					卒業論文	4	4		
					社会福祉特講Ⅰ	1	1		
					社会福祉特講Ⅱ	2	2		
					社会福祉特講Ⅲ	3	2		
					社会福祉特講Ⅳ	4	2		
					介護体験実習Ⅰ	4	1		
					介護体験実習Ⅱ	4	1		
					介護体験実習指導	4	1		
					社会福祉専攻福祉心理コース 最低履修単位		124 単位		

平成 29 年度以降入学生（平成 30 年度 1・2 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1		2		現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教育心理学	1	2		
英語Ⅱ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		教育社会学	2	2		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理学研究法	1		2	
韓国語Ⅰ	2		2		学習心理学	1		2	
韓国語Ⅱ	2		2		発達心理学 a	1		4	
中国語Ⅰ	2		2		心理統計学	2		4	
中国語Ⅱ	2		2		認知心理学	3		2	
英会話	4		2		社会心理学	3		2	
経済学	2		2		臨床心理学	3		2	
政治学Ⅰ	4		2		カウンセリング	4		2	
政治学Ⅱ	4		2		人間関係論	2		2	
人間と宗教	4		2		老人心理学	2		2	
生涯学習概論	4		2		障害児（者）心理学	2		2	
児童文学	3		2		青年心理学	2		2	
読書指導と文芸	4		2		心理療法	3		2	
マスメディア論	4		2		人格心理学	3・4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2		相談心理学	4		2	
特設科目・論語	4	2			相談援助演習Ⅰ	1		1	
教育原理	1	2			相談援助演習Ⅱ	2		2	
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
日本史Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
地理学	2		2		相談援助実習	3		4	
国際文化論	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
美術技法	1		2		地域福祉の理論と方法	3		4	
音楽（一般）	1		2		社会保障	2		4	
基礎演習Ⅰ	1	2			権利擁護と成年後見制度	4		2	
基礎演習Ⅱ	2	2			更生保護制度	4		1	
総合演習Ⅰ	3	2			社会調査の基礎	2		2	
総合演習Ⅱ	4	2			福祉行財政と福祉計画	1		2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉サービスの組織と経営	3		4	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			就労支援サービス	4		1	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		社会福祉史	1		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		福祉事務所運営論	4		2	
チームケア入門Ⅰ	1		1		公衆衛生学	2		2	
チームケア入門Ⅱ	2		1		国際福祉論	4		2	
医療・福祉・教育の基礎	1		2		住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
					人権教育論	4		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					社会科教育法Ⅰ	2		4	
					社会科教育法Ⅱ	2		4	
					公民科教育法	3		4	
					福祉科教育法	2		4	
					特別活動研究	3	2		
					教育方法論	2	2		
					生徒指導論	3	2		
					教育相談論	3	2		
					教職実践演習（中・高）	4		2	
					教育実習事前・事後指導（中・高）	2・3		1	
					中学校教育実習	3		4	
					高等学校教育実習	3		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	
					学校図書館メディアの構成	3		2	
					学習指導と学校図書館	3		2	
					読書と豊かな人間性	3		2	
					情報メディアの活用	3		2	
					特別支援教育総論	2		2	
					障害児支援法総論	2		2	
					重複障害教育総論	2		1	
					知的障害教育Ⅰ	2		2	
					肢体不自由教育Ⅰ	2		2	
					知的障害者の心理・生理・病理	3		2	
					肢体不自由者の心理・生理・病理	3		2	
					知的障害教育Ⅱ	3		2	
					肢体不自由教育Ⅱ	3		2	
					病弱者の心理・生理・病理	4		2	
					病弱教育	4		2	
					LD 等教育総論	4		2	
					教育実習事前・事後指導（特支）	4		1	
					特別支援学校教育実習	4		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					社会福祉専攻学校教育コース 最低履修単位			124 単位	

平成 29 年度以降入学生（平成 30 年度 1・2 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
スポーツ及びレクリエーション実技	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2		2	
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2		2	
英語Ⅲ（休講）	2		2		カウンセリング	4		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
韓国語Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
韓国語Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
中国語Ⅰ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
中国語Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
英会話	4		2		相談援助実習	3		4	
経済学	2		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
政治学Ⅰ	4		2		地域福祉の理論と方法	3		4	
政治学Ⅱ	4		2	子ども専攻	社会保障	2		4	
人間と宗教	4		2	児童福祉コースは	権利擁護と成年後見制度	4		2	
生涯学習概論	4		2	基礎教養科目に	更生保護制度	4		1	
児童文学	3		2	おいては、	社会調査の基礎	2		2	
読書指導と文芸	4		2	必修科目 16科目	福祉行政と福祉計画	1		2	
マスメディア論	4		2	32単位の外に	福祉サービスの組織と経営	3		4	
レクリエーション活動援助法	3		2	選択科目より	就労支援サービス	4		1	
特設科目・論語	4	2		6単位以上履修	社会福祉史	1		2	
教育原理	1		2		福祉事務所運営論	4		2	
日本史Ⅰ	2		2		公衆衛生学	2		2	
日本史Ⅱ	2		2		国際福祉論	4		2	
世界史	2		2		住環境福祉論	4		2	
地理学	2		2		社会福祉法制	3		2	
国際文化論	1		2		アクティビティ・サービス援助技術	4		2	子ども専攻
美術技法	1		2		幼児理解	4		2	児童福祉コースは
音楽（一般）	1		2		幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	専門科目に
基礎演習Ⅰ	1	2			幼稚園教育実習	4		4	おいては、
基礎演習Ⅱ	2	2			生活科概論	2		2	必修科目 45科目
総合演習Ⅰ	3	2			地域子育て支援論	4		2	84単位の外に
総合演習Ⅱ	4	2			青少年の理解と援助	4		2	選択科目より
ボランティア活動Ⅰ	1	2			人権教育論	4		2	2単位以上履修の
ボランティア活動Ⅱ	2	2			介護技術Ⅰ	2		2	こと。ただし、
ボランティア活動Ⅲ	3		1		介護技術Ⅱ	3		2	その中に社会福祉
ボランティア活動Ⅳ	4		1		特別活動研究	3		2	特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
チームケア入門Ⅰ	1		1		教育方法論	2		2	の計 7単位を含め
チームケア入門Ⅱ	2		1		生徒指導論	3		2	ることはできない。
医療・福祉・教育の基礎	1		2		教育相談論	3		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	保育士資格を取得
					学校図書館メディアの構成	3		2	しない者は、保育
					学習指導と学校図書館	3		2	実習Ⅰ（保育所）(2
					読書と豊かな人間性	3		2	単位)、保育実習
					情報メディアの活用	3		2	Ⅰ（施設）(2単位)、
					保育原理Ⅰ	1	4		保育実習Ⅱ（保育
					社会的養護Ⅰ	2	2		所）(2単位)、保育
					保育の心理学Ⅰ	1	2		実習指導Ⅰ（保育
					保育の心理学Ⅱ	1	2		所）(1単位)、保育
					子どもの保健Ⅰ	4	4		実習指導Ⅱ（施設）
					子どもの保健Ⅱ	3	1		(1単位)、保育実
					子どもの食と栄養	2	2		習指導Ⅱ（保育所）
					家庭支援論	4	2		(1単位)の計 9単位
					保育内容 総論	4	1		分については、選
					保育内容 健康	1	1		択科目より 6単位
					保育内容 人間関係	2	1		を超えた分の単位
					保育内容 環境	1	1		数を充てることが
					保育内容 言葉	2	1		できるものとする。
					保育内容 表現	3	1		
					乳児保育Ⅰ	3	2		
					障害児保育Ⅰ	2	1		
					障害児保育Ⅱ	4	1		
					社会的養護内容	2	1		
					保育の表現技術Ⅰ音楽	1	1		
					保育の表現技術Ⅰ図画工作	1	2		
					保育の表現技術Ⅰ体育	1	1		
					保育実習Ⅰ（施設）	2	2		
					保育実習Ⅰ（保育所）	3	2		
					保育実習Ⅱ（保育所）	4	2		
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3	1		
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1		
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4	1		
					保育教職実践演習	4	2		
					保育原理Ⅱ	3		2	
					社会的養護Ⅱ	2	2		
					乳児保育Ⅱ	4		1	
					児童文化（演習）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	4		2	
					臨床心理学	3	2		
					保育者論	3	2		
					保育課程論	3	2		
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					子ども専攻初等教育コース 最低履修単位	124	単位		

平成 29 年度以降入学生（平成 30 年度 1・2 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2	2		
道德教育	1	2		
健康論	1	2		
スポーツ及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III（休講）	2		2	
英語 IV（休講）	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	
経済学	2		2	
政治学 I	4		2	
政治学 II	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1	2		
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
国際文化論	1	2		
美術技法	1		2	
音楽（一般）	1		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
総合演習 I	3	2		
総合演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	
チームケア入門 I	1		1	
チームケア入門 II	2		1	
医療・福祉・教育の基礎	1		2	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2		4	
相談援助の理論と方法 II	3		4	
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教職概論	2	2		
教育社会学	2	2		
カウンセリング	4		2	
相談援助演習 I	1		1	
相談援助演習 II	2		2	
相談援助演習 III	3		2	
公衆衛生学	2		2	
国際福祉論	4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
幼児理解	4		2	
幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	
幼稚園教育実習	4		4	
地域子育て支援論	4		2	
青少年の理解と援助	4		2	
人権教育論	4		2	
国語科概論	2		2	
社会科概論	2		2	
数学概論	2		2	
理科概論	2		2	
生活科概論	2		2	
音楽概論	2		2	
美術概論	2		2	
家庭科概論	2		2	
体育概論	2		2	
小学校教科教育法（国語）	3		2	
小学校教科教育法（社会）	4		2	
小学校教科教育法（算数）	3		2	
小学校教科教育法（理科）	4		2	
小学校教科教育法（生活）	4		2	
小学校教科教育法（音楽）	4		2	
小学校教科教育法（図工）	3		2	
小学校教科教育法（家庭）	4		2	
小学校教科教育法（体育）	3		2	
初等教育実習事前事後指導	3・4		1	
小学校教育実習	4		4	
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
特別活動研究	3		2	
教育方法論	2	2		
生徒指導論	3		2	
教育相談論	3		2	
保育教職実践演習	4		2	
教職実践演習（小学校）	4		2	
学校経営と学校図書館	3		2	
学校図書館メディアの構成	3		2	
学習指導と学校図書館	3		2	
読書と豊かな人間性	3		2	
情報メディアの活用	3		2	
保育原理 I	1		4	
社会的養護 I	2		2	
保育の心理学 I	1		2	
保育の心理学 II	1		2	
子どもの保健 I	4		4	
子どもの保健 II	3		1	
子どもの食と栄養	2		2	
家庭支援論	4		2	
保育内容 総論	4		1	
保育内容 健康	1		1	
保育内容 人間関係	2		1	
保育内容 環境	1		1	
保育内容 言葉	2		1	
保育内容 表現	3		1	
乳児保育 I	3		2	
障害児保育 I	2		1	
障害児保育 II	4		1	
社会的養護内容	2		1	
保育の表現技術 I 音楽	1		1	
保育の表現技術 I 図画工作	1		2	
保育の表現技術 I 体育	1		1	
保育実習 I（保育所）	3		2	
保育実習 I（施設）	2		2	
保育実習 II（保育所）	4		2	
保育実習指導 I（保育所）	3		1	
保育実習指導 I（施設）	2・3		1	
保育実習指導 II（保育所）	4		1	
保育原理 II	3		2	
社会的養護 II	2		2	
乳児保育 II	4		1	
児童文化（演習）	2		2	
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 A）	2		2	
保育の表現技術 II（幼児美術指導法）	3		2	
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 B）	3		2	
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 C）	4		2	
臨床心理学	3		2	
保育者論	3		2	
保育課程論	3		2	
卒業論文指導	3		2	
卒業論文	4		4	
介護体験実習 I	3		1	
介護体験実習 II	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
子ども専攻初等教育コース 最低履修単位		124	単位	

子ども専攻
初等教育コースは
専門科目に
おいては、
必修科目 28科目
58単位の外に
選択科目より
22単位以上
履修のこと。
ただし、幼稚園教
諭免許を取得しな
い者は、幼稚園
教育実習（4単位）、
幼稚園教育実習事
前事後指導（2単
位）の計 6単位分
については、選択科
目より 20単位を超
えた分の単位数を
充てることのでき
るものとする

平成 28 年度入学生（平成 30 年度 3 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1	2			高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助演習Ⅰ	1	1		
福祉情報処理	3		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
英語Ⅰ	1	2			相談援助演習Ⅲ	3		2	
英語Ⅱ	1	2			相談援助実習指導Ⅰ	2	1		
英語Ⅲ（休講）	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助実習	3		4	
韓国語Ⅰ	2		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
韓国語Ⅱ	2		2		地域福祉の理論と方法	3	4		
中国語Ⅰ	2		2		社会保障	2	4		
中国語Ⅱ	2		2		権利擁護と成年後見制度	4	2		
英会話	4		2		更生保護制度	4	1		
経済学	2		2		社会調査の基礎	2	2		
政治学Ⅰ	4		2	社会福祉専攻	相談援助の基盤と専門職	1	4		
政治学Ⅱ	4		2	社会福祉コースは	福祉行政と福祉計画	1	2		
人間と宗教	4		2	基礎教養科目に	福祉サービスの組織と経営	3	4		
生涯学習概論	4		2	おいては、	就労支援サービス	4	1		
児童文学	3		2	必修科目 17科目	福祉心理学	1	2		
読書指導と文芸	4		2	34単位の外に	社会福祉史	1	2		社会福祉専攻
マスメディア論	4		2	選択科目より	福祉事務所運営論	4	2		社会福祉コースは
レクリエーション活動援助法	3		2	8単位以上履修	精神疾患とその治療	4		4	専門科目に
特設科目・論語	4	2			精神保健の課題と支援	4		4	おいては、
教育原理	1		2		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1		2	必修科目 27科目
日本史Ⅰ	2		2		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2		4	70単位の外に
日本史Ⅱ	2		2		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3		4	選択科目より
世界史	2		2		精神保健福祉に関する制度とサービス	2		4	12単位以上履修の
地理学	2		2		精神障害者の生活支援システム	4		2	こと。ただし、そ
国際文化論	1		2		精神保健福祉援助演習（基礎）	3		2	の中に社会福祉特
美術技法	1		2		精神保健福祉援助演習（専門）	4		2	講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの計
音楽（一般）	1		2		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3		1	7単位を含めること
基礎演習Ⅰ	1	2			精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4		2	はできない。
基礎演習Ⅱ	2	2			精神保健福祉援助実習	4		4	社会福祉士受験資
総合演習Ⅰ	3	2			アクティビティ・サービス援助技術	4		2	格を取得しない者
総合演習Ⅱ	4	2			心理学研究法	1		2	は、相談援助演習
ボランティア活動Ⅰ	1	2			学習心理学	1		2	Ⅲ（2単位）、相談
ボランティア活動Ⅱ	2	2			発達心理学 a	1		4	援助実習指導Ⅰ（1
ボランティア活動Ⅲ	3	1			心理統計学	2		4	単位）、相談援助
ボランティア活動Ⅳ	4	1			老人心理学	2		2	実習（4単位）の計 9
チームケア入門Ⅰ	1	1			障害児（者）心理学	2		2	単位分については、
チームケア入門Ⅱ	2	1			教育心理学	1		2	12単位を超えた分
医療・福祉・教育の基礎	1	2			認知心理学	3		2	の単位数を充てる
					社会心理学	3		2	ことができるもの
					臨床心理学	3		2	とする。
					カウンセリング	4		2	
					青年心理学	2		2	
					公衆衛生学	2		2	
					心理療法	3		2	
					人間関係論	2		2	
					国際福祉論	4		2	
					人格心理学	3・4		2	
					住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					相談心理学	4		2	
					人権教育論	4		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	4		1	
					介護体験実習Ⅱ	4		1	
					介護体験実習指導	4		1	
					社会福祉専攻社会福祉コース 最低履修単位			124 単位	

平成 28 年度入学生（平成 30 年度 3 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			心理学研究法	1	2		
英語Ⅱ	1	2			学習心理学	1	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		発達心理学 a	1	4		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理統計学	2	4		
韓国語Ⅰ	2		2		教育心理学	1	2		
韓国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅰ	2	4		
中国語Ⅰ	2		2		心理学実験実習Ⅱ	3	2		
中国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅲ	3	2		
英会話	4		2		認知心理学	3	2		
経済学	2		2		社会心理学	3	2		
政治学Ⅰ	4		2	社会福祉専攻	臨床心理学	3	2		
政治学Ⅱ	4		2	福祉心理コースは	カウンセリング	4	2		
人間と宗教	4		2	基礎教養科目に	人間関係論	2	2		
生涯学習概論	4		2	おいては、	老人心理学	2	2		
児童文学	3		2	必修科目 16科目	障害児（者）心理学	2	2		
読書指導と文芸	4		2	32単位の外に	青年心理学	2	2	2	} 2科目4単位 以上選択必修
マスメディア論	4		2	選択科目より	心理療法	3	2		
レクリエーション活動援助法	3		2	8単位以上履修	人格心理学	3・4	2		
特設科目・論語	4	2			相談心理学	4	2		
教育原理	1		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
日本史Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3	2		
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2	1		
地理学	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3	2		
国際文化論	1		2		相談援助実習	3	4		社会福祉専攻
美術技法	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		福祉心理コースは
音楽（一般）	1		2		地域福祉の理論と方法	3	4		専門科目に
基礎演習Ⅰ	1	2			社会保障	2	4		おいては、
基礎演習Ⅱ	2	2			権利擁護と成年後見制度	4	2		必修科目 25科目
総合演習Ⅰ	3	2			更生保護制度	4	1		68単位の外に
総合演習Ⅱ	4	2			社会調査の基礎	2	2		選択必修科目より
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉行政と福祉計画	1	2		2科目 4単位以上、
ボランティア活動Ⅱ	2	2			福祉サービスの組織と経営	3	4		その他の選択科目
ボランティア活動Ⅲ	3	1			就労支援サービス	4	1		より 12単位以上履
ボランティア活動Ⅳ	4	1			社会福祉史	1	2		修のこと。ただし、
チームケア入門Ⅰ	1	1			福祉事務所運営論	4	2		その中に社会福祉
チームケア入門Ⅱ	2	1			公衆衛生学	4	2		特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
医療・福祉・教育の基礎	1	2			国際福祉論	4	2		の計 7単位を含め
					住環境福祉論	4	2		ることはできない。
					社会福祉法制	3	2		
					発達心理学特講	4	2		
					臨床心理学特講	3・4	2		
					人権教育論	4	2		
					介護技術Ⅰ	2	2		
					介護技術Ⅱ	3	2		
					精神疾患とその治療	4	4		
					精神保健の課題と支援	4	4		
					精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1	2		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	4		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	4		
					精神保健福祉に関する制度とサービス	2	4		
					精神障害者の生活支援システム	4	2		
					精神保健福祉援助演習（基礎）	3	2		
					精神保健福祉援助演習（専門）	4	2		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2		
					精神保健福祉援助実習	4	4		
					アクティビティ・サービス援助技術	4	2		
					卒業論文指導	3	2		
					卒業論文	4	4		
					社会福祉特講Ⅰ	1	1		
					社会福祉特講Ⅱ	2	2		
					社会福祉特講Ⅲ	3	2		
					社会福祉特講Ⅳ	4	2		
					介護体験実習Ⅰ	4	1		
					介護体験実習Ⅱ	4	1		
					介護体験実習指導	4	1		
					社会福祉専攻福祉心理コース 最低履修単位	124	単位		

平成 28 年度入学生（平成 30 年度 3 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1		2		現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教育心理学	1	2		
英語Ⅱ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		教育社会学	2	2		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理学研究法	1		2	
韓国語Ⅰ	2		2		学習心理学	1		2	
韓国語Ⅱ	2		2		発達心理学 a	1		4	
中国語Ⅰ	2		2		心理統計学	2		4	
中国語Ⅱ	2		2		認知心理学	3		2	
英会話	4		2		社会心理学	3		2	
経済学	2		2		臨床心理学	3		2	
政治学Ⅰ	4		2		カウンセリング	4		2	
政治学Ⅱ	4		2		人間関係論	2		2	
人間と宗教	4		2		老人心理学	2		2	
生涯学習概論	4		2		障害児（者）心理学	2		2	
児童文学	3		2		青年心理学	2		2	
読書指導と文芸	4		2		心理療法	3		2	
マスメディア論	4		2		人格心理学	3・4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2		相談心理学	4		2	
特設科目・論語	4	2			相談援助演習Ⅰ	1		1	
教育原理	1	2			相談援助演習Ⅱ	2		2	
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
日本史Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
地理学	2		2		相談援助実習	3		4	
国際文化論	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
美術技法	1		2		地域福祉の理論と方法	3		4	
音楽（一般）	1		2		社会保障	2		4	
基礎演習Ⅰ	1	2			権利擁護と成年後見制度	4		2	
基礎演習Ⅱ	2	2			更生保護制度	4		1	
総合演習Ⅰ	3	2			社会調査の基礎	2		2	
総合演習Ⅱ	4	2			福祉行財政と福祉計画	1		2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉サービスの組織と経営	3		4	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			就労支援サービス	4		1	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		社会福祉史	1		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		福祉事務所運営論	4		2	
チームケア入門Ⅰ	1		1		公衆衛生学	2		2	
チームケア入門Ⅱ	2		1		国際福祉論	4		2	
医療・福祉・教育の基礎	1		2		住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
					人権教育論	4		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					社会科教育法Ⅰ	2		4	
					社会科教育法Ⅱ	2		4	
					公民科教育法	3		4	
					福祉科教育法	2		4	
					特別活動研究	3	2		
					教育方法論	2	2		
					生徒指導論	3	2		
					教育相談論	3	2		
					教職実践演習（中・高）	4		2	
					教育実習事前・事後指導（中・高）	2・3		1	
					中学校教育実習	3		4	
					高等学校教育実習	3		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	
					学校図書館メディアの構成	3		2	
					学習指導と学校図書館	3		2	
					読書と豊かな人間性	3		2	
					情報メディアの活用	3		2	
					特別支援教育総論	2		2	
					障害児支援法総論	2		2	
					重複障害教育総論	2		1	
					知的障害教育Ⅰ	2		2	
					肢体不自由教育Ⅰ	2		2	
					知的障害者の心理・生理・病理	3		2	
					肢体不自由者の心理・生理・病理	3		2	
					知的障害教育Ⅱ	3		2	
					肢体不自由教育Ⅱ	3		2	
					病弱者の心理・生理・病理	4		2	
					病弱教育	4		2	
					LD 等教育総論	4		2	
					教育実習事前・事後指導（特支）	4		1	
					特別支援学校教育実習	4		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					社会福祉専攻学校教育コース 最低履修単位			124 単位	

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2		2	
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2		2	
英語Ⅲ（休講）	2		2		カウンセリング	4		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
韓国語Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
韓国語Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
中国語Ⅰ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
中国語Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
英会話	4		2		相談援助実習	3		4	
経済学	2		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
政治学Ⅰ	4		2		地域福祉の理論と方法	3		4	
政治学Ⅱ	4		2		社会保障	2		4	
人間と宗教	4		2		権利擁護と成年後見制度	4		2	
生涯学習概論	4		2		更生保護制度	4		1	
児童文学	3		2		社会調査の基礎	2		2	
読書指導と文芸	4		2		福祉行政と福祉計画	1		2	
メディア論	4		2		福祉サービスの組織と経営	3		4	
レクリエーション活動援助法	3		2		就労支援サービス	4		1	
特設科目・論語	4	2			社会福祉史	1		2	
教育原理	1		2		福祉事務所運営論	4		2	
日本史Ⅰ	2		2		公衆衛生学	2		2	
日本史Ⅱ	2		2		国際福祉論	4		2	
世界史	2		2		住環境福祉論	4		2	
地理学	2		2		社会福祉法制	3		2	
国際文化論	1		2		アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
美術技法	1		2		幼児理解	4		2	
音楽（一般）	1		2		幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	
基礎演習Ⅰ	1	2			幼稚園教育実習	4		4	
基礎演習Ⅱ	2	2			生活科概論	2		2	
総合演習Ⅰ	3	2			地域子育て支援論	4		2	
総合演習Ⅱ	4	2			青少年の理解と援助	4		2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			人権教育論	4		2	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			介護技術Ⅰ	2		2	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		介護技術Ⅱ	3		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		特別活動研究	3		2	
チームケア入門Ⅰ	1		1		教育方法論	2		2	
チームケア入門Ⅱ	2		1		生徒指導論	3		2	
医療・福祉・教育の基礎	1		2		教育相談論	3		2	
				子ども専攻 児童福祉コースは 基礎教養科目に おいては、 必修科目 16科目 32単位の外に 選択科目より 6単位以上履修	学校経営と学校図書館	3		2	
					学校図書館メディアの構成	3		2	
					学習指導と学校図書館	3		2	
					読書と豊かな人間性	3		2	
					情報メディアの活用	3		2	
					保育原理Ⅰ	1	4		
					社会的養護Ⅰ	2	2		
					保育の心理学Ⅰ	1	2		
					保育の心理学Ⅱ	1	2		
					子どもの保健Ⅰ	4	4		
					子どもの保健Ⅱ	3	1		
					子どもの食と栄養	2	2		
					家庭支援論	4	2		
					保育内容 総論	4	1		
					保育内容 健康	1	1		
					保育内容 人間関係	2	1		
					保育内容 環境	1	1		
					保育内容 言葉	2	1		
					保育内容 表現	3	1		
					乳児保育Ⅰ	3	2		
					障害児保育Ⅰ	2	1		
					障害児保育Ⅱ	4	1		
					社会的養護内容	2	1		
					保育の表現技術Ⅰ音楽	1	1		
					保育の表現技術Ⅰ図画工作	1	2		
					保育の表現技術Ⅰ体育	1	1		
					保育実習Ⅰ（施設）	2	2		
					保育実習Ⅰ（保育所）	3	2		
					保育実習Ⅱ（保育所）	4	2		
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3	1		
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1		
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4	1		
					保育教職実践演習	4	2		
					保育原理Ⅱ（休講）	3		2	
					社会的養護Ⅱ	2	2		
					乳児保育Ⅱ（休講）	4		1	
					児童文化（演習）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	4		2	
					臨床心理学	3	2		
					保育者論	3	2		
					保育課程論	3	2		
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					子ども専攻児童福祉コース 最低履修単位	124	単位		

平成 28 年度入学生（平成 30 年度 3 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1	2	2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	2	4	
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2	2	
道德教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	2	4	
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2	4	
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	2	4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3	2	2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2	2		
英語Ⅲ（休講）	2	2	2		カウンセリング	4	2		
英語Ⅳ（休講）	2	2	2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
韓国語Ⅰ	2	2	2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
韓国語Ⅱ	2	2	2		相談援助演習Ⅲ	3	2		
中国語Ⅰ	2	2	2		公衆衛生学	2	2		
中国語Ⅱ	2	2	2		国際福祉論	4	2		
英会話	4	2	2		住環境福祉論	4	2		
経済学	2	2	2		社会福祉法制	3	2		
政治学Ⅰ	4	2	2	子ども専攻	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		
政治学Ⅱ	4	2	2	初等教育コースは	幼児理解	4	2		
人間と宗教	4	2	2	基礎教養科目に	幼稚園教育実習事前事後指導	4	2		
生涯学習概論	4	2	2	おいては、	幼稚園教育実習	4	4		
児童文学	3	2	2	必修科目 18科目	地域子育て支援論	4	2		
読書指導と文芸	4	2	2	36単位の外に	青少年の理解と援助	4	2		
メディア論	4	2	2	選択科目より	人権教育論	4	2		
レクリエーション活動援助法	3	2	2	8単位以上履修	国語科概論	2	2		
特設科目・論語	4	2			社会科概論	2	2		
教育原理	1	2			数学概論	2	2		
日本史Ⅰ	2	2	2		理科概論	2	2		
日本史Ⅱ	2	2	2		生活科概論	2	2		
世界史	2	2	2		音楽概論	2	2		
地理学	2	2	2		美術概論	2	2		
国際文化論	1	2	2		家庭科概論	2	2		
美術技法	1	2	2		体育概論	2	2		
音楽（一般）	1	2	2		小学校教科教育法（国語）	3	2		
基礎演習Ⅰ	1	2	2		小学校教科教育法（社会）	4	2		
基礎演習Ⅱ	2	2	2		小学校教科教育法（算数）	3	2		
総合演習Ⅰ	3	2	2		小学校教科教育法（理科）	4	2		
総合演習Ⅱ	4	2	2		小学校教科教育法（生活）	4	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2			小学校教科教育法（音楽）	4	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2			小学校教科教育法（図工）	3	2		
ボランティア活動Ⅲ	3	1	1		小学校教科教育法（家庭）	4	2		
ボランティア活動Ⅳ	4	1	1		小学校教科教育法（体育）	3	2		
チームケア入門Ⅰ	1	1	1		初等教育実習事前事後指導	3・4	1		
チームケア入門Ⅱ	2	1	1		小学校教育実習	4	4		
医療・福祉・教育の基礎	1	2	2		介護技術Ⅰ	2	2		
					介護技術Ⅱ	3	2		
					特別活動研究	3	2		
					教育方法論	2	2		
					生徒指導論	3	2		
					教育相談論	3	2		
					保育教職実践演習	4	2		
					教職実践演習（小学校）	4	2		
					学校経営と学校図書館	3	2		
					学校図書館メディアの構成	3	2		
					学習指導と学校図書館	3	2		
					読書と豊かな人間性	3	2		
					情報メディアの活用	3	2		
					保育原理Ⅰ	1	4		
					社会的養護Ⅰ	2	2		
					保育の心理学Ⅰ	1	2		
					保育の心理学Ⅱ	1	2		
					子どもの保健Ⅰ	4	4		
					子どもの保健Ⅱ	3	1		
					子どもの食と栄養	2	2		
					家庭支援論	4	2		
					保育内容 総論	4	1		
					保育内容 健康	1	1		
					保育内容 人間関係	2	1		
					保育内容 環境	1	1		
					保育内容 言葉	2	1		
					保育内容 表現	3	1		
					乳児保育Ⅰ	3	2		
					障害児保育Ⅰ	2	1		
					障害児保育Ⅱ	4	1		
					社会的養護内容	2	1		
					保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1		
					保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2		
					保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1		
					保育実習Ⅰ（保育所）	3	2		
					保育実習Ⅰ（施設）	2	2		
					保育実習Ⅱ（保育所）	4	2		
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1		
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3	1		
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4	1		
					保育原理Ⅱ（休講）	3	2		
					社会的養護Ⅱ	2	2		
					乳児保育Ⅱ（休講）	4	1		
					児童文化（演習）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	4	2		
					臨床心理学	3	2		
					保育者論	3	2		
					保育課程論	3	2		
					卒業論文指導	3	2		
					卒業論文	4	4		
					介護体験実習Ⅰ	3	1		
					介護体験実習Ⅱ	3	1		
					介護体験実習指導	3	1		
					子ども専攻初等教育コース 最低履修単位	124	単位		

平成 27 年度入学生（平成 30 年度 4 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・社会福祉コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1	2			高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育（道徳教育研究）	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助演習Ⅰ	1	1		
福祉情報処理	3		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
英語Ⅰ	1	2			相談援助演習Ⅲ	3		2	
英語Ⅱ	1	2			相談援助実習指導Ⅰ	2	1		
英語Ⅲ（休講）	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助実習	3		4	
韓国語Ⅰ	2		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
韓国語Ⅱ	2		2		地域福祉の理論と方法	3	4		
中国語Ⅰ	2		2		社会保障	2	4		
中国語Ⅱ	2		2		権利擁護と成年後見制度	4	2		
英会話	4		2		更生保護制度	4	1		
経済学	2		2		社会調査の基礎	2	2		
政治学Ⅰ	4		2	社会福祉専攻	相談援助の基盤と専門職	1	4		
政治学Ⅱ	4		2	社会福祉コースは	福祉行政と福祉計画	1	2		
人間と宗教	4		2	基礎教養科目に	福祉サービスの組織と経営	3	4		
生涯学習概論	4		2	おいては、	就労支援サービス	4	1		
児童文学	3		2	必修科目17科目	福祉心理学	1	2		
読書指導と文芸	4		2	34単位の外に	社会福祉史	1	2		社会福祉専攻
マスメディア論	4		2	選択科目より	福祉事務所運営論	4	2		社会福祉コースは
レクリエーション活動援助法	3		2	8単位以上履修	精神疾患とその治療	4		4	専門科目に
特設科目・論語	4	2			精神保健の課題と支援	4		4	おいては、
教育原理	1		2		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1		2	必修科目27科目
日本史Ⅰ	2		2		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2		4	70単位の外に
日本史Ⅱ	2		2		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3		4	選択科目より
世界史	2		2		精神保健福祉に関する制度とサービス	2		4	12単位以上履修の
地理学	2		2		精神障害者の生活支援システム	4		2	こと。ただし、そ
国際文化論	1		2		精神保健福祉援助演習（基礎）	3		2	の中に社会福祉特
美術技法	1		2		精神保健福祉援助演習（専門）	4		2	講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの計
音楽（一般）	1		2		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3		1	7単位を含めるこ
基礎演習Ⅰ	1	2			精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4		2	とできない。
基礎演習Ⅱ	2	2			精神保健福祉援助実習	4		4	社会福祉士受験資
総合演習Ⅰ	3	2			アクティビティ・サービス援助技術	4		2	格を取得しない者
総合演習Ⅱ	4	2			心理学研究法	1		2	は、相談援助演習
ボランティア活動Ⅰ	1	2			学習心理学	1		2	Ⅲ（2単位）、相談
ボランティア活動Ⅱ	2	2			発達心理学 a	1		4	援助実習指導Ⅰ（1
ボランティア活動Ⅲ	3	1			心理統計学	2		4	単位）、相談援助
ボランティア活動Ⅳ	4	1			老人心理学	2		2	実習（4単位）の計 9
チームケア入門Ⅰ	1	1			障害児（者）心理学	2		2	単位分については、
チームケア入門Ⅱ	2	1			教育心理学	1		2	12単位を超えた分
医療・福祉・教育の基礎	1	2			認知心理学	3		2	の単位数を充てる
					社会心理学	3		2	ことができるもの
					臨床心理学	3		2	とする。
					カウンセリング	4		2	
					青年心理学	2		2	
					公衆衛生学	2		2	
					心理療法	3		2	
					人間関係論	2		2	
					国際福祉論	4		2	
					人格心理学	3・4		2	
					住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					相談心理学	4		2	
					人権教育論	4		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	4		1	
					介護体験実習Ⅱ	4		1	
					介護体験実習指導	4		1	
					社会福祉専攻社会福祉コース 最低履修単位			124 単位	

平成 27 年度入学生（平成 30 年度 4 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・福祉心理コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道德教育（道德教育研究）	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			心理学研究法	1	2		
英語Ⅱ	1	2			学習心理学	1	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		発達心理学 a	1	4		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理統計学	2	4		
韓国語Ⅰ	2		2		教育心理学	1	2		
韓国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅰ	2	4		
中国語Ⅰ	2		2		心理学実験実習Ⅱ	3	2		
中国語Ⅱ	2		2		心理学実験実習Ⅲ	3	2		
英会話	4		2		認知心理学	3	2		
経済学	2		2		社会心理学	3	2		
政治学Ⅰ	4		2		臨床心理学	3	2		
政治学Ⅱ	4		2		カウンセリング	4	2		
人間と宗教	4		2		人間関係論	2	2		
生涯学習概論	4		2		老人心理学	2	2		
児童文学	3		2		障害児（者）心理学	2	2		
読書指導と文芸	4		2		青年心理学	2	2		
マスメディア論	4		2		心理療法	3	2		
レクリエーション活動援助法	3		2		人格心理学	3・4	2		} 2科目4単位 以上選択必修
特設科目・論語	4	2			相談心理学	4	2		
教育原理	1		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
日本史Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3	2		
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2	1		
地理学	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3	2		
国際文化論	1		2		相談援助実習	3	4		
美術技法	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
音楽（一般）	1		2		地域福祉の理論と方法	3	4		
基礎演習Ⅰ	1	2			社会保障	2	4		
基礎演習Ⅱ	2	2			権利擁護と成年後見制度	4	2		
総合演習Ⅰ	3	2			更生保護制度	4	1		
総合演習Ⅱ	4	2			社会調査の基礎	2	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉行財政と福祉計画	1	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2			福祉サービスの組織と経営	3	4		
ボランティア活動Ⅲ	3		1		就労支援サービス	4	1		
ボランティア活動Ⅳ	4		1		社会福祉史	1	2		
チームケア入門Ⅰ	1		1		福祉事務所運営論	4	2		
チームケア入門Ⅱ	2		1		公衆衛生学	2	2		
医療・福祉・教育の基礎	1		2		国際福祉論	4	2		
					国際福祉論	4	2		
					住環境福祉論	4	2		
					社会福祉法制	3	2		
					発達心理学特講	4	2		
					臨床心理学特講	3・4	2		
					人権教育論	4	2		
					介護技術Ⅰ	2	2		
					介護技術Ⅱ	3	2		
					精神疾患とその治療	4	4		
					精神保健の課題と支援	4	4		
					精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1	2		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	4		
					精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	4		
					精神保健福祉に関する制度とサービス	2	4		
					精神障害者の生活支援システム	4	2		
					精神保健福祉援助演習（基礎）	3	2		
					精神保健福祉援助演習（専門）	4	2		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		
					精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2		
					精神保健福祉援助実習	4	4		
					アクティビティ・サービス援助技術	4	2		
					卒業論文指導	3	2		
					卒業論文	4	4		
					社会福祉特講Ⅰ	1	1		
					社会福祉特講Ⅱ	2	2		
					社会福祉特講Ⅲ	3	2		
					社会福祉特講Ⅳ	4	2		
					介護体験実習Ⅰ	4	1		
					介護体験実習Ⅱ	4	1		
					介護体験実習指導	4	1		
					社会福祉専攻福祉心理コース 最低履修単位		124 単位		

平成 27 年度入学生（平成 30 年度 4 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻・学校教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1		2		現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育（道徳教育研究）	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教育心理学	1	2		
英語Ⅱ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		教育社会学	2	2		
英語Ⅳ（休講）	2		2		心理学研究法	1		2	
韓国語Ⅰ	2		2		学習心理学	1		2	
韓国語Ⅱ	2		2		発達心理学 a	1		4	
中国語Ⅰ	2		2		心理統計学	2		4	
中国語Ⅱ	2		2		認知心理学	3		2	
英会話	4		2		社会心理学	3		2	
経済学	2		2		臨床心理学	3		2	
政治学Ⅰ	4		2		カウンセリング	4		2	
政治学Ⅱ	4		2		人間関係論	2		2	
人間と宗教	4		2		老人心理学	2		2	
生涯学習概論	4		2		障害児（者）心理学	2		2	
児童文学	3		2		青年心理学	2		2	
読書指導と文芸	4		2		心理療法	3		2	
マスメディア論	4		2		人格心理学	3・4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2		相談心理学	4		2	
特設科目・論語	4		2		相談援助演習Ⅰ	1		1	
教育原理	1		2		相談援助演習Ⅱ	2		2	
日本史Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
日本史Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
世界史	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
地理学	2		2		相談援助実習	3		4	
国際文化論	1		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
美術技法	1		2		地域福祉の理論と方法	3		4	
音楽（一般）	1		2		社会保障	2		4	
基礎演習Ⅰ	1	2			権利擁護と成年後見制度	4		2	
基礎演習Ⅱ	2	2			更生保護制度	4		1	
総合演習Ⅰ	3	2			社会調査の基礎	2		2	
総合演習Ⅱ	4	2			福祉行財政と福祉計画	1		2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			福祉サービスの組織と経営	3		4	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			就労支援サービス	4		1	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		社会福祉史	1		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		福祉事務所運営論	4		2	
チームケア入門Ⅰ	1		1		公衆衛生学	2		2	
チームケア入門Ⅱ	2		1		国際福祉論	4		2	
医療・福祉・教育の基礎	1		2		住環境福祉論	4		2	
					社会福祉法制	3		2	
					アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
					人権教育論	4		2	
					介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					社会科教育法Ⅰ	2		4	
					社会科教育法Ⅱ	2		4	
					公民科教育法	3		4	
					福祉科教育法	2		4	
					特別活動研究	3	2		
					教育方法論	2	2		
					生徒指導論	3	2		
					教育相談論	3	2		
					教職実践演習（中・高）	4		2	
					教育実習事前・事後指導（中・高）	2・3		1	
					中学校教育実習	3		4	
					高等学校教育実習	3		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	
					学校図書館メディアの構成	3		2	
					学習指導と学校図書館	3		2	
					読書と豊かな人間性	3		2	
					情報メディアの活用	3		2	
					特別支援教育総論	2		2	
					障害児支援法総論	2		2	
					重複障害教育総論	2		1	
					知的障害教育Ⅰ	2		2	
					肢体不自由教育Ⅰ	2		2	
					知的障害者の心理・生理・病理	3		2	
					肢体不自由者の心理・生理・病理	3		2	
					知的障害教育Ⅱ	3		2	
					肢体不自由教育Ⅱ	3		2	
					病弱者の心理・生理・病理	4		2	
					病弱教育	4		2	
					LD 等教育総論	4		2	
					教育実習事前・事後指導（特支）	4		1	
					特別支援学校教育実習	4		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					社会福祉専攻学校教育コース 最低履修単位	124		単位	

平成 27 年度入学生（平成 30 年度 4 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・児童福祉コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
日本国憲法	2		2		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育（道徳教育研究）	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2		2	
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2		2	
英語Ⅲ（休講）	2		2		カウンセリング	4		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助演習Ⅰ	1	1		
韓国語Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2	2		
韓国語Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
中国語Ⅰ	2		2		相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
中国語Ⅱ	2		2		相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
英会話	4		2		相談援助実習	3		4	
経済学	2		2		低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
政治学Ⅰ	4		2	子ども専攻	地域福祉の理論と方法	3		4	
政治学Ⅱ	4		2	児童福祉コースは	社会保障	2		4	
人間と宗教	4		2	基礎教養科目に	権利擁護と成年後見制度	4		2	
生涯学習概論	4		2	おいては、	更生保護制度	4		1	
児童文学	3		2	必修科目 16 科目	社会調査の基礎	2		2	
読書指導と文芸	4		2	32 単位の外に	福祉行政と福祉計画	1		2	
マスメディア論	4		2	選択科目より	福祉サービスの組織と経営	3		4	
レクリエーション活動援助法	3		2	6 単位以上履修	就労支援サービス	4		1	
特設科目・論語	4	2			社会福祉史	1		2	
教育原理	1		2		福祉事務所運営論	4		2	
日本史Ⅰ	2		2		公衆衛生学	2		2	
日本史Ⅱ	2		2		国際福祉論	4		2	
世界史	2		2		住環境福祉論	4		2	
地理学	2		2		社会福祉法制	3		2	
国際文化論	1		2		アクティビティ・サービス援助技術	4		2	子ども専攻
美術技法	1		2		幼児理解	4		2	児童福祉コースは
音楽（一般）	1		2		幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	専門科目に
基礎演習Ⅰ	1	2			幼稚園教育実習	4		4	おいては、
基礎演習Ⅱ	2	2			生活科概論	2		2	必修科目 45 科目
総合演習Ⅰ	3	2			地域子育て支援論	4		2	84 単位の外に
総合演習Ⅱ	4	2			青少年の理解と援助	4		2	選択科目より
ボランティア活動Ⅰ	1	2			人権教育論	4		2	2 単位以上履修の
ボランティア活動Ⅱ	2	2			介護技術Ⅰ	2		2	こと。ただし、
ボランティア活動Ⅲ	3		1		介護技術Ⅱ	3		2	その中に社会福祉
ボランティア活動Ⅳ	4		1		特別活動研究	3		2	特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
チームケア入門Ⅰ	1		1		教育方法論	2		2	の計 7 単位を含め
チームケア入門Ⅱ	2		1		生徒指導論	3		2	ることはできない。
医療・福祉・教育の基礎	1		2		教育相談論	3		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	保育士資格を取得
					学校図書館メディアの構成	3		2	しない者は、保育
					学習指導と学校図書館	3		2	実習Ⅰ（保育所）（2
					読書と豊かな人間性	3		2	単位）、保育実習
					情報メディアの活用	3		2	Ⅰ（施設）（2 単位）、
					保育原理Ⅰ	1	4		保育実習Ⅱ（保育
					社会的養護Ⅰ	2	2		所）（2 単位）、保育
					保育の心理学Ⅰ	1	2		実習指導Ⅰ（保育
					保育の心理学Ⅱ	1	2		所）（1 単位）、保育
					子どもの保健Ⅰ	4	4		実習指導Ⅱ（施設）
					子どもの保健Ⅱ	3	1		（1 単位）、保育実
					子どもの食と栄養	2	2		習指導Ⅱ（保育所）
					家庭支援論	4	2		（1 単位）の計 9 単位
					保育内容 総論	4	1		分については、選
					保育内容 健康	1	1		択科目より 6 単位
					保育内容 人間関係	2	1		を超えた分の単位
					保育内容 環境	1	1		数を充てることが
					保育内容 言葉	2	1		できるものとする。
					保育内容 表現	3	1		
					乳児保育Ⅰ	3	2		
					障害児保育Ⅰ（障害児保育（演習）	2	1		
					障害児保育Ⅱ	4	1		
					社会的養護内容	2	1		
					保育の表現技術Ⅰ音楽	1	1		
					保育の表現技術Ⅰ図画工作	1	2		
					保育の表現技術Ⅰ体育	1	1		
					保育実習Ⅰ（施設）	2	2		
					保育実習Ⅰ（保育所）	3	2		
					保育実習Ⅱ（保育所）	4	2		
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3	1		
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1		
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4	1		
					保育教職実践演習	4	2		
					保育原理Ⅱ（休講）	3		2	
					社会的養護Ⅱ	2	2		
					乳児保育Ⅱ（休講）	4		1	
					児童文化（演習）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	4		2	
					臨床心理学	3	2		
					保育者論	3	2		
					保育課程論	3	2		
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					社会福祉特講Ⅰ	1		1	
					社会福祉特講Ⅱ	2		2	
					社会福祉特講Ⅲ	3		2	
					社会福祉特講Ⅳ	4		2	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					子ども専攻児童福祉コース 最低履修単位	124	単位		

平成 27 年度入学生（平成 30 年度 4 年生）

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会理論と社会システム	1		2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2		
道徳教育（道徳教育研究）	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2		4	
スポーツ及びレクリエーション実技 （体育及びレクリエーション実技）	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3		4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基礎と専門職	1	4		
福祉情報処理	3		2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2	2		
英語Ⅲ（休講）	2		2		カウンセリング	4		2	
英語Ⅳ（休講）	2		2		相談援助演習Ⅰ	1		1	
韓国語Ⅰ	2		2		相談援助演習Ⅱ	2		2	
韓国語Ⅱ	2		2		相談援助演習Ⅲ	3		2	
中国語Ⅰ	2		2		公衆衛生学	2		2	
中国語Ⅱ	2		2		国際福祉論	4		2	
英会話	4		2		住環境福祉論	4		2	
経済学	2		2		社会福祉法制	3		2	
政治学Ⅰ	4		2	子ども専攻	アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
政治学Ⅱ	4		2	初等教育コースは	幼児理解	4	2		
人間と宗教	4		2	基礎教養科目に	幼稚園教育実習事前事後指導	4	2		
生涯学習概論	4		2	おいては、	幼稚園教育実習	4	4		
児童文学	3		2	必修科目 18科目	地域子育て支援論	4		2	
読書指導と文芸	4		2	36単位の外に	青少年の理解と援助	4		2	
メディア論	4		2	選択科目より	人権教育論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	8単位以上履修	国語科概論	2		2	
特設科目・論語	4	2			社会科概論	2		2	
教育原理	1	2			数学概論	2		2	
日本史Ⅰ	2		2		理科概論	2		2	
日本史Ⅱ	2		2		生活科概論	2		2	
世界史	2		2		音楽概論	2		2	
地理学	2		2		美術概論	2		2	
国際文化論	1		2		家庭科概論	2		2	
美術技法	1		2		体育概論	2		2	
音楽（一般）	1		2		小学校教科教育法（国語）	3		2	
基礎演習Ⅰ	1	2			小学校教科教育法（社会）	4		2	
基礎演習Ⅱ	2	2			小学校教科教育法（算数）	3		2	
総合演習Ⅰ	3	2			小学校教科教育法（理科）	4		2	
総合演習Ⅱ	4	2			小学校教科教育法（生活）	4		2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2			小学校教科教育法（音楽）	4		2	
ボランティア活動Ⅱ	2	2			小学校教科教育法（図工）	3		2	
ボランティア活動Ⅲ	3		1		小学校教科教育法（家庭）	4		2	
ボランティア活動Ⅳ	4		1		小学校教科教育法（体育）	3		2	
チームケア入門Ⅰ	1		1		初等教育実習事前事後指導	3・4		1	
チームケア入門Ⅱ	2		1		小学校教育実習	4		4	
医療・福祉・教育の基礎	1		2		介護技術Ⅰ	2		2	
					介護技術Ⅱ	3		2	
					特別活動研究	3		2	
					教育方法論	2	2		
					生徒指導論	3		2	
					教育相談論	3		2	
					保育教職実践演習	4		2	
					教職実践演習（小学校）	4		2	
					学校経営と学校図書館	3		2	
					学校図書館メディアの構成	3		2	
					学習指導と学校図書館	3		2	
					読書と豊かな人間性	3		2	
					情報メディアの活用	3		2	
					保育原理Ⅰ	1		4	
					社会的養護Ⅰ	2		2	
					保育の心理学Ⅰ	1	2		
					保育の心理学Ⅱ	1		2	
					子どもの保健Ⅰ	4		4	
					子どもの保健Ⅱ	3		1	
					子どもの食と栄養	2		2	
					家庭支援論	4	2		
					保育内容 総論	4	1		
					保育内容 健康	1	1		
					保育内容 人間関係	2	1		
					保育内容 環境	1	1		
					保育内容 言葉	2	1		
					保育内容 表現	3	1		
					乳児保育Ⅰ	3		2	
					障害児保育Ⅰ（障害児保育（演習））	2		1	
					障害児保育Ⅱ	4		1	
					社会的養護内容	2		1	
					保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1		
					保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2		
					保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1		
					保育実習Ⅰ（保育所）	3		2	
					保育実習Ⅰ（施設）	2		2	
					保育実習Ⅱ（保育所）	4		2	
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3		1	
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3		1	
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4		1	
					保育原理Ⅱ（休講）	3		2	
					社会的養護Ⅱ	2		2	
					乳児保育Ⅱ（休講）	4		1	
					児童文化（演習）	2		2	
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	2	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	3	2		
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	4		2	
					臨床心理学	3		2	
					保育者論	3		2	
					保育課程論	3		2	
					卒業論文指導	3		2	
					卒業論文	4		4	
					介護体験実習Ⅰ	3		1	
					介護体験実習Ⅱ	3		1	
					介護体験実習指導	3		1	
					子ども専攻初等教育コース 最低履修単位	124	単位		

資格カリキュラム一覧

保育士資格（子ども専攻）

幼稚園教諭一種教員免許状（子ども専攻）

科目名	必修	選択	備考
英語 I	○		
健康論	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
哲学	○		
倫理学	○		
心理学理論と心理的支援	○		
基礎演習 I	○		
基礎演習 II	○		
総合演習 I	○		
総合演習 II	○		
現代社会と福祉	○		
相談援助演習 I	○		
相談援助演習 II	○		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	○		
保育原理 I	○		
教育原理	○		
社会的養護 I	○		
保育者論	○		
保育の心理学 I	○		
保育の心理学 II	○		
子どもの保健 I	○		
子どもの保健 II	○		
子どもの食と栄養	○		
家庭支援論	○		
保育課程論	○		
保育内容 総論	○		
保育内容 健康	○		
保育内容 人間関係	○		
保育内容 環境	○		
保育内容 言葉	○		
保育内容 表現	○		
乳児保育 I（演習）	○		
障害児保育 I	○		
障害児保育 II	○		
社会的養護内容	○		
保育の表現技術 I 音楽	○		
保育の表現技術 I 図画工作	○		
保育の表現技術 I 体育	○		
保育実習 I（保育所）	○		
保育実習 I（施設）	○		
保育実習 II（保育所）	○		
保育実習指導 I（保育所）	○		
保育実習指導 I（施設）	○		
保育実習指導 II（保育所）	○		
保育・教職実践演習	○		
地域子育て支援論	○		
社会的養護 II	○		
臨床心理学	○		
幼児理解	○		
児童文化（演習）	○		
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 A）	○		
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 B）	○		
保育の表現技術 II（幼児美術指導法）	○		
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 C）	○	○	
教員・保育士採用試験対策講座	※		○

保育士資格を取得しようとする者は必修科目の全てを履修すること。

保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 C）は自由選択とするが、保育士を目指す学生は履修することが望ましい。

対策講座は必ず受講

科目名	必修	選択	備考
日本国憲法	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
英語 I	○		
英語 II	○		
情報処理演習	○		
保育の表現技術 I 音楽	○		
保育の表現技術 I 図画工作	○		
保育の表現技術 I 体育	○		
保育の心理学 I	○		
保育原理 I	○		
教職概論	○		幼稚園教諭免許を取得しようとする者は必修科目の全てを履修すること。
教育原理	○		
保育の心理学 II	○		
教育社会学	○		
保育内容 総論	○		さらに選択科目より必要な科目を履修すること。
保育内容 健康	○		
保育内容 人間関係	○		
保育内容 環境	○		
保育内容 言葉	○		
保育内容 表現	○		
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 A）	○		
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 B）	○		
保育の表現技術 II（幼児美術指導法）	○		
教育方法論	○		
幼児理解	○		
家庭支援論	○		
保育教職実践演習	○		
幼稚園教育実習事前・事後指導	○		
幼稚園教育実習	○		
生活科概論		○	
児童文学		○	
読書指導と文芸		○	選択科目の中から
地域子育て支援論		○	10単位以上履修
青少年の理解と援助		○	（ただし、生活科
人権教育論		○	概論、児童文学、
保育課程論		○	読書指導と文芸の
英語 III（休講中）		○	中から 2単位以上
英語 IV（休講中）		○	を含み、計 10単位
英会話		○	以上となること）
保育の表現技術 II（幼児音楽指導法 C）		○	
教員・保育士採用試験対策講座	※		対策講座は必ず受講

高等学校教諭一種免許状〔公民〕（社会福祉専攻）

科目名	必修	選択	備考
日本国憲法	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
英語Ⅰ	○		
英語Ⅱ	○		
情報処理演習	○		
政治学Ⅰ	○		
政治学Ⅱ	○		
社会理論と社会システム	○		
社会保障	○		
哲学	○		
倫理学	○		
心理学理論と心理的支援	○		
人間と宗教	○		
経済学	○		
福祉心理学	○		
権利擁護と成年後見制度		○	
更生保護制度		○	
マスメディア論		○	
社会調査の基礎		○	
発達心理学 a		○	
地域福祉の理論と方法		○	
社会福祉史		○	
道徳教育	○		
ボランティア活動Ⅰ	○		
ボランティア活動Ⅱ	○		
教職概論	○		
教育原理	○		
教育心理学	○		
教育社会学	○		
公民科教育法	○		
特別活動研究	○		
教育方法論	○		
生徒指導論	○		
教育相談論	○		
教職実践演習（中・高）	○		
教育実習事前・事後指導（中・高）	○		
高等学校教育実習	○		
教員・保育士採用試験対策講座	※		対策講座は必ず必修
教職対策講座	※		対策講座は必ず必修

高等学校教諭一種免許状〔福祉〕（社会福祉専攻）

科目名	必修	選択	備考
日本国憲法	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
英語Ⅰ	○		
英語Ⅱ	○		
情報処理演習	○		
現代社会と福祉	○		
高齢者に対する支援と介護保険制度	○		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	○		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	○		
社会保障		○	
相談援助の理論と方法Ⅰ	○		
相談援助の理論と方法Ⅱ		○	
保健医療サービス	○		
介護技術Ⅰ	○		
相談援助演習Ⅰ	○		
相談援助演習Ⅱ		○	
相談援助演習Ⅲ		○	
相談援助実習指導Ⅰ	○		
相談援助実習指導Ⅱ	○		
介護体験実習指導		※	
相談援助実習	○		
介護体験実習Ⅰ		※	
介護体験実習Ⅱ		※	
人体の構造と機能及び疾病	○		
老人心理学	○		
障害児（者）心理学	○		
道徳教育	○		
地域福祉の理論と方法	○		
福祉心理学	○		
ボランティア活動Ⅰ	○		
ボランティア活動Ⅱ	○		
教職概論	○		
教育原理	○		
教育心理学	○		
教育社会学	○		
福祉科教育法	○		
特別活動研究	○		
教育方法論	○		
生徒指導論	○		
教育相談論	○		
教職実践演習（中高）	○		
教育実習事前・事後指導（中高）	○		
高等学校教育実習	○		
介護技術Ⅱ		○	
カウンセリング		○	
教員・保育士採用試験対策講座	※		対策講座は必ず受講
教職対策講座	※		対策講座は必ず受講

社会福祉士を取得しない者は、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱを介護体験実習指導に代えることができる。相談援助実習を介護体験実習Ⅰ・Ⅱに代えることができる。

いずれか1科目以上選択履修

社会福祉士受験資格

科目名	必修	選択	備考
人体の構造と機能及び疾病	○		
心理学理論と心理的支援	○		
社会理論と社会システム	○		
現代社会と福祉	○		
社会調査の基礎	○		
相談援助の基盤と専門職	○		
相談援助の理論と方法Ⅰ	○		
相談援助の理論と方法Ⅱ	○		
相談援助演習Ⅰ	○		
相談援助演習Ⅱ	○		
相談援助演習Ⅲ	○		
相談援助実習指導Ⅰ	○		
相談援助実習指導Ⅱ	○		
相談援助実習	○		
地域福祉の理論と方法	○		
福祉行財政と福祉計画	○		
福祉サービスの組織と経営	○		
社会保障	○		
高齢者に対する支援と介護保険制度	○		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	○		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	○		
低所得者に対する支援と生活保護制度	○		
保健医療サービス	○		
就労支援サービス	○		
権利擁護と成年後見制度	○		
更生保護制度	○		
社会福祉特講Ⅰ		○	
社会福祉特講Ⅱ		○	
社会福祉特講Ⅲ		○	
社会福祉特講Ⅳ		○	

精神保健福祉士受験資格

科目名	必修	選択	備考
人体の構造と機能及び疾病	○		
心理学理論と心理的支援	○		
社会理論と社会システム	○		
現代社会と福祉	○		
地域福祉の理論と方法	○		
福祉行財政と福祉計画	○		
社会保障	○		
低所得者に対する支援と生活保護制度	○		
保健医療サービス	○		
権利擁護と成年後見制度	○		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	○		
精神疾患とその治療	○		
精神保健の課題と支援	○		
相談援助の基盤と専門職	○		
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	○		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	○		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	○		
精神保健福祉に関する制度とサービス	○		
精神障害者の生活支援システム	○		
精神保健福祉援助演習（基礎）	○		
精神保健福祉援助演習（専門）	○		
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	○		
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	○		
精神保健福祉援助実習	○		

身体障害者福祉司任用資格

科目名	必修	選択	備考
現代社会と福祉	○		
社会福祉史	○		
福祉サービスの組織と経営	○		
福祉行財政と福祉計画	○		
相談援助の理論と方法Ⅰ	○		
相談援助の理論と方法Ⅱ	○		
社会福祉法制	○		
社会保障	○		
低所得者に対する支援と生活保護制度	○		
社会心理学	○		
社会調査の基礎	○		
公衆衛生学	○		
障害児（者）心理学	○		
生涯学習概論	○		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	○		
保健医療サービス	○		

公認心理師（学部科目）

平成 30 年度入学生（福祉心理コース）

科目名	必修	選択	備考
相談心理学（公認心理師の職責）	○		
心理学理論と心理的支援（心理学概論）	○		
臨床心理学（臨床心理学概論）	○		
心理学研究法	○		
心理統計学（心理統計法）	○		
心理学実験実習Ⅰ（心理学実験）	○		
認知心理学（知覚・認知心理学）	○		
学習心理学（学習・言語心理学）	○		
人格心理学（感情・人格心理学）	○		
臨床心理学特講（神経・生理心理学）	○		
社会心理学（社会・集団・家族心理学）	○		
発達心理学	○		公認心理師養成大学院への進学を希望する者は必修科目の全てを履修すること
障害児（者）心理学	○		
発達心理学特講（健康・医療心理学）	○		
福祉心理学	○		
教育心理学（教育・学校心理学）	○		
司法・犯罪心理学	○		
人間関係論（産業・組織心理学）	○		
人体の構造と機能及び疾病	○		
精神疾患とその治療	○		
心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）	○		
心理療法（心理学的支援法）	○		
社会福祉法制（関連行政法）	○		
カウンセリング（心理演習）	○		
心理実習Ⅰ～Ⅳ	○		

平成 27～29 年度入学生（福祉心理コース）

科目名	必修	選択	備考
I			Iより
心理学理論と心理的支援（心理学概論）	○		3科目以上の履修
臨床心理学（臨床心理学概論）	○		
心理学研究法	○		
心理統計学（心理統計法）	○		
心理学実験実習Ⅰ（心理学実験）	○		
II			IIより
認知心理学（知覚・認知心理学）	○		4科目以上の履修
学習心理学（学習・言語心理学）	○		
人格心理学（感情・人格心理学）		○	
臨床心理学特講（神経・生理心理学）		○	
社会心理学（社会・集団・家族心理学）	○		
発達心理学	○		
障害児（者）心理学	○		
III			IIIより
発達心理学特講（健康・医療心理学）		○	2科目以上の履修
福祉心理学	○		
教育心理学（教育・学校心理学）	○		
人間関係論（産業・組織心理学）	○		
IV			IVより
人体の構造と機能及び疾病	○		1科目を履修
精神疾患とその治療		○	
V			Vより
心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）	○		2科目以上の履修
心理療法（心理学的支援法）	○		
カウンセリング（心理演習）	○		
			I～Vより 合計12科目以上の履修

小学校教諭一種免許状（子ども専攻）

科目名	必修	選択	備考
日本国憲法	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
英語Ⅰ	○		
英語Ⅱ	○		
情報処理演習	○		
国語科概論	○		
社会科概論	○		
数学概論	○		
理科概論	○		
生活科概論	○		
音楽概論	○		
美術概論	○		
家庭科概論	○		
体育概論	○		
教職概論	○		
教育原理	○		
保育の心理学Ⅰ	○		
保育の心理学Ⅱ	○		
教育社会学	○		
小学校教科教育法(国語)	○		
小学校教科教育法(社会)	○		
小学校教科教育法(算数)	○		
小学校教科教育法(理科)	○		
小学校教科教育法(生活)	○		
小学校教科教育法(音楽)	○		
小学校教科教育法(図工)	○		
小学校教科教育法(家庭)	○		
小学校教科教育法(体育)	○		
道徳教育	○		
特別活動研究	○		
教育方法論	○		
生徒指導論	○		
教育相談論	○		
初等教育実習事前・事後指導	○		
教職実践演習(小学校)	○		
小学校教育実習	○		
英会話	○		
ボランティア活動Ⅰ	○		
ボランティア活動Ⅱ	○		
介護体験実習Ⅰ		○	※
介護体験実習指導		○	※
保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)		○	
教員・保育士採用試験対策講座			
教職対策講座			

※保育実習(施設)で福祉施設における実習経験のない学生は、「介護体験実習Ⅰ」「介護体験実習指導」を履修し、介護等体験(高齢者施設や障害児者施設等)を7日以上実施する必要があります。
 保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)は自由選択とするが、教職を目指す学生は履修することが望ましい。

学校図書館司書教諭

科目名	必修	選択	備考
学校経営と学校図書館	○		
学校図書館メディアの構成	○		
学習指導と学校図書館	○		
読書と豊かな人間性	○		
情報メディアの活用	○		

基礎免許として、高等学校教諭一種免許状「公民」もしくは「福祉」もしくは中学校教諭一種免許状「社会」もしくは小学校教諭一種免許状を同時に取得すること。ただし、すでに他学校等で教職免許を取得している場合は、その免許を基礎免許に代えることができる。

ただし、卒業と同時に図書館司書教諭資格を取得できるわけではなく、本学で上記5科目の単位を取得すると、認定講習の受講が免除され、申請のみで資格が取得できることになる。

レクリエーション・インストラクター

科目名	必修	選択	備考
レクリエーション活動援助法	○		※現場実習を履修していない場合は応相談。
体育及びレクリエーション実技	○		
相談援助実習・保育実習等現場実習	○		

アクティビティ・ワーカー資格

科目名	必修	選択	備考
アクティビティ・サービス援助技術	○		

中学校教諭一種免許状（社会福祉専攻）

科目名	必修	選択	備考
日本国憲法	○		
スポーツ及びレクリエーション実技	○		
英語 I	○		
英語 II	○		
情報処理演習	○		
日本史 I	○		
日本史 II	○		
世界史	○		
地理学	○		
権利擁護と成年後見制度		○	
更生保護制度		○	
政治学 I	○		
政治学 II	○		
社会理論と社会システム	○		
社会保障		○	
経済学	○		
マスメディア論		○	
哲学	○		
倫理学	○		
教職概論	○		
教育原理	○		
教育心理学	○		
教育社会学	○		
社会科教育法 I	○		
社会科教育法 II	○		
道德教育	○		
特別活動研究	○		
教育方法論	○		
生徒指導論	○		
教育相談論	○		
教職実践演習（中・高）	○		
教育実習事前・事後指導（中・高）	○		
中学校教育実習	○		
特設科目・論語	○		
ボランティア活動 I	○		
ボランティア活動 II	○		
介護体験実習 I		○	※
介護体験実習指導		○	※
教職対策講座	○		対策講座は必ず受講

※相談援助実習や特別支援学校実習での実習経験のない学生は、「介護体験実習 I」「介護体験実習指導」を履修し、介護等体験（高齢者施設や障害児者施設等）を 7 日以上実施する必要があります。

特別支援学校教諭一種免許状（社会福祉専攻）

科目名	必修	選択	備考
特別支援教育総論	○		※障害者教育総論
障害児支援法総論	○		※障害児教育総論
重複障害教育総論	○		
知的障害教育 I	○		
肢体不自由教育 I	○		
知的障害者の心理・生理・病理	○		
肢体不自由者の心理・生理・病理	○		
知的障害教育 II	○		
肢体不自由教育 II	○		
教育実習事前・事後指導（特支）	○		
病弱者の心理・生理・病理	○		
病弱教育	○		
LD 等教育総論	○		
特別支援学校教育実習	○		

基礎免許として、高等学校教諭一種免許状「公民」もしくは「福祉」もしくは中学校教諭一種免許状「社会」を同時に取得すること。ただし、すでに他学校等で教職免許を取得している場合は、その免許を基礎免許に代えることができる。

学校図書館司書教諭

科目名	必修	選択	備考
学校経営と学校図書館	○		
学校図書館メディアの構成	○		
学習指導と学校図書館	○		
読書と豊かな人間性	○		
情報メディアの活用	○		

基礎免許として、高等学校教諭一種免許状「公民」もしくは「福祉」もしくは中学校教諭一種免許状「社会」もしくは小学校教諭一種免許状を同時に取得すること。ただし、すでに他学校等で教職免許を取得している場合は、その免許を基礎免許に代えることができる。

ただし、卒業と同時に図書館司書教諭資格を取得できるわけではなく、本学で上記 5 科目の単位を取得すると、認定講習の受講が免除され、申請のみで資格が取得できることになる。

レクリエーション・インストラクター

科目名	必修	選択	備考
レクリエーション活動援助法	○		※現場実習を履修していない場合は応相談。
体育及びレクリエーション実技	○		
相談援助実習・保育実習等現場実習	○		

アクティビティ・ワーカー資格

科目名	必修	選択	備考
アクティビティ・サービス援助技術	○		

授 業 内 容

基礎教養科目

科目名	哲 学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを釈く。民を新に釈く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを釈く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

火曜日 10:30 ~ 12:00

■評価方法

■筆記試験(口論述 口客観) ■レポート 口口答試験 口実地試験 口その他
 評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取り組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究一修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	倫理学	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理 道徳哲学 道徳 良心				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会とは人と人との関係性のなかで構築されている。その中で我々は日々決断を求められている。その時、基準はあるのだろうか。我々が普段下す判断を倫理的に考察することで、よりよく生活をおくることが可能である。

〔到達目標〕

- ・倫理学の基礎的用語を理解し他者に説明できるようになること。
- ・倫理的発想の構造に注目し、その内部構造を把握し、そのことを文章で説明ができること。

■授業の概要

- ・人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか、倫理学の思考に基づき考察する。
- ・倫理的に考察することは、既存の思考に対する懐疑を生ずることもありますが、自分なりの答えを導くことにより新しいステップに行くことが可能になります。そのような訓練の場でもこの授業はあります。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション、諸注意、人を助けるために嘘をつくことは許されるか
第2回	10人の命を救うために1人の命を殺すことは許されるか
第3回	10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかない時、誰にわたすか
第4回	エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか
第5回	どうすれば幸福の計算ができるか
第6回	判断能力の判断は誰がするか
第7回	〈……である〉から〈……べきである〉を導き出すことはできないか
第8回	正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか
第9回	思いやりだけで道徳の原則ができるか
第10回	正直者が損をすることはどうしたら防げるか
第11回	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか
第12回	貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか
第13回	現在の人間には未来の人間に対する義務はあるか
第14回	正義は時代によって変わるか
第15回	化学の発達に限界を定めることができるか、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。
- ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に臨む前に、指定箇所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

■オフィスアワー

授業終了後 30分。

■評価方法

期末試験 70%、課題 15%、発表 15%。

■教科書

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫 1997年2月

■参考書

新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社 2000年9月

科目名	倫理学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 育三	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理				

■授業の目的・到達目標

地球生命態の一部として存在する人類の直面している課題を、1. 自然との共生、2. 社会的存在としての人間の共生関係、3. 社会福祉の原点としての共生の倫理を、実践事例をあげながら(共生学)の視点から考察する。

■授業の概要

講義時に指示する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	共生学 (Sapientia Convivendi) について				
第2回	自然との共生 (1) 生物多様性				
第3回	〃	(2) 環境保護活動			
第4回	〃	(3) 自然とライフ・サイクル			
第5回	〃	(4) 自然学校の試み			
第6回	社会的存在としての人間の歴史的現実	総論	(1) 戦争と平和		
第7回	〃	(2) 共生と排除			
第8回	〃	(3) 差別と抑圧			
第9回	〃	(4) マイノリティとディアスポラ			
第10回	〃	(5) 貧困と格差社会			
第11回	社会福祉と共生の倫理	総論			
第12回	〃	(1) 人権思想の歴史			
第13回	〃	(2) 生存権(社会保障)の歴史			
第14回	共生の倫理	総括(1)	質疑・応答		
第15回	共生の倫理	総括(2)	〃		

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義時に指示する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

出席・授業ごとのリアクション・ペーパー及び小論文。

■教科書

教科書は無いが、随時参考文献を紹介する。

■参考書

講義時に指示する。

科目名	心理学理論と心理的支援（心理学概論）	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (A. 心理学基礎科目, ②心理学概論)		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	性格、感情、知覚、学習、認知、社会、発達、臨床				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
さまざまな領域の心理学を学びながら、心理学的な考え方を身につけ、人間に対する視野を広げることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。
- ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。
- ④心理的支援の方法と実際について理解できる。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理的支援の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか、心理学の成り立ち
第2回	性格—性格理論（類型論と特性論）と資格理解のためのアセスメント
第3回	感情—感情・情緒・情動・気分の定義と感情の発達と変化
第4回	欲求と動機づけ—動機づけの諸理論、葛藤と欲求不満、現実社会への適応
第5回	感覚・知覚・認知—刺激と感覚の関係、感覚と知覚の違いと特性
第6回	学習—条件付け、観察学習と模倣学習、洞察学習
第7回	記憶—記憶システムと記憶内容、短期記憶から作動記憶へ
第8回	知能・創造性・思考—知能の発達と思考過程の理解
第9回	人間環境と集団—対人認知と対人魅力、集団の特徴と集団形成
第10回	対人交流とコミュニケーション—言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第11回	発達の概念—発達の定義と発達段階、生涯発達心理学の考え方
第12回	適応とストレス—ストレスに関する理論とストレスの影響、日常生活とこころの健康
第13回	面接・見立て・心理療法—心理検査法の概要と面接技法（カウンセリング）
第14回	脳と心—脳機能障害による思考や精神の機能障害の特徴とリハビリテーション
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。
- ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題（小レポート等）（40%） ②学期末試験（60%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援』 第3版 中央法規出版 2015年

■参考書

梅本亮夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』 サイエンス社 2002年

科目名	社会理論と社会システム	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格、 高一種免(公民)、中一種免(社会)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	貧困、社会問題、社会変動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。

〔到達目標〕

「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。

■授業の概要

個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	貧困問題
第3回	アメリカの社会問題
第4回	アメリカの社会保障費用
第5回	福祉国家
第6回	虐待
第7回	人口からみた社会変動
第8回	社会集団と組織
第9回	生活の質
第10回	社会問題と福祉
第11回	社会的ジレンマ
第12回	児童虐待
第13回	ジェンダー
第14回	家族
第15回	日本社会と社会問題

■受講生に関わる情報および受講のルール

新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。

■オフィスアワー

木曜日 4限

■評価方法

試験(60%)と授業中の課題(40%)によって評価。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」(中央法規出版株式会社)

■参考書

いとう総研資格取得支援センター「見て覚える!社会福祉士国試ナビ」(中央法規)

科目名	日本国憲法	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	基本的人権、自由権、社会権、国会、内閣、裁判所、地方自治				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。

〔到達目標〕

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

まずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、人権①(～前文)
第2回	人権②(天皇～私人間効力)
第3回	人権③(包括的基本権・法の下での平等)
第4回	人権④(精神的自由(1))
第5回	人権⑤(精神的自由(2))
第6回	人権⑥(経済的自由)
第7回	人権⑦(人身の自由)
第8回	人権⑧(生存権・教育を受ける権利)
第9回	人権⑨(労働権・参政権・国務請求権・国民の義務)
第10回	統治①(統治機構・国会)
第11回	統治②(内閣)
第12回	統治③(裁判所I)
第13回	統治④(裁判所II(裁判員制度含む))
第14回	統治⑤(財政・地方自治)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。

■オフィスアワー

火曜 10時半～12時、木曜 16時～17時半。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

森長秀 編著「法学入門」光生館、2015年

■参考書

小六法(例:「ポケット六法」有斐閣、2018年)

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	道徳、道徳教育、建学の精神、仁、マナー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神(儒学の「仁」と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。

〔到達目標〕

- ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。
- ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。

■授業の概要

- ・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。
- ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション(講義内容・方法・授業時の留意事項・評価)ハチドリのひとつ(事象の論説・事実把握・論述すること)
第2回	咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第3回	論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について
第4回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)「心」の字源
第5回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説
第6回	王陽明『伝習録』と建学の精神一仁について一
第7回	王陽明『伝習録』と教育理念一知行合一について一
第8回	小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」一各年代における位置づけ一、明治以降の教育界における道徳教育の変遷
第9回	小学校・中学校における道徳課題について
第10回	道徳課題に基づき指導案を作成してみる
第11回	模擬授業
第12回	続模擬授業、総括(総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます)
第13回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第14回	福祉界が望むマナー(人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察)
第15回	時事問題の考察・発表・解説(人としてのあり方・生き方を考える)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。
- ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に臨む前に、指定箇所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

■オフィスアワー

毎週火曜 14時～16時。

■評価方法

期末試験 70%、課題 15%、発表 15%。

■教科書

鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月
 鈴木利定 中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明德出版社、2016年6月

■参考書

『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	健康論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1 年次	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎教養科目 (必修)			
キーワード	健康、疾病予防、メンタルヘルス、ヘルスマネジメント、体力、運動プログラム、運動文化、生涯スポーツ、食育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身を通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。

〔到達目標〕

- ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。
- ②日常的に栄養・休養・運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。
- ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。

■授業の概要

健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 健康を考える(意識、意義、人間の幸福)
第2回	ヘルスマネジメント論(我が国の動向、健康の個人的マネジメント)
第3回	疾病予防論(生活習慣病)
第4回	疾病予防論(感染症)
第5回	メンタルヘルス論(精神の正常と異常、心身相関、精神障がい分類)
第6回	メンタルヘルス論(青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療)
第7回	体力論(体力、体力診断、青少年の体力、加齢と体力)
第8回	運動プログラム論(身体運動プログラムの考え方、運動の実際)
第9回	スポーツと健康論(スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習)
第10回	運動文化論(身体運動と文化、運動・スポーツの文化と思想、現代のスポーツ・身体運動)
第11回	生涯スポーツ論(スポーツ行政と地域スポーツ)
第12回	食の健康論(食生活の推移、各栄養素の役割、PFCバランスと健康、スポーツと運動)
第13回	健康つくりと運動(ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践)
第14回	健康つくりと運動(ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

- ・生涯の健康つくりとして、日常生活に応用できる態度で受講する。
- ・新聞、ニュースでの最新の健康に関する情報は、特に意識するよう習慣づける。

〔受講のルール〕

- ・毎時間授業の「コメントカード」を提出する。
- ・「健康つくりと運動」では、運動のできる服装で受講する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。

■オフィスアワー

木曜 13:00 ~ 16:00 他の時間の希望時はアポイントを頂きたい。

■評価方法

筆記試験(70%)、日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点(30%)の総合評価。

■教科書

電気通信大学健康・スポーツ科学部会編:大学生のための「健康」論—健康・運動・スポーツの基礎知識—:道和書院:2016

■参考書

健康・体力つくり財団:「健康日本21」 健康・体力つくり財団 2010

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	1年次必修科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ ホスピタリティ アイスブレイキング				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活躍できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の意義を理解できる。 2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。 3. 他者への支援（指導）ができるようになる。
--

■授業の概要

<p>レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレイキング(実践)
第3回	対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法① アレンジの基本技術
第4回	対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法② アレンジ法の応用
第5回	対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 室内でできるレクリエーションゲーム(実践)
第6回	対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
第7回	支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第8回	支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第9回	支援活動演習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ① (企画案の評価及び講評)
第10回	ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得
第11回	ニュースポーツ キンボール ゲーム
第12回	支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第13回	支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第14回	支援活動演習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ② (企画案の評価及び講評)
第15回	前期の振り返り まとめ
第16回	レクリエーションダンス (地域伝承踊り)

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	村上 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Word、Excel、Powerpoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピューターの利用方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

レポート作成、研究発表において必要不可欠なWord、Excel、Powerpointを活用できるようにし、資料の作成、分析、発表などに役立つ様々な機能を習得する。

■授業の概要

本講義では、Word、Excel、Powerpointの知識を深め、大学生活に必要な機能を積極的に活用できる能力を習得していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介スライド作成、タイピング練習
第2回	情報化社会とリテラシー
第3回	Word(1) Wordの基本操作、文章入力・編集
第4回	Word(2) 表・図表・図形の作成・編集①
第5回	Word(3) 表・図表・図形の作成・編集②
第6回	Word(4) 表現力をアップする機能
第7回	Word(5) 長文の編集
第8回	Word(6) 文書の校閲
第9回	Excel(1) Excelの基本操作、データの入力
第10回	Excel(2) 表の作成、編集、印刷
第11回	Excel(3) グラフの作成
第12回	Excel(4) データベース機能、複数シート操作
第13回	Excel(6) 関数①
第14回	Excel(7) 関数②
第15回	Excel(7) 表示形式、条件付き書式
第16回	Excel(8) ピボットテーブル、高度なグラフの活用

第 17 回	Excel (9) マクロの作成、WordとExcelの連携
第 18 回	Powerpoint (1) プレゼンテーションの作成①
第 19 回	Powerpoint (2) プレゼンテーションの作成②
第 20 回	Powerpoint (3) オブジェクトの挿入、構成の変更、特殊効果の設定
第 21 回	Powerpoint (4) 他のアプリケーションの利用、スライドマスターの利用
第 22 回	Powerpoint (5) スライドショーの設定
第 23 回	発表用資料の作成①
第 24 回	発表用資料の作成②
第 25 回	発表用資料の作成③
第 26 回	発表用資料の作成④
第 27 回	発表用資料の作成⑤
第 28 回	プレゼンテーション発表
第 29 回	プレゼンテーション発表
第 30 回	プレゼンテーション発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・USBフラッシュメモリーを各自用意し、毎回必ず持参すること。
- ・演習は、毎度が成果の積み重ねとなるため、欠席で成果が途切れることのないよう心掛けること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、すべての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。(欠席時も同様)

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

- ①平常点 (出席状況・授業態度) (60%)
②試験 (40%)

■教科書

情報リテラシー Windows7 Word/Excel/PowerPoint2010 対応 FOM 出版

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	福祉情報処理	担当教員 (単位認定者)	村上 典子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Powerpoint、プレゼンテーション、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

福祉現場のみならず、実社会でも不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的とする。

〔到達目標〕

- ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。
- ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。

■授業の概要

本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、グループワークなども取り入れ、「聞く力」「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、スライド作成
第2回	グループワーク（インタビュー）、資料作成
第3回	プレゼンテーションの作成（1）
第4回	プレゼンテーションの作成（2）
第5回	訴求力のあるスライドの作成（1）
第6回	訴求力のあるスライドの作成（2）
第7回	訴求力のあるスライドの作成（3）
第8回	訴求力のあるスライドの作成（4）
第9回	紙面づくりの基本と作成・瓦版の作成（1）
第10回	紙面づくりの基本と作成・瓦版の作成（2）
第11回	紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（1）
第12回	紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（2）
第13回	紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（3）
第14回	オートデモの作成
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・USBフラッシュメモリーを各自用意し、毎回必ず持参すること。
- ・演習は、毎回が成果の積み重ねとなるため、欠席で成果が途切れることのないよう心掛けること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、すべての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

- ①平常点（出席状況・授業態度）（60%）
- ②実技試験（40%）

■教科書

よくわかるPowerPoint2010 ビジネス活用編 FOM出版

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	英語 I (社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	マーティン・バー	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読み物を通して英語によるコミュニケーション能力をつける				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

英文読解スキルを体系的に学ぶことによって外国の人とのコミュニケーションに必要な話題、語彙力、英文理解力をつける。

〔到達目標〕

- 1) グローバルな内容の英語の読物を通して、国際的な話題に関心を持てるようになる。
- 2) 読解を通してコミュニケーションに必要な語彙力をつける。
- 3) ネイティブスピーカー講師の英語に慣れ、授業に必要なリスニング、スピーキングができるようになる。
- 4) 自発的な英語学習ができるようになる。

■授業の概要

読物の背景となる知識や関心の有無を考える。難しい語彙・語句、構文の意味を理解し、全文の要点をQ&Aによってチェックする。音読を通して英文に慣れ、英語のスピーキングの基礎力をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

	章 トピック	内容	言語
第1回	1. Looking For Luggage	空港での忘れ物	比較表現(1)
第2回	2. Japan's Rescue Dogs	災害救助犬	比較表現(2)
第3回	3. Niagara Falls	ナイアガラの挑戦者	比較表現(3)
第4回	4. Chocolate Buyer Wanted	チョコレートバイヤーのすること	動名詞
第5回	5. Cool Sunglasses	ファッションか目の保護か	動名詞、不定詞
第6回	6. Dad, Dave or Sir	親や先生をどう呼ぶか	原形不定詞
第7回	7. Giant Teddy Bear	ニューヨークの巨大な小グマ	無生物主語
第8回	8. Charlie the Parrot	100才を超えたインコ	不定詞
第9回	9. Sherlock Holmes Falls to His Death	スイスのシャーロック・ホームズ館	受動態
第10回	10. Cell Phone Art	携帯のストラップ	不定代名詞
第11回	11. Fashion for Dogs	犬のウエディングファッション	否定
第12回	12. Cell phone Manners	ケータイのマナー	否定
第13回	13. Animal Astronauts	動物の宇宙飛行士	否定
第14回	14. Ichiro: Most Valuable Player	名選手 イチロー	仮定法
第15回	15. Astro Boy	鉄腕アトム	仮定法

■受講生に関わる情報および受講のルール

講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。私語を慎む。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験50%、授業への参加50%。

■教科書

プリズムブック2 著者 ティモシー・キゲル、武藤克彦 マクミラン ランゲージハウス社 2014年2月20日第3刷

■参考書

英和辞典・英英辞典

科目名	英語I (子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	Zack Grace	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	【Verbs】go, eat, play, drink, watch, like, do, order, need 【Adjectives】big, small, fast, delicious, cute, beautiful 【Prepositions】with, on, at, in, under, by				

■授業の目的・到達目標

The goal of this class is to give future teachers a blueprint for what to teach children who are just beginning their English study. Students will learn a number of skills to incorporate into their future lessons. These skills include but are not limited to: how to design the class to fit the maturity level of children, how to incorporate games to support retention of key vocabulary, how to use humour to maintain student attention and motivation, how to identify various types of students, adjusting teaching style to fit the student and how to handle discipline with small children.

■授業の概要

The class will be a combination of practicing teaching simple English lessons for children learning how to play games to reinforce key vocabulary and will include adult conversational English for use in everyday life.

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	Introductions. Talking about what you want to do. Verbs: go, eat, play, drink, watch. 導入・紹介 “何がしたいか”を話そう
第2回	Sentence structure SVO. Talking about what you don't want to do. SVO構文 “何をしたくない”を話そう
第3回	Introductory phonics. Making “Do you...” questions. Phonicsの紹介 “あなたは～ですか?”の質問を試みよう
第4回	Simple past tense. Talking about what you did. 簡単な過去時制 “何をした”を話そう
第5回	Using adjectives to expand sentences. 形容詞を使って文章表現を広げよう
第6回	Using prepositions to expand sentences. 前置詞を使って文章表現を広げよう
第7回	Talking about experiences. Making “Have you...” questions. 経験について話す “あなたは～したことがありますか?”の質問を試みよう
第8回	Comparisons. Making “Which is bigger A or B?” questions. 比較 “AとBどちらが大きいですか?”の質問を試みよう
第9回	Introductory writing. Role playing: restaurant conversation. writing入門 ロールプレイング:レストランでの会話
第10回	Discussing responsibilities. Making “I have to...” sentences. 責任についてのディスカッション “～しなければならない”の文章を作ろう
第11回	Identifying nouns, countable, uncountable, proper nouns. 名詞について 可算・不可算・固有名詞
第12回	Introducing friends and family. Using the verb “to be”. 友人や家族の紹介をする 【動詞】to be～を試みよう
第13回	Describing locations using prepositions. Making “The cup is on the table.” statements. 前置詞を使って場所を説明する “机の上にカップがあります”の文章を作ろう
第14回	Talking about actions in progress. Using present continuous tense. 進行形の動作について話す 現在進行形を試みよう
第15回	Making questions, positive statements, negative statements. Do you like dogs? You like dogs. You don't like dogs. 疑問文・肯定文・否定文をつくってみよう

■受講生に関わる情報および受講のルール

Students will be expected to participate in class actively. Take notes and retain information presented in class. And students will be expected to teach children simple English in a classroom setting.

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

Because the class will not have homework it is important to pay attention carefully and actively participate in class.

■オフィスアワー

授業終了後 30分。

■評価方法

Students will be evaluated by class participation on a weekly basis. By how well they work with children in the kindergarten. And there will be a final exam at the conclusion of the class.

■教科書

授業内で適宜配布する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	英語Ⅱ（社会福祉専攻）	担当教員 (単位認定者)	グジェビック・マレク	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

受講生は初歩的で実際の英語の知識を次の事柄に関連して習得する。
 (1) 学生は単語同士がつながった場合の発音、文の中でのアクセント、イントネーションができる。
 (2) 語彙—学生は人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を使える。
 (3) 機能的な言語の構造—学生はさまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるようになる。
 (4) 文法—学生は英語の文法の基本的な原則を理解できる。

■授業の概要

自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション Self-introduction. Introducing people	(自己紹介、他の人を紹介すること)
第2回	Talking about people-friends, relatives, etc. Pastimes and hobbies	(他の人について話す、趣味・興味)
第3回	Making offers. Names of drinks and fruits	(提供すること)
第4回	Making suggestions. Expressing wishes, desires	(提案すること、意図・意思を表す)
第5回	Inviting people. Stating purpose. Giving reason	(招待する、理由を説明すること)
第6回	Talking about professions	(仕事について話す)
第7回	Describing jobs. Expressing opinions	(仕事の描写をすること、意見を表現すること)
第8回	Action happening now. Telling the time	(いまのところ起こる活動、時間を数える)
第9回	Talking about one's plans	(自分の経験について話す)
第10回	Expressing ability. Lack of ability	(能力を表す、能力不足を表す)
第11回	Possibility. Permission	(可能性、許可・同意する)
第12回	Talking about past events and experiences	(昔の出来事・経験について話す)
第13回	Which is better? Which is the best?	(どちらが良い?どちらが一番良い?)
第14回	Touring the States — have you ever?	(アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか?)
第15回	General review and test preparation	(一般的な復習と試験の準備)

■受講生に関わる情報および受講のルール

会話のコースなので、次の点がとても重要。

- 授業に出席すること。
- 授業の事柄を準備すること。
- 練習に参加すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

オリエンテーション時に指示する。

■オフィスアワー

月 12:00 — 13:00 / 水 11:30 — 12:30

■評価方法

1. 学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績。(70%)
2. 授業へ積極的に参加しているかという点から総合的に評価する。(30%)

■教科書

『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2018)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	英語Ⅱ（子ども専攻）	担当教員 (単位認定者)	五十嵐 久子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育英語				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

易しい英語で子供の幼稚園での出来事を実習生の目を通して学びます。簡単な会話や手遊び歌など実践でも役に立つアクティビティを身につけましょう。

〔到達目標〕

- ①基本的な語彙を増やす。
- ②英語の構造を理解する。
- ③わからない単語を類推する。
- ④単語をわかりやすく言い換える。

■授業の概要

教科書の各章のリスニングを繰り返し、耳から英語に慣れる。動詞を聞き取って文脈から全体を類推する力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション:英語で自己紹介をする。自分の履歴(CV)を英語で書く。
第2回	第1章:子供の園保育園 (1)不定冠詞
第3回	第1章:子供の園保育園 (2)数量形容詞 所有格
第4回	第2章:えみの実習初日 (1)動詞の活用 規則動詞 不規則動詞
第5回	第2章:えみの実習初日 (2)who whoseの疑問文
第6回	第3章:さあ、出かけましょう (1)接続詞 前置詞
第7回	第3章:さあ、出かけましょう (2)前置詞と副詞の違い
第8回	第4章:バシャバシャ、水しぶき (1)不定詞 動名詞(主語 目的語)
第9回	第4章:バシャバシャ、水しぶき (2)動名詞の作り方
第10回	第5章:ホットケーキの日 (1)原型不定詞
第11回	第5章:ホットケーキの日 (2)副詞 'ly'の作り方
第12回	第6章:ごはんを読んで、お話聞かせて(1)定冠詞 疑問文 授与動詞
第13回	第7章:スイカで遊ぼう (1)接続詞
第14回	第8章:お誕生日会 (1)形容詞・副詞の比較級
第15回	第9章:子供と遊び (1)数えられる名詞と数えられない名詞

■受講生に関わる情報および受講のルール

定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他(授業後の質問)

■授業時間外学習にかかわる情報

英語を園児や小学生に教えることを希望する学生は英語検定試験を受験することを勧めたい。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期考査2回の合計(100%)。

■教科書

Children's Garden成美堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	英語Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	社会福祉学部担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅲ				

■授業の目的・到達目標

英語圏に片寄らないさまざまな文化圏の人物が、日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実的な異文化コミュニケーションを学ぶ。そして実的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

日常英語表現の習得を念頭に置き、Dialogueで基本的な表現を学び、Expressionsではそれらを発信力の向上へつなげる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Toeicについて。
第3回	Convenience Stores 中国のコンビニエンス・ストアについて、日本との比較を食習慣の違いおよび接客態度の慣習の違いなどに着目する。
第4回	”
第5回	Norimaki 隣の国、韓国の食文化と日本との類似を知る。
第6回	”
第7回	“Hai” 外国語の一つとして、一般的に私達は「中国語」と分類するが、実際には多くの種類がある。その実状について学ぶ。
第8回	”
第9回	Ramen 穀物である小麦と米の文化の分布とその発展について学ぶ。
第10回	”
第11回	Flavors 特に東南アジアでは香辛料が重要な食文化の一部である。日本とは宗教的に異なる地域もあり、その違いを学ぶ。
第12回	”
第13回	Valentine's Day and International Women's Day 日本と韓国はバレンタイン・デーが定着したようであるが、他のアジア諸国では「国際婦人デー」の方がよく知られている。
第14回	Toeic Test 練習。
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るのので、予習は欠かせない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に提示する。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

定期試験の成績 (60%) ・ 授業への取り組み (40%) を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	社会福祉学部担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅳ				

■授業の目的・到達目標

何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できることを目指す。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

クイズ形式のIntroduction、異文化体験のDialog、関連した話題を短い文章でまとめたCultural Notes、表現練習のExpressionsで構成。日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際の異文化コミュニケーションを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Car Names 「カッコいい」という感覚は国によって異なる。それは語感から来るものかもしれない。その理由を考えてみる。
第3回	Fakes にせものが出回る現状を考えてみる。にせものと「似た物」の違いについてもその出現の背景を考察してみる。
第4回	”
第5回	It Doesn't Mean That 「言葉通りの意味ではない」のは日本語だけではない。コミュニケーションのルールの難しさについて学ぶ。
第6回	”
第7回	The Draft 韓国の徴兵制について、最近では多くの日本人が知っている。
第8回	”
第9回	The University System オーストラリアの大学制度について学ぶ。アメリカの制度ではなく、イギリスの制度を基本にしている。
第10回	”
第11回	Job - hunting 日本の学生にとって「就職活動」は大人への入り口とも言える。アメリカの学生はどうなのだろうか。
第12回	”
第13回	Toeic Test 練習。
第14回	”
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

定期試験の成績 (60%) ・ 授業への取り組み (40%) を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	韓国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ハングル、母音・子音、基礎会話				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ハングル(文字)の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。

〔到達目標〕

- 1) ハングル文字が書いて正しく読める。
- 2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。
- 3) 韓国語で自己紹介が出来る。
- 4) パソコンで韓国語の入力が出来る。

■授業の概要

ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。

ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様になり繰り返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴
第2回	ハングルの母音、出会いの挨拶
第3回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶
第4回	ハングルの子音(平音、激音、濃音の相違点)感謝、謝罪の際の会話
第5回	ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話
第6回	ハングルのパッチム、お願いの時の会話
第7回	ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶
第8回	ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化
第9回	ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
第10回	パソコンでのハングルの入力の仕方
第11回	～は～ですの文型、自己紹介
第12回	～は何ですか?の文型 指示代名詞
第13回	疑問詞を用いての分の表現(いつ、どこ、なに、だれ)
第14回	ある、ない、分かる、分からないの表現
第15回	読み書きのまとめ、日常会話の復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。

■オフィスアワー

授業の15分前、授業後の30分は対応可能。

■評価方法

定期試験60%、宿題及びレポート40%。

■教科書

李 昌圭 著 『韓国語へ旅しよう(初級)』 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	助詞、否定型、活用、変則活用				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。

〔到達目標〕

- 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。
- 2) 月・日・番号・値段が言える。
- 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。
- 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。
- 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。

■授業の概要

韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	否定文の表現 助詞～も
第2回	指示代名詞（事物・場所）身の回りの単語
第3回	家族の呼び名 助詞～の
第4回	この～は誰の物ですかの文型
第5回	位置関係の言葉
第6回	何処に～がありますの文型 助詞～が（主格助詞）
第7回	助詞～に（場所）、～と（並列・羅列）
第8回	動詞、形容詞の会話体（です、ます）の活用 助詞～を（目的格）
第9回	～で～をしますの文型 助詞～で
第10回	体の名称の単語 主要副詞語
第11回	時を表す言葉 疑問を表す言葉
第12回	映像で学ぶハングル
第13回	尊敬型の活用 曜日
第14回	リウル変則用言、助詞～しに
第15回	まとめ（助詞 活用 変則活用の復習）

■受講生に関わる情報および受講のルール

日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。

■オフィスアワー

授業の15分前、授業後の30分は対応可能。

■評価方法

定期試験 60%、宿題及びレポート 40%。

■教科書

李 昌圭 著 『韓国語へ旅しよう（初級）』 朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	中国語 漢語 漢字 ピンイン 簡体字 繁体字				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。
- ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

〔到達目標〕

- ・ピンインを見て発音ができるようになる。
- ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション（教科書2・3頁を読んでおく）
第2回	第1課 你好（こんにちは） 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天見（また明日）単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢（ありがとう）子音（1） ドリル
第5回	第4課 好久不见（お久しぶり） 子音（2） 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接（出迎える） 名前の言い方・たずね方
第7回	第6課 欢迎会（歓迎会） 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的（タクシーに乗る） 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿（宿泊する） 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路（道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方
第11回	第10課 买东西（ショッピングをする） 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方
第12回	第11課 聊天儿（おしゃべりをする） 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜（料理を注文する） 量詞、動詞の重ね形
第14回	第13課 买足球票（サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。

■オフィスアワー

毎週火曜 14時～16時。

■評価方法

期末試験 70%、小テスト 30%。

■教科書

陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	中国語 漢語 漢字 ピンイン 簡体字 繁体字 異文化理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身の周りの日常的な事柄を表現できるようにする。
- ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。
- ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。

〔到達目標〕

- ・簡単・初歩的な日常会話ができるようになる。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表す「了」
第2回	第15課 网吧（ネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「给」助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）補語結果 様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語 可能補語
第13回	第25課 看病（診察）主述述語文 受身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。

■オフィスアワー

毎週火曜 14時～16時。

■評価方法

期末試験 70%、小テスト 30%。

■教科書

陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	英会話	担当教員 (単位認定者)	マーティン・バー	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	Listening Speaking を通して基本的な会話能力をつける				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。

〔到達目標〕

1. 基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面にに応じて聞きとり、それに応答できるようになること。
2. 聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。
3. 習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答だけでなく）。

■授業の概要

Listening, Speaking の練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

	章 トピック	内容	Phrases, Vocab., Grammar
第1回	1. What do you think?	・Do you think..? Yes, I do. No, I don't. ・Interview a partner	goes with Nouns related to clothes
第2回	2. I'll get him some CDs.	・Buying presents ・What do you have?	dress up shopping list
第3回	3. Do you mind if I sit here?	・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game.	Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't
第4回	4. Review Lesson	The First Three Lessons	
第5回	5. What was he doing?	・適当な時制を用いる練習 ・Tell the story from the pictures ・what happened to you?	過去形、過去進行形 Vocab related to injuries
第6回	6. What are you going to do?	・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets	I may go ~, I am going to go ~ Vocab related to occupations
第7回	7. Where should I go if I want to go out?	・Make new conversation using examples ・How will you find your way?	Vocab. related to tourism what to take / why
第8回	8. Review Lesson	Games, practice, and exercises 5,6 and 7	
第9回	9. Complaints	・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food? (Role Play)	I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food
第10回	10. The best way to travel 辞書を活用	・In pairs decide which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases	比較級, Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞
第11回	11. I wish it wasn't raining.	・Read the post card and talk about the things he wishes were different.	性格を表す形容詞
第12回	12. What have you been doing?	・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice	現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to
第13回	13. What would you do?	・What would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives	人格を表す形容詞
第14回	14. What have you done?	・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after: What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...?	現在完了形 使役動詞 I've had it dyed
第15回	15. Review Lesson (8-12)	Games, exercises and practice, short test on whole syllabus	

■受講生に関わる情報および受講のルール

講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れなくて積極的に会話する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニテスト）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験 50%、授業への参加 50%。

■教科書

"Get Real 3" New edition 出版社 Macmillan

■参考書

英和辞典・英英辞典

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	高一種免(公民)、 中一種免(社会)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	マクロ経済学、経済統計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。
〔到達目標〕
そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。

■授業の概要

経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	貧困
第3回	社会保障と経済
第4回	医療経済学
第5回	格差
第6回	GDP
第7回	幸福の経済学
第8回	ストック経済学
第9回	経済成長
第10回	教育の経済学
第11回	福祉と経済学
第12回	国際収支
第13回	国際金融
第14回	金融
第15回	経済学と日本経済

■受講生に関わる情報および受講のルール

新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。

■オフィスアワー

木曜日4限

■評価方法

試験(60%)と授業中の課題(40%)によって評価。

■教科書

井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」(KADOKAWA)2015

■参考書

中谷巖「入門マクロ経済学」(日本評論社)2007

科目名	政治学I	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界のなかの日本、平和、弱者、世界秩序				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち続けることができるようになる。
〔到達目標〕
取り分け、問題を抱えている外国の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考え、実践する。

■授業の概要

目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	21世紀の世界秩序
第2回	グローバリゼーションの時代
第3回	文明の衝突
第4回	イスラーム文化
第5回	ロシア正教文化など
第6回	神の文化と和の文化
第7回	キリスト教文明とイスラーム文明間の対立と対話
第8回	ボスニア紛争・コソボ紛争
第9回	IS(ダーイシュ)とイスラーム
第10回	反グローバリゼーションの流れの中で
第11回	統合と分裂
第12回	スンニとシーア
第13回	Re-nationalization
第14回	民から官へ
第15回	余暇・研究・仕事

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

最終試験(70%)、小レポート(20%)、リアクションペーパー(10%)。

■教科書

教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	政治学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界のなかの日本、平和、弱者、世界秩序				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち続けることができるようになる。
〔到達目標〕
取り分け、問題を抱えている外国の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考え、実践する。

■授業の概要

目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなからうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	国際社会を生きる人材を育てる
第2回	政治(politics)ということば、政治とことばは切り離せない
第3回	日本独特の政治のことば、優れた民主国である日本
第4回	平和について考える～聖遷(ヒジュラ)と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～
第5回	社会福祉と平和憲法、そして平和憲法の共有
第6回	カリタス・ジャパンと社会福祉
第7回	世界の貧困問題、日本人の孤立死・餓死についても考える
第8回	日本における国際ボランティア活動～真の国際貢献とは～
第9回	世界を知ることは日本を知ること～個性と異文化との格闘を巡って～
第10回	歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道
第11回	聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点
第12回	鎖国は何故なされたのか
第13回	日中は同文同種? 脱亜入欧
第14回	中東諸問題～イスラーム諸国の民主化を巡って～
第15回	世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

最終試験(70%)、小レポート(20%)、リアクションペーパー(10%)。

■教科書

教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	人間と宗教	担当教員 (単位認定者)	相澤 伸央	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共に生きる				

■授業の目的・到達目標

物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだして初めて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。

■授業の概要

グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解しあえる人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 本科目の目的とシラバスの説明等
第2回	宗教の基礎知識① 人間の特徴と弱点
第3回	宗教の基礎知識② 縄文人と現代人の比較 現代日本人の特性
第4回	宗教の基礎知識③ 宗教・科学・芸術・哲学の比較 宗教の特性
第5回	世界の宗教① アジアの環境の中で活動する宗教としての仏教の特性
第6回	世界の宗教② インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特徴を見る
第7回	世界の宗教③ オリエントの自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る
第8回	世界の宗教④ キリスト教の成立と成長
第9回	世界の宗教⑤ イスラム教の成立から現代へ
第10回	日本の宗教① 空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特性を知る
第11回	日本の宗教② 鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る
第12回	日本の宗教③ 近世から現代の日本宗教 日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(1)
第13回	日本の宗教④ 近世から現代の日本宗教 日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(2)
第14回	日本の宗教⑤ 宗教(仏教)を経験を通して知る
第15回	まとめ 人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 授業資料の再発行はしない。必要な場合、学生間でコピーするなど対応すること。
- 受講にふさわしくない態度(ふざける、礼儀に欠ける)を取る学生には受講を拒否することがある。その場合、その講義は欠席扱いとする。
- 授業に関係のないものの教室への持込みは禁止とする。
- 携帯電話、スマートフォン等は机に出さない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

授業態度(積極的な授業参加)を30%とし、筆記試験(自分の生き方の問題を中心)を70%として評価します。

■教科書

特になし(必要に応じてレジュメ、資料等を配布)。

■参考書

授業ごとに必要に応じて紹介する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	だれでも どこでも いつでも 秘められた宝				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会における議論
第3回	日本での議論・政策
第4回	生涯学習の理念と理論(その1)
第5回	生涯学習の理念と理論(その2)
第6回	生涯学習の内容と形態
第7回	学校教育と生涯学習
第8回	外国の生涯学習(その1)
第9回	外国の生涯学習(その2)
第10回	生涯学習の先駆け(その1)
第11回	生涯学習の先駆け(その2)
第12回	社会教育制度
第13回	生涯学習支援の動向と課題
第14回	まちづくりと生涯学習
第15回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
小論文、レポートは必ず提出すること。
5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験70%、小論文・レポート30%。

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	児童文学	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの文学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童文学について正しく理解し、単に子どもの本ではなくどんな年齢層にもアピールする魅力と、子どもの本の深さを理解できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①児童文学の成り立ちと発展の過程等について理解できる。
- ②児童文学が扱うさまざまなテーマや主題に沿った各論について説明できる。
- ③現在の子どもを取り巻く状況と児童文学の関係について考える。

■授業の概要

実際の作品に触れながら、児童文学の豊かな世界を鑑賞する。「児童文学とはなにか」だけではなく、絵本、童話、ファンタジーなど児童文学の周辺を取り巻く用語について整理し、正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 児童文学とは
第2回	子どもの本の分類
第3回	子どもの本の歴史
第4回	神話（日本神話、ギリシャ神話）・伝説
第5回	日本の昔話
第6回	童話（グリム童話・イソップ童話・アンデルセン童話）
第7回	ファンタジーとリアリズム
第8回	冒険物語
第9回	歴史小説
第10回	フィクションとノンフィクション
第11回	わらべうた、童謡
第12回	子どものための詩
第13回	自分史
第14回	原作・アニメ・実写映画などの比較
第15回	絵本、紙芝居、幼年文学

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。

■オフィスアワー

月曜 13:00 ~ 15:00 それ以外の時間帯はアポイントを取って下さい。

■評価方法

レポート試験 60%、授業への取組、授業時の課題、小テスト 40%。

■教科書

川端有子：児童文学の教科書

■参考書

授業時に指示する。

科目名	読書指導と文芸	担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書指導、読書論、読書法、ブックトーク、読書会、古典、近代文芸、読書ノート、読書療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
読書の意味と読書指導の方法を、文芸学の視点を通して学び身につける。
〔到達目標〕
①読書指導の方法を説明し、指導できる。
②ブックトークを実演し、指導できる。
③読書ノートが作成できる。
④読書会を実施し、指導できる。

■授業の概要

幼児・児童・生徒・成人を対象とした読書指導の理論と実際を、具体的な文芸作品とかかわらせながら学ぶ。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。
第2回	読書とは何か—多様な読書論の現在—/ 読書指導の三原則/ 読書についての思索
第3回	読書ノートの作成とその評価—読書と図書館—/ 要約の方法/ 読書材の読後評価
第4回	読書指導と発達段階—多様な読書材の選択—/ 読書のタイプ/ 読書の構造—読者とは何か—
第5回	読書指導の方法—ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会—
第6回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント—多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント—
第7回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成—タイトル・対象・ねらい・展開(シナリオ)—
第8回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価
第9回	第1回から第8回までの授業のまとめと課題レポート作成
第10回	読書会の実際① 読書会のポイント—多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス—
第11回	読書会の実際② 読書会の実施—対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価—
第12回	読書法の指導—ブックスタート・読みの多様さ・読書学の誕生—/ 読書療法
第13回	読書と古典—日本書紀の読み方・西行の読み方・平家物語の読み方・方丈記の読み方・おくの細道の読み方—
第14回	読書と近代文芸—鴉外を読む・漱石を読む・鬼城を読む・朔太郎を読む・有流を読む—
第15回	第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、次の授業の資料(オリジナルプリントなど)を配布し、授業内容を予告する。
- ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。
- ・授業に支障を来すような行為は厳に慎むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。
- ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験(レポート)が 80%、提出物が 20%の総合評価による。
定期試験レポートの評価基準:①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%) ②文章表現が適切である。(20%)
③オリジナリティーがある。(20%)

■教科書

大越和孝・泉宜宏・宮絢子編著『読書』東洋館出版社(2017)

■参考書

全国 SLA ブックトーク委員会編『ブックトーク—理論と実践—』全国学校図書館協議会(2001)
岩波書店編集部編『日本古典のすすめ』岩波書店(2007)

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	事実 客観性 メディア・リテラシー ことば 生活態度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。

〔到達目標〕

- ①ものの見方、考え方が深められるようになる。
- ②客観的な認識の方法と態度について理解する。
- ③メディア・リテラシーが磨かれる。
- ④複眼で見る大切さを知る。
- ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。

■授業の概要

テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	おしゃべりは明るく元気にありがとう
第3回	恥かき、汗かき、原稿書き
第4回	3分間スピーチは四コママンガ
第5回	番組づくりは八木節音頭
第6回	身近なところにヒントあり
第7回	地名は知らないとチメイ的
第8回	ニュースとは何か
第9回	客観報道とメディア・リテラシー
第10回	たかが順番、されど順番
第11回	スタッフの複眼生きるナマ中継
第12回	実況は大和言葉で花盛り
第13回	アブになれ
第14回	人生はミスマッチ、三日三月三年
第15回	満点を狙わぬ結果が合格点

■受講生に関わる情報および受講のルール

タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

毎時間授業終了後30分は対応可能。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)

■参考書

日々の新聞、テレビ等。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	3年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
	カリキュラム上の位置づけ	基礎教養科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク、事業計画、ホスピタリティ、アイスブレイキング、A-PIEプロセス、セラピューティックレクリエーションサービス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者（特に本講義では高齢者や障がい者）の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開の支援方法を学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論 レクリエーションの意義
第3回	基礎理論 レクリエーション運動を支える制度（歴史とその背景）
第4回	基礎理論 レクリエーションへの期待
第5回	基礎理論 生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論 レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論 社会福祉の中でのレクリエーションインストラクターの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係
第10回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術 ～アイスブレイキングとは 意義～
第11回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術 ～アイスブレイキングの方法 同時発声 同時動作 合図出し～
第12回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング ～プログラミングの原則～
第13回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングモデルの作成～
第14回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表
第15回	まとめ（評価・ふりかえり）

第 16 回	支援論 ライフスタイルとレクリエーション 乳幼児期～児童期～青年期～老年期
第 17 回	支援論 少子高齢社会の課題とレクリエーション
第 18 回	支援論 地域とレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
第 19 回	支援論 治療的意味合いを含めたレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス
第 20 回	目的にあわせたレクリエーションワーク 素材アクティビティの提供
第 21 回	目的にあわせたレクリエーションワーク ハードル設定 GSS プロセス
第 22 回	目的にあわせたレクリエーションワーク 対象者間の相互作用の活用方法
第 23 回	目的にあわせたレクリエーションワーク 指導実習
第 24 回	事業論 事業計画 レクリエーション事業とは
第 25 回	事業論 アセスメントに基づいたプログラム計画 A－PIE プロセス ～ニーズの確認 目標設定 展開 期待される効果～
第 26 回	事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
第 27 回	事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～市民を対象とした事業のつくり方～
第 28 回	事業論 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 ～安全管理～
第 29 回	事業論 事業計画 レクリエーションプログラムの計画発表及び実践
第 30 回	一年間のまとめ（評価・ふりかえり）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 3 時間目（変更時は掲示する。）

■評価方法

筆記試験 60%、授業中レポート 20%、グループワーク及び発表 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）。

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】（日本レクリエーション協会）
【レクリエーション活動援助法】（中央法規）

科目名	特設科目・論語	担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学精神、仁、論語、知行合一、道、述、詩、礼、楽、忠恕、日本文化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

建学の精神を深く理解し、実践することによって人を生かし自己を生かす力を身につける。

〔到達目標〕

- ①論語が示した道徳を説明し実践できる。
- ②論語と日本の道徳文化の影響関係が説明できる。
- ③建学の精神と論語の関係が説明できる。

■授業の概要

本学の建学の精神は、論語が示した道徳の実践にある。論語や陽明学がもたらしたわが国の道徳文化の受容史を学び、建学の精神と日常生活の結びつきを深め実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。
第2回	建学の精神と日本の道徳文化の構造/論語とは何か/建学の精神の典拠について
第3回	イデオロギーとしての論語の受容(日本書紀・和漢朗詠集・方丈記・雨月物語において検証)
第4回	論語における文学の発生とその受容(万葉集・竹取物語・古今和歌集・おくの細道などにおいて検証)
第5回	第1回から第4回までの授業のまとめと課題レポート作成
第6回	論語における道の思想の受容(夏目漱石・釈道空・斎藤茂吉などにおいて検証)
第7回	風雅としての道の受容と日本近世思想の内部構造(仁斎・徂徠・真淵・宣長などにおいて検証)
第8回	論語における述志と貧道の精神(松尾芭蕉・村上鬼城において検証)
第9回	論語における道の形而上的性格/行乞の道とその深層(芭蕉・良寛において検証)
第10回	第6回から第9回までの授業のまとめと課題レポート作成
第11回	論語における自己回帰の思想と日本の中世転形期の思想(道元・西行・兼好などにおいて検証)
第12回	論語学としての王陽明の思想と日本の中世芸道思想の構造(世阿弥・利休などにおいて検証)
第13回	反近代思想と論語(森鷗外・正岡子規・高浜虚子などにおいて検証)
第14回	疑似原郷テキストとしての論語の基本構造(斎藤茂吉・北原白秋・萩原朔太郎において検証)
第15回	第11回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、次の授業の資料(オリジナルプリントなど)を配布し、授業内容を予告する。
- ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。
- ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。
- ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(レポート)が80%、提出物が20%の総合評価による。
定期試験レポートの評価基準:①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%) ②文章表現が適切である。(20%)
③オリジナリティーがある。(20%)

■教科書

鈴木利定監修/中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院。

■参考書

鈴木利定監修/中田勝著『咸有一徳』中央法規 鈴木利定著『儒教哲学の研究』明治書院

科目名	教育原理（社会福祉専攻）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	基礎教養科目の位置けでもあるため、教育に関心のある学生の参加を歓迎する。	免許等指定科目	教員免許状取得		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、教育課程の編成、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。
- 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）—授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観—「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題
第9回	教育課程の編成
第10回	子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか—事例を通して考える—
第11回	子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか—事例を通して考える—
第12回	学校における非言語コミュニケーション ① 人は気持ちをどう伝え合うのか—近言語的、非言語—
第13回	学校における非言語コミュニケーション ② 人は気持ちをどう伝え合うのか—空間の行動、人工物、物理的環境等—
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニレポート）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育原理（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	江島 正子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育原理の語源 教育の本質 教育目的の変遷 教育の場 わが国の学校教育 教育行政 教師像				

■授業の目的・到達目標

教育概念並びに教育に関する歴史的な思想に触れ、今日のわが国における教育の根柢となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。こどもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。

■授業の概要

新教育の代表者の一人であるマリア・モンテッソーリは1937年にコペンハーゲン世界会議において、こどもの権利を擁護する講演を行った。21世紀の現在こどもたちの状況はどのようなのであろうか。2018年のいま緊急に解決されなければならない教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるのかについて考察していきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス 自己紹介と授業の進め方 「教育原理」の語源 教育とは何か
第2回	教育目的の変遷 古代ギリシア時代 ローマ時代 中世 ルネサンス 実学主義 啓蒙時代 新人文主義 現代
第3回	教育の場 家庭教育 就学前教育 学校教育 社会教育 生涯教育
第4回	わが国の学校教育 明治前期の教育 明治後期の教育 大正期の教育 昭和期の教育 平成期の教育
第5回	教育行政と学校制度 教育行政の組織 中央教育行政のしくみ 学校制度と学校経営 学級経営
第6回	教師 人間形成と教師 教育の本質における教師 教育愛 教師の威厳 教職の誕生
第7回	わが国における教師像の変遷 伝統的教育と聖職者的教師 教育の民主化と教育労働者 専門職としての教職
第8回	教員養成と免許制度 教員免許状更新講座
第9回	養成—採用—研修 教師の職務
第10回	学習指導法の類型 教師中心型 生徒中心型 プロジェクト法 ラボラトリ・メソッド
第11回	学習組織 グループ学習 個別学習 一斉学習
第12回	横割りクラス編成 縦割りクラス編成
第13回	現代の教育諸問題
第14回	教育情報 情報化の光と影
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

月曜日 10時30分～12時30分。

■評価方法

定期試験（60%）、レポート（20%）、ディベート（20%）で総合的に判断する。

■教科書

岩田朝一編著『教育学教程』学苑社

■参考書

江島正子著『世界のモンテッソーリ教育』サンパウロ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	日本史I	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	中学校教諭一種免許状(社会)に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	日本のあけぼの 古代国家の形成 武家社会の形成と転換				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。
〔到達目標〕
①日本史原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。
②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。
③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 「歴史を学ぶ」ことの意義について理解する。
第2回	人物で学ぶ歴史…野口英世 野口英世についての資料を理解し、その生涯を考察する。
第3回	日本列島と日本人〔・人類の誕生・日本列島の形成・旧石器文化〕
第4回	縄文文化〔・自然環境の変化・縄文文化・三内丸山遺跡〕
第5回	弥生文化〔・水稲と鉄器・生産と階級・小国の分立〕
第6回	古墳とヤマト王権〔・古墳の築造・大和と朝鮮・氏姓制度〕
第7回	飛鳥の朝廷〔・蘇我氏の台頭・厩戸王の政治・遣隋使〕
第8回	大化の改新〔・政変の原因・改新の政治・近江の朝廷〕
第9回	平城京の政治〔・平城京と遣唐使・政治と社会の変化〕
第10回	摂関政治〔・平安遷都・摂関政治・荘園と武士団〕
第11回	院政〔・院政・保元・平治の乱・平氏の栄華〕
第12回	鎌倉幕府〔・源平の争乱・鎌倉幕府・執権政治〕
第13回	蒙古襲来〔・蒙古襲来・得宗専制政治・幕府滅亡〕
第14回	室町幕府〔・建武の新政・動乱のふかまり・室町幕府〕
第15回	応仁の乱～戦国の世〔・応仁の乱・戦国大名〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・講義の進度にあわせ、予習復習を必ず行うこと。
〔受講のルール〕
・ノートをしっかりと、積極的に授業に臨むこと。
・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

岩宿遺跡・かみつけの里博物館・上野国分寺遺跡・県立歴史博物館等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

講義終了後 30分。

■評価方法

試験(60%)、講義への参加態度・レポート・提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

新もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	日本史Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	中学校教諭一種免許状(社会)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	戦国大名・江戸幕府・三大改革・明治維新政府・戦争と現代日本				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。
〔到達目標〕
①日本史戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。
②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。
③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。
第2回	織田信長〔・天下布武・信長の政策・本能寺の変〕
第3回	豊臣秀吉〔・秀吉の全国統一・検地と刀狩・秀吉の対外政策〕
第4回	江戸幕府〔・関ヶ原の戦い・江戸幕府・大坂の役〕
第5回	将軍と大名〔・幕府の職制・大名の統制・参勤交代〕
第6回	幕政の改革Ⅰ…享保の改革
第7回	幕政の改革Ⅱ…寛政の改革
第8回	幕政の改革Ⅲ…天保の改革と幕末
第9回	明治維新〔・大政奉還・戊辰戦争・新政府の方針〕
第10回	廃藩置県〔・廃藩置県・四民平等・地租改正〕
第11回	殖産興業〔・官営工場・鉄道の敷設・松方財政〕
第12回	文明開化〔・自由と権利の思想・小学校のはじまり・西洋風俗〕
第13回	自由民権運動〔・士族の抵抗・自由民権運動・明治十四年の政変〕
第14回	帝国議会〔・憲法の調査・大日本帝国憲法〕
第15回	戦争と現代日本〔・戦争の世紀・私達の課題〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。
〔受講のルール〕
・ノートをしっかりとり、積極的に授業に臨むこと。
・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

県立歴史博物館・世界遺産の産業遺産富岡製糸場等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

講義終了後 20 分。

■評価方法

試験(60%)、講義への参加態度・レポート・提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

新もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

全集 日本の歴史(小学館)

科目名	世界史	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界史				

■授業の目的・到達目標

世界史の全範囲を半年間(90分×15回)で学習することが、極めて困難な課題であることは、多少でも世界史の知識を持つ者ならば容易に理解することができる。一般的に世界史を学習する場合は、ヨーロッパ世界、西アジア世界、南アジア世界、東アジア世界の四つの地域に区分をする。時間的な制約から人類の歴史に最も大きな影響を与えた「ヨーロッパの歴史」を主として「アジアの歴史」を従とした方法で世界史を学習する。

■授業の概要

人類の歴史を概観すると、古代、中世、近代、現代と四つの時代に区分することが通常の方法である。その中から歴史の流れに沿って、地中海世界の成立、ヨーロッパ世界の形成と発展、近代ヨーロッパの誕生、市民社会の成立、帝国主義と二つの世界大戦、戦後世界と東西対立、現代の世界を学習した後、アジアの歴史は宗教を中心軸として学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	世界史オリエンテーション、歴史とは何か
第2回	ギリシアの都市国家とローマ帝国
第3回	ヨーロッパ世界の成立とキリスト教の誕生
第4回	封建制社会の成立・発展・衰退
第5回	東西ヨーロッパの分裂、ビザンツ帝国の盛衰
第6回	十字軍遠征と中世都市
第7回	中央集権国家の成立、絶対主義国家の盛衰
第8回	産業革命と三大市民革命
第9回	市民社会の成長、自由主義と国民主義
第10回	帝国主義の成立、アジア・アフリカの民族主義運動
第11回	二つの世界大戦
第12回	戦後世界の形成と東西対立、現代世界の課題
第13回	イスラーム教と西アジア
第14回	ヒンドゥー教と南アジア
第15回	儒教・仏教と東アジア

■受講生に関わる情報および受講のルール

世界史の講義に必要な資料はその都度作成して配布する。教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立つ場合は、注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

時間外の自学自習に係る情報は、必要に応じて参考文献を印刷して配布する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

授業への取り組み態度(10%)・小論文(20%)・試験(70%)などを総合して評価する。

■教科書

「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社

■参考書

参考文献などは講義の中で紹介する。

科目名	地理学	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地理学				

■授業の目的・到達目標

- ・地理の基礎教養を身につける。
- ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。
- ・フィールド調査を通して、調査内容をレポートし、それを発表する素養を身につける。

■授業の概要

地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域においてフィールド調査によるレポートを書かせたうえで、要約して発表させ、地理学の調査活動の一端を実践させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	地理学の本質と中学校・高等学校における社会科・地歴科の教職
第2回	日本の文化財・遺産などの概況とレポート課題及びその調査方法
第3回	地球のあらましと世界地誌の概要
第4回	海外旅行に関する諸問題と世界観
第5回	世界の地形・国家と領域
第6回	世界の気候区分とその問題
第7回	最近の気候変化と温暖化
第8回	地図の基本と特徴
第9回	日本の地誌と地域区分
第10回	群馬県の地理概要
第11回	地震と自然災害
第12回	レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など
第13回	身近な地域の調査の発表と考察(1)
第14回	身近な地域の調査の発表と考察(2)
第15回	身近な地域の調査の発表と考察(3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業への取り組みを重視します。すなわち、欠席・遅刻は減点し、おおむね欠席が4分の1を超過した場合、レポートや試験が良好でも、単位の取得は困難になります。健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、穴うめ作業・演習問題を含んだプリントを配布します。地図帳とプリントでよく復習して下さい。フィールド調査を含むレポートを課します。地図を用意して現地に行って写真を撮り、レポートをしっかりと書いてください。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

「社会科 中学生の地理」(帝国書院) 「中学校社会科地図」(帝国書院)

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人づくり、対話と独語（ひとりごと）、平和				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

国際文化論（intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。

〔到達目標〕

国際文化論は、異なる文化を持った人々と繋がっていける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～
第2回	和の文化（1）～その構造について～
第3回	和の文化（2）～神の文化との比較～
第4回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
第5回	マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
第6回	日本外交の原点に位置する聖徳太子
第7回	ヨーロッパ文明とEU
第8回	日本と中東（1）
第9回	日本と中東（2）
第10回	湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動
第11回	ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて
第12回	「平和」実現への第一歩とは（1）
第13回	「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～
第14回	国際文化論として考えるリハビリテーション
第15回	個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。

■教科書

教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発想 表現 鑑賞 版画製作 版画の教育的意義				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら作り出す喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 私たちの造形表現の歴史は、私たちが外界と内面とに感じる「美」との対話の歴史であることを知ることができる。
- ② 造形表現を学ぶ、あるいは教える目的は、まず造形表現の面白さに気づくことができる。
- ③ 版画を歴史的に俯瞰した場合、印刷術の発展とは切っても切れない関係があることを知ることができる。

■授業の概要

人は生きている限り様々な体験をし、様々な生活感情を持ち、命ある人間がその生活感情に基づき、何かを表そうとする意識を持った時、それが表現の原点であることを身につけ美術技法を通して、美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学び、版画の教育的意義を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 美術技法を考える 版画の材料と用具
第2回	発想、表現 鑑賞について 版画の種類について
第3回	美術の概念 木版の伝統技法について
第4回	木版のいろいろな技法
第5回	版画の歴史について考える 銅版の流れ
第6回	版画の種類について学ぶ 凸版凹版、平板、孔版の確認
第7回	版画の種類について学ぶ 直接法と間接法
第8回	基本技法を学ぶ 各技法による道具の確認
第9回	基本技法を学ぶ いろいろなものでドライポイントを試みる
第10回	製版の準備 ドライポイント プレートを使用する
第11回	製版の準備 インクの詰め方、ふき取り方を学ぶ
第12回	製版の準備 プレス機の(圧) いろいろな工夫を学ぶ
第13回	製版の実践・刷り インクの硬さ、やわらかさについて学ぶ
第14回	製版の実践・刷り インクの硬さ、やわらかさが適切であったかの確認
第15回	製版の実践・刷り 紙による印刷効果の違いを学ぶ
第16回	基本技法を学ぶ (メゾチント)について 黒の版面を削り作成する

第 17 回	基本技法を学ぶ (ルーレット)について ルーレットで不規則な点の下地を作る
第 18 回	基本技法を学ぶ (エッチング)について 針で軽く絵を描き腐蝕させる技法
第 19 回	基本技法を学ぶ (ソフトグランド)について 亀裂が生じた版を腐蝕する技法
第 20 回	基本技法を学ぶ (アクアチント)について 松ヤニの粉末を使う技法
第 21 回	その他の技法 ステンシル、孔版、穴から絵具を刷り込んで作る技法
第 22 回	その他の技法 謄写版画、ロウ引きの原紙に鉄筆などで描く方法
第 23 回	凸版を刷る 実物版、紙版、木版、ゴム版等で作成する
第 24 回	版画のサインと限定番号 他の複製作品と区別するために用いる
第 25 回	製版の実践 版材となる金属板を用意する
第 26 回	製版の実践 銅版の切り方、銅版カッターを使う、俗に「ひっかき」ともいう
第 27 回	紙の湿し方 銅版画の刷りのためには、前もって湿らせる必要がある
第 28 回	銅版画におけるプレス庄の決め方 ドライポイントプレートと銅版の違い
第 29 回	銅版画における刷り、インクの詰め方、インクの拭き取りについて
第 30 回	版の保存と構図等はどうかであったか、他の作品の鑑賞

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し積極的に授業に取り組むこと。他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。次の講義の資料等配布する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分理解し授業に臨むこと。復習予習を必須とする。

■オフィスアワー

授業前後 30 分対応可能。

■評価方法

課題作品 70% (作品の構成、バランス、プロポーション、コントラスト等で評価) 試験 (レポート) 30% 総合で評価します。

■教科書

長谷喜久一 (著) 図画工作 建帛社

■参考書

宮脇理 (著) ベーシック造形技法 建帛社

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1 学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。
- ③昌賢祭の研究発表や制作を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①(学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの年間計画、授業の受け方、履修届等の確認)
第2回	進路・資格取得プログラム①(4年後の目標〈個人・クラス〉、クラス目標の発表)
第3回	心身の健康プログラム①—生活の充実についてⅠ(防犯講座)
第4回	心身の健康プログラム②—健康管理についてⅠ(親睦スポーツ大会の練習)
第5回	進路・資格取得プログラム②(二者面談、キャリアサポートカルテの記入、親睦スポーツ大会の振り返り)
第6回	建学の精神と実践教育プログラム②—生活を科学するⅠ(雑巾作成、環境美化活動の振り返り)
第7回	学士力養成プログラム①(図書館の利用の仕方)
第8回	学士力養成プログラム②(レポート作成Ⅰ、『知へのステップ』)
第9回	学士力養成プログラム③(レポート作成Ⅱ、『知へのステップ』)
第10回	心身の健康プログラム③—クラスの絆を深めよう!(各クラスで絆を深める内容を決め実践する)
第11回	心身の健康プログラム④—クラスの絆を深めよう!(各クラスで絆を深める内容を決め実践する)
第12回	学士力育成プログラム④(日本語力の向上、一般常識)
第13回	地域貢献プログラム①地域とのかかわりⅠ(昌賢祭の概要、計画立案)
第14回	地域貢献プログラム②地域とのかかわりⅡ(昌賢祭について夏期休業中行うこと、昌賢祭準備)
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③前期総括(演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動)
第16回	建学の精神と実践教育プログラム④(学長訓話・学部長講話、後期の計画)

第 17 回	地域貢献プログラム③地域とのかかわりⅢ（昌賢祭の制作活動・発表準備）
第 18 回	地域貢献プログラム④地域とのかかわりⅣ（昌賢祭の制作活動・発表準備）
第 19 回	地域貢献プログラム⑤地域とのかかわりⅤ（昌賢祭の制作活動・発表準備）
第 20 回	地域貢献プログラム⑥地域とのかかわりⅥ（昌賢祭の制作活動・発表準備）
第 21 回	地域貢献プログラム⑦地域とのかかわりⅦ（昌賢祭の振り返り）
第 22 回	心身の健康プログラム⑤一生活の充実についてⅡ（消費者被害防止教育）
第 23 回	学士力育成プログラム⑤（日本語力の向上、一般常識）
第 24 回	心身の健康プログラム⑥一生活の充実についてⅢ（デートDV防止）
第 25 回	学士力育成プログラム⑥（日本語検定試験）
第 26 回	学士力育成プログラム⑦（読書力の向上）
第 27 回	建学の精神と実践教育プログラム⑤（環境美化活動・クラス委員活動の振り返り）
第 28 回	進路・資格取得プログラム③（卒業生講話）
第 29 回	進路・資格取得プログラム④（4年生講話）
第 30 回	建学の精神と実践教育プログラム⑥（後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。
- 4 基礎演習Ⅰで使用した資料は、必ず基礎演習Ⅰファイルに綴じておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ワークシート、演習ファイル）

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

基礎演習Ⅰへの取り組み（50%）、ワークシート（30%）、基礎演習Ⅰファイルの整理（20%）を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2 学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確かなものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。
- 2 研究小論文の完成を目指す。
- 3 昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自律的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：前期オリエンテーション（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱの年間計画、各委員会報告、履修確認 他）
第2回	心身の健康プログラム①：学生生活の日常にひそむリスクを知る
第3回	心身の健康プログラム②：親睦スポーツ大会の練習Ⅰ
第4回	心身の健康プログラム③：親睦スポーツ大会の練習Ⅱ
第5回	建学の精神と実践プログラム②：生活を科学するⅡ（雑巾を手縫いする）、環境美化活動の意義
第6回	進路・資格取得プログラム①：キャリアガイダンス
第7回	進路・資格取得プログラム②：一般常識テスト
第8回	心身の健康プログラム④：（女子のみ）子宮ガン検診啓発講話・ストレスを理解する
第9回	学士力育成プログラム①：研究小論文作成Ⅰ（作成の概要）
第10回	学士力育成プログラム②：研究小論文作成Ⅱ（問いを立てる⇄テーマと背景）
第11回	学士力育成プログラム③：図書館を使いこなそう
第12回	学士力育成プログラム④：研究小論文作成Ⅲ（先行研究の状況を調べる）
第13回	地域貢献プログラム①：地域とのかかわりⅠ（昌賢祭の意義・テーマ設定・計画立案 他）
第14回	学士力育成プログラム⑤研究小論文作成Ⅳ（研究方法を考える→夏季休業中の取り組み）
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③：前期総括（演習ファイル整理、自己点検、夏期休暇中の過ごし方 他）

第 16 回	建学の精神と実践教育プログラム④:後期オリエンテーション(学長訓話・学部長講話・年金講話)
第 17 回	学士力育成プログラム⑥:研究小論文Ⅴ(結果と考察)
第 18 回	進路・資格取得プログラム③:卒業生講話
第 19 回	学士力育成プログラム⑦:研究小論文Ⅵ(論文の表現と表記)
第 20 回	地域貢献プログラム②:地域とのかかわり(昌賢祭の製作活動・発表準備)
第 21 回	地域貢献プログラム③:地域とのかかわり(昌賢祭の製作活動・発表準備)
第 22 回	地域貢献プログラム④:地域とのかかわり(昌賢祭の製作活動・発表準備)
第 23 回	地域貢献プログラム⑤:地域とのかかわり(昌賢祭の振り返り)
第 24 回	学士力育成プログラム⑧:日本語能力試験
第 25 回	進路・資格取得プログラム④:外部講師講話
第 26 回	学士力育成プログラム⑨:マナー講座(予定)
第 27 回	学士力育成プログラム⑩:研究小論文Ⅶ(完成)
第 28 回	進路・資格取得プログラム⑤:先輩学生(4年生)から伝えたいこと
第 29 回	学士力育成プログラム⑩:研究小論文Ⅷ(クラス内発表会)
第 30 回	建学の精神と実践教育プログラム⑤:後期総括(演習ファイル整理、自己点検 他)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

研究小論文 (40%)、課題等の提出状況及び成果物 (30%)、取り組み状況 (30%) を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規,2002年。
『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学,2012年。
学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版,2002年。

■参考書

授業で適宜紹介していく。

科目名	総合演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	3 学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	3 年次	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎教養科目 (必修)			
キーワード	建学の精神 礼儀・挨拶 環境美化活動 ボランティア活動 進路の明確化 課題研究・製作 学士力の育成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・製作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。
- ②総合演習の集大成である課題研究・製作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的におこなう。
- ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合、⑤進路・資格取得の5つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導・助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム① 前期オリエンテーション 学長訓話 学部長講話 総合演習Ⅰの内容説明
第2回	建学の精神と実践教育プログラム② 生活を科学する(雑巾作成)
第3回	心身の健康プログラム① 心身の充実について(1) 親睦スポーツ大会準備
第4回	心身の健康プログラム② 心身の充実について(2) 親睦スポーツ大会
第5回	進路・資格取得プログラム① 進路決定に向けて(1) 一般常識テスト
第6回	学習統合プログラム① リテラシーをみがく(1) ノートテイキング
第7回	学習統合プログラム② リテラシーをみがく(2) 情報を集める
第8回	地域貢献プログラム① 地域との深まりについて(1) 昌賢祭研究発表テーマ選定 資料収集 活動計画作成等
第9回	地域貢献プログラム② 地域との深まりについて(2) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第10回	学習統合プログラム③ リテラシーをみがく(3) リーディング①
第11回	学習統合プログラム④ リテラシーをみがく(4) リーディング②
第12回	地域貢献プログラム③ 地域との深まりについて(3) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第13回	進路・資格取得プログラム② 進路決定に向けて(2) 施設長講話
第14回	地域貢献プログラム④ 地域との深まりについて(4) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③ 前期の総括 総括レポート作成 自己点検・自己評価 夏期休業中の活動について
第16回	建学の精神と実践教育プログラム④ 後期オリエンテーション 学長訓話 学部長講話 学年担任講話 連絡事項

第 17 回	学習統合プログラム⑤ リテラシーをみがく(5) ライディング①
第 18 回	学習統合プログラム⑥ リテラシーをみがく(6) ライディング②
第 19 回	地域貢献プログラム⑤ 地域との深まりについて(5) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第 20 回	地域貢献プログラム⑥ 地域との深まりについて(6) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第 21 回	地域貢献プログラム⑦ 地域との深まりについて(7) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第 22 回	地域貢献プログラム⑧ 地域との深まりについて(8) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第 23 回	地域貢献プログラム⑨ 地域との深まりについて(9) 昌賢祭研究発表にむけて 資料収集 活動内容作成等
第 24 回	建学の精神と実践教育プログラム⑤ ボランティア、環境美化について
第 25 回	進路・資格取得プログラム③ 進路決定に向けて(3) 就職作文試験(論文試験)
第 26 回	進路・資格取得プログラム④ 進路決定に向けて(4) 卒業生講話
第 27 回	学習統合プログラム⑦ 課題研究製作に向けて(1) 文献収集等 チーム教育を視野にいれて
第 28 回	学習統合プログラム⑧ 課題研究製作に向けて(2) 文献収集等 チーム教育における多職種理解
第 29 回	進路・資格取得プログラム⑤ 進路決定に向けて(5) 進路ガイダンス 進路希望調査 キャリアデザインノート作成
第 30 回	建学の精神と実践教育プログラム⑥ 後期の総括 総括レポート作成 自己点検・自己評価 春期休業中の活動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に係わる情報〕

- 1 総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用(WEB フォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各担当教員に確認すること。

■評価方法

提出物(40%) 演習への取り組み・内容等(60%)を総合して評価する。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	総合演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4 学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路決定、課題研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、3年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である課題研究・制作では、自発的なテーマ設定、資(史)料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。
- ②総合演習の集大成である課題研究・制作について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。
- ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。

■授業の概要

内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の5つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義(外部講師)を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム① 学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画
第2回	進路・資格プログラム① 「自己表現テスト」
第3回	心身の健康プログラム① 心身のバランス(親睦スポーツ大会に向けた活動)
第4回	心身の健康プログラム② 心身のバランス・他者との連繋(親睦スポーツ大会)
第5回	建学の精神と実践教育プログラム②(生活を科学するー雑巾縫いをとおして)
第6回	学習統合プログラム① 課題研究・制作(ガイダンス)
第7回	進路・資格取得プログラム② 「自己表現テスト」のふりかえり
第8回	学習統合プログラム② 課題研究・制作
第9回	学習統合プログラム③ 課題研究・制作
第10回	学習統合プログラム④ 課題研究・制作
第11回	学習統合プログラム⑤ 課題研究・制作
第12回	学習統合プログラム⑥ 課題研究・制作
第13回	地域貢献プログラム① 「地域での住民と行政サービスとの関わり」(外部講師)
第14回	進路資格取得プログラム③ 「エントリー試験」
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③ 前期総括
第16回	建学の精神と実践教育プログラム④ 学長訓話・学部長講話、労務管理士会会長講話

科目名	ボランティア活動I (社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・矢島崇裕	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神 体験学習 人間形成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対人援助の養成過程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけでなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことが出来ない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目的としている。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解し、ボランティアに参加することができる。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動の狙いやこれまでの歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義及び演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション ボランティア活動とは
第2回	ボランティアセンターの役割 依頼ボランティアとは
第3回	継続ボランティアを行なう施設や教育機関について
第4回	継続ボランティアの活動報告書と事務書類の意義と作成方法
第5回	車椅子の使い方
第6回	ブラインドウォーク
第7回	前橋七夕まつりボランティア 七夕まつりと本学の関わりについて
第8回	前橋七夕まつりボランティア準備 班編成 班の役割分担 作品の計画書作成 予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法
第9回	
第10回	継続ボランティアで学んでいること 今後の計画
第11回	
第12回	前橋七夕まつりボランティア準備 作品の作成状況確認 現地見学 設営計画 運営計画 個人と班の総括
第13回	
第14回	前橋七夕まつり報告会 全体総括
第15回	障害者スポーツ大会事前指導 前期総括
第16回	後期の予定 障害者スポーツ大会報告会 全体総括

科目名	ボランティア活動I(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	矢島崇裕・富澤一央	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神 体験学習 人間形成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対人援助の養成過程では、態度・価値観(マインド)、技能(スキル)、知識(理論)がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけでなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことが出来ない実際の対人支援の方法を現場(施設等)で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目的としている。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解し、ボランティアに参加することができる。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動の狙いやこれまでの歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義及び演習形式で、事前指導(ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など)、中間指導(ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する)、事後指導(活動の成果と反省)を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション ボランティア活動とは
第2回	ボランティアセンターの役割 依頼ボランティアとは
第3回	継続ボランティアを行なう施設や教育機関について
第4回	継続ボランティアの活動報告書と事務書類の意義と作成方法
第5回	ブラインドウォーク
第6回	車いすの使い方
第7回	前橋七夕まつりボランティア 七夕まつりと本学の関わりについて
第8回	前橋七夕まつりボランティア準備 班編成 班の役割分担 作品の計画書作成 予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法 作品の作成 現地見学 設営計画 運営計画 個人と班の総括
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	前橋七夕まつり報告会 全体総括
第15回	障害者スポーツ大会事前指導 前期総括
第16回	後期の予定 障害者スポーツ大会報告会 全体総括

科目名	ボランティア活動Ⅱ（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア 体験学習 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

〔到達目標〕

グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。

地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。

グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。

継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション①	本学におけるボランティア活動Ⅱの位置づけ、単位認定の基準等について
第2回	オリエンテーション②	本科目の単位認定の基準について
第3回	地域福祉について①	ボランティア活動の意義と目的
第4回	地域福祉について②	ボランティア活動の実践
第5回	地域におけるボランティア活動①	企画の進め方について、個人での企画案作成
第6回	地域におけるボランティア活動②	グループ分けとグループでの企画案作成
第7回	地域におけるボランティア活動③	企画したボランティア活動の意義と目的を考える
第8回	地域におけるボランティア活動④	企画したボランティア活動の実行可能性と課題を整理し、解決策を導き出す
第9回	地域におけるボランティア活動⑤	企画したボランティア活動に活用できる社会資源を整理する
第10回	地域におけるボランティア活動⑥	企画したボランティア活動を実行する際の留意点
第11回	地域におけるボランティア活動⑦	企画書の作成と提出
第12回		
第13回	地域ボランティア活動企画の発表	
第14回		
第15回	前期のまとめ	
第16回	後期オリエンテーション	

第 17 回	地域ボランティア活動の振り返り①	グループで実践した活動の反省
第 18 回	地域ボランティア活動の振り返り②	企画したボランティア活動の意義と目的を達成できたか考察する
第 19 回	地域ボランティア活動報告の準備	
第 20 回		
第 21 回		
第 22 回	地域ボランティア活動報告	
第 23 回		
第 24 回		
第 25 回	継続ボランティア活動報告	
第 26 回		
第 27 回		
第 28 回		
第 29 回	地域ボランティア及び継続ボランティア活動の振り返り	
第 30 回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループ活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実践する事。
 ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事。
 ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
 ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
 ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションにて説明する。

■評価方法

講義・演習への取り組み（ボランティア活動報告書を含む）（60%）、ボランティア報告会でのプレゼンテーション（40%）を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修 / 足立勤一 他 編著）

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア 子育て支援 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。

本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。

本学では学内における机上の研究（知識）、ボランティア活動（精神・心構え）、実習（技術）というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身に付けることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「子育て支援ボランティア」について
第3回	
第4回	前期ボランティア活動①前橋七夕まつりの説明
第5回	前期ボランティア活動②前橋七夕まつりの活動計画の検討
第6回	
第7回	前期ボランティア活動③前橋七夕まつりの活動準備
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	前期ボランティア活動の実施：前橋七夕まつり会場にて実施
第12回	前橋七夕まつり 活動報告会の準備
第13回	前橋七夕まつり 活動報告会
第14回	「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティア活動の説明
第15回	前期のまとめ・夏休み中のボランティア活動計画について
第16回	後期オリエンテーション

科目名	ボランティア活動Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1. ボランティア活動Ⅰ及びⅡ単位習得者 2. 社会福祉協議会へ就労希望者・NPO 法人設立希望者	免許等指定科目	特になし		
カリキュラム上の位置づけ		選択科目			
キーワード	1. ボランティアリーダー・コーディネータ 2. 社会貢献 3. 地域福祉 4. 共生社会				

■授業の目的・到達目標

この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や施設に就労し、ボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身につける。また、社会貢献活動ができる人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か?を体験し探求できる能力を身につける。

■授業の概要

これまでのボランティア活動は、予め決められた内容あるいは募集掲示された活動体験が主であった。この講義では、自ら社会との接点としてのボランティア活動とは何か?を探求し、実践する。1年生のボランティア活動へのアドバイスや具体的なボランティア活動を支援する。毎時間、それまでのボランティア活動の実践発表を行う。最後に、年間の活動報告書をまとめ、提出する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション: 学生ボランティア活動の目的とは何か? ①学生ボランティア活動史(世界・日本)
第2回	地域社会が求めているボランティア活動とは? ①本学ボランティアセンターの任務と活動。
第3回	発表1. 各自(グループ)の考える地域社会における福祉向上としてのボランティア活動とは何か?
第4回	発表2. これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第5回	発表3. 今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
第6回	発表4. 今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
第7回	前期の活動のまとめ。報告書にて中間発表会実施及び質疑応答を行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
第8回	発表5. 夏季休業中の活動報告書会実施。その後ディベートを行う。後期の活動計画書提出。
第9回	発表6. 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第10回	発表7. 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第11回	発表8. 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第12回	発表9. 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第13回	発表10. 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第14回	年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。
第15回	年間活動報告会: 活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

1. 受講希望者が10名未満の場合は開講しない。
2. 毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
3. 活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 地域社会の福祉向上のために行われているボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動参加すること。
2. 希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や人集めには何が重要かを探求する。

■オフィスアワー

毎週水曜日・木曜日の16:00～

■評価方法

1. 活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。(40%)*2回未提出の場合、単位を認めない。
2. 各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
3. 年間活動報告書の内容を評価する。(30%)
4. 活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する(10%)

■教科書

『わかる みつかる できる』財団法人 内外学生センター

■参考書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1. ボランティア活動Ⅲ単位習得者 2. 社会福祉協議会へ就労希望者・NPO法人設立希望者	免許等指定科目	特になし		
カリキュラム上の位置づけ		選択科目			
キーワード	1. ボランティアリーダー・コーディネータ 2. 社会貢献 3. 地域福祉 4. 共生社会				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設関係団体等への就職後の任務(活動)を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネート力を身に付けることである。他人を「動かす」リーダーシップと依頼先(施設等)と学生を結びつけるコーディネート力は、人間形成にも通じる。

■授業の概要

これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、他人を動かすリーダーシップと依頼先と学生を結びつけるコーディネート力を身に付けるためのプログラムである。正に、本学の建学の精神である「仁」の精神を具体的活動から理解し身に付けることである。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動の実践である。実践を通して、建学の精神を身に付けるプログラムである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション:学生ボランティア活動に求められているのは何か?①学生ボランティア活動史(災害支援・弱者支援)
第2回	地域社会が求めているボランティア活動とは?①本学ボランティアセンターの任務と活動を支援する方策とは?
第3回	発表1.各自(グループ)の考える地域社会における福祉向上を目指したボランティア活動とは何か?(身近から考える。)
第4回	発表2.これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第5回	発表3.今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
第6回	発表4.今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
第7回	前期の活動のまとめ。中間発表会実施及び活動に関するディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
第8回	発表5.夏季休業中の活動報告書会実施。その後、批判的精神でディベートを行う。後期の活動計画書提出。
第9回	発表6.今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第10回	発表7.今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第11回	発表8.今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第12回	発表9.今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第13回	発表10.今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
第14回	年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。
第15回	年間活動報告会:活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- メンバーで地域社会の現状を検討し把握する。求められる活動計画書を作成・実践・評価・改善する。(PDCAサイクルで改革改善する)
- 毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- 活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。
- 受講生希望者が10名未満の場合開講しない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- 地域の社会福祉協議会による福祉向上のための活動に関心を寄せ、ボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心をもち、出来れば活動に参加すること。
- 希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や広報活動を学び、他人集めには何が重要かを探求する。
- 災害ボランティア活動に関心を寄せ、出来れば活動に参加し実践する事が望まれる。

■オフィスアワー

毎週水曜日・木曜日の16:00～

■評価方法

- 活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。(40%)*2回未提出・未発表の場合、単位を認めない。
- 各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- 年間活動報告書の内容を評価する。(30%)
- 活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する(10%)

■教科書

『よくわかる NPO法人・ボランティア』 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編 ミネルヴァ書房

■参考書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

科目名	チームケア入門I	担当教員 (単位認定者)	大島由之・時田詠子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	連携 多職種				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」

目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことできる。

〔到達目標〕

- 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。
- 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。
- 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。
- 4) 他職種との連携について関心が持てる。

■授業の概要

保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、今連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。
第2回	チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。
第3回	チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・多職種の役割について各学部のグループで、討議する。
第4回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。
第5回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。
第6回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①
第7回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②
第8回	学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。

②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。

〔受講のルール〕

①積極的に取り組むこと。

②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。

③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）

その他（ポートフォリオ）

■授業時間外学習にかかわる情報

課題に積極的に取り組む。

■オフィスアワー

別途指示をする。

■評価方法

①グループワークでの取り組み 50%。

②ポートフォリオ評価 50%。

■教科書

資料配布

■参考書

1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008。

2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015

科目名	チームケア入門Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	連携・多職種理解				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 ねらい:「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的:事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。</p> <p>〔到達目標〕 1)事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2)事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3)多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4)多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5)チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。</p>
--

■授業の概要

<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs) は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同ケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	・授業オリエンテーション ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割
第2回	・事例展開に関する調べ学習
第3回	・事例展開に関する調べ学習 ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎)。
第4回	事例について各学部毎に課題(問題点)を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同討議(3学部小グループ)・報告準備。
第5回	事例について各学部毎に課題(問題点)を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同討議(3学部小グループ)・報告準備。
第6回	明確化した課題(問題点)について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告(3学部大グループ)、共有する。
第7回	明確化した課題(問題点)について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告(3学部大グループ)、共有する。 ・体験者によるIPWの講義
第8回	事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>①予習:事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習:授業で配布したプリント・資料を読み返す。</p> <p>〔受講のルール〕 ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(WEBフォームやメールなど) <input checked="" type="checkbox"/> その他(ポートフォリオ)

■授業時間外学習にかかわる情報

関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。

■オフィスアワー

別途指示をする。

■評価方法

①グループワークでの取り組み 50% ②ポートフォリオ評価 50%

■教科書

資料配布

■参考書

1. 鷹野和美著:チームケア論 ぱる出版,2008. 2. 小松秀樹:地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
--

科目名	医療・福祉・教育の基礎	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	医療保険 介護福祉士 社会福祉士 リハビリテーション 看護の基礎 保育士 教育心理				

■授業の目的・到達目標

医療・福祉・教育の基礎を学び、専門職者としての素養を身につけることを目標とする。

■授業の概要

医療・福祉・教育の学びは広く深く広がっている。この分野で専門職として活動しようとする者はまず、その裾野がどのように広がっているかを理解する。授業は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）への移動講義を行い理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	医療保険と病院・診療所の基礎の理解
第2回	介護の考え方と介護福祉士の役割
第3回	教育と心理の基礎Ⅰ
第4回	看護の基礎Ⅰ
第5回	看護の基礎Ⅱ
第6回	母子の看護
第7回	学校保健 一心と体の健康一
第8回	リハビリテーションと理学療法
第9回	理学療法における治療
第10回	リハビリテーションと作業療法
第11回	作業療法における治療
第12回	保育者の専門性と保育技術
第13回	保育者の専門性と保育技術
第14回	社会福祉士の専門性とコミュニケーション
第15回	連携を意識したコミュニケーション
第16回	教育と心理の基礎Ⅱ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業では、学びを深めるグループワークやアクティブラーニングも行っているので、積極的にアクティビティに参加すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

単元試験を総合して評価する。（100%）

■教科書

授業内で適時配布する。

■参考書

授業内で適時紹介する。

科目名	海外語学研修（カナダ）	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	1年次～4年次 選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目			
キーワード	グローバル化 英語教育 国際経験 海外ボランティア ホームステイ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。

〔到達目標〕

- (1) 語学力の向上：日常的な英語力を身に付け、より良い意思疎通を図るためのコミュニケーションスキル、語学力の向上を目指す。
- (2) 異文化の体験：文化や生活習慣の違いを海外で体験することで、視野を広げ、コミュニケーション力を向上させる。さらに生き方を見つけるなど人生において重要な経験を得る。
- (3) 意識：日本での文献調査では得られない学びや様々な体験により、主体的に学び、実践できるようになる。

■授業の概要

研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習（英語）に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム（講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成30年8月29日～9月8日

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	研修先の概要(1) オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方
第2回	研修先の概要(2) リジャイナ大学についての概要
第3回	カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について
第4回	手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて
第5回	英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
第6回	英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し
第7回	英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション
第8回	英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項
第9回	英語研修(5) 日常英会話 危機管理
第10回	協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team
第11回	協定校での授業 会話、課外授業 Welcome & Program Orientation
第12回	協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation & Tour
第13回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-a Glance ①
第14回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-a Glance ②
第15回	協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum
第16回	協定校での授業 会話、課外授業 Language History ①
第17回	協定校での授業 会話、課外授業 Language History ②

第 18 回	協定校での授業 会話、課外授業 Farmer's Market and Regina Down Town Tour
第 19 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ①
第 20 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ②
第 21 回	協定校での授業 会話、課外授業 Tour of Saskatoon & Western Development Museum
第 22 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ①
第 23 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ②
第 24 回	協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
第 25 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ①
第 26 回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ②
第 27 回	協定校での授業 会話、課外授業 Kayaking on Wascana & Barbeque with U of R Students
第 28 回	協定校での授業 会話、課外授業 Program Closing Ceremony
第 29 回	研修成果 レポート及び報告会 プレゼンテーション準備
第 30 回	研修成果 報告会 (まとめとふりかえり)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。
- ② 研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。
- ③ 旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。
- ④ 担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。
- ⑤ 国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。
- ⑥ 小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい。
- ⑦ 本講義は 10 人以上により開講する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。

■オフィスアワー

月曜日 3 時間目 (変更が生じた場合は適宜指示する)

■評価方法

海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録 (40%)、研修後報告書の課題 (60%) をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。

- ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。
- ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。
- ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。
- ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。
- ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。

■教科書

担当教員が適宜指示する。

■参考書

海外渡航学生マニュアル (群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など。

科目名	海外医療福祉研修(フィリピン)	担当教員 (単位認定者)	小林 洋子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	1年次～3年次 選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目			
キーワード	グローバル化 英語教育 国際経験 海外ボランティア ホームステイ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設(小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- (1) 語学力の向上: 日常的な英語力を身に付け、より良い意思疎通を図るためのコミュニケーションスキル、語学力の向上を目指す。
- (2) 異文化の体験: 文化や生活習慣の違いを海外で体験することで、視野を広げ、コミュニケーション力を向上させる。さらに生き方を見つけるなど人生において重要な経験を得る。
- (3) 意識: 日本での文献調査では得られない学びや様々な体験により、主体的に学び、実践できるようになる。

■授業の概要

研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 フィリピン・アリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。
研修期間 平成30年3月17日～3月25日

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	研修先の概要(1) オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方
第2回	研修先の概要(2) アリアノ大学についての概要
第3回	フィリピン研究(1) 世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について
第4回	手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて
第5回	医療福祉研修(1) ボランティア先での注意事項
第6回	医療福祉研修(2) ボランティア先でのレクリエーション企画について
第7回	英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
第8回	英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し
第9回	英語研修(3) 医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション
第10回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Meet with Program Team
第11回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Welcome & Program Orientation
第12回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Campus Orientation & Tour
第13回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinic Immunization, Nutrition Program
第14回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinic weight monitoring, Feeding Program
第15回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinic Health education, Child birth
第16回	協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinic Prenatal and Postnatal Check-up

第 17 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka	Rehabilitative therapies
第 18 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka	Adult day care services
第 19 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka	Caring for persons with disabilities and social rehabilitation
第 20 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic	Rehabilitation therapies
第 21 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic	Adult day care services
第 22 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic	Caring for persons with disabilities and social rehabilitation
第 23 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila	
第 24 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila	
第 25 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila	
第 26 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS	children`s home, day care centers
第 27 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS	Recreation①
第 28 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS	Recreation②
第 29 回	研修成果	レポート及び報告会プレゼンテーション準備		
第 30 回	研修成果	報告会（まとめとふりかえり）		

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。
- ② 研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。
- ③ 旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。
- ④ 担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。
- ⑤ 国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。
- ⑥ 本講義は 10 人以上により開講する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。

■オフィスアワー

月曜日 16 時～17 時 30 分（変更時は掲示する）

■評価方法

海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。

- ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。
- ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。
- ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。
- ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。
- ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。

■教科書

担当教員が適宜指示する。

■参考書

海外渡航学生マニュアル（群馬医療福祉大学作成） 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など

專 門 科 目

科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ㉑人体の構造と機能及び疾病)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	正常を理解していないと異常に気が付きません				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉専門職(又は医療専門職)に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。
人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。

〔到達目標〕

将来医療福祉分野に携わる者として、ふさわしい人格を形成できる。
生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。
医療、福祉分野におけるコミュニケーション力、危機管理能力の形成がなされる。
また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉専門職(又は医療専門職)に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション	人体の成長・発達・老化(身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化に伴う身体的・精神的変化)	教科書に筆記した内容を整理し予習復習すること
第2回	心身機能と身体構造の概要(1)	人体各部位の名称と方向用語	〃
第3回	心身機能と身体構造の概要(2)	各器官の構造と機能1)	〃
第4回	心身機能と身体構造の概要(3)	各器官の構造と機能2)	〃
第5回	心身機能と身体構造の概要(4)	各器官の構造と機能3)	〃
第6回	健康の捉え方	国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要	〃
第7回	疾病の概要(1)	理解度を判断しつつ配分を行い進めていく	〃
第8回	疾病の概要(2)		〃
第9回	疾病の概要(3)		〃
第10回	疾病の概要(4)		〃
第11回	障害の概要(1)		〃
第12回	障害の概要(2)		〃
第13回	障害の概要(3)		〃
第14回	障害の概要(4)	〃	
第15回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの概念と範囲	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみならず、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。
各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。

講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。

教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連、前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

〔受講のルール〕

初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(80%)、その他教科書への書き込み状況やノートの点検(20%)。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病—医学一般』最新版 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保健医療サービス	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己の立ち位置と引き出しの多さ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につけることができる。

〔到達目標〕

将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉専門職（又は医療専門職）として患者（利用者）のQOL（生活の質）の向上に寄与・支援できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 保健医療サービス・保健医療対策の概要	教科書・オリジナルプリントに筆記した内容を整理し予習復習すること
第2回	医療保険制度 医療保険制度の概要 医療費に関する政策動向	〃
第3回	診療報酬 診療報酬制度の概要	〃
第4回	介護保険制度・自立支援医療を含む公費負担医療制度	〃
第5回	医療施設等の概要 (1)医療法による医療施設 (2)保険医療政策による医療施設 (3)診療報酬における医療施設	〃
第6回	介護保険法における施設/在宅支援システム	〃
第7回	生命倫理学 インフォームド・コンセント等	〃
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割(1) 医師・看護師・保健師制度・医療系療法士 等	〃
第9回	保健医療サービスにおける専門職の役割(2) 社会福祉専門職 等	〃
第10回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(1) 医療ソーシャルワーカー業務指針	〃
第11回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(2) MSWと業務の内容 ―理論編―	〃
第12回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(3) MSWと業務の内容 ―応用編―	〃
第13回	保健医療サービス関係者との連携と実際(1) 医師・看護師・保健師との連携と実際	〃
第14回	保健医療サービス関係者との連携と実際(2) 地域の社会資源との連携と実際	〃
第15回	医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理 総括	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみならず、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関する確認テストを行う。

講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。

教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連・前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容・資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

〔受講のルール〕

初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験（80%）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20%）。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス』最新版 中央法規出版
15 - 15 に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	現代社会と福祉	担当教員 (単位認定者)	川島 良雄	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会 社会福祉 社会政策 福祉サービス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解する。

〔到達目標〕

- ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。
- ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる。
- ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。
- ・福祉政策の構成要素について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる。

■授業の概要

現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。
これに対して、社会的に緩和や解決を図るために社会福祉が存在している。
この社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目のオリエンテーション、社会福祉の新たな展開と福祉政策理解の枠組み
第2回	社会福祉の歴史 ①社会福祉の前史と福祉国家の成立
第3回	社会福祉の歴史 ②福祉国家の変容・現代社会の変化と福祉
第4回	社会福祉の概念
第5回	社会福祉の拡大と限定
第6回	福祉政策の展開と社会福祉士
第7回	福祉の思想と哲学
第8回	社会政策と福祉政策・社会福祉政策
第9回	福祉政策の体系
第10回	福祉政策の発展過程 ①近代社会と福祉政策
第11回	福祉政策の発展過程 ②高度経済成長期の福祉政策
第12回	少子高齢化時代の福祉政策 ①福祉政策の調整と進展
第13回	少子高齢化時代の福祉政策 ②1990年代以降の福祉政策
第14回	福祉政策における必要と資源
第15回	中間まとめ～福祉とは何か?考えてみよう～
第16回	福祉政策の理念

第 17 回	福祉政策資源の配分システム
第 18 回	福祉政策の関連領域 ①人権擁護と福祉政策
第 19 回	福祉政策の関連領域 ②保健医療と福祉政策
第 20 回	福祉政策の関連領域 ③所得保障・雇用と福祉政策
第 21 回	福祉政策の関連領域 ④教育と福祉政策
第 22 回	社会福祉制度の体系 ①社会福祉制度の構造
第 23 回	社会福祉制度の体系 ②社会福祉制度と福祉サービス
第 24 回	福祉サービスの提供
第 25 回	福祉サービスと援助活動
第 26 回	福祉政策の国際比較 ①欧米型の福祉政策
第 27 回	福祉政策の国際比較 ②東アジア諸国の福祉政策
第 28 回	福祉政策の課題と展望
第 29 回	包摂的福祉政策への展開
第 30 回	1 年間のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。
- ・授業シラバスを必ず確認しておくこと。
- ・授業の予習・復習は、必ず行い、積極的な態度で授業に臨むこと。
- ・授業は、パワーポイントを使って行います。パワーポイントのスライドの内容、テキスト、講義内容を基にノートを作成すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・テキストをしっかりと予習しましょう。
- ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。

■オフィスアワー

授業終了後の 30 分。

■評価方法

- ・中間の小レポート 40%
- ・筆記試験 60%

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版 2014

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担当教員 (単位認定者)	新木 恵一	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	社会福祉士国家試験を受験する学生 にとっては必修の専門科目である	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	サービスの普遍化 介護を社会で支える				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が生き生きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということとはどのようなことかを知る。

〔到達目標〕

- ①高齢者に対する全人的理解を図る。
- ②これまで行われてきた高齢者への福祉サービスの課題を把握し、なぜ介護保険制度が導入されたかを検証する。
- ③介護保険制度の現状の理解と今後の課題を検証する。
- ④介護に従事した時に役に立つレベルの介護保険制度の理解。
- ⑤今後の高齢者福祉サービスの在り方を考える。

■授業の概要

我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかりと理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション（授業の進め方等概説）
第2回	高齢者の特性（社会的理解・身体的理解）
第3回	高齢者の特性（精神的理解・総合的理解）
第4回	少子高齢化と高齢者①
第5回	少子高齢化と高齢者②
第6回	高齢者保健福祉の発展①
第7回	高齢者保健福祉の発展②
第8回	高齢者支援の関係法令①
第9回	高齢者支援の関係法令②
第10回	高齢者支援の関係法令③
第11回	第1回～第10回までの総合的復習（小テスト）
第12回	介護保険制度の基本的枠組み①
第13回	介護保険制度の基本的枠組み②
第14回	介護保険制度の基本的枠組み③
第15回	前期授業の総括

第 16 回	介護保険制度の仕組み①
第 17 回	介護保険制度の仕組み②
第 18 回	介護保険制度の仕組み③
第 19 回	介護保険制度総括
第 20 回	介護保険サービスの体系①
第 21 回	介護保険サービスの体系②
第 22 回	介護保険サービスの体系③ (小テスト)
第 23 回	高齢者を支援する組織と役割①
第 24 回	高齢者を支援する組織と役割②
第 25 回	高齢者支援の方法と実際①
第 26 回	高齢者支援の方法と実際②
第 27 回	高齢者を支援する専門職の役割と実際
第 28 回	介護の概念や対象①
第 29 回	介護の概念や対象②
第 30 回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

座席を指定する。私語厳禁。授業の理解度を確認するため前期・後期各 1 回の小テストを行う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習をして授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカードにより質問するか、授業中若しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。なおマスコミに取り上げられた高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。

■オフィスアワー

木曜午後 13:30 ~ 15:30

■評価方法

定期試験 80%、小テスト 20%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」(最新版)中央法規

■参考書

関係資料は適宜配布する。「社会福祉用語辞典 (ミネルヴァ書房)」は授業に役立つので購入することが望ましい。

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度を履修または履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	社会福祉士及び精神保健福祉士 国家試験指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害者 障害者福祉制度 障害者総合支援法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。

〔到達目標〕

- ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。
- ②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。
- ③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。

■授業の概要

この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。

障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズに合ったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等）
第2回	障害の概念と理念
第3回	障害者の生活実態とニーズ
第4回	障害者福祉制度の発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）
第5回	障害者福祉の法（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法）
第6回	障害者福祉の法（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消推進法、その他）
第7回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援 経緯・理念・考え方）
第8回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援 サービス内容・支給決定のプロセス）
第9回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援 自立支援医療・審査請求）
第10回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む）
第11回	障害者の社会生活参加
第12回	障害福祉の整備計画と障害者運動
第13回	専門職の役割と実際（相談支援事業所の内容を含む）
第14回	多職種連携とネットワーキング
第15回	まとめ（事例検討）

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。
授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則友達等にプリントをもらってもらおうこと。
単元の終わりに小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。

■オフィスアワー

火曜 10時～12時/金曜日 10時30分～12時 それ以外の時間帯については、アポイントを取ってほしい。

■評価方法

定期試験 50%、小テスト 20%、リアクションペーパー 30%。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規（最新版）

■参考書

福祉小六法編集委員会『福祉小六法』（株）みらい（最新版）

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代の子ども・家庭の現状、問題、課題 児童福祉の理念 児童福祉の法体系、実施体制 専門職 権利擁護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童福祉の現状と課題を理解し、支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、社会福祉業務に必要な知識等を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。
- ②社会福祉士や児童指導員等有資格者として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。

■授業の概要

教科書により、前期は、子育ての現状と課題、次世代育成支援策、児童福祉ニーズ、権利保障、児童福祉の法体系、等について講義を行う。

後期は、障害児、児童の健全育成、子育て支援、社会的養護児童、非行児童、被虐待児等の現状支援策について講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	少子高齢化社会と次世代育成支援
第3回	現代社会と子ども家庭の問題
第4回	子どもの育ち、子育てニーズ
第5回	子どものための福祉の原理・子ども家庭福祉の理念
第6回	子ども家庭の権利保障
第7回	児童福祉の発展1
第8回	児童福祉の発展2
第9回	子ども家庭福祉の法体系
第10回	子ども家庭福祉の実施体制1
第11回	子ども家庭福祉の実施体制2
第12回	子ども家庭福祉の財政
第13回	子ども家庭福祉の専門職
第14回	苦情解決と権利擁護
第15回	母子保健
第16回	障害・難病のある子どもと家族への支援1

第 17 回	障害・難病のある子どもと家族への支援 2
第 18 回	児童健全育成
第 19 回	保育 1
第 20 回	保育 2
第 21 回	子育て支援
第 22 回	ひとり親家庭の福祉 1
第 23 回	ひとり親家庭の福祉 2
第 24 回	児童の社会的養護サービス 1
第 25 回	児童の社会的養護サービス 2
第 26 回	非行児童・情緒障害児への支援 1
第 27 回	非行児童・情緒障害児への支援 2
第 28 回	児童虐待対策
第 29 回	子どもと家庭に関わる女性福祉
第 30 回	子ども家庭への援助活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業内容を基盤にして、自己学習につなげていくこと。
- ・その他、授業のなかで伝える。

■オフィスアワー

金曜日 10:00 ~ 12:00

■評価方法

期末試験 80%、授業への取り組み等 20%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」 中央法規出版

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	社会福祉専攻・子ども専攻 2年	免許等指定科目	社会福祉士国家試験指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目			
キーワード	(1～15)相談援助 ニーズ 援助関係 人と環境の全体性 展開過程 (16～30)クライアント-社会福祉士関係 経過観察 介入 コミュニケーション 記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

(1～15) 1) クライアントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2) 社会福祉士が認識し呼応すべきクライアントのニーズの種類を述べるができる。3) クライアント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4) ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べるができる。
(16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライアント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べるができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。

■授業の概要

(1～15) 1) 相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2) クライアント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3) 実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。

(16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライアントへの接近について解説を追加し、2) クライアント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3) 連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士
第2回	クライアント-環境-社会資源-社会福祉士
第3回	人と環境の相互作用をシステムとして理解する
第4回	相談援助の構造
第5回	相談援助の展開過程 1 ケース発見
第6回	相談援助の展開過程 2 受理面接
第7回	相談援助の展開過程 3 問題の把握とニーズの確定
第8回	相談援助の展開過程 4 評価から目標設定へ
第9回	相談援助の展開過程 5 支援計画の立案と実施
第10回	相談援助の展開過程 6 経過観察
第11回	相談援助の展開過程 7 再評価
第12回	相談援助の展開過程 8 支援終結
第13回	相談援助の展開過程 9 支援の効果測定
第14回	相談援助の展開過程 10 地域支援

第 15 回	前期のまとめ
第 16 回	前期の復習 相談援助活動をより精緻にするために
第 17 回	地域福祉とアウトリーチ
第 18 回	相談援助活動における契約
第 19 回	相談援助活動におけるアセスメント 1 問題の多面的統一的とらえ方
第 20 回	相談援助活動におけるアセスメント 2 得べき情報項目と情報理解のための視覚化の手法
第 21 回	相談援助活動におけるアセスメント 3 得た情報の整理と活用
第 22 回	支援介入の意義と方法
第 23 回	経過観察（モニタリング）1 対象 方法・手順
第 24 回	経過観察（モニタリング）2 状況分析から再アセスメントへ
第 25 回	相談援助活動の効果性の検証
第 26 回	相談援助活動における面接
第 27 回	記録をすること 1 意義と目的および種類
第 28 回	記録をすること 2 記録業務のIT化と倫理的配慮
第 29 回	交渉と支援チーム連携
第 30 回	相談援助の理論と方法Iのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

書き込み式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（minute paper による）

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずですが、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

水曜日 17:00 ～ 19:00 1号館 204 研究室。

■評価方法

学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法I 新・社会福祉士養成講座7 中央法規 2016 年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	社会福祉専攻・子ども専攻 3年	免許等指定科目	社会福祉士国家試験指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目			
キーワード	(1～15) ケースマネジメント 集団力動 コーディネーション 地域福祉 社会資源 (16～30) 相談援助実践モデル・アプローチ スーパービジョン ケースカンファレンス 個人情報 事例研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づき必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことながら理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

(1～15) 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライアントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネートとネットワークングの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べるができる。

(16～30) 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べるができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3) ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べるができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる。

■授業の概要

(1～15) 1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。

(16～30) 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。4) 相談援助活動に不可欠な個人情報の保護と活用について理解を深めます。5) I・IIの総括として、クライアントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 相談援助活動の考え方 福祉ニーズの多様性
第2回	相談援助の対象
第3回	ケースマネジメント 1 目的と構成要素
第4回	ケースマネジメント 2 実践過程の概要
第5回	ケースマネジメント 3 アセスメントとケアプラン
第6回	相談援助活動における集団の活用
第7回	集団の特性とそのグループワークの展開過程 1 自助グループ 当事者組織
第8回	集団の特性とそのグループワークの展開過程 2 サポートグループ グループワーク
第9回	地域福祉関係者間のコーディネート
第10回	地域福祉実践とネットワークング
第11回	地域ケアシステム
第12回	社会資源 1 定義と目的
第13回	社会資源 2 活用と調整
第14回	社会資源 3 開発 ソーシャルアクション

第 15 回	前期のまとめ
第 16 回	ガイダンス 前期の復習 相談援助活動をより精緻にするために
第 17 回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 1 治療モデル 生活モデル ストレングスモデル
第 18 回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 2 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ
第 19 回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 3 課題中心アプローチ 危機介入アプローチ 行動変容アプローチ
第 20 回	相談援助活動に基盤としての実践モデル 4 エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ その他のアプローチ
第 21 回	スーパービジョンとコンサルテーション 1 スーパービジョン
第 22 回	スーパービジョンとコンサルテーション 2 コンサルテーション
第 23 回	ケースカンファレンス 1 ケースカンファレンスの意義と目的
第 24 回	ケースカンファレンス 2 ケースカンファレンスの展開と運営
第 25 回	ケースカンファレンス 3 事例の読み解き
第 26 回	相談援助活動にともなう個人情報の保護
第 27 回	相談援助における ICT の活用
第 28 回	事例の研究と分析
第 29 回	相談援助の実際
第 30 回	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

書き込み式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 (minute paper による)

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずですが、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

水曜日 17:00 ~ 19:00 1号館 204 研究室。

■評価方法

学期末課題レポート (85%) および授業への取り組み方 (15%) で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅱ 新・社会福祉士養成講座 7 中央法規 2016 年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	相談援助の基盤と専門職が履修中であることが望ましい	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己理解・自己覚知 他者理解 言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレングスに着目した援助を行うとともに、家族や近隣、地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解することなどについて演習を通して学ぶことを目的とする。また、本演習によって相談援助実習等と理論との融合を目指し、実習において必要な知識・技術の基礎を理解し、説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①福祉専門職として、自己覚知することの重要性を理解し、説明できる。
- ②価値観の多様性について知るとともに、他者を理解するための方法論を学び、援助技術の活用の仕方を説明できる。
- ③言語的及び非言語的コミュニケーションについて理解し、福祉専門職として他者との関わり方を想定して行動することができる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 相談援助演習の意義・目的及び位置づけ 授業の進め方 授業に参加する上での注意事項
第2回	社会福祉の基本的姿勢・定義（IFSWのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等）
第3回	社会資源の理解、社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握
第4回	自己覚知 自己概念を学ぶ
第5回	自己覚知 ジェノグラム 自分のルーツ家族関係
第6回	自分の性格の把握
第7回	自己開示、他者理解
第8回	他者理解 共感と同情の違い
第9回	多様な価値観
第10回	コミュニケーション技法（1） コミュニケーションの基本
第11回	コミュニケーション技法（2） 言語的コミュニケーションの特徴
第12回	コミュニケーション技法（3） 言語的コミュニケーション コミュニケーションスタイル
第13回	コミュニケーション技法（4） 非言語的コミュニケーションの特徴
第14回	コミュニケーション技法（5） 非言語的コミュニケーションの観察
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

（1）履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。

（2）学習上の助言

福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。

（3）予備知識や技能

「相談援助の基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（各担当教員の指示に従うこと）

■授業時間外学習にかかわる情報

演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典（「相談援助の基盤と専門職」にて指定されたもの）

科目名	相談援助演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	相談援助演習Ⅰを履修済みであることが望ましい	免許等指定科目	社会福祉国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理綱領 行動規範 面接技法 記録技法 ケースワーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。
- ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等の基本を養う。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。
- ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。
- ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。
- ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 授業の進め方 授業に参加する上での注意事項 評価方法
第2回	ソーシャルワークの価値と倫理 倫理綱領
第3回	ソーシャルワークの価値と倫理 行動規範
第4回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接の目的
第5回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接に入る心構え
第6回	ソーシャルワーク実践 面接技法 インテーク面接
第7回	ソーシャルワーク実践 面接技法 傾聴の方法
第8回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接の具体的技法
第9回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の意義と目的
第10回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の種類
第11回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の内容と方法
第12回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録における留意点
第13回	ケースワークの展開過程 ケースワーク
第14回	
第15回	
第16回	

第 17 回	
第 18 回	ソーシャルワークの展開過程 グループワーク
第 19 回	
第 20 回	
第 21 回	地域を基盤とした相談援助演習 コミュニティワーク
第 22 回	
第 23 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 治療モデル・環境モデル・生活モデル
第 24 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について ストレングスモデル
第 25 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 心理社会的アプローチ
第 26 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 問題解決アプローチ
第 27 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 危機介入アプローチ
第 28 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 行動変容アプローチ
第 29 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について エンパワメントアプローチ
第 30 回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について 家族システム論

■受講生に関わる情報および受講のルール

- (1)履修上の注意
グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。
グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。
- (2)学習上の助言
社会福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。
- (3)予備知識や技能
相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかりと行うことが望まれる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 (各担当教員の指示に従うこと)

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得すること。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート (40%)、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み (60%)。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典 (出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助演習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	相談援助演習Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰが履修済みであることが望ましい 相談援助実習指導Ⅱ、相談援助実習が履修中であることが望ましい	免許等指定科目	社会福祉国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	展開過程 ストレngths エンパワメント ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ①実習前段階のグループワーク(事例検討)において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。
- ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。
- ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。
- ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。
- ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。

■授業の概要

グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。
実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講者の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 授業の進め方 授業に参加する上での注意事項 評価方法
第2回	
第3回	社会問題を基盤とした相談援助 就労支援 退院支援の相談援助
第4回	
第5回	
第6回	社会問題を基盤とした相談援助 虐待 DVの相談援助
第7回	
第8回	
第9回	対象者別にみた相談援助について 低所得者・ホームレスの相談援助
第10回	
第11回	
第12回	対象者別にみた相談援助について 高齢者への相談援助
第13回	
第14回	
第15回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助
第16回	

第 17 回	
第 18 回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第 19 回	
第 20 回	
第 21 回	事例研究 苦情解決の対処方法
第 22 回	
第 23 回	実習での学びを基に事例検討 学生が選んだテーマでグループディスカッション
第 24 回	
第 25 回	
第 26 回	
第 27 回	
第 28 回	
第 29 回	
第 30 回	

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1)履修上の注意

本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2)学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。

(3)予備知識や技能

上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかりと行うこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 (各教員の指示に従うこと)

■授業時間外学習にかかわる情報

実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート (40%)、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み (60%)。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	社会福祉士の取得を希望するもの	免許等指定科目	社会福祉士受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 根拠法令 施設・機関の役割				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助実習の意義について理解する。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔到達目標〕

- ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。
- ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。
- ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。
- ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。

■授業の概要

相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 授業方法及び留意事項 相談援助実習資格試験について
第2回	相談援助実習の意義と目的の理解
第3回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解(社会福祉士に求められる職業倫理)
第4回	実習先機関・施設の理解(行政機関)
第5回	
第6回	実習先機関・施設の理解(社会福祉協議会・地域包括支援センター)
第7回	実習先機関・施設の理解(高齢者施設)
第8回	
第9回	実習先機関・施設の理解(児童福祉施設)
第10回	
第11回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設)
第12回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設、医療福祉関連施設)
第13回	実習先機関・施設の理解(その他の機関・施設)
第14回	事前学習の意義・目的・方法の理解(実習先希望調査票の提出)
第15回	実習開始までの取り組み(まとめ、レポート課題) 相談援助実習資格試験

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。
- ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。
- ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他(各教員の指示に従うこと)

■授業時間外学習にかかわる情報

実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

相談援助実習資格履修試験(20%)、課題やグループワークへの取り組み(50%)、提出物の提出状況及びその内容(30%)を総合して評価する。但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版/
社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	相談援助実習指導Ⅰを履修済みであることが望ましい 相談援助演習Ⅲ、相談援助実習を履修中であることが望ましい	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 実習プログラム 実習計画書 事前訪問				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助実習指導Ⅰを踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。
- ③社会福祉士として把握・修得しておくべき事項（姿勢、倫理、技能等）を総合的に修得する。
- ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。
- ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。
- ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。

後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期オリエンテーション 授業方法と留意事項 実習先の確認
第2回	実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法）
第3回	実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性）
第4回	実習先機関・施設の基本的理解（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容）
第5回	相談援助実習資格試験
第6回	実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話）
第7回	実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解）
第8回	実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機）
第9回	実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題）
第10回	実習計画書作成の理解 *「実習計画書」の完成、*「実習生紹介票」、「誓約書」
第11回	実習プログラムの理解（個別支援プログラムの作成）
第12回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
第13回	記録方法の理解①（実習記録）
第14回	実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）
第15回	オリエンテーション 学長訓話 学部長講話 巡回指導及び帰学日指導等

第 16 回	記録方法の理解② 実習報告書、実習レポート等 礼状作成
第 17 回	実習評価の理解 自己評価
第 18 回	実習評価の理解 実習先評価 実習指導者の講評
第 19 回	実習の振り返り（事前学習*グループ討議と発表）
第 20 回	実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理*グループ討議と発表）
第 21 回	実習の振り返り（クライアントとの関わり、職員との関わり*グループ討議と発表）
第 22 回	
第 23 回	実習後の個別スーパービジョン 実習レポート等の作成
第 24 回	
第 25 回	実習の総括（※実習レポート等の完成）
第 26 回	実習の総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）
第 27 回	
第 28 回	実習の総括 クラス内実習報告会
第 29 回	
第 30 回	全体実習報告会

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 5 分の 4 以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。
- ② 提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。
- ③ 欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。
- ④ 無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（各教員の指示に従うこと）

■授業時間外学習にかかわる情報

実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

相談援助実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況及びその内容（30%）を総合して評価する。但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版/
社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談援助実習	担当教員 (単位認定者)	富澤・松永 柳澤・茂木・川端	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	下記の実習履修者要件に 該当している者	免許等指定科目	社会福祉士受験資格		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	社会福祉士 専門職の倫理 施設・機関の役割 支援方法 他職種連携 記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔到達目標〕

- ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。
- ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。
- ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。
- ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。
- ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。
- ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者に関する事ができる。
- ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。
- ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。
- ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。
- ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。

■実習履修資格者

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。

相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。

- 1 将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者
- 2 社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者
- 3 健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者
- 4 実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者）
- 5 実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者）
- 6 社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者
- 7 ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者
- 8 相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者
- 9 相談援助実習資格試験に合格している者
- 10 学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者

■実習時期及び実習日数・時間

相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。

相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。

実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。

■実習上の注意

群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

【相談援助実習中止の措置】

相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。

- 1 重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき
- 2 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき
- 3 心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき
- 4 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき
- 5 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 6 実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき
- 7 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 8 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%）

②実習施設の概要の記載内容（10%）

③相談援助実習記録の記載内容（15%）

④実習のまとめの記載内容（10%）

⑤実習報告書の記載内容（10%）

⑥その他提出物の提出状況（15%）

※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。

※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	事前に「社会保障」を履修〔単位取得〕していることが望ましい。	免許等指定科目	社会福祉士国家試験指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		社会福祉コース・必修			
キーワード	自立・公的扶助・生活保護法・自立支援プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。

- ・公的扶助の意義と役割について理解している。
- ・生活保護制度の動向についての説明ができる。
- ・関連法規、施策について理解している。
- ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。
- ・社会福祉士国家試験過去問題・模擬問題等において正答を導きだすことができる。

■授業の概要

本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実状などについても言及していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い
第2回	公的扶助の概念〔公的扶助の概念および範囲、公的扶助の意義と役割〕
第3回	貧困・低所得者問題と社会的排除〔貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題他〕
第4回	公的扶助制度の歴史〔海外および日本の歴史、貧困・低所得者対策の動向〕
第5回	生活保護制度の仕組み〔生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容および方法他〕
第6回	生活保護制度の仕組み〔保護施設、被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟他〕
第7回	最低生活保障水準と生活保護基準〔最低生活保障水準および生活保護基準の考え方、生活保護基準額の実際他〕
第8回	生活保護の動向〔被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向〕
第9回	低所得者対策の概要〔生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、社会手当制度、ホームレス対策他〕
第10回	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体〔国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割他〕
第11回	貧困・低所得者に対する相談援助活動〔生活保護制度における相談援助活動、他機関・他職種との連携・協働他〕
第12回	生活保護における自立支援〔自立とはなにか、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定および実施〕
第13回	確認テストおよび解答解説
第14回	確認テストおよび解答解説
第15回	授業総括〔重要事項の確認〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識向上に向け、予習、復習を励行すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。

■オフィスアワー

月曜日〔14:20～17:30〕及び昼休み〔12:00～12:30〕

■評価方法

定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版

■参考書

福祉小六法、その他は授業内で紹介する。

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	相談援助の基盤と専門職、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度が履修済みであることが望ましい。相談援助の理論と方法が履修済みか履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	ソーシャルサポート 社会資源の活用と開発 住民参加			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され、地域住民が主体となるまちづくり、地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場として、地域住民主体の活動のあり方を模索したり推進したりするソーシャルワーク実践を理解する。

〔到達目標〕

- 1) 「地域」の捉え方に関する理論を理解し、住民ニーズや解決すべき問題が把握できる（把握の方法を想定できる）。
- 2) コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し、住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。
- 3) ソーシャルワーカーとして協働すべきネットワークのあり方と地域組織化の過程が想定できる。
- 4) 受講者自らの市民性や現時点での思考の範囲を認識し、地域での実践に当てはめることができる。

■授業の概要

この講義では、地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し、受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得することを目標とする。集団や地域の捉え方に関する理論、地域ニーズの捉え方に関する視点、生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方、評価法、レポート課題など
第2回	地域福祉の基本的考え方
第3回	地域福祉の発展過程（コミュニティオーガニゼーション、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク）
第4回	地域福祉の主体 住民自治の考え方
第5回	市民と福祉教育 参加と参画を促す実践の基礎
第6回	行政組織と民間組織 福祉多元主義とコミュニティケア
第7回	行政組織と民間組織の役割と実際 福祉計画の位置付け
第8回	ソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネス
第9回	コミュニティソーシャルワークの考え方 地域におけるジェネラリストソーシャルワークの実践の視点
第10回	コミュニティソーシャルワーク実践のためのシステムと方法
第11回	専門多職種とのチームアプローチ 地域ニーズに基づく連携のあり方
第12回	専門職連携と住民参加 自治活動と専門職との関係性
第13回	住民参加の方法 地域共生社会の目的と具体的実践
第14回	ソーシャルサポートネットワークの考え方 助け合いの歴史と現代的なネットワーク
第15回	ソーシャルサポートネットワークを活用したソーシャルワーク実践
第16回	地域における社会資源の捉え方 資源の活用と実際

科目名	社会福祉特講Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。

〔到達目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身につけているのかを自身で判断できる。

■授業の概要

既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	学習目標、学習計画の立案
第3回	本学の国家試験対策の体制について
第4回	読解力テストの実施
第5回	「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説
第6回	社会理論と社会システム①
第7回	社会理論と社会システム②
第8回	心理学理論と心理的支援①
第9回	心理学理論と心理的支援②
第10回	第1回 月例テスト
第11回	人体の構造と機能及び疾病
第12回	福祉行財政と福祉計画
第13回	第2回 月例テスト
第14回	学習目標と学習計画の振り返り
第15回	期末テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■オフィスアワー

木曜日4限

■評価方法

試験またはレポート20%、月例テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。

■教科書

いとう総研資格取得支援センター「見て覚える!社会福祉士国試ナビ」(中央法規)

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	松永尚樹・森田隆夫	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	社会福祉士国家試験を受験予定の学生	免許等指定科目	なし		
カリキュラム上の位置づけ		卒業単位外ではあるが相談援助実習を履修するための科目			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。
- ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。

■授業の概要

履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる
第2回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
第3回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
第4回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
第5回	確認テスト【第1回】
第6回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
第7回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
第8回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
第9回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
第10回	確認テスト【第2回】
第11回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
第12回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
第13回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
第14回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
第15回	まとめ
第16回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる

科目名	社会福祉特講Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	社会福祉士国家試験の 受験を希望する者	免許等指定科目	特になし		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験、学習方法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

〔到達目標〕

- (1) 自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。
- (2) 解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化できる。
- (3) 月例テストや各回の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。
なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能及び疾病
第3回	月例テスト
第4回	心理学理論と心理的支援
第5回	社会理論と社会システム
第6回	月例テスト
第7回	現代社会と福祉
第8回	地域福祉の理論と方法
第9回	福祉行財政と福祉計画
第10回	月例テスト
第11回	社会保障
第12回	低所得者に対する支援と生活保護制度
第13回	保健医療サービス
第14回	権利擁護と成年後見制度
第15回	月例テスト
第16回	社会調査の基礎

科目名	社会福祉特講Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策委員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	社会福祉特講Ⅲを履修済みであり、 社会福祉士国家試験を受験予定の者	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げることができる。
- ②試験問題を解くことにより、1問にかけられる時間と傾向になれる。
- ③試験問題の内容を読み解くことになれる。

〔到達目標〕

社会福祉士国家試験に合格することを到達目標とする。

■授業の概要

毎時間の演習問題と月例テストを行なう中で、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	問題演習
第3回	月例テスト
第4回	問題演習
第5回	問題演習
第6回	問題演習
第7回	月例テスト
第8回	問題演習
第9回	問題演習
第10回	問題演習
第11回	月例テスト
第12回	問題演習
第13回	問題演習
第14回	問題演習
第15回	月例テスト
第16回	問題演習

第 17 回	月例テスト
第 18 回	問題演習
第 19 回	問題演習
第 20 回	月例テスト
第 21 回	問題演習
第 22 回	問題演習
第 23 回	問題演習
第 24 回	月例テスト
第 25 回	問題演習
第 26 回	問題演習
第 27 回	問題演習
第 28 回	月例テスト
第 29 回	問題演習
第 30 回	問題演習

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること。
 試験の結果によって課題を課すので、課題を提出すること。
 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること。
 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと。
 模擬試験や国家試験の案内を講義中に行うため聞き逃さないようにすること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（講義内で指示をする）

■授業時間外学習にかかわる情報

個人での学習とグループ学習を併用し最後までモチベーションを維持し国家試験に臨むこと。

■オフィスアワー

火曜日 13時～14時

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 21 資料編 中央法規出版

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版） その他自分にあった参考書

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	「高齢者に対する支援と介護保険制度」、「相談援助の基盤と専門職」が履修済みであることが望ましい。「現代社会と福祉」が履修済みか履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障の目的・機能・体系・内容、所得再分配				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

1人ひとりが自らの責任と努力によって生活を営んでいますが、社会保障制度は、セーフティネットの機能を持っており、私たちの生活を生涯に渡って支え、基本的な安全・安心を与えている。社会保障制度について理解を深めていくことを授業の目的とする。

〔到達目標〕

1. 社会保障の用語及び歴史的な理解
2. 社会保障制度の目的・体系の理解
3. 社会福祉及び国民生活への政策の理解

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士の社会保障の過去問を中心に、具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の目的・役割・課題について学習することも試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション（講義の進め方、評価方法等）
第2回	現代社会と社会保障
第3回	日本と欧米における社会保障の歴史的展開
第4回	社会保障制度の体系
第5回	社会保障の費用
第6回	社会保障と財源
第7回	社会保障と経済
第8回	年金保険制度の沿革と概要
第9回	国民年金・厚生年金とは
第10回	年金保険制度をめぐる最近の動向
第11回	医療保険制度の沿革と概要
第12回	健康保険と共済制度
第13回	国民健康保険制度と後期高齢者医療制度
第14回	国民医療費と医療をめぐる最近の動向
第15回	前期まとめ
第16回	介護保険制度創設の経緯

科目名	権利擁護と成年後見制度	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	憲法、行政法、民法、成年後見制度、裁判所、社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものを用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらおうことを目指す。

〔到達目標〕

- ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。
- ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。
- ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。

■授業の概要

相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ(人権)
第2回	権利擁護と憲法Ⅱ(統治)
第3回	権利擁護と行政法Ⅰ(行政組織、行政活動)
第4回	権利擁護と行政法Ⅱ(行政救済)
第5回	権利擁護と民法Ⅰ(契約など)
第6回	権利擁護と民法Ⅱ(親族・相続)
第7回	成年後見の概要
第8回	保佐の概要、補助の概要
第9回	法定後見制度の手続等
第10回	任意後見制度、日常生活自立支援事業
第11回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体
第12回	権利擁護にかかわる専門職の役割
第13回	権利擁護活動の実際Ⅰ(成年後見活動の実際)
第14回	権利擁護活動の実際Ⅱ(権利擁護活動の実際)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

火曜 10時半～12時、木曜 16時～17時半。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座19)」中央法規

■参考書

六法(例:ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2018年)
森長秀 編著「法学入門」光生館,2015年

科目名	更生保護制度	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会 保護観察 社会内処遇 犯罪被害者 犯罪予防				

■授業の目的・到達目標

更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。

■授業の概要

相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	仮釈放等
第3回	仮釈放等
第4回	仮釈放等
第5回	更生緊急保護・犯罪被害者対策
第6回	恩赦・犯罪予防活動
第7回	保護観察官・保護司
第8回	更生保護施設・民間協力者
第9回	裁判所との連携
第10回	検察庁・矯正施設との連携
第11回	公共職業安定所・福祉事務所との連携
第12回	医療観察法に基づく処遇、生活環境の調査・調整
第13回	地域社会における処遇、関係機関との連携
第14回	社会復帰調整官等の業務の実際
第15回	更生保護の今後の展望

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。
5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

各授業内容の重要項目は、周辺の知識を得ておくこと。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験、小論文、小テストを総合的に評価する。(目安)定期試験結果70%、小論文・小テスト30%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	社会調査の基礎(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目(2年生)			
キーワード	質問紙、実験レポート、量的データ、質的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
社会福祉士受験のための知識習得をを目的とする。
〔到達目標〕
社会調査の基本的な手続き・技法を理解・習得する。
量的調査・質的調査についての知識を得る。
調査における倫理について理解する。

■授業の概要

本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。
講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポートの作成方法についての解説がなされることになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業ガイダンス インTRODクシヨン・社会調査の意義と目的
第2回	社会調査の対象
第3回	社会調査における倫理および個人情報保護
第4回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第5回	量的調査の方法 全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第6回	量的調査の方法 測定とそれに関わる留意点
第7回	量的調査の方法 質問紙作成の留意点 調査票の配布と回収
第8回	実際のデータを用いた相関
第9回	実際のデータを用いた相関
第10回	実際のデータを用いた相関
第11回	質的調査の方法 観察法 参与観察・非参与観察
第12回	質的調査の方法 面接法 自由面接法、構造化面接法、半構造化面接法
第13回	質的調査における記録の方法と留意点 コード化の問題について
第14回	質的調査のデータ整理と分析
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
PC室・LL教室での講義・実習が主体となる。
〔受講のルール〕
データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。
マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識(if関数等)を前もって習得しておくことが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持ってくること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

コメント評価(20%)、レポートの提出(30%)、到達テスト(30%)、小テスト(20%)。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 第5巻 社会調査の基礎 第3版 中央法規 2010

■参考書

向後 千春・富永 敦子 統計学がわかる(ファーストブック) 技術評論社(購入義務はない) 2007

科目名	社会調査の基礎(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計調査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象(e.g.、社会問題、流行)について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 社会調査を学ぶにあたって
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査
第3回	社会調査の種類 量的調査と質的調査
第4回	社会調査のプロセス 調査実施のためのプロセス
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習
第7回	データの収集法 調査票調査、他記式調査、自記式調査
第8回	調査票(アンケート)の作成 質問項目の執筆における留意点を中心に
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計
第10回	統計分析Ⅰ 変数の種類と代表値
第11回	統計分析Ⅱ データの分散、シグマの法則
第12回	統計分析Ⅲ ピアソンの積率相関係数
第13回	統計分析Ⅳ クロス集計表の作成
第14回	統計分析Ⅴ クロス集計表の独立性の検定
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

アンケート(調査票)による統計調査の方法とその分析法に関する授業です。社会問題や世論などについてデータ(根拠)に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他(質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合もあり。)

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(80%)と平常点(20%)(提出課題)で総合評価を行います。

■教科書

轟 亮・杉野 勇(編)「入門・社会調査法[第3版] - 2ステップで基礎から学ぶ-」, 法律文化社, 2017年。

■参考書

適宜紹介

科目名	社会調査の基礎（編入組）	担当教員 （単位認定者）	白石 憲一	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	3年後期	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	量的調査、質的調査、excel				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
社会調査の意義と方法および相談援助における社会調査の意義について理解することを目的とする。
〔到達目標〕
量的調査と質的調査で必要とされる基礎的な分析手法を身につけ、分析結果について解釈ができることを到達目標とする。

■授業の概要

量的調査と質的調査で必要とされる基礎的な分析手法について学習します。Excel を使って現実のデータを分析し、統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	データの性質と分布の代表値
第3回	分布の散布度
第4回	無作為抽出
第5回	散布図と相関
第6回	クロス集計
第7回	質的調査の概要
第8回	質的調査におけるデータ分析
第9回	excel を用いたデータ処理
第10回	excel を用いたグラフ作成
第11回	excel を用いた統計的検定
第12回	excel を用いた回帰分析
第13回	調査手法
第14回	質的調査における分析の種類
第15回	データ分析

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中に課された課題は、翌週までに各自で調べてから授業に望むことが求められる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。

■オフィスアワー

木曜日 4 限

■評価方法

レポート（60%）と授業中の課題（40%）によって評価。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会調査の基礎」（中央法規出版株式会社）

■参考書

いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）

科目名	相談援助の基盤と専門職(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワーカー、社会福祉士、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。

■授業の概要

社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素や形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など)
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ
第3回	現代の社会福祉士に求められる専門性
第4回	精神保健福祉士の役割と意義、現代社会とは
第5回	地域での生活、地域や家庭内で起きていること、チームアプローチの必要性
第6回	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
第7回	グローバル定義以外の主だった定義
第8回	ソーシャルワークの構成要素(クライアント、ニーズ)
第9回	ソーシャルワークの構成要素(ソーシャルワーカー、社会資源)
第10回	ソーシャルワーク前史、慈善組織協会
第11回	セツルメント、青少年団体
第12回	ケースワークの確立、専門化するソーシャルワーク、世界恐慌・大不況とソーシャルワーク
第13回	診断主義学派と機能主義学派、グループワークの形成、コミュニティーオーガニゼーション、日本での発展
第14回	社会不安とソーシャルワーク、問題解決アプローチ、ソーシャルワークモデルの乱立
第15回	ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立、ジェネラリストアプローチからジェネラリストソーシャルワークへ、前期まとめ
第16回	価値とは、専門職として共有する価値と個人の価値観

第 17 回	ソーシャルワーク実践の判断と価値、価値・理念・原則、ソーシャルワーク専門職として身につける価値
第 18 回	権利擁護が必要とされる背景、深刻な人権侵害の顕在化、権利擁護の概念、権利擁護の態様、ソーシャルワーク実践としての権利擁護
第 19 回	自己決定、自立支援、エンパワメントとストレングス視点
第 20 回	地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、社会的包摂
第 21 回	専門職と倫理、専門職倫理の必要性
第 22 回	倫理綱領の意義と内容、ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
第 23 回	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
第 24 回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、地域を基盤としたソーシャルワークの 8 つの機能
第 25 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点
第 26 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質
第 27 回	相談援助専門職の概念、相談援助専門職の範囲
第 28 回	相談援助専門職の範囲、諸外国の動向
第 29 回	予防機能、新しいニーズへの対応機能、総合的支援機能
第 30 回	権利擁護機能、社会資源開発機能、後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）

その他

（講義終了後、各自ノートを提出すること。メモの内容を確認することで、講義に集中していたか、あるいは、講義を理解しているかを判断する。質問は予習段階でノートにメモしておく。授業中に解決しなかったものに関しては、授業中、授業終了直後、オフィスアワーで受ける。）

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。

■オフィスアワー

月曜日 8 時 20 分～10 時 30 分 水曜日 8 時 20 分～10 時 30 分。

■評価方法

定期試験 60%、課題への取り組み 40%とする。課題は 1 回の講義に対して①用語調べ 3 点、②授業メモ 3 点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4 点で計 10 点の配点であり、半期ごとに評価を算定する。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
- ②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の基盤と専門職(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	新木 恵一	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	社会福祉士国家試験を受験する学生にとっては必修の専門科目である	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士、ソーシャルワーク、専門職の倫理、総合的・包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士制度の創設の背景と社会福祉士の役割を学ぶとともに、ソーシャルワークの概念やソーシャルワークの形成過程を理解する。さらに、相談援助の理念や専門職としての「倫理綱領」が果たす役割やジェネラリスト・ソーシャルワークと総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景と効果について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①社会福祉士の果たす役割と専門職としての知識、技術、価値、倫理について理論的・体系的に理解する。
- ②ジェネラリスト・ソーシャルワーク及び総合的かつ包括的な相談援助の必要性と効果について理解する。
- ③これらの学びから人間の尊厳と自立の必要性とその支援方法についての理解を深める。

■授業の概要

相談援助の専門職としての社会福祉士の役割と意義について、担当教員の実践経験を踏まえた事例などを参考にしつつ考察する。また、ソーシャルワークの草創期から現在に至る基礎的な理論の成立過程を学ぶとともに、理論の特徴と課題などについても考察する。さらに、現在求められているジェネラリスト・ソーシャルワークや総合的かつ包括的な相談援助についての理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション(授業の進め方等概説)	
第2回	第1章 社会福祉士の役割と意義	第1節 社会福祉士の位置づけ等
第3回	〃	第1節 社会福祉士の専門性等
第4回	〃	第2節 現代社会と地域生活①
第5回	〃	第2節 現代社会と地域生活②
第6回	第2章 相談援助の定義と構成要素	第1節 ソーシャルワークの概念(グローバル定義等)
第7回	〃	第1節 ソーシャルワークの概念(その他の定義等)
第8回	〃	第2節 ソーシャルワークの構成要素(クライアントとニーズ)
第9回	〃	第2節 ソーシャルワークの構成要素(ソーシャルワーカー、社会資源)
第10回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ	第1節 ソーシャルワークの源流(ソーシャルワーク前史、COS)
第11回	〃	第1節 ソーシャルワークの源流(セツルメント、青少年団体等)
第12回	〃	第2節 ソーシャルワークの基礎確立期(ケースワークの確立等)
第13回	第4章	第1節 ソーシャルワークの発展期(1940年代～1950年代半ば)
第14回	〃	第2節 ソーシャルワークの展開期(1950年代半ば～1960年代以降)
第15回	〃	第3節 ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク、前期授業まとめ
第16回	第5章 相談援助の理念Ⅰ	第1節 ソーシャルワークの価値

第 17 回	第 5 章 相談援助の理念 I	第 2 節 ソーシャルワークの実践と価値
第 18 回	” ”	第 3 節 ソーシャルワークの実践と権利擁護
第 19 回	第 6 章 相談援助の理念 II	第 1 節 クライエントの尊厳と自己決定
第 20 回	” ”	第 2 節 ノーマライゼーションと社会的包摂
第 21 回	第 7 章 専門職倫理と倫理的ジレンマ	第 1 節 専門職倫理の概念 第 2 節 倫理綱領の意義と内容
第 22 回	” ”	第 3 節 ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
第 23 回	第 8 章 総合的かつ包括的な援助の全体像	第 1 節 総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景
第 24 回	” ”	第 2 節、第 3 節 地域を基盤としたソーシャルワークの「基本的視座」と「8つの機能」
第 25 回	第 9 章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	第 1 節 ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点
第 26 回	” ”	第 2 節 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質
第 27 回	第 10 章 相談援助にかかる専門職の概念と犯意	第 1 節 相談援助専門職の概念
第 28 回	” ”	第 2 節 相談援助専門職の範囲 第 3 節 諸外国の動向
第 29 回	第 11 章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能	第 1 節 予防的機能 第 2 節 新しいニーズへの対応機能 第 3 節 総合的支援機能
第 30 回	” ”	第 4 節 権利擁護機能 第 5 節 社会資源開発機能 後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

座席を指定する。私語厳禁。常に講義の要点・課題等をノートに整理することに心がけること。授業の理解度を確認するためノートを前期・後期各 2 回指定された期日までに提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読して授業に臨むこと。なお、わからない単語等については辞書で調べるとともに、それでも不明な点についてはコメントカードにより質問すること。

■オフィスアワー

木曜 午後 13 時 30 分～ 15 時 30 分。

■評価方法

定期試験 80%。ノート記載による評価 20%を基本とする。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「相談援助の基盤と専門職」(最新版)中央法規、「社会福祉用語辞典」最新版(ミネルヴァ書房)

■参考書

適宜紹介する。

科目名	福祉行財政と福祉計画(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	永澤 義弘	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	一般会計 特別会計 地方分権 社会福祉基礎構造改革 住民参加 地域福祉計画				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉の行政・財政・福祉計画について学ぶ。
〔到達目標〕
社会福祉に関連する行政の実施体制や制度について理解することができる。
社会福祉に関連する財政について理解することができる。
各種の福祉計画の作成経緯や意義および現状を理解することができる。

■授業の概要

福祉行政における国県と市町村の役割を、福祉財源を含めて国と地方との関係を学ぶ。また、地域福祉計画の策定過程に地域住民が参加することの意味を理解し、策定理論とその方法を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業のすすめ方について
第2回	福祉行財政と福祉計画
第3回	福祉行政と法制度
第4回	福祉財政と社会福祉
第5回	社会福祉の基礎構造改革
第6回	社会福祉の専門諸機関
第7回	福祉計画の目的と意義
第8回	福祉計画の基本的視点
第9回	福祉計画における評価
第10回	福祉計画の事例研究の視点
第11回	老人福祉計画・介護保険事業計画
第12回	障害者計画・障害福祉計画
第13回	次世代育成支援行動計画
第14回	地域福祉計画
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の前に必ず教科書を読んでおくこと。また、授業で学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど60時間以上の授業外学修をしてください。

■オフィスアワー

火曜日 午前9時30分から12時。

■評価方法

授業への取り組み(30%)と試験またはレポート(70%)で評価する。これらに時間外学習の取り組みを加算する。

■教科書

新社会福祉士養成講座 「福祉行財政と福祉計画」 第5版 中央法規 2017年2月

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	福祉行財政と福祉計画(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	新木 恵一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	社会福祉士国家試験を受験する学生 にとっては必修の専門科目である	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	福祉行政組織と財政、地方分権と市町村主義、計画への住民参加と地域福祉の推進、福祉専門職				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行政の組織と財政について知ることは福祉専門職である社会福祉士にとって必要不可欠なことである。また、従来の対処療法的福祉サービスから計画に基づいた福祉サービスを展開することにより、住民主体の福祉の展開について考察し福祉専門職として基本的知識を高める。

〔到達目標〕

- ①福祉の法制度の変遷と現状及び福祉行政の骨格や組織と社会福祉基礎構造改革について理解する。
- ②福祉推進の基礎である財政の動向と利用者負担等について考察する。
- ③福祉計画の目的・理論・技法について実践例を考察しつつ住民主体の計画とは何かを理解する。

■授業の概要

福祉の制度や法制度の展開について時代背景と比較しつつ理解を深める。さらに、福祉サービスの基盤となる福祉行政の組織や財政との関連についても考察する。また、将来の動向を見据えた福祉サービスを推進するために何故福祉計画が必要か、計画の主体となるのは「行政組織なのか住民なのか」などについて考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション(授業の進め方等概説) 福祉と制度
第2回	福祉の法制度の展開と福祉計画の概要
第3回	行政の骨格と行財政改革の動き
第4回	行政の骨格と法制度
第5回	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造改革
第6回	福祉財政
第7回	福祉の相談過程と相談体制
第8回	地域の相談システムと専門職
第9回	福祉計画の目的・意義、福祉援助の現場から福祉計画へ
第10回	福祉計画の基本的視点、計画過程と留意点
第11回	福祉計画におけるニーズ把握と評価
第12回	福祉計画における住民参加
第13回	福祉計画の実際(事例研究の視点、老人福祉計画・介護保険事業計画)
第14回	福祉計画の実際(障害者計画・障害福祉計画、次世代育成支援行動計画)
第15回	福祉計画の実際(地域福祉計画) 授業のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

座席を指定する。私語厳禁。教科書で予習・復習を行うこと。不明な単語等については辞書等で調べて授業に臨み、より質の高い授業展開に学生自ら取り組むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

配布資料を整理するとともにノートに学習状況を記録すること。また、関係施設や行政機関等を訪問し、その状況をノートに記録すること。ノートは定期試験前に提出を求める。

■オフィスアワー

木曜 午後13時30分～15時30分。

■評価方法

定期試験80%。授業への参画状況及びノート記載による評価20%を基本とする。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」(最新版)中央法規

■参考書

社会福祉用語辞典(ミネルヴァ書房)

科目名	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉施設経営論				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。

〔到達目標〕

経営とは、経営資源であるヒト（人的資源）、モノ（物的資源）、カネ（財源）、シラセ（情報資源）を効果的に活用して組織の目標を達成することである。社会福祉サービスの中核を担う専門職員として、①「経営管理」のとらえ方に関する理念・理論を理解し、リーダーシップやモチベーション等について考察できる。②規制緩和の流れの中でサービス提供組織の現状や課題を理解するとともに、特に社会福祉法人、特定非営利活動法人について理解する。③「経営管理」の構成要素として、業務管理（サービス管理）、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理、リスクマネジメント、建物・設備管理等についての知識を学ぶ。④組織経営のマネジメントには、幅広い知識・素養が求められる。オールラウンドプレイヤーとして諸課題が認識できるとともに、社会福祉施設での実践に当てはめることができる。

■授業の概要

この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄について、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第1回から第6回までは補助プリントを配布、第7回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第15回は試験準備として前期の総復習、第30回は後期の総復習とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。
第2回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革 社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）を学ぶ。
第3回	企業経営・経営理念 企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。
第4回	経営理論（伝統的管理論） テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理過程論を学ぶ。
第5回	経営理論（人間関係論） メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求5段階説、マグレガーのX理論・Y理論を学ぶ。
第6回	企業形態と株式会社 企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。
第7回	福祉サービスにおける組織と経営 福祉サービスとは、経営管理とは、事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。
第8回	法人とは 法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。
第9回	社会福祉法人 社会福祉法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、課題等を学ぶ。
第10回	特定非営利活動法人 特定非営利活動法人とは、管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。
第11回	戦略 経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜等を学ぶ。
第12回	事業計画 事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。
第13回	組織論 組織構造と組織原則、組織形態等を学ぶ。
第14回	管理運営の基礎理論 管理とは、管理の手法（PDCAサイクル）、集団の力学等を学ぶ。

第 15 回	まとめ 前期の総復習、中間テスト対策等を行う。
第 16 回	リーダーシップ リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。
第 17 回	サービスマネジメント 福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント等を学ぶ。
第 18 回	サービスの質の評価 福祉サービスの質の向上、評価システム、第 3 者評価の仕組みと課題等を学ぶ。
第 19 回	苦情処理とリスクマネジメント リスクマネジメントとは、事故・苦情発生メカニズムと対応、リスクマネジメントの取り組み等を学ぶ。
第 20 回	人事・労務管理(1) 動機づけ理論、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動等を学ぶ。
第 21 回	人事・労務管理(2) 職員の処遇、給与体系(職能資格等級制度)、人事考課、人事評価と課題等を学ぶ
第 22 回	労働法規 労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。
第 23 回	労働基準法(1) 人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。
第 24 回	労働基準法(2) 労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業等を学ぶ。
第 25 回	人材育成 福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。
第 26 回	会計管理・財務管理(1) 会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人における会計制度等を学ぶ。
第 27 回	会計管理・財務管理(2) 社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書等を学ぶ。
第 28 回	社会福祉施設の建物・設備管理 建物・設備の分類、点検・防災、アメニティ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。
第 29 回	情報管理 情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。
第 30 回	まとめ 後期の総復習、期末テスト対策等を行う。

■受講生に関わる情報および受講のルール

本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業にかかわる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価(100%)する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版(最新版)

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	就労支援サービス	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	障害者に対する支援と障害者自立支援制度、低所得者に対する支援と生活保護制度、社会保障のそれぞれを履修済みであることが望ましい	免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験科目	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	労働法規、低所得、ディーセント・ワーク			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。

〔到達目標〕

- ①労働の権利性について理解し、言語化できる。
- ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。
- ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。
- ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。
- ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。

■授業の概要

労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。

この授業では、1) 就労と就労支援の意義 2) 労働市場の動向 3) 労働法規の概要 4) 就労支援制度の概要 5) 就労支援サービスの実施体制 6) 就労支援を取り巻く各分野(労働、福祉、教育など)における連携と実際 これらの内容を中心に、「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション	講義の目的、到達目標、評価方法等の理解
第2回	労働の意義	働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割
第3回	現代の労働を取り巻く状況	労働市場の変化
第4回	労働に関する法律と制度	
第5回	障害者と就労支援 1	障害者の就労の現状
第6回	障害者と就労支援 2	障害者福祉施策における就労支援
第7回	障害者と就労支援 3	障害者雇用施策における就労支援
第8回	障害者と就労支援 4	障害者に対する就労支援における専門職の役割
第9回	障害者と就労支援 5	障害者に対する就労支援における民間の取り組みと諸外国の取り組み
第10回	低所得者と就労支援 1	支援の対象像
第11回	低所得者と就労支援 2	低所得者の就労の現状と就労支援制度
第12回	低所得者と就労支援 3	組織や団体、専門職の役割
第13回	連携とネットワーク 1	就労支援とケアマネジメント
第14回	連携とネットワーク 2	ネットワークを活用した就労支援の実際①
第15回	連携とネットワーク 3	ネットワークを活用した就労支援の実際②

■受講生に関わる情報および受講のルール

この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。なお、小テスト等の課題を毎時間実施し、評価対象とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援法」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。

■オフィスアワー

火曜 9時～11時 それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。

■評価方法

定期試験 40%、小テスト等の提出物や課題 40%、レポート 20%とする。内訳については、第1回オリエンテーションで説明する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 「新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス」中央法規(最新版)

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	福祉心理学	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学教科目 (B. 心理学発展科目、⑰福祉心理学)	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	児童虐待、問題行動、障がい特性、高齢者、認知症			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会においては福祉専門職を目指す人でなくても、福祉に関する知識・理解は必須のものである。この科目は、福祉に関連すると考えられる心理学的知見を幅広く学び、理解できるようになる事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について、理解できる。
- ②さまざまな障がいについて、その特性を理解できる。
- ③高齢者の基本的な心理的特性や、認知症についての基本的な特徴について、理解できる。

■授業の概要

福祉心理学は実際の学問分野において体系づけられた領域が確立されているわけではない。しかし、現代社会においては実際に必要とされている領域ともいえる。援助を必要としている人々の年代は子ども、青年、成人、高齢者と様々であり、また障がいや疾病、さまざまな心理的困難を抱えている。そのため、授業ではそういった人々の特性を理解し、また児童虐待といった現代社会の問題に対して心理学的視点から学び、さらには援助的な関わりを学ぶことを目的とし、総論的な視点から授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション—福祉心理学とは
第2回	家庭問題の心理学 児童虐待の現状とその背景について概観する
第3回	問題行動の心理学 青少年期の問題行動の種類と特徴、不適応の行動について考える
第4回	問題行動に対する心理学的な援助 様々な心理的な問題に対する援助方法について触れる
第5回	「障がい」理解に向けて 障がいのとらえ方、障がい特性とはなにかについて考える
第6回	感覚障がい者(児)の理解 視覚障がいの特徴と心理的支援について考える
第7回	感覚障がい者(児)の理解 聴覚障がいの特徴と心理的支援について考える
第8回	肢体不自由者(児)の理解 肢体不自由(運動障がい)の特徴、心理的支援について考える
第9回	知的障がい者(児)の理解 知的障がいの発生と特徴、心理的支援について考える
第10回	発達障がい児の心理的理解 自閉症について、定義と心理的支援について考える
第11回	発達障がい児の心理的理解 LD、ADHDの特徴、心理的支援について考える
第12回	高齢者の理解 高齢者の心理的特徴や行動特性、加齢の影響について理解を深める
第13回	認知症の理解 認知症の種類と特徴、認知症高齢者の理解について考える
第14回	障がい者(児)や高齢者を抱える家族への対応 介護に当たる家族の問題、家族支援の方向性について考える
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」の授業を受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせず、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。
- ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

未定(開講時に指示する)

■参考書

適宜、授業時に紹介します

科目名	社会福祉史	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉の歴史的視点				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。

〔到達目標〕

日本および各国の福祉史を見ることで、現在の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。

■授業の概要

日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション	
第2回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷 1	社会的状況の変遷
第3回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷 2	救貧法の制定
第4回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷 3	エリザベス救貧法を中心に
第5回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷 4	近代の社会福祉について
第6回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷 5	
第7回	日本の社会福祉の歴史的変遷 1	封建社会から近代社会へ
第8回	日本の社会福祉の歴史的変遷 2	恤救規則を中心に
第9回	日本の社会福祉の歴史的変遷 3	
第10回	日本の社会福祉の歴史的変遷 4	戦後の社会福祉の変遷
第11回	日本の社会福祉の歴史的変遷 5	
第12回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷 1	世界恐慌からの社会福祉の変遷
第13回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷 2	
第14回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷 3	現代の社会福祉の状況
第15回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

金曜日 10 時～12 時。

■評価方法

期末試験 80%、授業への取り組み等 20%。

■教科書

清水・朴 編著「よくわかる社会福祉の歴史」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで適宜伝える。

科目名	福祉事務所運営論	担当教員 (単位認定者)	永澤 義弘	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉行政 自立支援 セーフティーネット支援 社会福祉主事 アドボカシー ソーシャルワーク				

■授業の目的・到達目標

行政組織の仕組みやそこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。

■授業の概要

福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運営の今日的課題等を学ぶものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業のすすめ方について
第2回	社会保障と税の一体改革
第3回	現代社会と福祉事務所の運営
第4回	福祉事務所の成立と歴史的展開
第5回	福祉事務所をめぐる政策動向
第6回	福祉事務をめぐる法制度
第7回	福祉事務所の業務と組織
第8回	福祉事務所と関係社会資源との連携
第9回	福祉事務所の運営と民生委員の役割
第10回	福祉事務所の専門職員とその役割
第11回	社会福祉主事の専門性と倫理
第12回	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開
第13回	福祉事務所における自立支援の事例
第14回	福祉事務所の運営をめぐる課題と動向
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の前に教科書は読んで予習をし、学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど60時間以上の授業外学修をすること。

■オフィスアワー

火曜日 午前9時30分から12時。

■評価方法

授業への取り組み姿勢（30%）と、レポート（70%）で評価する。

■教科書

宇山勝儀/船水浩行編著 『福祉事務所運営論』 [第4版] ミネルヴァ書房 2016年4月

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	精神疾患とその治療	担当教員 (単位認定者)	重田 理佐	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ㉓精神疾患とその治療)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神医学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学の知識を身につける。医療機関における多職種連携の実際を理解する。

〔到達目標〕

- 1、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。
- 2、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。
- 3、精神医学の概念、診断の基本について理解する。
- 4、代表的な精神障害について理解する。
- 5、精神障害の治療の概要について理解する。
- 6、病院精神医療について理解する。
- 7、司法精神医学、産業精神医学、学校精神保健について理解する。

■授業の概要

精神科病院の勤務医としての臨床経験を伝えながら精神保健福祉士の仕事の基礎となる精神医学の知識を習得出来るよう援助する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション
第2回	精神医学、精神医療の歴史
第3回	精神現象の生物学的基礎
第4回	精神医学の概念
第5回	精神疾患の症状と診断1
第6回	精神疾患の症状と診断2
第7回	精神科検査法1
第8回	精神科検査法2
第9回	器質性精神障害
第10回	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
第11回	統合失調症1
第12回	統合失調症2
第13回	気分障害1
第14回	気分障害2
第15回	神経症性障害1

第 16 回	神経症性障害 2、摂食障害
第 17 回	人格障害
第 18 回	知的障害、発達障害
第 19 回	小児期及び青年期に通常発症する行動および情緒の障害
第 20 回	精神科薬物療法
第 21 回	電気けいれん療法、身体療法
第 22 回	精神療法
第 23 回	作業療法、精神科リハビリテーション
第 24 回	精神医療の現在
第 25 回	医療観察法、司法精神医学
第 26 回	精神科救急
第 27 回	産業精神医学
第 28 回	学校精神保健
第 29 回	復習 1
第 30 回	復習 2

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習復習を行う。積極的な授業への参加、質問を行うことが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

前期末にレポート課題を行い、後期末に筆記試験を行う。筆記試験により評価を行う。

■教科書

新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 中央法規

■参考書

講義のなかで適宜紹介していく。

科目名	精神保健の課題と支援	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	4年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ライフサイクルとメンタルヘルス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 こころと社会について深い関心を持ち、主体的に学習を続け基本知識を理解させる。
 〔到達目標〕
 ライフサイクルで見る精神保健学の視点を理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ、現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方
第2回	精神保健とは？メンタルヘルスの予防とは？
第3回	ライフサイクルと精神保健
第4回	出生、乳幼児期の精神保健
第5回	学童期・青年期
第6回	モンスターペアレントを精神保健の視点で見る
第7回	不登校・いじめ
第8回	虐待とその背景
第9回	暴力の連鎖、境界性人格障害
第10回	成人の精神保健・薬物乱用について
第11回	アルコール関連問題
第12回	高齢者の精神保健
第13回	精神保健福祉の歴史
第14回	学校精神保健
第15回	自殺対策と精神保健
第16回	精神保健を精神病理から見る

第 17 回	西のゲール、東の岩倉
第 18 回	記憶の異常
第 19 回	知能・知覚の異常
第 20 回	感情の異常
第 21 回	不眠と精神保健
第 22 回	障害者制度改革
第 23 回	障害者総合支援法
第 24 回	医療観察法、更生保護法
第 25 回	精神保健関連法
第 26 回	世界の精神保健
第 27 回	緩和ケアと精神保健
第 28 回	精神保健学の新しい試み
第 29 回	精神保健福祉士の役割
第 30 回	精神保健学を学んで

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い)適宜レポート提出、小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

へるす出版 精神保健学 精神保健の課題と支援

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の基盤				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉の基本を学ぶ。精神保健福祉と社会福祉の共通点・相違点を明確にし二つの国家試験受験資格を取得できる福祉系大学の特色を生かし福祉の多方面、ジェネラルなソーシャルワークを学ぶ。

〔到達目標〕

総合的かつ包括的相談援助の理念と方法を精神保健福祉学から次に精神科医療との協働・連携する方法に関する知識や技術を学び精神保健福祉士の倫理観、責任感、行動力の基盤を学ぶ。

■授業の概要

精神保健福祉の総合的かつ包括的援助の理念と方法に関する知識と技術を学ぶ。精神科医療及び地域福祉サービスとの協働・連携する方法に関する知識と技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方
第2回	精神保健福祉士制度の歩み
第3回	資格化と専門性
第4回	人間理解促進のための概念を学ぶ
第5回	退院促進の始まり、ゴッフマンを知っている?
第6回	精神科ソーシャルワークの説明
第7回	精神障害者の人権
第8回	日本のPSW(精神保健福祉士)
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク
第10回	ソーシャルワークの定義と構成要素
第11回	ソーシャルワークと精神保健
第12回	人間理解のための重要な概念と「見立て」
第13回	ソーシャルワークの展開過程
第14回	ケースワーク、グループワークのまとめ
第15回	生活支援とコミュニティワーク

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い)適宜レポート提出、小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

へるす出版 精神保健福祉相談援助の基盤

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	2年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
精神障害者支援を中心にした社会福祉サービスと支援活動を学ぶ。
〔到達目標〕
精神保健福祉士の専門技術と理論を学ぶ。

■授業の概要

障がい者に配慮した援助技術を理解するためグループワークから入る。初めにSST(生活技能訓練)を学び、次の個別援助技術(ケースワーク)を学び、地域支援(コミュニティーワーク)を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方
第2回	障がい者に配慮したグループワーク
第3回	障害者を対象としたグループ
第4回	集団援助技術とSST(生活技能訓練)
第5回	グループプロセスから学ぶ
第6回	障害者を対象としたグループワーク
第7回	SSTの有効性
第8回	認知行動療法の色々
第9回	学びと般化
第10回	送信技能、受信技能、処理技能
第11回	ある精神科デイホスピタルでの実践
第12回	シナリオロールプレイ「役割と自分」
第13回	ストレス—脆弱性モデルと防御因子
第14回	アミン仮説と抗精神病薬
第15回	精神科病院の開放化
第16回	精神科デイケア、デイホスピタル

第 17 回	集団活動の中の暗黙の了解 (アザンプション)
第 18 回	退院促進と回転ドア
第 19 回	セルフヘルプグループ
第 20 回	家族支援と感情表出研究
第 21 回	ピオンのグループワーク理論
第 22 回	個別援助技術と心理社会的アプローチ
第 23 回	社会診断およびアセスメント
第 24 回	事例 1 (30 歳・統合失調症の青年) からケアプランを学ぶ
第 25 回	教科書の事例 (45 歳) からのエコマップ、ジェノグラム、レーダーチャートを覚える
第 26 回	ストレングスモデルに基づくアセスメント、ケアプラン
第 27 回	ケアプランの発表
第 28 回	総合支援法に基づくケアプランを教科書から学ぶ
第 29 回	2 つ目の教科書の事例 (50 歳代男性) 検討
第 30 回	教科書の 2 つの事例を比較し仲介型のケアマネジメントを学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い) 適宜レポート提出、小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

へるす出版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	3年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	精神科リハビリテーションと精神保健福祉福祉				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 精神科リハビリテーションの概念、構成について学ぶ。
〔到達目標〕 理論と展開Ⅰで学んだ理論実践方法をさらに具体的事例や訓練によって内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。精神障害者支援のかなめ「エンパワーメント」「リカバリー」の概念を体得できることを目指す。

■授業の概要

この講義では医療機関をはじめ地域でのソーシャルワーク実践の視座および活用方法を順次学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション
第2回	福祉施設ケアと相談支援専門員
第3回	ストレングスモデルのケアプラン
第4回	ソーシャルアクションにつながるあったらいいサービス
第5回	心理社会的アプローチと未解決問題
第6回	サービス等利用計画書と個別支援計画
第7回	精神科リハビリテーションについて
第8回	WHOのリハビリテーションの定義
第9回	日本の精神科リハビリテーションの歴史
第10回	ストレス脆弱性モデルと精神医学の視点
第11回	精神科デイケアとグループワーク
第12回	治療共同体からデイホスピタル
第13回	中間施設の限界からEE研究と家族支援
第14回	アンソニーの技能開発計画と資源開発計画
第15回	野中猛のリハビリテーション
第16回	ソーシャルワークと精神科リハビリテーション

第 17 回	新しい精神科リハビリテーションの展開
第 18 回	精神科リハと作業療法
第 19 回	職業リハビリテーション
第 20 回	雇用・就労支援と居住支援
第 21 回	二つのセルフヘルプグループ
第 22 回	デイナイトケアとプログラム活動
第 23 回	実践的 SST トレーニング
第 24 回	初めて SST を導入したデイケア
第 25 回	中断したデイケアで再び SST
第 26 回	厳しい指摘が友情
第 27 回	茶の湯の技法「花月」
第 28 回	共同リーダーは何をする。みんながリーダー
第 29 回	話し合い、学び合い、助け合い
第 30 回	実践 SST を終えて

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い)適宜レポート提出、小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

へるす出版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	2年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉論と制度・サービス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。

〔到達目標〕

精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。

■授業の概要

精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方、精神病患者監護法・私宅監置
第2回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷
第3回	クラーク勧告、Y問題、宇都宮病院問題
第4回	精神保健福祉法の誕生
第5回	精神保健福祉法の内容
第6回	精神障害者の人権と精神医療審査会
第7回	精神保健福祉法の改正、22年改正、25年改正
第8回	精神保健福祉士に求められる役割
第9回	制度とサービスの概要
第10回	精神障害者福祉の理念と精神障害者
第11回	障害者権利条約の理念
第12回	生活のしづらさの体験授業
第13回	医療観察法と更生保護
第14回	退院促進と脱施設化
第15回	アメリカの巨大精神科病院
第16回	精神保健福祉の動向、力動精神医学

第 17 回	国家資格化とY問題
第 18 回	精神保健福祉士の専門性
第 19 回	病院精神保健福祉士の仕事
第 20 回	処遇改善請求や定期病状報告
第 21 回	関連法、医療保険制度
第 22 回	介護保険制度
第 23 回	年金制度と障がい者年金
第 24 回	所得保障、労災関連
第 25 回	公的扶助と精神障害
第 26 回	経済負担の軽減と生活支援
第 27 回	障害者雇用促進法
第 28 回	精神障害者の生活支援システム
第 29 回	精神障害者の生活と人権
第 30 回	障害者総合支援法と生活支援

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い)適宜レポート提出、小テストを実施する。年に1～2回映像での勉強を予定している。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

へるす出版 精神障害者の生活支援生後システムとサービス

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神障害者の生活支援システム	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	4年生必修科目	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地域生活支援の基盤				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害者の生活支援、相談支援、居住支援、雇用・就労支援を精神保健福祉士のかかわりから学ぶ。

〔到達目標〕

地域生活支援と相談支援援助に焦点を当て事例を重ね実践的なソーシャルワークを学ぶ。

■授業の概要

これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の地域生活支援に焦点をあて「意義」と「特徴」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方
第2回	精神障害者の概念
第3回	パラダイムの転換とピア活動
第4回	精神障害者の生活実態
第5回	居住支援
第6回	障害者雇用
第7回	作業療法と就労支援
第8回	ストレングスマodel、IPSの考え方
第9回	雇用就業支援の実際
第10回	障害者の自立と社会参加のための生活支援システム
第11回	クライシスケアシステム
第12回	社会療法のための病院機構
第13回	退院時訪問指導と地域移行
第14回	福祉的就労
第15回	行政による相談支援

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い) 適宜レポート提出、小テストを実施する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。

■オフィスアワー

原則、火曜除く放課後。

■評価方法

定期試験 50%、レポート 30%、その他毎回での考察 20%。

■教科書

(注意) 中央法規出版 精神障害者の生活支援システム

■参考書

適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉援助演習（基礎）	担当教員 （単位認定者）	新藤 健太	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、グループダイナミクス、ストレングスモデル、社会復帰支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。

〔到達目標〕

- ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。
- ②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。
- ③精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。
- ④精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を習得する。
- ⑤専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。

■授業の概要

精神保健福祉士としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。尚、授業のなかでは相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げることとする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第2回	自己覚知① 精神障害を抱えて生きる人の理解①
第3回	自己覚知② 精神障害を抱えて生きる人の理解②
第4回	コミュニケーションおよび面接技術の習得 ストレングスモデル
第5回	グループダイナミクス活用技術の習得① SSTについての理解
第6回	グループダイナミクス活用技術の習得② 心理教育についての理解①
第7回	グループダイナミクス活用技術の習得③ 心理教育についての理解②
第8回	グループダイナミクス活用技術の習得④ 集団精神療法についての理解
第9回	情報収集および課題解決技術の習得① ソーシャルサポートシステム
第10回	情報収集および課題解決技術の習得② 家族関係の理解 家族システム
第11回	情報収集および課題解決技術の習得③ アウトリーチについての理解
第12回	情報収集および課題解決技術の習得④ チームアプローチについての理解
第13回	情報収集および課題解決技術の習得⑤ ケアマネジメントについての理解①
第14回	情報収集および課題解決技術の習得⑥ ケアマネジメントについての理解②
第15回	前期のまとめ
第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）	担当教員 (単位認定者)	新藤 健太	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、ピアサポート、発達障害、相談援助の専門技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。

〔到達目標〕

- ①基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。
- ②精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。
- ③精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術を習得する。
- ④専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。尚、授業のなかでは総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習形態の授業を行うこととする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第2回	セルフヘルプグループについて理解する
第3回	ピアサポートについて理解する
第4回	自死遺族に対する支援について理解する
第5回	地域との連携について理解する
第6回	薬物事犯者の更正保護について理解する
第7回	発達障害のある子ども・若者の支援について理解する
第8回	うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について理解する
第9回	ひきこもりの若者の支援について理解する
第10回	アルコール依存症の成人の支援について理解する
第11回	相談援助場面を想定した実技指導① インテーク
第12回	相談援助場面を想定した実技指導② アセスメント
第13回	相談援助場面を想定した実技指導③ プランニング
第14回	相談援助場面を想定した実技指導④ モニタリングおよび評価
第15回	前期のまとめ
第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新藤 健太	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者の理解、精神保健福祉援助実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者および精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。
- ②学習をとおして精神疾患を抱えている人を理解する。
- ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。
- ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを明確にする。
- ⑤実習の意義について考え、理解する。

■授業の概要

実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	本講義のオリエンテーション
第2回	各実習先種別の学習① 精神科医療機関
第3回	各実習先種別の学習② 精神科医療機関
第4回	各実習先種別の学習③ 精神科医療機関
第5回	各実習先種別の学習④ 障害福祉サービス事業所
第6回	各実習先種別の学習⑤ 障害福祉サービス事業所
第7回	各実習先種別の学習⑥ 障害福祉サービス事業所
第8回	各実習先種別の学習⑦ 行政機関
第9回	各実習先種別の学習⑧ 行政機関
第10回	各実習先種別の学習⑨ 行政機関
第11回	各実習先種別の学習⑩ その他
第12回	倫理と秘密保持について① 精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理と秘密保持について② 精神保健福祉士の倫理綱領
第14回	自らの課題検討
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は慎んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

3年生春休み期間中に精神科病院事前見学会を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ②授業時間外の日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ①授業への取り組み(授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況) 25%。
- ②授業レポート(内容および提出状況を含む) 35%。
- ③課題レポート 40%。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015/「実習へのガイドブック(学生用)」群馬医療福祉大学 2015/「実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 第2版」杉本浩章・田中和彦 みらい 2015

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	新藤 健太	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者の理解、アイデンティティ、精神保健福祉実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解をとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。
- ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。
- ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人を理解し、受容できるようになる。
- ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え
第2回	精神保健福祉現場実習について 配属施設の決定
第3回	自己紹介表の作成① 自己紹介表の意義と目的および作成
第4回	自己紹介表の作成② 自己紹介表の作成
第5回	実習計画書の作成① 実習先施設の情報収集および概要書の作成
第6回	実習計画書の作成② 実習先施設の情報収集および概要書の作成
第7回	実習計画書の作成③ 実習先施設の情報収集および概要書の作成
第8回	実習計画書の作成④ 実習先施設の情報収集および概要書の作成
第9回	現場実習に係わる留意事項① 守秘義務および契約・契約書
第10回	現場実習に係わる留意事項② 卒業生講話
第11回	実習記録・日誌の記述方法①
第12回	実習記録・日誌の記述方法②
第13回	実習先への事前訪問について
第14回	自らの課題検討
第15回	前期のまとめ
第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション

第 17 回	配属実習の振り返り① 個別事例の検討
第 18 回	配属実習の振り返り② 個別事例の検討
第 19 回	配属実習の振り返り③ 個別事例の検討
第 20 回	配属実習の振り返り④ 個別事例の検討
第 21 回	配属実習の振り返り⑤ 個別事例の検討
第 22 回	配属実習の振り返り⑥ 個別事例の検討
第 23 回	配属実習の振り返り⑦ 個別事例の検討
第 24 回	配属実習の振り返り⑧ 個別事例の検討
第 25 回	配属実習の振り返り⑨ 個別事例の検討
第 26 回	実習報告会①
第 27 回	実習報告会②
第 28 回	実習報告会③
第 29 回	振り返りと今後の課題
第 30 回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。
- ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。
- ③課題レポート 40%。

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習版 2015/「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学 第 2 版」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015/「実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 第 2 版」杉本浩章・田中和彦 みらい 2015

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉援助実習	担当教員 (単位認定者)	新藤 健太	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士 精神障害者の理解 アイデンティティ				

■授業の目的・到達目標

- ①精神保健福祉援助実習をととして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活することを具体的に理解・把握し、援助実践の具体的技術を体得する。
- ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を習得する。
- ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。

■実習履修資格者

- 本学における実習履修資格は原則として「精神保健福祉法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。
- ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。
 - ②精神保健福祉の学習および実践に対する熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。
 - ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。
 - ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。
 - ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。
 - ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

■実習上の注意

- ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園 最新版を参照し、遵守すること。
- ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を十分に事前学習すること。
- ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。

〔実習中止の措置〕

群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則による。

- ①重大なルール違反（実習先就業規則ならびにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により精神保健福祉援助実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習施設・機関の長または実習指導者より精神保健福祉援助実習中止の申し出があったとき。
- ⑦実習担当教員が実習生に行った指摘および指導に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑧その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- ①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合評価（40%）
- ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%）
- ③実習記録（10%）
- ④実習後の振り返りをおとした実習報告会を含めた実習のまとめ（15%）
- ⑤実習報告書（10%）
- ⑥その他事前提出の実習計画書および事後提出の実習関係書類の内容および提出状況（10%）

注意1: 実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。

注意2: 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	対人サービスに興味があることと高齢者、障害者を問わず福祉サービスに携わり人間の尊厳の保持に志を持って当たることが重要な要件となる。	免許等指定科目	社会福祉士、介護福祉士等の 国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活支援、生活の快、余暇と余暇活動、人間の尊厳、自立支援、現代史、音楽芸能スポーツ文化史				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者の心身と生活の活性化を支援するための知識・技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と教養を体得し、まず福祉サービスの担い手として国家資格の取得を第1の目的とし、さらにその資格を補強するアクティビティ・ワーカー資格取得を目指すことを到達目標とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関だけでなく日常生活の中に『アクティビティ』という言葉が使われますが、その正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳』『自立支援』『その人らしい生き方とは』『高齢者の生きてきた道』などの言葉の意味と内容について、講義と演習により学習する。時には昔の歌を歌ったり、有名な映画や歴史的なDVDを鑑賞したりする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション：履修上の注意と講義の進め方と受け方について説明します。
第2回	導入の話「なぜアクティビティ・サービスなのか」
第3回	レクリエーションからアクティビティ・サービスへ
第4回	アクティビティ・サービスの定義
第5回	アクティビティ・サービスの効果と対象について
第6回	お年寄りと自分の人生の比較
第7回	高齢者の知っている歌と文化を知る
第8回	アクティビティ・サービスと介護過程
第9回	高齢者を理解する
第10回	高齢者の生きがいのについて
第11回	DVD鑑賞『認知症に効果的な音楽療法』
第12回	生活支援学とは
第13回	生活支援学としてのアクティビティ・サービスとは
第14回	日本におけるアクティビティ・サービスの誕生
第15回	アクティビティ・サービスとICFについてと前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション

第 17 回	アクティビティ・サービスの計画
第 18 回	アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（1）
第 19 回	アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（2）
第 20 回	アクティビティカレンダーの作成上の留意点
第 21 回	グループワーク『カレンダーの作成』
第 22 回	グループ発表
第 23 回	ユーモアとは何か・DVD 鑑賞『チャップリンの映画』（前編）
第 24 回	ユーモアとは何か・DVD 鑑賞『チャップリンの映画』（後編）
第 25 回	グループワーク『テキストの演習課題について話し合う』
第 26 回	有名な DVD 鑑賞（前編）
第 27 回	有名な DVD 鑑賞（後編）
第 28 回	アクティビティ・ワーカークラシフィケーションのレポート作成法について
第 29 回	アクティビティ・サービスと死について考える
第 30 回	アクティビティ・サービスのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語を慎み、積極的な受講態度を評価する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者、障害者に関する新聞記事やTV 番組などに興味をもつことを心がける。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験 60%、授業態度、小テスト、提出物等 40%で総合的に評価する。

■教科書

新訂アクティビティ・サービス（中央法規出版・2014）

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	心理学研究法	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (A. 心理学基礎科目, ④心理学研究法)		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 (1年生)			
キーワード	因果と相関関係、実験法、調査法、観察法、面接法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
心理学で用いられてきた研究法とそれぞれの長所、短所を理解する。
〔到達目標〕
実験・調査法・観察法の内容・長所・短所を理解する。
実験手続きのロジックを理解する。
検査法の信頼性・妥当性を理解する。

■授業の概要

本講義では、心理学における研究法としての実験、調査、観察の概要を紹介する。また、その研究方法を用いた比較的有名な研究を紹介する。また、授業中に、実験や調査などの実施も行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス 実証 科学と実証 量的研究と質的研究
第2回	量的研究と質的研究 その長所と短所
第3回	実験的研究の紹介1 (因果と相関 具体例を用いて)
第4回	実験的研究の紹介2 (因果と相関 解釈をめぐる問題)
第5回	実験的研究の紹介3 (実験群と統制群)
第6回	実験的研究の紹介4 (バンデューラーのボボ人形実験)
第7回	振り返り 実験の用語の整理、研究対象への配慮 (研究倫理)
第8回	観察的研究の紹介1 調査法 (質問紙調査を題材として 集合的無知)
第9回	観察的研究の紹介2 調査法 (質問紙調査を題材として 集合的無知)
第10回	観察的研究の紹介3 調査法 (調査におけるワーディング、計画)
第11回	観察的研究の紹介4 観察法 (質的研究)
第12回	観察的研究の紹介5 観察法、検査法 (質的研究)
第13回	観察的研究の紹介6 検査法 (質的研究)、到達テストの告知
第14回	研究計画、研究における倫理、振り返り・到達テストの解説
第15回	まとめ・到達テスト・テスト解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

メールによるコメントカードの提出が義務付けられている。開始時に小テストへの回答が求められる場合があるため、早めに着席していることが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目 (206 研究室) を予定している。

■評価方法

コメントカードでの評価合計 (35%)、講義内小テスト (30%)、到達テスト (35%)。

■教科書

高野 陽太郎・岡 隆 (編) 心理学研究法—心を見つける科学のまなざし 有斐閣アルマ 2004

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	学習心理学(学習・言語心理学)	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学実践科目, ⑧学習・言語心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目(1年生)			
キーワード	心理学、学習、条件づけ、観察学習、記憶、社会的学習、言語				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

学習・言語心理学を学ぶための基礎知識習得を目的とする。

[到達目標]

古典的条件付け・オペラント条件付け・観察学習、言語についての概念説明ができる。

学習心理学、言語心理学に関連した用語、学習のプロセスについての知識をえる。

■授業の概要

本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見いだされた研究の解説を体系的に行うことになる。内容としては、学習の基本的メカニズム、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、言語獲得、社会的学習、学習と文化を取り上げる。理解をより深化させるために、簡単な実験や小テスト、アンケートの実施を予定している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	心理学における学習とは 研究の方法と応用
第2回	人間の学習と動物の学習
第3回	馴化(じゅんか)と鋭敏化 日常例と研究例の紹介
第4回	古典的条件づけ(1) 研究紹介と基本的特徴
第5回	古典的条件づけ(2) 信号機能
第6回	古典的条件づけ(3) 学習の内容と発現システム
第7回	オペラント条件づけ(1) 研究紹介と基本的メカニズム
第8回	オペラント条件づけ(2) 強化・制御
第9回	オペラント条件づけ(3) 行動の動機づけ
第10回	概念学習・観察学習・問題解決(1) 研究紹介
第11回	概念学習・観察学習・問題解決(2)
第12回	言語の獲得 発達心理学的視点から
第13回	言語が思考・認識に与える影響 サピア・ウォーフ仮説再考
第14回	言語による経験の伝達、文化
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

講義の際に10分程度の小テストが行われる場合がある。実験・アンケート実施に伴い準備等の協力が求められることがある。

[受講のルール]

ノートをかならず冊子としてまとめておくこと。理解度把握のため、ノートのチェックが行われる場合がある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

小テスト・アンケートの提出(40%)、授業内発言・コメント(20%)、到達テスト(40%)。

■教科書

実森 正子・中島 定彦(著) 学習の心理—行動のメカニズムを探る(コンパクト新心理学ライブラリ 2) サイエンス社 2000

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	発達心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	福祉心理コース1年次必修科目、初等教育コースを除く社会福祉学科1年次選択科目	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ⑫発達心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「基礎科目」			
キーワード	生涯発達心理学、ライフサイクル、発達段階、発達課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

誕生した瞬間から、人は多様な側面で変化をしていく。人生とは、そうした変化に対応しながら自己を形成し維持するプロセスであるともいえる。本講義では、人の生涯(Life)の中で起こる絶え間ない変化を“発達”として捉える。そして、何かが発達するということの意味を、人生全体(生涯発達)の変化の流れ(Life Cycle, Life Course)の中で捉える視点を、発達心理学の枠組みを通してつかんでいく。

〔到達目標〕

- ①人の発達の变化における心理的過程を理解できる。
- ②人の発達の变化を踏まえたうえで、各発達段階において顕著になる心理的特性を理解できる。
- ③生涯発達の枠組みから見た各段階における心理的变化の意味や意義を理解し、各段階で人が背負う発達上の課題を説明することができる。

■授業の概要

この授業では基本的に教科書に即しながら、生涯発達心理学の視点に立って各発達段階の一般的な心理的特性と発達の变化の過程をさまざまな角度から学習する。さらに、提示する参考資料を基に、学習したことを応用し、具体的な人物の心理や発達の变化の意味や意義を考察し、学習の理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 発達とは何か(2-7頁) 遺伝と環境、Bronfenbrenner、コンボイモデル
第2回	人間発達の特殊性と発達段階論(7-17頁) 進化、生理的早産、二次的留巣性(就巣性)、臨界期と敏感期、ハヴィガースト
第3回	胎生期から新生児期まで(個体の発生)(42-46頁) 胎児期(卵体期、胎芽期、胎児期)、性の分化、母体保護法をめぐる議論(特にパーソン論) 「出生前診断」の問題(51頁)
第4回	誕生と新生児の特徴(47頁) 合計特殊出生率、脳の発達、原始反射・原始行動、新生児微笑、シナプス
第5回	乳児期の発達(52頁) 言葉のない感覚世界に生きる クーイング、発達の方向性、発達加速現象、視覚、聴覚、記憶
第6回	対人関係の始まりと親子関係(58-63頁) 母性と父性、ボウルビィ、愛着、ハーロウ、エイズワース、ストレンジシチュエーション法(新奇場面法)、母性剥奪(マターナル・ディプリベーション)、新生児模倣、エントレインメント、ウィニコット、移行対象
第7回	幼児期の機能と発達 第一反抗期、ことばの獲得、チョムスキー、生成文法論、ピジン言語、共同注意、三項関係、音声言語の発達、喃語、マザリーズ
第8回	語彙の発達と学習(68-69頁、18-21頁) 二語発話、成熟と学習、パブロフ(古典的条件づけ)、ワトソン(恐怖の条件づけ)、ソーンダイク(思考錯誤学習)、スキナー(オペラント条件づけ)、ケーラー(洞察学習)、バンデューラ(観察学習)
第9回	幼児期の認知の特徴(73-75頁、22-24頁) 自己中心性、アニミズム、相貌的知覚、象徴遊びと保存、ピアジェの認知発達理論(感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期)
第10回	幼児期の社会性(集団生活の始まり)(80-85頁) パーテン、遊びの発達段階、心の理論、誤信念課題、ホイジンガ、社会脳仮説
第11回	児童期の発達(身体的・認知的変化の特徴)(86-91頁) 充実期と伸長期、学校生活の始まり、可逆性、子どもの絵の変化(風景構成法等に見る特徴)、道徳性の発達、コールバーク
第12回	児童期の発達(対人関係の発達と社会的スキル)(92-95頁) 集団形成、リーダーシップ、ギャング・エイジ、社会的スキル、子どもの友人関係
第13回	児童期の不登校、いじめ問題(94-95頁)、(114-116頁)他 教員が選ぶ参考書等からプリント配布予定、心の扉
第14回	エリクソンのライフサイクル論(児童期まで)(27-29頁) 児童期から青年期へ向かって 自我体験
第15回	乳児期から幼児期に生じる発達に関わる問題(96-105頁) 発達障害、DSM、ICD、学習障害、自閉性障害、知的障害、障害者運動とインクルーシブ教育 ※前期まとめ課題提示

第 16 回	〈後期〉青年期の身体的成熟と精神的未成熟 (108-111 頁) ホール (Hall, S.)、形式的操作、第二反抗期、反抗と対抗、青年期平穩説
第 17 回	アイデンティティとは何か① (111-113 頁) アイデンティティ・ゲーム、エリクソンのアイデンティティ論
第 18 回	アイデンティティとは何か② (111-113 頁) アイデンティティ拡散とモラトリアム、マーシャ、アイデンティティ・ステイタス (同一性達成、モラトリアム、早期完了、同一性拡散)、アイデンティティ拡散の諸相
第 19 回	青年期のメンタルヘルスと問題行動 (113-116 頁) 反社会的行動、非社会的行動、不登校、いじめ、社会的ひきこもり
第 20 回	青年期の危機と精神病理 (117-119 頁) 自傷、摂食障害、境界性人格障害、創造的退行
第 21 回	成人期の発達課題とキャリア発達 (120-134 頁) 親密性対孤独、キャリア発達論、働くことと職業的・社会的アイデンティティ
第 22 回	成人期の家族形成 (141-147 頁) 母性と父性、家族の機能、機能不全家族、家族システム論
第 23 回	世代間の連鎖、世代と世代のライフサイクル (145-148 頁) 虐待、依存症、空の巣症候群
第 24 回	中年期の発達と危機 (150-159 頁) ユングの中年期の危機論、レビンソンのライフサイクル論、中年期の課題と危機
第 25 回	中年期の危機 (配布資料) エリクソン、ユングの中年期の危機論
第 26 回	老年期 老いの特徴 (162-172 頁) 身体・生理的变化、知的側面の変化、老年期のパーソナリティ
第 27 回	老年期の不適応と障害 (172-175 頁) 認知症、せん妄、気分障害、老年期の危機と統合
第 28 回	死に対する態度の発達 (176-184 頁) 死に対する態度の発達、死の受容、5 段階説、高齢者と自殺 (自死)
第 29 回	悲嘆のプロセス (185-188 頁) グリーフケア、モーニングケア、ライフクリプト、臨死体験 ※後期まとめ課題提示
第 30 回	人生の向こう側 がん闘病記等を通して、命の終わりに向かいあう人から学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・人生初期から終末期に至るまで長期間の発達を扱う。人の生涯全般に興味を持ち、人生そのものを深く考える姿勢を求める。
- ・各発達段階の講義終了時などに、「まとめ課題」「調べ課題」など、ミニレポートの提出を求める予定。

〔受講のルール〕

- ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為 (私語等) や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。
- ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シヤトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)

その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、A4 用紙に簡潔にまとめておくこと (長くとも裏表 1 枚以内)。授業終了時にシヤトルカードとともに提出したものを評価に加える。

■オフィスアワー

木曜 9 時～11 時

■評価方法

①事前用語学習 (10%) (15 枚以上を対象。15 枚～20 枚=5 点。21 枚～30 枚=10 点)、②授業時に課す「まとめ」もしくは「調べ」課題 (30%、30 点)、③学期末筆記試験 (前期分 30%、後期分 30%) (60 点分) 総合評価は①～③を総合的に評価する。

■教科書

高橋一公・中川佳子編著 (2014) 『生涯発達心理学 15 講』 (北大路書房)

■参考書

松島恭子『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』 (創元社、2004) その他適宜指示をする。

科目名	保育の心理学I	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	保育の心理学II 受講予定者は受講すること	免許等指定科目	幼保小免許必修		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「専門科目」児童福祉コース1年次必修、初等教育コース1年次必修科目			
キーワード	発達段階、愛着、知覚・認知、社会性、言語、身体・運動機能、ライフサイクル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもは誕生した瞬間から、大人のあり方に向かって一定の法則に従って発達の過程を幅広い視点から学ぶことで、子どもらしい心の特性とその変化の過程を多角的に理解する視点を培う。そして、保育者として子どもやその行動、問題について発達の意義を理解し、保護者などに助言できる力を養う。

〔到達目標〕

- ①人の発達の過程を理解できる。
- ②各発達段階における人の心理的特性を理解できる。
- ③保育者として子どもに実際に関わる場面での基本的な視点をつかむ。

■授業の概要

主に子どもの発達の様相について、発達心理学で明らかになっていることを中心に幅広く学習する。1回の授業につき教科書1章分で扱われているテーマについて学習をする。教科書に書かれていることはもちろん、それに関連するトピックや実際の事例なども挙げながら、できる限り、学生自身が課題について考えられる授業を目指すので、積極的な受講姿勢を望む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション：こどもの発達の理解とその意義、子どもの成長と発達のイメージ
第2回	保育実践の評価と心理学：保育の何を、どう評価する？見える力、見えない力
第3回	発達観、子ども観と保育観：子どもの発見、発達の理論をもとう（「子どもはどのようにして力を伸ばすのか？」）
第4回	子どもの発達と環境：ピアジェと発達の認識論、ヴィゴツキーの文化的・一歴史的発達論、Bronfenbrennerの生態学的モデル、最大の教育環境としての人
第5回	感情の発達と自我：感情の機能、親子関係と感情と自我の発達、ソーシャルスキル
第6回	身体的機能と運動機能の発達：スキヤモンの発育曲線、反射と行動、幼児期の運動指導、運動知的能力の関係
第7回	知覚と認知の発達：新生児の知覚、ピアジェ理論から見た子どもの認知する世界、幼児期の認知と世界観、幼児の記憶と時間
第8回	言葉の発達と社会性：言葉のはたらき、言葉の発達の順序、三項関係、一次的ことば、二次的ことば
第9回	基本的信頼感の獲得：エリクソンとエピジェネティック・チャート、愛着（アタッチメント）と愛着形成の問題
第10回	他者とのかかわり：情動伝染、共鳴動作、共同注意、社会的参照、ごっこ遊びと向社会的行動
第11回	社会的相互作用：仲間関係の発達、ソーシャルスキルの習得方法、SST
第12回	生涯発達と発動援助：ハヴィガーストの発達課題、生涯発達を見ずえた援助を考える
第13回	胎児期および新生児期の発達：発生学、早産、新生児の健康状態評価、重度の障害を負って生きること
第14回	乳幼児期の発達：言葉の発達から見た乳児と幼児、パーテンの社会的参加の分類、臨界期と敏感期、遊びと早期教育
第15回	学童期以降の発達：小学校との接続、小1プロブレム、中1ギャップ（学校の彼方）の姿を思い描くために（ユングのライフサイクル論）、“人生という長い尺度”をもとう

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業で紹介する図書、物語、絵本、映画などに積極的に触れ、子どもに関する豊かな知識や教養を広げていく姿勢を持つこと。
- ・授業回数によって適宜調べ学習の課題を課す予定。提出物は評価対象になるので、必ず出すこと。

■オフィスアワー

授業後 30 分。

■評価方法

- ①授業時に課す課題（小レポート等）（30%） ②学期末試験（70%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

杉村伸一郎・白川佳子、清水益治 編『基本保育シリーズ8 保育の心理学I』中央法規 2015年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	心理統計学(心理学統計法)	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (A. 心理学基礎科目, ⑤心理学統計法)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計学、心理学研究法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義は、心理学データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の精神活動や行動に関する情報を統計学的根拠に則して読みとくことができる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に統計処理を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 心理学研究の基礎としての統計学
第2回	統計学の初歩Ⅰ 「統計をとる」ことの意義
第3回	統計学の初歩Ⅱ 変数と尺度、シグマ(Σ)記号の意味
第4回	度数分布Ⅰ 質的変数の度数分布
第5回	度数分布Ⅱ 量的変数の度数分布
第6回	基本統計量Ⅰ 代表値(平均値、中央値、最頻値)
第7回	基本統計量Ⅱ 散布度(分散、標準偏差)
第8回	基本統計量Ⅲ 分布型(歪度、尖度、正規性)
第9回	基本統計量Ⅳ 標準正規分布の使い方
第10回	相関と回帰Ⅰ 散布図、相関関係の理解
第11回	相関と回帰Ⅱ ピアソンの積率相関係数
第12回	相関と回帰Ⅲ 相関行列、多変数間の相関分析
第13回	相関と回帰Ⅳ 回帰分析
第14回	相関と回帰Ⅴ 回帰分析の応用(重回帰分析)
第15回	前期の総括
第16回	統計的検定Ⅰ 母集団と標本

第 17 回	統計的検定Ⅱ 統計的検定の考え方
第 18 回	カイ 2 乗検定Ⅰ ピアソンの適合度の検定
第 19 回	カイ 2 乗検定Ⅱ ピアソンの独立性の検定
第 20 回	t 検定Ⅰ 対応のある標本の平均値の差の検定
第 21 回	t 検定Ⅱ 独立 2 標本の平均値の差の検定
第 22 回	t 検定Ⅲ ウェルチの方法による平均値の差の検定
第 23 回	分散分析Ⅰ 分散分析の考え方
第 24 回	分散分析Ⅱ 一元配置の分散分析
第 25 回	分散分析Ⅲ 多重比較検定
第 26 回	その他の検定 中央値の検定 ほか
第 27 回	統計的検定をめぐる諸問題 その限界と適用上の留意点
第 28 回	多変量解析の概説Ⅰ 因子分析
第 29 回	多変量解析の概説Ⅱ クラスタ分析
第 30 回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分な学習意欲・態度をもって臨んでください。また、受講に際しては必ず恒常的に出席してください。なお、欠席した場合は別途、授業外課題に取り組んで頂きます。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 (質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合もあり。)

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果 (80%) と平常点 (20%) (宿題、演習課題) で総合評価を行います。演習課題は全て提出することが原則です。

■教科書

松田文子・三宅幹子・橋本優花里 (著) 「わかって楽しい心理統計法入門 Ver.2」北大路書房, 2012 年。

■参考書

適宜紹介。

科目名	老人心理学	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	高齢期、高齢期の発達課題、認知症			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢者について、加齢が及ぼす様々な心理的影響について理解し、それを踏まえた上で、高齢者の心理的側面への対応について考えることができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢期における様々な心理的特性について、理解できる。
- ②高齢期の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理への対応について考察する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 老化とその心理的影響 ⇒ 高齢者への対応」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 高齢者とは
第2回	発達心理学の方法と考え方
第3回	老化のとらえ方、老いの自覚
第4回	高齢者の感覚と知覚
第5回	高齢者の身体機能
第6回	高齢者の知的機能とその特徴
第7回	高齢者の記憶機能とその特徴(記憶プロセスにおける加齢の影響)
第8回	高齢者の記憶機能とその特徴(様々な記憶能力における加齢の影響)
第9回	高齢者のパーソナリティの特徴とその変容
第10回	高齢者の社会関係
第11回	高齢者と死の受容と生きがいについて
第12回	高齢期の精神医学的特徴
第13回	認知症
第14回	認知症高齢者と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「福祉心理学」、「発達心理学a」、「心理学理論と心理的支援」を受講済みであることがのぞましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入らないこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。
- ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤眞一・高山緑・増本康平著 『老いのこころ 加齢と成熟の発達心理学』 有斐閣アルマ 2014年

■参考書

佐藤眞一 著 『ご老人は謎だらけ 老年行動学が解き明かす』 光文社新書 2011
権藤恭之 編 『高齢者心理学』 朝倉書店 2008年

科目名	障害児(者)心理学	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	福祉心理学、心理学理論と心理的支援が受講済であることが望ましい	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目、 ⑬障害者(児)心理学、高校(福祉)必修)	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	障がい特性、障がいの受容、家族支援			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義では、障がい者(児)の心理的特性について学びながら、「人間の成長発達と心理的理解⇒障がいとその心理的影響⇒障がい者への対応」という道筋で、障がい者(児)への心理面の援助アプローチについても考えることができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 色々な障がいの様々な心理的特性について、理解できる。
- ② 障がいを抱えている方の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

人間の成長発達と心理的理解を礎として、障がいをもつこととそのことによる心理的影響を理解した上で、障がい者(児)への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、障がいとは何か、障がいの及ぼす影響
第2回	障がいのとらえ方
第3回	視覚障がいと心理的特性
第4回	聴覚障がいと心理的特性
第5回	運動障がいと心理的特性
第6回	知的障がいと心理的特性
第7回	発達障がいと心理的特性(自閉症)
第8回	発達障がいと心理的特性(学習障がい)
第9回	発達障がいと心理的特性(ADHD)
第10回	病弱児・者の理解と心理的援助
第11回	その他の障がいと心理的特徴(情緒障がい、精神障がい)
第12回	障がい者のおかれている環境と心理的援助について
第13回	障がいの受容
第14回	障がいの受容と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ 予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・ 各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・ 授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・ 他の受講生の迷惑になる行為(私語など)はしないこと。
- ・ 授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ① 授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ② 学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

田中新正・古賀精治(編著) 『新訂 障害児・障害者心理学特論』 放送大学教育振興会(2013)

■参考書

和田和弘・福屋靖子(編) 『障害者の心理と援助』 メヂカルフレンド社(1997)

科目名	教育心理学(教育・学校心理学)	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	福祉心理コース1年次必修科目、社会福祉・初等教育コース1年次選択科目	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ⑩教育・学校心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「専門科目」			
キーワード	レディネス、動機、認知、記憶、学習理論、知能、教授法、他				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人と人の間に生じる、「教える」ことと「学ぶ」ことに関する教育心理学の基礎的な知見を理解を深め、よりよい教育の成立に必要な物事やあり方について解説をしていく。また、学生自身の体験も掘り起こしながら、参加者と共に理解を深める演習やグループワークも行う。これらの学習活動を通し、教育に関して起こり得る諸問題について、適切な支援のあり方を考えることができるようになるため、必要な考え方や視点についても話し合いながら学習を進める。

〔到達目標〕

- ①発達段階や個人差を前提にした教育のあり方を理解する。
- ②学校を中心とした発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。
- ③学習方法や指導や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて、説明できる。

■授業の概要

教科書に基づきながら、「教える」ことや「学ぶ」ことに関する教育心理学の基礎的な知見を理解を深め、よりよい教育の成立に必要な物事やあり方について解説をしていく。また、学生自身の体験も掘り起こしながら、参加者と共に理解を深める演習やグループワークも行う。これらの学習活動を通し、教育に関して起こり得る諸問題について、適切な支援のあり方を考えることができるようになるため、必要な考え方や視点についても話し合いながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	教育心理学の考え方(2-15頁) 自分が受けた教育について考える(ワーク)、教育と心理、学習(learning)、ペダゴジーとエデュケーション、ゲゼル、レディネスと成熟、ヴィゴツキー、発達の最近接領域
第2回	学びの場とその移行(16-33頁) しつけ、社会化、遊びと社会的スキル、パーテン、小学校、中学校、塾と学校、進路選択
第3回	学びの理解①学びの意欲(34-45頁) 強化、内発的動機とコンピテンス、原因帰属、学習性無力感、自己効力感
第4回	学びの理解②学びのしくみ(46-53頁) 記憶のメカニズムとメタ記憶、ネットワーク理論、作業記憶、メタ認知と学習
第5回	学びの理解②学びのしくみ(2)(54-59頁) 問題解決、良定義、不良定義、領域固有性、学習の転移
第6回	学びの理解②学びのしくみ(3)(9歳の壁:具体から抽象へ(60-67頁) 有意味学習、分散認知、一斉授業と共同学習
第7回	学びの理解③学びの諸相(68-77頁) リテラシー、文章産出、計数、初期算数
第8回	学びの支援:主体的な学びの授業(90-95頁) ブルーナー、発見学習、有意味受容学習、先行オーガナイザー、仮説実験授業、板倉聖宣
第9回	学びの支援:主体的な学びの授業(2)(96-99頁) 共同学習、バズ学習、ジグソー学習、LTD話し合い学習法、プロジェクト学習
第10回	学びの支援:個に応じた学びの援助(102) プログラム学習、ティーチングマシン、完全習得学習、形成的評価、習熟度別学習と小集団学習、適性処遇交互作用
第11回	知能と知能検査(112-117頁) 知能検査の誕生、知能指数、知能偏差値、IQとEQ、ヘッドスタート計画、創造性
第12回	適応の理解と支援①自立と社会性の学び(122-131頁) 仲間関係の発達、性意識と性役割、部活動、道徳性と向社会的行動、コールバーグ理論
第13回	自我同一性の確立の課題:保健室に来る子どもたち(配布プリント) 参照(132-136頁)
第14回	学級集団とその構造:集団としての子ども(136-172頁)(長い範囲の要点のみ解説) ビグマリオン効果、ローゼンタール、いじめ、不登校、摂食障害、非行、学習障害、インテグレーションとインクルージョン
第15回	学力と評価、教師のピリーフ(174-199頁) 学力低下論争、指導と評価、評価の種類、ルーブリック、反省的実践家を目指して

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。
- ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。

〔受講のルール〕

- ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語等)や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。
- ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、A4用紙に簡潔にまとめておくこと(長くとも裏表1枚以内)。授業終了時にシャトルカードとともに提出したものを評価に加える。

■オフィスアワー

火曜 9時～11時

■評価方法

- ①事前用語学習(10%)(15枚以上を対象。15枚～20枚=5点。21枚～30枚=10点)、②授業時に課す「まとめ」もしくは「調べ」課題(30%)(30点)、③学期末筆記試験(60%)(60点分) 総合評価は ①～③を総合的に評価する。

■教科書

中澤 潤編『よくわかる教育心理学』(ミネルヴァ書房、2008)

■参考書

西森純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』(ナカニシヤ出版、2006)他 適宜指示をする。

科目名	保育の心理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	保育の心理学Ⅰを受講していることが望ましい。	免許等指定科目	認定心理士、中・高、保幼小免許必修		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「専門科目」 学校教育コース1年次必修、初等教育コース1年次選択科目			
キーワード	発達の最近接領域、遊びと学び、アフオーダンス、集団の教育力、生きる力、幼保小連携				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育に携わる者として必要とされる力や感性を理解し、実際に保育園等で出会う種々の出来事に対応する知識と力量および感性を磨くことを目的とする。特に、様々な問題に対して、子どもや保護者の心の理解を前提にして対処できるよう、必要な心理学の知識も学び、保育者としての対応力を高めていく。

〔到達目標〕

- ①発達や個人差に応じ、最適な対応のあり方を導き出せる。
- ②親や友達などの人間関係や生活環境とのかかわりによる影響を理解し、育ち合えるよい環境について考えることができる。
- ③子どもの感覚や認知の特徴を理解し、学びや遊びを支援し引き出すうえで必要な心理学の知識を理解できる。
- ④現代社会の特性と子どもの中の生きる力を引き出す関わりや支援について具体的な方法を描くことができる。

■授業の概要

教科書に基づき、様々なテーマに関して基本的な知識をまず学習する。そして、発展的な問題として何らかの事例を提示し、何が理解と支援のポイントになるかを考えながら授業を行っていく。毎回演習課題を設定し、全員で考え、それを共有しながら、保育者として子どもや保護者の力になるために何を考え何をすべきかを学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	子ども理解における発達の把握
第2回	個人差や発達過程に応じた保育
第3回	身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
第4回	環境としての保育者と子どもの発達
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり
第6回	子ども集団と保育の環境
第7回	子どもの生活と学び
第8回	子どもの遊びと学び
第9回	基本的な生活習慣の獲得
第10回	自己主張と自己抑制
第11回	主体性の形成
第12回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う
第13回	発達と学びの連続性と就学支援
第14回	発達援助における協働
第15回	現代社会における子どもの発達と保育の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。
- ・5回ごとをめぐりに「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。

〔受講のルール〕

- ・授業では、遅刻、居眠り、情報通信機器の操作などはせず、集中して受講すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）はしないこと。講義の妨げになる場合は退出を命ずることもありうる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回考えるテーマを決めて授業を行うので、授業後、授業内のテーマに関係する教育や心理学の図書、絵本、児童文学、映画などを探し報告する課題に取り組むこと。探したものは、報告用紙に簡潔にまとめて、次回の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

金曜 9時～12時

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点満点:提出により得点))

■教科書

児童育成協会監修 『保育の心理学Ⅱ基本保育シリーズ⑨』（中央法規出版、2015）

■参考書

井戸ゆかり編著 『保育の心理学Ⅱ:演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』（萌文書林、2012）

科目名	認知心理学 (知覚・認知心理学)	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学実践科目, ⑦知覚・認知心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 (3年生)			
キーワード	知覚、注意、記憶、言語				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

知覚・認知心理学の知識を習得するとともに、その活用について思考をめぐらせることができること。

〔到達目標〕

社会福祉の場面において、その知識をどう活用できるか吟味する能力を得ること。

■授業の概要

知覚・認知心理学は、感覚や感情、思考や記憶、理解や推論といった人間の知覚・認知活動について研究する幅広い学問である。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究、臨床的事例を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介する

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	認知心理学の誕生と変貌——認知革命
第2回	認知心理学の誕生と変貌——情報工学から機能的生物学へ
第3回	知覚の基礎——環境とのファーストコンタクト 臨床事例を通じて
第4回	知覚の基礎——生態とのかかわり
第5回	高次の知覚——見ることから理解することへ
第6回	高次の知覚——知覚の統合
第7回	注意——情報の選択と資源の集中
第8回	注意——注意のモデルの紹介
第9回	記憶——過去・現在・未来の自己をつなぐ
第10回	記憶——臨床事例を通じて
第11回	言語——成長する心の辞書システム
第12回	言語——言語構造は認知に影響を与えるか
第13回	問題解決と推論——普遍性と領域固有性の間で
第14回	問題解決と推論——意思決定、集合知
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内小テスト50%、授業内コメントや発言20%、到達テスト30%。

■教科書

道又 爾・北崎 充晃・大久保 街亜・今井 久登・山川 恵子・黒沢 学 (2011) 認知心理学 - 知のアーキテクチャを探る 新版
有斐閣アルマ

■参考書

適宜指示する。

科目名	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	社会福祉学科における3年次選択科目 ※児童福祉・初等教育コースを除く	免許等指定科目	公認心理師学部科目(B.心理学発展科目、⑪社会・集団・家族心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「専門科目」			
キーワード	自己意識、社会的比較、印象形成、態度、ヒューリスティックス、社会的アイデンティティ他				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人の心の諸相について、社会との関係を軸にしてとらえる社会・集団・家族心理学の視点を学習する。それにより、個人が他者との関係においてよりよい関係づくりができるようにするためには何が必要かについて理解を深めることを目指す。また、人が集まって作られている社会現象そのものを深く理解するための社会心理学の知識や用語について学んでいく。

〔到達目標〕

- ①人間心理について、社会との関係性から理解する視点を獲得。
- ②よりよい人間関係を阻害したり促進する要因について理解をし、よりよい関係づくりのために必要なことについて考えることができる
- ③社会現象を理解するための社会心理学の視点を学ぶことで、集団間の対立を越えるために必要なことについて考えることができる。

■授業の概要

人は社会に生まれ育ち、社会的存在として発達を遂げる。そのプロセスの解説を土台としながら、社会状況に大きく影響を受ける人間心理に注目し、個として現われる人間心理とは異なる、社会的な心理現象を学習していく。特に、社会的状況下で変化する人の心理や行動を中心にとりあげ、そこに見られる一定の法則性や傾向について考察をしていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、社会的認知①:ヒューリスティック処理、システムティック処理、代表性ヒューリスティック 他
第2回	社会的認知②:ステレオタイプ、印象形成、原因帰属、アクセシビリティ効果 他
第3回	感情:顔面フィードバック説、気分一致効果、感情ネットワークモデル 他
第4回	態度と説得:認知的均衡理論、認知的不協和理論、単純接触効果、説得の理論 他
第5回	自己の成り立ち①:家族システム、親との同一化、主我・客我、自己概念、社会的アイデンティティ、自己スキーマ 他
第6回	自己の成り立ち②:自己高揚動機、ポジティブ・イリュージョン、セルフサービング・バイアス、社会的比較 他
第7回	公正さに関わる問題:最後通告ゲーム、衡平理論、公正世界理論、被害者を非難する心理 等
第8回	対人行動① 援助行動:傍観者効果、援助成果、援助要請 他
第9回	対人行動② 攻撃行動:攻撃行動の種類、モデリングとメディアバイオレンス 他
第10回	対人関係:対人魅力、SVR理論、恋愛の色彩理論、インターネット・パラドックス 他
第11回	受容と排斥:ソーシャル・サポート、ソシオメーター、社会的排斥 他
第12回	集団の中の個人①:家族集団の特質、社会的アイデンティティ、内集団ひいき、自己カテゴリー化理論 他
第13回	集団の中の個人②:リングルマン効果、社会的手抜き、フリーライド、集団意思決定、集団思考 他
第14回	集団間関係①:集団間バイアス、自民族中心主義、外集団同質視、究極の帰属エラー 他
第15回	集団間関係②:集団間接触、共通内集団アイデンティティモデル、集団的記憶、和解

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用等)は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。
- ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

多くの用語が出てくるので、概要に基づき教科書中の該当部分を予習し用語調べをしてノートなどに記録しておくこと。授業の最初に数名を指名し、確認をする。

■オフィスアワー

水曜 16:00～18:00

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%(30÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点満点:提出により得点))

■教科書

脇本竜太郎編著『基礎からまなぶ社会心理学』(サイエンス社、2014)

■参考書

小川一夫監修、吉森 護・市河 淳章他(編)『社会心理学用語辞典』(北大路書房、1995) 他 適宜指示をする。

科目名	臨床心理学（臨床心理学概論）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	心理学理論と心理的支援が履修済であること	免許等指定科目	公認心理師学部科目（A. 心理学基礎科目，③臨床心理学概論）		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	異常心理学、ストレッサーとストレス反応、心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として、こころの病理・失調、心理アセスメント、心理療法に関する概要（歴史となりたち、概念、意義、適応及び限界）、その知識を有する者としての社会的責任に関する知識を習得すること。

〔到達目標〕

- ①こころの異常／失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの理論的枠組みについて説明できるようになること。
- ②心理アセスメントの目的と意義、代表的な手法の種類と特徴と適応に関する基礎的な内容について説明できるようになること。
- ③代表的な心理療法のなりたちと概要、特徴的な技法、効果と限界／課題について説明できるようになること。

■授業の概要

臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格の成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調／異常」を抱える人への適切な対応／他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、そのなりたちや実践との関連を紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、異常心理学（1）こころの異常・失調をどのように捉えるか
第2回	臨床心理学のなりたちと展開（1）
第3回	異常心理学（2）ストレッサーとストレス反応、対処方略
第4回	〃 （3）発達障害と二次障害
第5回	心理療法（1）精神分析／力動論的アプローチ①理論的背景
第6回	〃 ②防衛機制と心理・性的発達段階
第7回	心理療法（2）行動療法／行動論的アプローチ
第8回	〃 （3）来談者中心療法／ヒューマンスティック・アプローチ
第9回	〃 （4）家族療法／システムズ・アプローチ
第10回	心理アセスメント（1）面接法
第11回	〃 （2）観察法
第12回	〃 （3）検査法
第13回	臨床心理学のなりたちと展開（2）専門性と社会的連携
第14回	〃 （3）各領域における実践の特徴
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・子ども専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には事前に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

金曜17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

レポート課題の提出：25%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価：35%、定期試験：40%（詳細は初回講義時に説明）。

■教科書

下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕 ミネルヴァ書房（2009） [注]第11版以降を購入すること

■参考書

授業テーマや課題に応じて各回で適宜紹介。

科目名	臨床心理学（子ども専攻）	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	心理学理論と心理的支援が履修済であること	免許等指定科目	保育士		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	発達の遅れ/偏り、発達障害、ストレスサーとストレス反応、心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をはじめとした子どもに対する援助職に求められる臨床心理学の基礎的知識の習得を目指す。特に、これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①子どものこころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになること。
- ②子どもに対する心理査定の方法とその意義に関する基礎的な内容について説明できるようになること。
- ③代表的な子どもに対する心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになること。

■授業の概要

臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格の成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、そのなりたちや実践との関連を紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、こころの異常・失調（1）発達の遅れと偏り
第2回	こころの異常・失調（2）困りごとを捉える4つの基準
第3回	（3）ストレスサーとストレス反応、対処方略
第4回	（4）発達の偏り①自閉的な子/不注意な子/多動な子とは
第5回	（5） ②学習指導上の困難さ
第6回	（6）正常発達の中で見られる異常/困りごと
第7回	心理療法の理論（1）精神分析的なアプローチ
第8回	（2）行動療法的なアプローチ①理論的背景とその技法
第9回	（3） ②保育場面/教育場面での応用
第10回	心理査定（1）面接法
第11回	心理療法の理論（4）カウンセリングと遊戯療法
第12回	心理査定（2）観察法
第13回	こころの異常・失調（7）愛着の問題に関連した異常/困りごと
第14回	心理査定（3）検査法
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・社会福祉専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には事前に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

金曜 17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

レポート課題の提出:35%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価:35%、定期試験:40%（詳細は初回講義時に説明）

■教科書

山口勝己（著）「子ども理解と発達臨床」北大路書房（2007）

■参考書

麻生 武・浜田寿美男（編）よくわかる発達臨床心理学〔第4版〕 ミネルヴァ書房（2012）

科目名	カウンセリング（心理実習）	担当教員 (単位認定者)	大島由之・植原美智子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	心理学理論と心理的支援、臨床心理学（社会福祉専攻）が履修済であること。	免許等指定科目	公認心理師学部科目(C. 実習実践科目、 ②④心理演習)、高校（福祉）選択		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	傾聴技法、活動技法、フィードバック面接、守秘義務				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職の援助技法としてのコミュニケーション、カウンセリング技法やアセスメント結果や支援計画の伝達等について、その基本的技能と研鑽の方法について具体的な場面を想定したロールプレイを通じて理解し、一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。

〔到達目標〕

- ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。
- ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。
- ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し、その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。

■授業の概要

対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり、受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、対人援助場面におけるコミュニケーションとは
第2回	ロールプレイを用いた演習の意義と方法
第3回	傾聴技法（1）明確化・感情反映
第4回	〃 （2）言い換え・要約
第5回	活動技法（1）探索
第6回	〃 （2）情報提供と自己開示
第7回	困りごと・問題を定義づける技法
第8回	対人援助場面における観察技法
第9回	伝える技法（1）必要なことを伝える（自己紹介、守秘義務、インフォームドコンセント）
第10回	〃 （2）分かったことを伝える（アセスメント結果等）
第11回	〃 （3）これからのことを伝える（支援計画と同意）
第12回	自分の対人援助技法を振り返る方法（1）これまでのロールプレイを振り返る
第13回	〃 （2）録画や録音を用いた振り返り
第14回	福祉、保健医療、教育等の分野におけるチームアプローチを考える
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため、遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・ロールプレイや模擬面接を録画したVTRの保管が必要となるため、指示に応じてUSBメモリー等を持参すること。
- ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため、授業内の指示やシラバスの記載に留意すること。

■オフィスアワー

金曜17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

レポート課題の提出：35%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価：65%（詳細は初回講義時に説明）。

■教科書

大谷 彰（著）カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）。

■参考書

氏原 寛・藤田博康（著）ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）。
 竹内健児（著）事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版（2009）。

科目名	青年心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	社会福祉学科における2年次選択科目 ※児童福祉・初等教育コースを除く	免許等指定科目	免許等指定なし		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アイデンティティ、第二次性徴、自我体験、自立、恋愛、道徳性、死生観、就職、死と再生				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を獲得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①子どもとおとなの間にある、そのどちらでもない数年間のあり方が、いかにその他の人生の時期とつながっているのかを理解する。
- ②青年期に何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのかについて、アイデンティティ概念を手掛かりに深く捉えられる。
- ③青年期に意識されてくる心理的なテーマについて、「問い」の形で整理しながら、それらがもつ人生上の意味を理解し説明できる。

■授業の概要

教科書に沿って、一回につき1章分のテーマをとりあげ、青年心理学の基礎用語や知識を解説する。毎回の授業で、テーマに沿った「問い」の場を想定し、思考実験や互いの考えを出し合い共有するような課題を設定する。また、事例の考察などを通してテーマに関する青年心理の理解を深める努力をしていく。以上のように、毎回の授業において、自分自身の中にある青年心理について省察しながら授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション:授業の目的・進め方等について、大学生が考える「青年らしさ」
第2回	アイデンティティ:自我とその親和性、アイデンティティ・クエスト、マーシャのアイデンティティ地位モデル
第3回	身体の発達:からだどころ、第二次性徴、発達加速現象、ジェンダー・アイデンティティについて
第4回	青年の自立:家族との関係、第二反抗期、青年期平穩説、心理的離乳 等
第5回	友人関係の発達:友人関係の昨日、チャムシップ
第6回	恋愛・結婚:ルービン、リーの恋愛類型、SVR理論、対象愛と自己愛
第7回	道徳性の発達:道徳性の源泉、ハインツのジレンマ、コールバーグの道徳性の発達段階説
第8回	青年の死生観:思考実験、DAS、自殺、死と再生
第9回	青年期と精神疾患:アイデンティティ拡散、統合失調症、境界性人格障害、自傷行為 他
第10回	生きがい感とアイデンティティ:自己探索欲求、役割実験、自分探し、アイデンティティ・ゲーム
第11回	青年が語る青年期:インタビュー課題のために
第12回	青年と文化:大学生論とその変化に注目して
第13回	ロストジェネレーションから青年期を考える:働くことと青年、ワーキング・プア、ウィーク・タイズ、ストロング・タイズ
第14回	物語を通して見る青年の人格の変容:教養小説、自己の相対化、自我体験
第15回	青年と危機 そして、その向こう側へ:患者性(エリクソン)、歴史的アイデンティティ、青年と夢

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・特に資格に関わる科目ではないが、青年期をリアルタイムで生きる大学生には積極的に受講をしてもらいたい。
- ・知識を覚えるというより、それを自己や他者の理解に「応用」し考える問いを多く発する授業を行う。したがって、そうした問いに対して誠実に答え、考える姿勢を授業で求める。このような自己省察が耐えがたいと感じる学生は受講しないこと。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。
- ・評価にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

青年が主人公の物語、映画等を探索して3作品を目標に把握しておくこと。授業内でテーマに即して発表を求めることがある。授業後、テーマに関連した事件、出来事、物語、映画などがなければ探し、授業内容と関連することを発見した場合にシャトルカードにて報告することにより、1回1点のボーナス得点を与える。

■オフィスアワー

水曜日 9:00～11:30

■評価方法

〈総合評価〉総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S で評価。
 〈評価割合〉期末レポート試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%(30点÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点))

■教科書

宮下一博監修・松島公望・橋本広信編著『ようこそ!青年心理学』(ナカニシヤ出版、2009)

■参考書

藤森旭人『小説・漫画・映画・音楽から学ぶ児童・青年期のこころの理解—精神力動的な視点から』(ミネルヴァ書房、2016) 他 適宜指示

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会を踏まえて健康を築こう				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職（又は医療専門職）としての各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べるができる。

〔到達目標〕

将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。

■授業の概要

社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション	公衆衛生学概論 公衆衛生学の目的・範囲等	教科書・オリジナルプリントに筆記した内容を整理し予習復習すること
第2回	保健統計	公衆衛生学における人口問題 人口動態・人口動態・生命表	〃
第3回	衛生行政	機構・業務等及び地域保健・保健活動	〃
第4回	社会保障制度	概念・医療保障・医療供給システム	〃
第5回	環境衛生	大気・住居・振動・衣服・飲料水・産業廃棄物・公害等	〃
第6回	国民栄養と食品衛生	栄養学・食品衛生・食中毒	〃
第7回	母子保健	意義・歴史的背景・現状・出生率・母性保護	〃
第8回	成人保健・高齢者保健	成人病・高齢化社会・高齢者保健	〃
第9回	学校保健	目標・目的・内容・発育・保健管理・学校給食・衛生教育・学校体育	〃
第10回	産業衛生	作業環境・労働時間と形態・職業病・産業災害	〃
第11回	(1)疫学と感染症	(2)優生学と精神衛生 感染症 伝染病 遺伝・精神障害	〃
第12回	医療福祉コミュニケーション	医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション	〃
第13回	医療福祉危機管理	医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法	〃
第14回	口腔ケア	口腔ケア・オーラルリハビリテーション	〃
第15回	総括	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみならず依存する事なく、口述・板書した内容は、必ず教科書又は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。

講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。

教科書・オリジナルプリントは書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

〔受講のルール〕

初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分

■評価方法

定期試験（80%）、その他オリジナルプリントへの書き込み状況やノートの点検（20%）。

■教科書

『シンプル衛生公衆衛生学』最新版 南江堂 15-6・8・12・13・14・15 に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理療法（心理学的支援法）	担当教員 (単位認定者)	植原 美智子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	心理学理論と心理的支援、臨床心理学 (臨床心理学概論)が履修済であること。	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展 科目, ⑮心理学的支援法)		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	力動的アプローチ、行動的アプローチ、認知的アプローチ、ヒューマニスティック・アプローチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理療法並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を理解し、事例への適用について考察することができるようになること。

〔到達目標〕

- ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用、その限界について説明できるようになること。
- ②福祉、保健医療、教育等の領域における訪問による心理的支援や地域での実践の意義について説明できるようになること。
- ③心理学的支援における留意点や倫理的配慮を想定できるようになること。

■授業の概要

心理療法は、臨床心理学の知見を応用した心理的支援の技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴が存在する。本講義では「心理的支援が実施できるようになること」ではなく、これまでの講義で学んできた「心理的支援に関する理解」を深め、対人援助職を目指す／対人援助職として活躍する中で、その知識を活用できるようになることを目指す。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、心理療法とカウンセリングの歴史
第2回	基礎となる3つの考え方(1)精神分析療法/力動的アプローチ
第3回	“(2)行動療法/行動的アプローチ
第4回	“(3)来談者中心療法/ヒューマニスティック・アプローチ
第5回	エビデンスを重視する心理療法:認知療法と認知行動療法
第6回	個人ではなくシステムに働きかける心理療法(1)家族療法/システムズ・アプローチ
第7回	“(2)アウトリーチとコミュニティ心理学
第8回	日本独自の心理療法:森田療法、内観療法
第9回	『ことば』に頼らない心理療法(1)遊戯療法
第10回	“(2)表現療法・箱庭療法・コラージュ療法
第11回	技法に特徴を持つ心理療法(1)ブリーフセラピー/短期療法
第12回	“(2)EMDRによるトラウマの治療
第13回	集団に対する心理的支援:エンカウンター、心理教育、SST
第14回	福祉、保健医療、教育等の分野における心理的支援の実際
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

各回の冒頭に、前回紹介した心理的支援に関する豆テストを実施するため、授業内の指示に沿って準備を行うこと。

■オフィスアワー

金曜 17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

授業内課題の提出:25%、課題内容の評価:35%、豆テスト:40%(詳細は初回講義時に説明)。

■教科書

下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学 [改訂新版] ミネルヴァ書房(2009) [注]第11版以降を購入すること。

■参考書

乾 吉佑ら(編) 心理療法ハンドブック 創元社(2005)。

科目名	人間関係論（産業・組織心理学）	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ⑳産業・組織心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	動機づけ、人事評価、適性、リーダーシップ、組織論				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見を理解する。
〔到達目標〕
産業・組織心理学の基本的な知識・技法を理解・習得する。
自律型キャリア形成についてのプロセスを理解する。

■授業の概要

本講義では、職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見について解説する。そこでは、ときに動機づけ（モチベーション）、リーダーシップ、人事評価、安全衛生管理とストレス、キャリア形成、組織論、広告、自律型キャリア形成といった概念について紹介していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業ガイダンス イン트로ダクション・仕事への動機づけ
第2回	動機づけとは(歴史的背景、内容理論、職務満足、過程理論)
第3回	人事評価制度(人的資源管理と人事評価、人事評価)
第4回	人事評価制度(教育訓練、職務システム、報酬システム)
第5回	職場の人間関係と意思決定(集団での課題遂行、組織における意思決定)
第6回	職場の人間関係と意思決定(不機嫌な職場)
第7回	職場の人間関係と意思決定(キャリア発達・キャリア形成)
第8回	職場集団におけるリーダーシップ
第9回	職場のストレスとサポート(ストレスとは)
第10回	職場のストレスとサポート(ストレスの原因と結果、職場におけるサポート)
第11回	組織における協力と葛藤(職種間葛藤)
第12回	組織における協力と葛藤(フリーライド問題)
第13回	売り手と買い手の心理学(要請技法と悪徳商法、消費者調査とその分析)
第14回	売り手と買い手の心理学(広告効果と広告情報処理、さまざまな広告)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内小テスト50%、授業内コメントや発言20%、到達テスト30%。

■教科書

田中 堅一郎(編) 産業・組織心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版 2011

■参考書

講義に際に適宜指定する。

科目名	国際福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡田 修一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉の国際比較、世界各国の社会と福祉、国際社会福祉、国際ボランティア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

世界各国の福祉を検証するとともに国際社会福祉を理解して、国際的な視野・知見を、福祉・介護・保健・教育・保育・行政の現場で活かせるようにする。

〔到達目標〕

- ①国際社会福祉の意義と活動を理解できる。
- ②世界各国の福祉の知見を仕事・実務に活かすことができる。
- ③社会福祉士試験対策や国際社会理解についての知識・情報を得ることができる。
- ④グローバルな視点で現代社会を多面的に分析できる。
- ⑤コミュニケーション能力・表現力・文章力を高められる。

■授業の概要

国際社会福祉論及び世界各国の福祉について講義を行う。社会福祉士試験対策や国際理解について特別講義・実践報告をする。授業は、社会情報学・都市地理学・地域政策学をベースとし、世界の思想史・法制度・経済・生活文化などから、解りやすく行う。学生個人及びグループで発表を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（自己紹介・授業の進め方）	国際社会福祉とは
第2回	国際社会福祉の位置づけ・沿革・課題	
第3回	国際社会における支援活動 I. 国際社会における展開	
第4回	国際社会における支援活動 II. 国内・在外社会における展開	
第5回	社会福祉の国際比較（個人・グループ発表）	アメリカ、スウェーデン
第6回	社会福祉の国際比較（個人・グループ発表）	デンマーク、イギリス
第7回	社会福祉の国際比較（個人・グループ発表）	フランス、ドイツ
第8回	社会福祉の国際比較（個人・グループ発表）	オーストラリア、ニュージーランド
第9回	社会福祉の国際比較（個人・グループ発表）	中国、韓国
第10回	世界の社会・生活・福祉（フィジー）、国際ボランティア（JICA）活動から	[実践報告・特別講義（英語）]
第11回	世界各国の福祉 I. 欧米の福祉政策を中心に	[社福士試験対策を含む]
第12回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に（その1）	
第13回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に（その2）	
第14回	世界の社会・生活・福祉（ドイツ・スイスほか）、教育現場から	[実践報告・特別講義（ドイツ語）]
第15回	まとめ（諸外国の福祉）試験について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業時に配布するレジュメ・資料を理解すること。
- ・質問や意見また要望について、積極的に行うこと。
- ・発表は、順番を守ること。学生相互の質疑応答を能動的に行うこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

発表について、役立つ情報・解り易い内容・楽しい話題に心掛け、十分に準備すること。また、オリジナリティを発揮すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み：20点、発表：30点、試験（レポート提出）：50点。

■教科書

「国際社会福祉論」（川村匡由 ミネルヴァ書房）

■参考書

「世界の社会福祉年鑑」（旬報社）、「世界国勢図会」（公財・矢野恒太記念会）、
「社会福祉のあゆみ」（金子光一 有斐閣アルマ）、世界地図（成美堂出版）

科目名	人格心理学 (感情・人格心理学)	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	社会福祉専攻3・4年次科目 発達心理学aを履修済みであることが望ましい	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展 科目, ⑨感情・人格心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程等における「専門科目」			
キーワード	感情、タイプ論、測定、遺伝・環境、フロイト、ユング、マズロー、オルポート、西平直喜				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

〈人格(パーソナリティ)〉に関わる心理学的理論や心理的、社会的諸問題を考える際、それを通常の経験的な視点ではなく、人格を深く掘り下げた人格心理学の知見によって、人間とその行動を多面的に見る目を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人とその心の全体的な理解をめざして、人格(パーソナリティ)の構造と発達メカニズムについて理解できる。
- ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。
- ③人格の危機と変容について理解をし、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。

■授業の概要

人格(パーソナリティ)や感情の考え方・捉え方を学ぶこと、パーソナリティに対する誤解・偏見を解消することを目指し、授業を行う。人間とその行動には時に理解しがたい側面も含まれる。そうした不可解なものも抱え込む人間心理について理解するために生み出された概念や用語を学ぶことで、授業で扱う心理学者たちのパーソナリティも含め、人間を深く理解する視点を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション：パーソナリティの考え方、言葉の整理
第2回	類型論と特性論
第3回	パーソナリティを測る：「明るさ」の測定、妥当性と信頼性、感情をどう測るか
第4回	遺伝も環境も 進化の過程と人格
第5回	知能とその検査 病と知的変化
第6回	パーソナリティとその構造：フロイトのパーソナリティ論 ① 心の構造モデル
第7回	パーソナリティとその構造：フロイトのパーソナリティ論 ② フロイトと文化
第8回	パーソナリティの成熟：ユングのパーソナリティ論① ユングという人物、タイプ論、言語連想検査
第9回	パーソナリティの成熟：ユングのパーソナリティ論② 死と再生、個性化過程と人格の変容の物語
第10回	健康なパーソナリティを求めて：マズローの人間性心理学① 第三勢力
第11回	健康なパーソナリティを求めて：マズローの人間性心理学② 人間性心理学の発展、ポジティブ心理学
第12回	感情と人格：感情の分類、感情発生メカニズム、感情の機能・役割
第13回	感情と人格：感情制御の問題と感情を豊かに生きること、犯罪と感情、境界性人格障害、マインドフルネス
第14回	成熟した人間：オルポートのモデル
第15回	偉い人とはどういう人か：西平直喜の生育史心理学から

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用等)は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。
- ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要を参考に、次回の授業範囲を读了して授業に臨むこと。授業時に発言を求めながら確認をする。

■オフィスアワー

火曜日 11時～13時30分

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点満点:提出により得点))。

■教科書

小塩真司・中間玲子『あなたとわたしはどう違う?—パーソナリティ心理学入門講義—』(ナカニシヤ出版、2007)

■参考書

・シュルツ(上田吉一訳)『健康な人格』(川島書店、1982)、西平直喜『偉い人とはどういう人か』(北大路書房、2004)、Dan.P.McAdams The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology. (5th edition). Wiley.,USA.2009. 他適宜指示。

科目名	住環境福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	バリアフリー 住宅改修				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢者・障害者が地域で安心・安全に生活し、社会参加ができる基盤となる住環境はどうあるべきか。身近な住宅のバリアフリーを通して住環境整備の方法を理解し、実際に問題解決を提案できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、疾患別・生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

高齢者や障害者をとりまく住環境の問題点を抽出し、医療・福祉・建築など多方面から解決方法をアプローチする。主に建築について基本的な知識を身につけ、バリアフリーの具体的な手法を理解する。福祉住環境コーディネーター検定試験2級に準拠し、資格習得に役立つ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、超高齢社会と日本の木造住宅の問題点、住環境整備の必要性
第2回	高齢者の心身の特性、高齢者に多い疾患(脳血管障害)における住環境整備
第3回	高齢者に多い疾患(廃用症候群、骨折、認知症)における住環境整備
第4回	高齢者に多い疾患(関節リウマチ、パーキンソン病、糖尿病 他)における住環境整備、到達確認テスト①配布
第5回	到達確認テストの解答と解説、障害者の生活と住環境、障害別(肢体不自由)にみた住環境整備
第6回	障害別(内部障害、視覚・聴覚障害 他)にみた住環境整備
第7回	住宅建築の基礎知識①(建築図面の読み方)
第8回	住宅建築の基礎知識②(住環境整備における留意事項)
第9回	介護保険制度における住宅改修の進め方、バリアフリーとユニバーサルデザイン、到達確認テスト②配布
第10回	到達確認テストの解答と解説、住環境整備の共通基本技術①(段差の解消)
第11回	住環境整備の共通基本技術②(床材の選択、手すりの取付)
第12回	住環境整備の共通基本技術③(建具・スペース・冷暖房等への配慮 他)
第13回	外出(アプローチから玄関ホール、廊下)における住環境整備の手法
第14回	屋内移動・排泄(階段・トイレ・浴室)における住環境整備の手法、到達確認テスト③配布
第15回	到達確認テスト解説、入浴・更衣・調理・就寝(脱衣室・キッチン・寝室)における住環境整備の手法、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義範囲はシラバスで明示するので、授業前に必ずテキストを読んでおくこと。到達確認テストは、次の講義までにやってくること。テスト用紙は解答・解説後に回収し、返却しない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

第4、9、14回の講義終了後、住環境コーディネーター試験問題に準拠した到達確認テストを配布する。解答を授業で解説する。

■オフィスアワー

授業のあと30分は対応可能。

■評価方法

定期試験85%、到達確認テストの提出15%(全3回×5%)。

■教科書

東京商工会議所編・出版:福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂4版

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	相談心理学（公認心理師の職責）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	心理学理論と心理的支援、臨床心理学（社会福祉専攻）が履修済であること。	免許等指定科目	公認心理師学部科目（A. 心理学基礎科目、①公認心理師の職責）		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理職、守秘義務、他職種連携				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対人援助職の中でも、公認心理師をはじめとした心理学の専門職が関わる心理的援助の具体的な活動や、そこで求められる知識・職責を理解すること。

〔到達目標〕

- ①福祉、保健医療、教育その他の分野における心理職の役割、求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。
- ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。
- ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点について具体的に述べる
ことができ、各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。
- ④心理職として求められる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し、将来的な実践に沿って計画できるようになる。
- ⑤心理職の立場から他職種間の連携や地域資源の活用意義とその実践について説明できるようになる。

■授業の概要

福祉、保健医療、教育等の領域で実践されている心理的支援やその業務の具体像を学び、それぞれの領域で求められる専門性や資格とその職責について理解することを目指す講義である。様々な領域における心理職やその支援の実践について座学と演習を通じて紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション	
第2回	福祉、保健医療、教育等の領域における「心理職」の役割	
第3回	福祉、保健医療、教育等の領域における「心理職」の法的義務、倫理	
第4回	相談をはじめとする心理的支援の場でどのようにクライアントの安全を確保するか	
第5回	誰に・どこまで・何を？；心理的支援を行う上で得た情報の取り扱いと守秘義務	
第6回	福祉施設や障害者支援センターをはじめとする福祉領域における心理的支援の実践	
第7回	病院をはじめとする保健医療分野における心理的支援の実践	受講生の興味関心・進路設計に応じて内容が前後する場合があります。
第8回	学校や教育センターをはじめとする教育分野における心理的支援の実践	
第9回	裁判所や少年刑務所等をはじめとする司法・犯罪分野における心理的支援の実践	
第10回	健康管理センター等をはじめとする産業・労働分野における心理的支援の実践	
第11回	心理的支援を行う専門家としての自己課題の発見とその解決	
第12回	心理的支援を行う専門家としての生涯にわたって学び続けるために	
第13回	多職種と連携した心理的支援の実践	
第14回	地域資源を活用した心理的支援の実践	
第15回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講の際は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、やむを得ない理由で欠席する場合には事前に担当教員に申し出ること。
- ・講義内での提出物や課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用、コンピューター室の利用が可能なようにしておくこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

各回ごとに事前学習として事例や記事を配布し、その感想や自分なりの対応案をレポート課題として課すため、授業内での指示に留意すること。積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

金曜 17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

授業ごとの小レポート課題：60%、学期末レポート課題または研究課題発表：40%（詳細は初回講義時に説明）

■教科書

なし

■参考書

鐘幹八郎・名島潤慈（編著）心理臨床家の手引〔第3版〕誠信書房（2010）
 マリアン・コーリィ、ジェラルド・コーリー（著）心理援助の専門職になるために；臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト 金剛出版（2004）

科目名	介護技術I	担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術(移乗・移動・環境整備・食事・排泄・清潔・着脱等々の介助方法)				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活を送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。

■授業の概要

介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス 介護とは・介護技術の基礎知識①
第2回	介護とは・介護技術の基礎知識② (生活行為に関連したところからのしくみ)
第3回	人間関係を形成する技術① (身体機能低下が及ぼす生活への影響)
第4回	人間関係を形成する技術② (生活環境の整備)
第5回	人間関係を形成する技術③ (居室環境の整備・ベッドメイキング)
第6回	人間関係を形成する技術④ (居室環境の整備・ベッドメイキング・シーツ交換)
第7回	自立に向けた移動の介護① (移動の意義と目的)
第8回	自立に向けた移動の介護② (ボディメカニクス)
第9回	自立に向けた移動の介護③ (姿勢について)
第10回	自立に向けた移動の介護④ (体位変換・移動・移乗援助の原則)
第11回	自立に向けた移動の介護⑤ (ベッド上移動方法)
第12回	自立に向けた移動の介護⑥ (車いすの構造と種類を理解)
第13回	自立に向けた移動の介護⑦ (車いすへの移乗方法)
第14回	前期のまとめ① (ベッドメイキング・体位変換・車いすへの移乗介助)
第15回	前期のまとめ② (ベッドメイキング・体位変換・車いすへの移乗介助)
第16回	杖歩行の技法と援助 (障害のある場合の介助方法)

科目名	介護技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	身体障害 認知症 終末期 感染 介護と危機管理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。
- ②認知症に伴うこととからだの変化と介護について理解することができる。
- ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。
- ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。

■授業の概要

本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこととからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）
第2回	介護の意義と役割 ①（介護の意義 介護と生活）
第3回	介護の意義と役割 ②（尊厳を支える介護 生活の質と介護）
第4回	介護の意義と役割 ③（自立に向けた介護 ノーマライゼーションの理念 介護予防とリハビリテーション）
第5回	生活の場による介護の特徴（居宅介護 家族介護 施設介護）
第6回	介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活 身体障害のある人の暮らしと生活）
第7回	人のこととからだのしくみ ①（こととからだのしくみ）
第8回	人のこととからだのしくみ ②（脳のはたらき）
第9回	生活行為に関連したこととからだのしくみ（食事 排泄）
第10回	高齢者と健康 ①（高齢者の病気の特徴 身体機能低下が及ぼす生活への影響）
第11回	高齢者と健康 ②（運動機能低下とADL）
第12回	心身状態、生活状態のアセスメント技術 ①（全身観察とバイタルサインの観察）
第13回	心身状態、生活状態のアセスメント技術 ②（バイタルサインの計測）
第14回	心身状態、生活状態のアセスメント技術 ③（医療機関、関係機関への連絡 他職種との連携）
第15回	まとめ（総括）
第16回	後期 科目オリエンテーション（授業概要）

第 17 回	身体不調時・異常時の介護①（発熱時と脱水の対応）
第 18 回	身体不調時・異常時の介護②（呼吸困難時、意識障害時のケア）
第 19 回	身体障害のある人への理解①（視覚障害）
第 20 回	身体障害のある人への理解②（聴覚・言語機能障害）
第 21 回	身体障害のある人への理解③ 肢体不自由（運動機能障害）
第 22 回	身体障害のある人への理解④ 内部障害（腎臓機能障害）
第 23 回	認知症のある人への理解①（認知症の医学的理解）
第 24 回	認知症のある人への理解②（認知症に伴う心身の変化と日常生活）
第 25 回	認知症のある人への理解③（認知症に対する介護技術）
第 26 回	介護における安全確保と危機管理①（感染対策）
第 27 回	介護における安全確保と危機管理②（緊急時の介護）
第 28 回	終末期の介護①（死にゆく人のこころとからだの変化）
第 29 回	終末期の介護②（終末期における介護技術）
第 30 回	まとめ（総括）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。

長い爪とマニキュアは禁止、長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。

演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。

教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

筆記試験 60%、レポート 20%、授業への取り組み 20%。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規

■参考書

講義の中で適宜紹介。

科目名	卒業論文指導	担当教員 (単位認定者)	前橋キャンパス 専任教員	単位数 (時間数)	2
履修要件	3年次	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	研究方法、研究倫理				

■授業の目的・到達目標

卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。

[到達目標]

論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。

■授業の概要

これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを建て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。

■授業計画

教員	主な研究領域	留意事項
大野	社会心理学・教育社会心理学	履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、左記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。 なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、研究計画のテーマを制限するものではない。
大島	臨床心理学・精神的健康	
柳澤	マイノリティー・福祉問題	
新藤	障害福祉・ソーシャルワーク	
鈴木淳	障害児者支援臨床・医療心理	
真下	児童福祉・聴覚言語障害	
川端奈	発達障害・インクルーシブ保育	

上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。

授業内容：研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導

■受講生に関わる情報および受講のルール

この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）

■授業時間外学習にかかわる情報

各担当教員から指示する。

■オフィスアワー

各担当教員による指示に従うこと。

■評価方法

担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%。

■教科書

授業中に紹介する。

■参考書

授業中に紹介する。

科目名	卒業論文	担当教員 (単位認定者)	前橋キャンパス 専任教員	単位数 (時間数)	4
履修要件	3年次に「卒業論文指導」を履修済みであること	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	研究方法、研究倫理				

■授業の目的・到達目標

卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。

[到達目標]

論文作成

■授業の概要

これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを建て、探求する活動を実践する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践し論文としてまとめる。

■授業計画

教員	主な研究領域	留意事項
大野	社会心理学・教育社会心理学	履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、左記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。 なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、卒業論文のテーマを制限するものではない。
大島	臨床心理学・精神的健康	
柳澤	マイノリティー・福祉問題	
新藤	障害福祉・ソーシャルワーク	
鈴木淳	障害児者支援臨床・医療心理	
真下	児童福祉・聴覚言語障害	
川端奈	発達障害・インクルーシブ保育	

上記教員が個別に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。

授業内容：論文執筆に関する指導

■受講生に関わる情報および受講のルール

この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）

■授業時間外学習にかかわる情報

各担当教員から支持する。

■オフィスアワー

各担当教員による指示に従うこと。

■評価方法

担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%。

■教科書

授業中に紹介する。

■参考書

授業中に紹介する。

科目名	心理学実験実習I (心理学実験)	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (A. 心理学基礎科目, ⑥心理学実験)		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目 (2年生)			
キーワード	心理学実験、質問紙、実験レポート、量的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験計画や実験の手続きを理解できるようになる。

データの収集および適切な処理ができる。

独立変数・従属変数を操作・測定する統計的方法を学ぶ。

実験改善を発案する力を得る。

実験レポートを作成できるようになる。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス・相関と因果関係 (講義)
第2回	相関と因果関係 (講義)
第3回	錯視実験 (実験・データ取得)
第4回	錯視実験 (課題発表 データ分析、平均値・標準偏差)
第5回	錯視実験 (解説)
第6回	統計グラフの書き方 (エクセルを用いて)
第7回	ストループ課題 (解説)
第8回	ストループ課題 (実験)
第9回	ストループ課題 (解説、平均値、標準偏差)
第10回	ストループ課題 (説明、t検定)
第11回	レポートの書き方・統計値の読み方、書き方
第12回	記憶実験 (解説)
第13回	記憶実験 (実験)
第14回	記憶実験 (解説)
第15回	記憶実験 (解説、t検定)
第16回	後期ガイダンス

第 17 回	アクションスリップ (解説)
第 18 回	アクションスリップ (実験)
第 19 回	アクションスリップ (分析解説)
第 20 回	アクションスリップ (分析解説)・課題提出
第 21 回	漢字とかなの処理過程 (解説)
第 22 回	漢字とかなの処理過程 (実験)
第 23 回	漢字とかなの処理過程 (解説・分析)
第 24 回	漢字とかなの処理過程 (解説・分析)・課題提出
第 25 回	統計グラフの書き方・ミニ課題提出・統計値の読み方
第 26 回	スキーマ課題 (解説)
第 27 回	スキーマ課題 (実験)
第 28 回	スキーマ課題 (解説・分析、t 検定)
第 29 回	スキーマ課題 (解説・分析)・課題提出
第 30 回	まとめおよびミニ課題提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

事前に USB メモリを用意することが望ましい。PC 室または LL 教室を多用する。

〔受講のルール〕

各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)

その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。また、課題の作成は、時間外学習時に行う必要がある。

■オフィスアワー

授業開始 2 週目に指示する。金曜日 3 時限目 (206 研究室) を予定している。

■評価方法

レポート (50%)、授業内小テスト (30%)、授業内でのコメント (20%)。

■教科書

なし。授業中にプリントを配布する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目(3年生)			
キーワード	質問紙、実験レポート、量的データ、質的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

調査研究に関する知識・技術を習得し、調査レポートを作成できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験、量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得する。

実験・調査レポートを作成できるスキルを身につける。

客観的にレポートを採点できるスキルを身につける。

■授業の概要

心理学実験実習Ⅱでは、質問紙法を利用しての人間理解の方法を学ぶ。その基礎として質問紙の作成に関する項目作成、回答方法選択、フェイスシートの作成および倫理の問題、データ分析について触れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス
第2回	レポートの構成と書式
第3回	レポートの構成と書式
第4回	記述統計における分析(要約統計量)
第5回	記述統計における分析(要約統計量)
第6回	記述統計における分析(データ処理の実際)
第7回	データマイニング(レシートからの分析)(データ分析)
第8回	データマイニング(レシートからの分析)(課題提出・解説)
第9回	質問紙の作成の仕方
第10回	推測統計による分析(t検定)
第11回	推測統計による分析(t検定)
第12回	推測統計による分析(t検定)
第13回	推測統計による分析(相関分析)
第14回	推測統計による分析(相関分析)
第15回	推測統計による分析(相関分析)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

PC室もしくはLL教室での課題作成が主体となる。

〔受講のルール〕

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。各テーマごとにミニ課題、レポートの提出が義務付けられている。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内課題(40%)、レポート(40%)、コメント評価(20%)。

■教科書

鎌原雅彦、宮下一博、大野木裕明、中澤 潤 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房 1998 新しい版を買うこと

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅲ(心理的アセスメント)	担当教員 (単位認定者)	植原 美智子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	心理学理論と心理的支援、臨床心理学(臨床心理学概論)が履修済であること。	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ⑭心理的アセスメント)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	妥当性と信頼性、知能検査、パーソナリティ検査(質問紙法・投影法・作業検査法)、神経心理学的検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理的アセスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法(代表的な知能検査・パーソナリティ検査等)のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになること。

〔到達目標〕

- ①心理的アセスメントの手法、意義、目的について説明できるようになること。
- ②代表的なパーソナリティ検査、知能検査、神経心理学的検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになること。
- ③事例を読み解く際に、どういった心理的アセスメントが必要かについて想定できるようになること。

■授業の概要

心理的アセスメントとは「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業」と定義される。本講義ではその手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約
第2回	心理的アセスメントとは何か
第3回	面接法を用いたアセスメント
第4回	観察法を用いたアセスメント
第5回	検査法によるアセスメント(1)心理検査とは何か
第6回	〃 (2)妥当性と信頼性
第7回	質問紙法によるアセスメント
第8回	投影法によるアセスメント
第9回	作業検査法によるアセスメント
第10回	知能検査と発達検査(1)保護者からの聞き取りによる発達段階の査定
第11回	〃 (2)個別式知能検査
第12回	神経心理学的検査やストレスチェックに関連した心理的アセスメントの実際
第13回	検査バッテリーとは
第14回	心理的アセスメントの解釈と報告
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で紹介したアセスメント手法に関するレポート課題を各回で課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。

■オフィスアワー

金曜 17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、メール等にて調整。

■評価方法

レポート課題の提出:35%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価:65%(詳細は初回講義時に説明)。

■教科書

下山晴彦(編) よくわかる臨床心理学[改訂新版] ミネルヴァ書房(2009) [注]第11版以降を購入すること。

■参考書

竹内健児(著) 事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版(2009)。

科目名	発達心理学特講（健康・医療心理学）	担当教員 （単位認定者）	植原 美智子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	心理学理論と心理的支援、臨床心理学（社会福祉専攻）が履修済であること。	免許等指定科目	公認心理師（B. 心理学発展科目、 ⑩健康・医療心理学）		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ストレス、レジリエンス、地域支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる実践的な心理学として、ストレスと心身の疾病との関連、災害時に必要な心理に関する支援に関する知識を学び、医療・保健現場における実践に求められる倫理について知ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。
- ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。
- ③さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる。
- ④災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる。

■授業の概要

主に保健医療関連分野における予防、治療、リハビリテーションに関する心理的支援を行うために必要となる心理学の知識とその実践について理解することを目指す講義である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ストレスの心理学と生理学
第3回	ストレスによる心身の疾病と行動医学（1）ストレッサーとストレス反応
第4回	” （2）コーピングとストレスマネジメント
第5回	健康心理学とポジティブ心理学
第6回	医療分野で求められる心理学の理論と技法、実践（1）エビデンス・ベースド・メディシン
第7回	” （2）アウトリーチとリエゾン
第8回	保健分野で求められる心理学の理論と方法、実践（1）レジリエンスとエンパワメント
第9回	” （2）引きこもり、アルコール・薬物依存の本人・家族への支援
第10回	地域での実践（1）健康支援活動
第11回	” （2）自殺予防活動
第12回	災害被災者の心理と支援（1）PTSDの理解と支援
第13回	” （2）災害後の社会的不適応の理解と支援
第14回	医療・保健分野での心理的支援における義務及び職業倫理
第15回	まとめと振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」「臨床心理学（社会福祉専攻）」の授業を受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを適宜行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせず、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。
- ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題（小レポート等）（40%） ②学期末試験（60%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

丹野義彦（編著）「公認心理師の基礎と実践」シリーズ⑩健康・医療心理学 遠見書房、2018年

■参考書

適宜、授業時に紹介。

科目名	臨床心理学特講(神経・生理心理学)	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	公認心理師等心理専門職志望者	免許等指定科目	公認心理師学部科目 (B. 心理学発展科目, ⑩神経・生理心理学)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	中枢神経系 認知行動 脳損傷 高次脳機能障害 心理的ケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては、多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづけることが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。

〔到達目標〕

1) 中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2) 心理事象・認知行動の生物学的基盤・機序を概説できる。3) 高次脳機能障害の病態を説明できる。4) 多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴う心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。

■授業の概要

1) 中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2) 認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3) 脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4) 当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション ヒトの心理事象とその生物学的基礎 神経・生理心理学を学ぶ意義
第2回	神経系の解剖・生理 1 神経系の構成と情報伝達 連絡線維 髄鞘化 神経系の発生と成長・発達
第3回	神経系の解剖・生理 2 大脳の3次元構成 皮質と皮質下 機能局在と全体 連合野 脳動脈系 画像診断
第4回	小テスト 1 および 神経活動の背景・一般機能 意識 注意 認知適応のための構え
第5回	視覚 聴覚 体性感覚 運動 大脳の機能的非対称性(側性化) 利き手
第6回	小テスト 2 および 言語(speechとlanguage 言語中枢 角回 縁上回 右半球と言語)
第7回	学習 記憶
第8回	小テスト 3 および 大脳辺縁系 情動 感情 動機づけ 発動性 人格 ストレス
第9回	自律神経系 睡眠 概日リズム
第10回	小テスト 4 および 脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害 1 失語 1 臨床分類と特徴的症狀
第11回	高次脳機能障害 2 失語 2 リハビリテーションにおける心理的ケア
第12回	小テスト 5 および 高次脳機能障害 3 失行・失認 1 臨床分類と特徴的症狀(遂行機能障害を中心に)
第13回	高次脳機能障害 4 失行・失認 2 リハビリテーションにおける心理的ケア
第14回	発達障害 器質性精神疾患(認知症を含む) 特徴的症狀 リハビリテーションにおける心理的ケア
第15回	小テスト 6 および 臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説 授業全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進んでいきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする一人でも多くのひと(=皆さん)の支援現場登場を待っているのです。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他(minute paper)

■授業時間外学習にかかわる情報

まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。

■オフィスアワー

水曜日 17時～19時 1号館204研究室

■評価方法

6回的小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。

■教科書

岡田隆・広中直行・宮森孝史 生理心理学 第2版 脳の働きから見た心の世界 サイエンス社 2015年

■参考書

ジョン・ピネル 佐藤敬 他 訳 ピネル バイオサイコロジー 脳一心と行動の神経科学 西村書店 2005年
山鳥 重 神経心理学入門 医学書院 1985年
メディックメディア 脳・神経 病気がみえる 第7巻 メディックメディア 2014年

科目名	教職概論	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教育職員免許状取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		「教職の意義等に関する科目」に対応			
キーワード	カリキュラム、授業力、生徒指導、学級経営、学校経営、服務義務、学校評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解する。
〔到達目標〕
・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。
・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。
・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。

■授業の概要

- ・学校教育の概要について学習し、教員の使命や服務義務について理解する。
- ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。
- ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えをもつ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 一教師とは何か（教師という言葉の概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力）
第2回	学習指導（1）一カリキュラムを作成する（カリキュラムの概念、学校の教育課程の編成と管理、教育課程編成の基準）
第3回	学習指導（2）一授業力をつける（授業力とは、授業力を高める手立て、学習意欲を高める方法）
第4回	生徒指導一子どもの心理と行動（学校生活への適応、不適応、反社会的問題行動と非社会的問題行動、子どもの心に寄り添う指導、子どもを見る視点）
第5回	学級の経営一集団で指導する（学級担任の仕事、学級経営充実のポイント、よい級風をつくる）
第6回	学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会、教育環境の醸成、組織力の向上）
第7回	学校の運営（学校評価、学校運営への協力、自己申告制度・人事考課制度）
第8回	教員の養成と任用（教職の専門職性、教職員と職務、教員の養成、教員の任用）
第9回	教師の資質向上と研修（研修の法的根拠、教員研修の実際、研修の種類、教員としての資質と研修）
第10回	教員の服務制度と勤務条件（服務制度、身分保障と分限・懲戒、勤務条件）
第11回	時代の流れと教師像の変遷（1）一戦前期の学校教育と教師像（近代学校成立以前、近代学校の成立、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像）
第12回	時代の流れと教師像の変遷（2）一戦後教育改革と教育の普及（戦後の教師像、現在の教師像）
第13回	教育の今日的課題（1）一道德教育の充実（道德が教科化された背景、「特別の教科 道德」の概要）
第14回	教育の今日的課題（2）一小学校の外国語教育（外国語教育に関わる学習指導要領改訂のポイント、教科のイメージ、外国語活動・外国語科の目標）
第15回	教育の今日的課題（3）一学校・家庭・地域社会の役割と連携（教育ネットワークシステム、活動推進の留意点、地域連携の実践事例）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかりと理解するように努めること。
- ・配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。
- ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。
- ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること）
- ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止します。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。
毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。

■オフィスアワー

火曜 9時30分～10時10分 それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする（90%）。
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）。

■教科書

佐藤徹（編著）「教職論一教職に就くための基礎・基本一」東海大学出版 最新版

■参考書

秋田喜代美・佐藤学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 最新版

科目名	教育社会学	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会化、家族・仲間・近隣・学校の各社会集団、マス・メディア、ニューメディア、ジェンダー、生涯学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。

〔到達目標〕

- ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。
- ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。

■授業の概要

- ・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。
- ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 一子どもの発達と社会化（人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握）
第2回	家族集団と子どもの社会化（親からの社会化、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安）
第3回	仲間集団と子どもの社会化（仲間集団の特徴、自発的選択性・対等性・流動性、重要な他者、一般化された他者）
第4回	近隣集団と子どもの社会化（水平的関係、垂直的關係、地域社会の社会化機能の弱体化）
第5回	学校集団と子どもの社会化（1）一学校の構造と組織一（制度、集団、組織としての学校、教員と児童生徒）
第6回	学校集団と子どもの社会化（2）一学校集団の社会化機能一（制度的カリキュラムと隠れたカリキュラム）
第7回	学校集団と子どもの社会化（3）一その現代的課題一（社会構造の変化、価値観の多様化と学歴社会）
第8回	マス・メディアと社会化環境（子どもの生活へのマス・メディアの影響、印刷メディア、電波メディア、疑似環境）
第9回	ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴と情報化社会の諸問題、メディアリテラシー教育、情報モラル）
第10回	社会の変動と少年非行（少年非行の特徴と原因、逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪）
第11回	社会問題化する児童虐待（児童虐待の意味と現状、児童の権利に関する条約、児童虐待防止法、児童福祉法）
第12回	現代社会の不登校とひきこもり（不登校の現状と推移、居場所づくり、進学・就職支援）
第13回	教育におけるジェンダーをめぐる諸問題（隠れたカリキュラムにおける性差別、女子差別撤廃条約、男女共学）
第14回	学校から社会・職業への移行（フリーター、ニート、年功主義、キャリア教育）
第15回	生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、経験知と専門知、コミュニティ・スクール）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。
- ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。
- ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。
- ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること）
- ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。

■オフィスアワー

火曜 9時30分～10時10分 それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする（90%）。
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）。

■教科書

住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達—教育社会学入門」北樹出版 最新版

■参考書

加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房 最新版

科目名	社会科教育法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会科教育法Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

中学校の社会科（地理・歴史科）の教師として必要な知識と技能を身に付けることを目的とする。
授業の実施に際して必要な教材研究の方法、学習指導案の作成方法を学習した後に、教師自身による模擬授業を実施する。その上で教育実習の際に必要な知識を教授する。地理・歴史科の明治・大正時代から戦前・戦後について、時代の背景と変遷の過程を学習する。また、地理・歴史科の教科の内容について詳しく教授する。

■授業の概要

中学校の社会科（地理・歴史科）の授業を展開するため、基礎的・基本的な知識について学習する。
地理科・歴史科の成立過程を学習した上で、社会科教育の目標、内容、構成や教科書の採択制度などについても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期オリエンテーション 授業に関する要望について
第2回	授業展開論(1) 学校教育における授業のあり方
第3回	授業展開論(2) 教材研究の方法、資料(史料)の読み方、副教材の活用方法
第4回	授業展開論(3) 講義資料の作成法、講義ノート作成
第5回	授業展開論(4) 学習指導案の作成法 授業展開に関する必要事項
第6回	教師による模擬授業(1)
第7回	教師による模擬授業(2)
第8回	教育の歴史(1) ヨーロッパの古代～中世
第9回	教育の歴史(2) ヨーロッパの近代～現代
第10回	社会科教育の歴史(1) 明治時代の社会的教科
第11回	社会科教育の歴史(2) 大正時代の社会的教科
第12回	社会科教育の歴史(3) 戦前の社会的教科
第13回	社会科教育の歴史(4) 戦後の社会科誕生の経緯
第14回	学習指導要領の歴史的変遷(1945～1977年)
第15回	学習指導要領の歴史的変遷(1978年～現在)
第16回	社会科教育の目標 教養主義的目標と実用主義的目標

第 17 回	社会科教育の授業構成(1) 教科内容の変遷
第 18 回	社会科教育の授業構成(2) 教科書に基づく授業
第 19 回	中学校社会科 地理分野の授業内容
第 20 回	中学校社会科 地理分野の授業目標(1)
第 21 回	中学校社会科 地理分野の授業目標(2)
第 22 回	中学校社会科 歴史分野の授業内容
第 23 回	中学校社会科 歴史分野の授業目標(1)
第 24 回	中学校社会科 歴史分野の授業目標(2)
第 25 回	教科書検定制度と教科書採択制度
第 26 回	教育関係法令 教育基本法と学校教育法
第 27 回	文章表現論(1) 小論文の書き方① 出題形式 評価基準
第 28 回	文章表現論(2) 小論文の書き方② 読書論 本の読み方
第 29 回	学校教育の問題点 いじめ 登校拒否
第 30 回	学校教育の現状と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。

〔受講のルール〕

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

授業への取り組み態度(10%)、小論文(20%)、試験(70%)。

■教科書

臼井嘉一・柴田義松編著 『〈新版〉社会・地歴・公民科教育法』学文社

■参考書

参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目 (必修)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「社会科学学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」についての理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 社会科(公民的分野等)を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の生徒用の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を通して「実践的な授業」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解(3分野の目標と内容)、社会科学学習ゲーム
第2回	社会科教師の基礎基本①学習指導要領と解説の理解(地理的分野、生徒用地理教科書を用い指導事例を紹介する。)
第3回	社会科教師の基礎基本②学習指導要領と解説の理解(歴史的分野、生徒用歴史教科書を用い指導事例を紹介する。)
第4回	社会科教師の基礎基本③学習指導要領と解説の理解(公民的分野、生徒用公民教科書を用い指導事例を紹介する。)
第5回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、学習指導案略案の書き方、ミニテスト(第1回～第4回までの復習)
第6回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、プレゼンテーション(各自が調べたことを発表する。)
第7回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、授業準備
第8回	模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①(授業者は代表学生2名)
第9回	学習指導案細案の書き方①(生徒の実態、実態把握のためのアンケート、指導方針)
第10回	学習指導案細案の書き方②(目標、指導計画、評価規準)
第11回	学習指導案細案の書き方③(本時の学習、板書、ワークシート、掲示物)
第12回	模擬授業②(公民的分野「ちがいのちがいがい」、授業研究会②(授業者は代表学生2名)
第13回	社会科教師の基礎基本④「たくさんの知識を身に付けよう!」、地理的分野の必須な知識の習得、地図帳の指導例
第14回	社会科教師の基礎基本⑤「たくさんの知識を身に付けよう!」、歴史的分野の必須な知識の習得、歴史年表の扱い方
第15回	社会科教師の基礎基本⑥「たくさんの知識を身に付けよう!」、公民的分野の必須な知識の習得、新聞・ニュースの扱い方、シャトルカード前期のまとめ欄への記入
第16回	後期オリエンテーション、社会科学学習ゲーム、ミニテスト(第13回から15回までの復習)

第 17 回	学習指導案細案を作ろう! (公民的分野「民主主義と政治」)
第 18 回	学習指導案事前検討会 (公民的分野「民主主義と政治」)
第 19 回	模擬授業③ (公民的分野「民主主義と政治」)、授業研究会③ (授業者は代表学生 1 名)
第 20 回	学習指導案細案を作ろう! (歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」)
第 21 回	学習指導案事前検討会 (歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」)
第 22 回	模擬授業④ (歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」、授業研究会④ (授業者は代表学生 1 名)
第 23 回	学習指導案細案を作ろう! (地理的分野「世界と比べた日本の平野」)
第 24 回	学習指導案事前検討会 (地理的分野「世界と比べた日本の平野」)
第 25 回	模擬授業⑤ (地理的分野「世界と比べた日本の平野」)、授業研究会⑤ (授業者は代表学生 1 名)
第 26 回	社会科授業における IT、社会科におけるノート指導とワークシート (各自のレポートを基に討論会を行う。)
第 27 回	模擬授業⑥ (IT)、授業研究会⑥ (授業者は代表学生 2 名)
第 28 回	教育実習に必要な社会科教師の知識について① (中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より)
第 29 回	教育実習に必要な社会科教師の知識について② (中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より)
第 30 回	1 年間のまとめ (含む教育理論)、シャトルカード後期のまとめ欄への記入

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関する情報]

・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。

[受講のルール]

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。
- ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

火曜日:9 時～12 時、水曜日:9 時～12 時

■評価方法

学期末試験 (50%)、学習指導案の作成・模擬授業 (30%)、ミニテスト (20%)。

■教科書

①中学校生徒用教科書「新版 新しい社会 公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会 歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書「社会科中学生の地理」帝国書院、④中学校生徒用地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、⑤「中学校学習指導要領解説 (社会編)」日本文教出版、⑥その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。

■参考書

- ・近藤裕幸:「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社、2012 年
- ・その他、講義の中で、随時紹介する。

科目名	公民科教育法	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公民科教育法				

■授業の目的・到達目標

1. 高等学校公民科の免許を取得するための必修科目なので、含まれる科目全体の概要を学ぶ。
2. 中学校公民分野の学習指導内容(教科書)をしっかりと理解し、主要項目と重要用語・内容を把握する。
3. 公民分野を主体に、社会科・地理歴史科全体の教員採用試験問題を正答し得る資質を養う。

■授業の概要

1. 戦後日本における高度経済成長などを通じた生活や社会の変容を概観する。
2. 政治・経済・法律の分野における幾つかの社会的諸課題を、事例的に考察する。
3. 日常生活や社会のなかでの高度経済成長やIT社会によるひずみや社会問題を考察する。
4. 車社会・環境問題・エネルギー問題など、豊かな生活がもたらした社会問題を、事例的に考察する。
5. 上記分野における各自の得意項目に関する調査研究レポートを作成する。
6. レポートの内容を一層研鑽し、授業研究の一環として発表しあい、長短所や問題意識を共有する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	公民分野の概要と学習指導要領の変遷、前期授業の概要説明
第2回	経済成長と社会生活の変化：電化・電気製品などの普及、オイルショックとその後、IT革命
第3回	労働・年金福祉の問題：男女雇用均等法、高齢者の再雇用・天下り、若者の就職、派遣や非正規労働
第4回	課題レポートの提示(上記に即して、各自の興味ある項目について調査)
第5回	日本経済の変容と市場(為替相場)、身近な社会問題：消費税、年金問題、デフレ
第6回	世界の国々と国際関係：領土問題、グローバル化、国際交流レポートの提出
第7回	法律関係の問題：裁判員裁判、訴訟や裁判の原則、法律と現実のギャップ
第8回	法務省専門職員の概説と特徴・長短所(この発表に向けての留意事項と1回目の資料配布)
第9回	政治や選挙の問題(1票の格差、選挙制度=大中小選挙区制度)、レポートの提出
第10回	レポート発表に向けての留意事項とその資料配布
第11回	教育実習に向けた意気込みと準備
第12回	受講生皆さんのレポート発表
第13回	”
第14回	”
第15回	レポートや授業中提出した課題の返却・試験に向けての指示
第16回	後期授業の概要説明と課題レポートの指示(上記に即して、各自の興味ある項目を重点調査)

科目名	福祉科教育法	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	高等学校教諭一種免許状 「福祉」取得希望者	免許等指定科目	高等学校教諭一種免許状 「福祉」指定科目		
	カリキュラム上の位置づけ		学校教育コース専門科目		
キーワード	社会福祉基礎・コミュニケーション技術・生活支援技術・高等学校教諭免許				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。

〔到達目標〕

1. 高校生が教科「福祉」を学ぶ意義を理解する。
2. 興味をもって学べるような授業を目指して、教科「福祉」の指導内容とその取扱いについて理解する。
3. 「福祉」を考える教員として必要な資質を育む。

■授業の概要

「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義・役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。

1. 福祉科教育の意義と福祉科教員の役割
2. 新学習指導要領に基づく教科「福祉」の指導内容とその取扱
3. 学習指導案の作成と模擬授業の実施

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう（プロフィール票の作成・提出）
第2回	障害者の理解、DVD視聴（障害者の自立について）（感想文を提出）
第3回	対人援助技術の原則（コミュニケーション技術）
第4回	コミュニケーションスキルを磨く・演習とビデオ視聴（コミュニケーション技術）
第5回	伝達について（コミュニケーション技術）
第6回	信頼関係を結ぶ面接技術とは
第7回	コンセンサス（合意）について（コミュニケーション技術）
第8回	家族について考える DVD視聴
第9回	人の一生と社会福祉 家族援助事例検討
第10回	社会福祉制度（身近な問題から）
第11回	正しい敬語の使い方（教師としての正しい言葉使い）
第12回	学習指導要領（福祉） 教科「福祉」9科目の指導内容
第13回	学習指導要領（課外活動） 部活動指導の現状
第14回	学習指導要領（道徳教育） 人種問題・障害者問題 等
第15回	福祉科教育法（教科書・学習ノート・参考図書）注文

第 16 回	模擬授業について 指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数・内容等は受講者数によって変更があります）
第 17 回	学習指導案の作成
第 18 回	模擬授業① 少子化時代の子ども子育て支援
第 19 回	模擬授業② 子育て支援と保育
第 20 回	模擬授業③ 障害のある子どもの福祉
第 21 回	模擬授業④ 子どものすこやかな成長への支援
第 22 回	模擬授業⑤ 市町村と児童相談所の役割
第 23 回	模擬授業⑥ 社会的養護と児童虐待への対応
第 24 回	模擬授業⑦ 障害者福祉とは・身体障害者の現状と課題
第 25 回	模擬授業⑧ 身体障害者福祉の推進・障害者の生活支援
第 26 回	模擬授業⑨ 知的障害者の現状と課題・知的障害者の在宅支援と施設の役割
第 27 回	模擬授業⑩ 人口の高齢化と高齢者福祉・高齢者の健康保持と社会参加
第 28 回	模擬授業⑪ 介護保険制度（1）介護保険制度（2）
第 29 回	模擬授業⑫ 高齢者の在宅サービス（1）・高齢者の在宅サービス（2）
第 30 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同ような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習・介護技術等の科目も併せて履修すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。
模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を毎回提出すること。

■オフィスアワー

火曜日 10 時～12 時

■評価方法

提出レポート（50%）と学習指導案及び模擬授業（50%）により評価する。

■教科書

社会福祉基礎（実教出版）（購入方法について詳しくは授業中に説明する）。

■参考書

介護福祉基礎（実教出版）、コミュニケーション技術（実教出版）、生活支援技術（実教出版）、介護過程（実教出版）、
ころとからだの理解（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版）

科目名	特別活動研究	担当教員 (単位認定者)	青木 美穂子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別活動研究				

■授業の目的・到達目標

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級(HR)活動・児童会(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級(HR)活動・児童会(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を講義やグループ協議を通して理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 特別活動の内容構成と教育的意義
第2回	特別活動の目標と基本的性格①
第3回	特別活動の目標と基本的性格②
第4回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質①(学校教育から見た特質)
第5回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質②(特別活動から見た特質)
第6回	特別活動と他の教育内容・方法との関連
第7回	学校の教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数
第8回	前半のまとめとテスト 特別活動の各内容ごとの特質(学級活動・HR活動の活動内容と特質)
第9回	特別活動の各内容ごとの特質(児童会・生徒会・クラブ活動の活動内容と特質)
第10回	特別活動の各内容ごとの特質(学校行事の活動内容と特質)
第11回	特別活動の評価
第12回	特別活動の指導(実際の進め方)①(指導計画の作成)
第13回	特別活動の指導(実際の進め方)②(指導案の書き方等)
第14回	特別活動を円滑に推進する指導体制 後半のまとめとテスト
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(80%)・授業態度(20%)を総合して評価します。

■教科書

高橋哲夫、原口誠次、井上裕吉、今泉紀嘉、井田延夫、倉持博編 特別活動研究第三版 教育出版株式会社 2,000円+税

■参考書

小・中・高等学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育と保育の指導方法 教師の援助の仕方 幼児の発達 発達の個人差				

■授業の目的・到達目標

幼い子どもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。

■授業の概要

幼児期の教育は、子どもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最適な教育方法を探究する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス 自己紹介とアンケート 保育と教育の基本
第2回	アンケート結果の紹介 フランスの幼稚園のDVDに学ぶ
第3回	教育と保育の方法論上の基本 環境・生活の展開・遊び・子どもの発達の特性 幼稚園や保育所
第4回	幼児についての理解とその方法 幼児理解とは何か 幼児理解を深める大人の注意点
第5回	人間の進化・発達 発達のとらえ方 その姿
第6回	環境構成と活動の展開 環境としての教師 こどもの楽しさとの共有 こどもの活動の充実
第7回	一人ひとりに応じた援助 個人差 一人ひとりの興味・関心の違い 大人の温かな援助の仕方
第8回	生活の指導 基本的な生活習慣の指導とこどもの自立 集団の中で生きる内的な喜び
第9回	自己主張と自己抑制 幼稚園・保育所と家庭との連携 具体的な場面での援助の仕方
第10回	専門職としての保育者 保育の基本の理解 こどもの理解 発達・一人ひとりの育ち 保育者の役割
第11回	学びの場所 縦割り保育と横割り保育 一人ひとりのクラス作り 学びへの環境のあり方
第12回	こどもの援助の形態 さまざまな保育形態 グループ活動・個別活動・一斉保育
第13回	園内外の環境を生かした保育 園内環境にかかわる 保育室 園外環境にかかわる 散歩
第14回	保育環境に求められること 幼稚園・保育所・小学校との連携 保護者と地域社会との連携
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

月曜日 10時30分～12時30分。

■評価方法

定期試験(60%) レポート(20%) ディベート(20%)などで総合的に判断する。

■教科書

神長美津子編著『保育方法』光生館

■参考書

江島正子著『たのしく育て子どもたち』サンパウロ社 そのつど授業中に紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育諸活動に意欲的な取り組みができるために				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
・教育の方法について探求する。
・教育のよりよい在り方を実践的に探る。
〔到達目標〕
・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。
・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。
・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。

■授業の概要

教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	・オリエンテーション（講義方法、内容と評価）・授業について（教室と学び）
第2回	・変化する教室というところ（転換する学校・世界と日本の教室・21世紀の教室）
第3回	・授業の形（考えるという行為の意味）
第4回	・授業の歴史（日本）（近代学校と授業の成立・新教育の展開と学びの改革・戦後新教育と授業の改革）
第5回	・教育の技術（教育技術の特質とは・集団づくりの意義と方法）
第6回	・授業のデザイン（授業の組織・授業の構造・授業をデザインし創造する）
第7回	・授業をデザインして創造する（授業の主題・授業の省察と反省）
第8回	・学習指導案の意義と作成手順　・授業（教育）目標づくりとは（構造・種類と性格）
第9回	・教材について　・授業の展開　・教師の姿勢と心構え
第10回	・仮説実験授業　・発問のある授業　・教師の表現（伝え方）
第11回	・授業における説明の役割と方法　・学習集団の意義と方法　・違いを認め合い補い合う
第12回	・体験的学習の意義と課題　・練習の意義と方法　・自分のキャラクターを分析する
第13回	・近代教育思想　・教育方法と学習指導
第14回	・欧米の近代授業理論と受容（一斉授業と開発授業）
第15回	・学習指導と教授理論（指導の原理・方法・発達と学習心理）

■受講生に関わる情報および受講のルール

・意欲的な学習態度であること。
・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。
・授業で配布する資料はファイルして保管すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式	<input type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど）
<input type="checkbox"/> その他（ ）		

■授業時間外学習にかかわる情報

教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察し討論することによって客観的に検証・考察する。

■オフィスアワー

水曜日の授業終了から12時まで。または授業終了から17時まで。

■評価方法

提出物（レポート）、討論・発表内容と態度、定期試験による評価。いずれも60%を超えていること。

■教科書

田中耕治・鶴田清司　新しい時代の教育方法　有斐閣

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	生徒指導論	担当教員 (単位認定者)	青木 美穂子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生徒指導論				

■授業の目的・到達目標

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について講義やグループ協議等を通して、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 生徒指導とは(日本の学校教育の特徴)
第2回	生徒指導の意義と原理
第3回	これからの生徒指導の方向性
第4回	児童生徒理解の方法
第5回	教師に必要とされる指導行動
第6回	進路指導・キャリア教育とは
第7回	特別支援教育と生徒指導
第8回	現代の子どもを取り巻く問題 前半のまとめとテスト
第9回	不登校の現状・理解と対応
第10回	いじめの現状・理解と対応
第11回	非行問題の現状・理解と対応
第12回	学級崩壊・授業崩壊の現状・理解と対応
第13回	キャリア形成に関する諸問題と社会的排除
第14回	連携による生徒指導の充実 後半のまとめとテスト
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験 (80%)・授業態度 (20%) を総合して評価します。

■教科書

河村茂雄編著 生徒指導・進路指導の理論と実際 図書文化 定価 2,200 円+税

■参考書

文部科学省 生徒指導提要 教育図書株式会社 定価 290 円

科目名	教育相談論	担当教員 (単位認定者)	青木 美穂子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育相談論				

■授業の目的・到達目標

教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。

■授業の概要

教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 子どもの存在と「生きる力」	
第2回	教育相談のカウンセリングの考え方	
第3回	子どもとかわる基本原則 ーカウンセリングの発想からー ①	
第4回	子どもとかわる基本原則 ーカウンセリングの発想からー ②	
第5回	子どもの人間関係づくり① 学級の「まとまり」をつくる <かわる力>をはぐくむ	
第6回	子どもの人間関係づくり② コミュニケーション能力を育成する 指導観・授業観の転換	
第7回	前半のまとめとテスト	
第8回	教育相談の計画と活動の実際	カウンセリング実習①
第9回	学級担任が向き合う危機的な問題① 学級崩壊を防ぐ	カウンセリング実習②
第10回	学級担任が向き合う危機的な問題② いじめや自殺とその対応	カウンセリング実習③
第11回	学級担任が向き合う危機的な問題③ 不登校とその支援	カウンセリング実習④
第12回	学級担任が向き合う危機的な問題④ 保護者支援	カウンセリング実習⑤
第13回	問題行動の理解と指導①	カウンセリング実習⑥
第14回	問題行動の理解と指導② 後半のまとめとテスト	
第15回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験 (80%)、授業態度 (20%) を総合して評価します。

■教科書

有村久春著 学級教育相談入門 金子書房 2,500 円+税

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	教職実践演習	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	教員免許状取得に必要な科目を履修済、もしくは履修中であること。	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会 教師に必要な資質 心の問題 法規範 使命感・責任感 教育的愛情				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえて、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- 履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。
- 急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。
- 教師に求められる規範意識を確認することができる。

■授業の概要

- 講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福祉、スクールカウンセラーの立場から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。
- 教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。
- 社会性や対人関係能力を養う。
- 教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 共生社会を生きる
第2回	子どもの世界 一子ども観とは一
第3回	障害児教育を考える
第4回	学校における合理的配慮と環境整備
第5回	教職について考える ① A小学校教諭のドキュメンタリーから教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ
第6回	教職について考える ② 学校文化、教師文化からみる教師像
第7回	教職について考える ③ 生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える
第8回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ① スクールカウンセラーの業務
第9回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ② 教職員として「心の問題」を理解する
第10回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ③ 心の問題として心身症
第11回	教育法規一教師がよってたつべき法規範一①日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則
第12回	教育法規一教師がよってたつべき法規範一②学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法
第13回	授業設計と模擬授業 ① 一中学校の教育実習から一
第14回	授業設計と模擬授業 ② 一高等学校の教育実習から一
第15回	「教職実践演習」のまとめ:改めて教師とは一使命感・責任感、教育的愛情等を確認する一A小学校の実践事例を通して一

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他(ミニレポート)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・小テスト、発表、シャトルカードの内容(80%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

各担当教員が準備する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	中・高 教育実習事前事後指導(2年生)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	教育原理、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育方法論、日本国憲法、道徳教育、取得希望免許状の教科教育法(社会科教育法Ⅰ・Ⅱ、日本史Ⅰ・Ⅱ、介護技術Ⅰ、福祉科教育法)を履修済みもしくは履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の意義と目的 教育実習生の心構え 学習指導案 模擬授業 授業研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
教育実習の事前事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。
- 2 学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。
- 3 生徒理解に努めることができる。

■授業の概要

- 1 3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。
- 2 中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。
- 3 学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教職への招待・ガイダンス 大学の事前指導で何を学ぶか
第2回	教職に就くにあたり:教師を目指した理由—プレゼンテーション—
第3回	教育実習の意義と目的
第4回	教育実習の課題と実習生としての心構え
第5回	観察実習の書き方、学習指導案とは何か
第6回	学習指導案を作成する
第7回	先輩の研究授業の視聴 ① 中学校(社会科)
第8回	先輩の研究授業の視聴 ② 高等学校(公民科)
第9回	中学校授業参観(朝の会、社会科、意見交換会)
第10回	中学校授業参観の検討会(朝の会、社会科、意見交換会)
第11回	板書の仕方
第12回	発問とは何か
第13回	模擬授業の実践 ① 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施
第14回	模擬授業の実践 ② 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施
第15回	授業研究 (1) ①、②の模擬授業の振り返り;KJ法を活用し、授業検討会を実施する

第 16 回	模擬授業の実践	③ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 17 回	模擬授業の実践	④ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 18 回	高等学校授業参観	（福祉、もしくは公民、意見交換会）
第 19 回	高等学校授業参観の検討会	（福祉、もしくは民、意見交換会）
第 20 回	授業研究	（2） ③、④の模擬授業の振り返り;KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第 21 回	模擬授業の実践	⑤ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 22 回	模擬授業の実践	⑥ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 23 回	授業研究	（3） ⑤、⑥の模擬授業の振り返り;KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第 24 回	模擬授業の実践	⑦ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 25 回	模擬授業の実践	⑧ 中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施
第 26 回	授業研究	（4） 模擬授業⑦、⑧の振り返り;KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第 27 回	道徳教育と特別の教科道徳	
第 28 回	特別の教科道徳の内容、指導案の書き方	
第 29 回	模擬授業の実践	特別の教科道徳の授業実践を実施
第 30 回	まとめ 本実習に向けて	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生（3回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニレポート）

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。KJ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出すること。授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容(40%)、模擬授業の実践(30%)、試験またはレポート(30%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』、東山書房
- 3 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科 道徳編』、文京出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	中・高 教育実習事前事後指導(3年生)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	教育原理、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育方法論、日本国憲法、道徳教育、取得希望免許状の教科教育法(社会科教育法Ⅰ・Ⅱ、日本史Ⅰ・Ⅱ、介護技術Ⅰ、福祉科教育法、公民科教育法)、生徒指導論、特別活動論、教育相談論を履修済みもしくは履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員の資質 教育実習の留意事項 教育実習 教育実習録 教育実習報告				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。

〔到達目標〕

- 1 学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができる。
- 2 本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。

■授業の概要

- 1 2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。
- 2 生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明)	教育実習に臨み	一教育実習の範囲と内容一
第2回	実習を受け入れる立場から	①	一中学校の立場から一
第3回	実習を受け入れる立場から	②	一高等学校の立場から一
第4回	教育実習で留意すること		
第5回	観察実習、教育実習録の書き方		
第6回	教育実習・本実習における教材研究の在り方		
第7回	教育実習・本実習の流れ	一日の日程(朝の会・帰りの会/ショートホームルーム等)	
第8回	本実習前オリエンテーション		
第9回	研究授業案の作成(各実習校の形式に合わせて)		
第10回	研究授業に向けて	①	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の実習校での計画
第11回	研究授業に向けて	②	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の実習校での実際
第12回	教育実習報告・検討会①	中学校及び高等学校教育実習(報告書の作成に基づき実習生数名による報告会)	
第13回	教育実習報告・検討会②	中学校及び高等学校教育実習(報告書の作成に基づき実習生数名による報告会)	
第14回	教育実習報告・検討会③	中学校及び高等学校教育実習(報告書の作成に基づき実習生数名による報告会)	
第15回	教育実習報告・検討会④	中学校及び高等学校教育実習	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他(ミニレポート)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容(50%)、実習報告書の内容(40%)、試験またはまとめのレポート(10%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)/高等学校学習指導要領』、東山書房
- 3 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)特別の教科 道徳編』、文京出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	高等学校教育実習（公民科）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (80)
履修要件	実習履修資格者要件参照	免許等指定科目	教員免許状取得科目		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習 教員採用試験対策講座 教科または教職に関する科目 教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと。
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること。
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること。
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと。
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること。
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること。

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者。
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者。
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）。
- 2 実習校の評価（50%）。
- 3 教育実習の記録の評価（40%）。

科目名	高等学校教育実習（福祉科）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (80)
履修要件	実習履修資格者要件参照	免許等指定科目	教員免許状取得科目		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習 教員採用試験対策講座 教科または教職に関する科目 教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中旬に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと。
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること。
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること。
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと。
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること。
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず連絡すること。

〔実習中止の措置〕

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者。
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者。
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	学校経営と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	井ノ口 雄久	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	司書教諭取得科目の中で、基本的な科目であり、早い時期に受講することが望ましい。	免許等指定科目	司書教諭資格取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校教育 学校図書館 課題解決型学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。授業に関わるための学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。

〔到達目標〕

- 1) 現行の学校教育の問題点を整理する。
- 2) 現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。
- 3) 期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。

■授業の概要

学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を制度化される課程と、これからますます重要となる児童生徒の自主性を育むために、学校図書館はいかにあるべきか、また実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習
第2回	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会
第3回	これからの学校教育とあるべき学びの形
第4回	メディアと人間の循環
第5回	学校の中の図書館
第6回	学校図書館の歴史（アメリカ）
第7回	学校図書館の歴史（日本）
第8回	日本の学校図書館の現状
第9回	学校図書館の目的と機能
第10回	学校図書館の図書館サービス
第11回	学校図書館の教育活動
第12回	学校図書館の担当者
第13回	学校図書館のマネジメント
第14回	学校図書館の設計
第15回	学校図書館研究と学校図書館の発展

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回、次の講義の課題を配布する。課題に基づいて、テキストの該当部分は事前に読んで、自分なりに課題をこなし、授業に臨む。授業は、課題について、グループ学習を行う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。

■オフィスアワー

授業後、30 分は対応可能。また、場合によっては、場所・時間等メールにて調整する可也。

■評価方法

授業の参加態度（40%）、レポート提出（2 回一各 30%）。

■教科書

司書教諭テキストシリーズⅡ…01 『学校経営と学校図書館』 中村百合子編著 2015 樹村房

■参考書

授業で、適宜紹介。

科目名	学校図書館メディアの構成	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校図書館メディア、情報資源組織法、資料組織法、目録法、分類法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。
- ②「日本目録規則 1987年版 改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。
- ③「日本十進分類法 新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。

■授業の概要

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学校図書館メディアの教育的意義及び役割
第2回	学校図書館メディアの種類と特性
第3回	学校図書館メディアの選択と構成
第4回	学校図書館メディアの組織化（1）分類の意義と機能
第5回	学校図書館メディアの組織化（2）日本十進分類法の使い方①0～1類
第6回	学校図書館メディアの組織化（3）日本十進分類法の使い方②2～3類
第7回	学校図書館メディアの組織化（4）日本十進分類法の使い方③4～5類
第8回	学校図書館メディアの組織化（5）日本十進分類法の使い方④6～7類
第9回	学校図書館メディアの組織化（6）日本十進分類法の使い方⑤8～9類
第10回	学校図書館メディアの組織化（7）件名標目の概要、目録の意義と機能
第11回	学校図書館メディアの組織化（8）日本目録規則の使い方①図書・単著
第12回	学校図書館メディアの組織化（9）日本目録規則の使い方②図書・共著
第13回	学校図書館メディアの組織化（10）日本目録規則の使い方③図書・シリーズ
第14回	学校図書館メディアの組織化（11）目録の電算化
第15回	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・指定した予習・復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

「日本十進分類法 新訂10版」の第2次区分表（教科書にあり）を暗記すること。

■オフィスアワー

授業後30分程度は対応可能。

■評価方法

期末筆記試験 80%、授業の参加態度 20%。

■教科書

志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第2版）第一法規（最新版）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	学習指導と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	司書教諭免許取得志望者	免許等指定科目	司書教諭講習規程指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		司書教諭科目			
キーワード	学校図書館 司書教諭 図書館活用 情報リテラシー 学習指導				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。

〔到達目標〕

- 1) 学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。
- 2) 情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。
- 3) 児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。

■授業の概要

受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1) 図書館および図書館員の役割・業務、2) 学校図書館という館種の機能特性、3) 学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4) 司書教諭の役割、5) 学校図書館というインフラの整備・経営、6) レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 社会における図書館とは何か
第2回	学校図書館の意義・目的 教育課程の編成と学校図書館 児童・生徒の発達段階と学校図書館資料の選択・利用
第3回	学校図書館利用指導 図書館活用教育・情報リテラシー教育 読書センター機能と学習情報センター機能
第4回	知識基盤社会 情報社会 情報リテラシーの理論
第5回	情報リテラシー教育の推進
第6回	情報リテラシーの育成 1 課題の設定
第7回	情報リテラシーの育成 2 情報の収集
第8回	情報リテラシーの育成 3 整理・分析
第9回	情報リテラシーの育成 4 まとめと表現、学習の評価
第10回	教科における学校図書館活用 1 意義と方法
第11回	教科における学校図書館活用 2 各教科における活用の実際
第12回	総合的な学習の時間における学校図書館活用
第13回	特別支援教育と学校図書館
第14回	ICT・デジタルコンテンツの活用と学校図書館 レファレンスサービス
第15回	インフラとしての学校図書館 司書教諭の仕事(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講学生の多くは、初めて図書館学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらかじめ通読する、ノートを見返すことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他(minute paper)

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です。

■オフィスアワー

水曜日 17:00～19:00 1号館 204 研究室

■評価方法

学期末課題レポート(50%)および授業への取り組み方(50%)で評定します。

■教科書

堀川照代・塩谷京子 改訂新版 学習指導と学校図書館 放送大学振興協会 2016年

■参考書

図書館ハンドブック編集委員会編 図書館ハンドブック 第6版補訂版 日本図書館協会 2010年

科目名	読書と豊かな人間性	担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書教育、読書論、読書計画、ブックトーク、読書会、読書人格、読書ノート、読書療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。
〔到達目標〕
①読書指導の計画を作成し、指導できる。
②ブックトークを実演し、指導できる。
③読書ノートが作成できる。
④読書会を実施し、指導できる。

■授業の概要

学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。
第2回	読書の意味(読書観/読書指導の三原則/読書についての思索)と学校図書館法
第3回	読書ノートの作成と読書指導の一環としての図書館利用指導プログラム
第4回	読書の発達段階(読書能力/読書興味)とその構造
第5回	読書指導の方法—ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会—
第6回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント—多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント—
第7回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成—タイトル・対象・ねらい・展開(シナリオ)—
第8回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価
第9回	第1回から第8回までの授業のまとめと課題レポート作成
第10回	読書会の実際① 読書会のポイント—多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス—
第11回	読書会の実際② 読書会の実施—対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価—
第12回	読みの原理(読書以前としてのブックスタート/読みの発達過程)と読書人格
第13回	学校図書館における読書資料と読書環境の整備/読書療法
第14回	読書体験のひろがり(生徒委員会活動/教科教師との協力/図書館広報活動)と地域社会との連携
第15回	第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、次の授業の資料(オリジナルプリントなど)を配布し、授業内容を予告する。
- ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。
- ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。
- ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験(レポート)が80%、提出物が20%の総合評価による。
定期試験レポートの評価基準:①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)
②文章表現が適切である。(20%)
③オリジナリティーがある。(20%)

■教科書

司書教諭テキストシリーズ…04 朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』樹村房(2002)

■参考書

全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク—理論と実践—』全国学校図書館協議会(2001)
ステープン・クラッセン(長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳)『読書はパワー』金の星社(2002)

科目名	情報メディアの活用	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報メディア、 情報検索、 データベース、 インターネット				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。
- ②データベースの構造を理解できる。
- ③情報検索の理論と技法を習得する。
- ④著作権法を理解できる。

■授業の概要

学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、メディア専門職としての司書教諭
第2回	高度情報通信社会と学校図書館
第3回	情報メディアの発達
第4回	情報メディアの特性と選択
第5回	視聴覚メディアの活用
第6回	教育用コンテンツの活用
第7回	データベースと情報検索(1)データベースの構造
第8回	データベースと情報検索(2)情報検索の技法
第9回	インターネットによる情報活用(1)概説
第10回	インターネットによる情報活用(2)情報検索演習
第11回	インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル
第12回	著作権とメディア(1)著作権法概説①著作物とは
第13回	著作権とメディア(2)著作権法概説②著作者人格権、著作隣接権
第14回	著作権とメディア(3)学校図書館と著作権
第15回	著作権とメディア(4)インターネットと著作権、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・指定した予習・復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)

その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。

■オフィスアワー

授業後30分程度は対応可能。

■評価方法

期末レポート(試験)60%、授業中の小レポート40%。

■教科書

井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房(司書教諭テキストシリーズ05)(最新版)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	特別支援教育総論	担当教員 (単位認定者)	久田 信行	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	特別支援学校教諭免許状第1欄		
カリキュラム上の位置づけ		特別支援学校教諭免許状科目 (第1欄)			
キーワード	特別支援教育 歴史 理論 実践				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援教育とは何か、その全体像を理解すること。

〔到達目標〕

特別支援教育の教育思想、歴史、教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目的である。

■授業の概要

目的に接近するため、障害児の心理・生理・病理を学ぶ意義や教育課程・指導方法を学ぶ必要を実践例を元に解説する。「改訂新版 障害児者の理解と教育・支援—特別支援教育/障害者支援のガイド—」を教科書として用い、特別支援教育に関する基本的通知や学習指導要領等の文書を適宜参照しつつ、講義形式を中心に実施する。一部、project based learning (PBL) などのアクティブ学習を加える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	国際生活機能分類 (ICF) による障害の定義と国連障害者の権利条約:4 障害者の権利条約と特別支援教育
第2回	特別支援教育の理念と制度:1 特別支援教育とは 2 特別支援教育に関わる制度
第3回	3 特殊教育・特別支援教育の歴史の変遷
第4回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際: 5 特別支援教育の対象・教育課程の編成・配慮事項 6 個別の教育支援計画の作成
第5回	就学までの支援の仕組みとその実際 (教育支援委員会など):第2章 障害のある乳幼児期の子どもへの支援
第6回	第3章 幼稚園等・小学校・中学校・高等学校 (中等教育学校) における特別支援教育
第7回	1 視覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
第8回	2 聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
第9回	3 知的障害のある児童生徒に対する教育:その1 PBL
第10回	3 知的障害のある児童生徒に対する教育:その2 PBL
第11回	4 肢体不自由の児童生徒に対する教育:その1
第12回	5 肢体不自由の児童生徒に対する教育:その2 動作法実習
第13回	5 病弱の児童生徒に対する教育
第14回	6 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割
第15回	小中高等学校における特別支援教育コーディネーターの役割:新ガイドライン

■受講生に関わる情報および受講のルール

幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

途中で本を探して読む学習等を求めますので、特別支援教育に関する本を探すようにしておいてください。

■オフィスアワー

授業後の30分をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。

■評価方法

webのリアクション10%、読書レポート20%、ショート・レポート10%、最終レポート60%。

■教科書

「特別支援教育総論:インクルーシブ時代の理論と実践」北大路書房 (2016/10/13)

■参考書

文科省「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」(新ガイドライン)(インターネットで入手のこと)その他、適宜指示する。

科目名	障害児支援法総論	担当教員 (単位認定者)	久田 信行	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	特別支援学校教諭免許状第3欄		
カリキュラム上の位置づけ		教育課程及び指導法に関する科目			
キーワード	特別支援教育 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱 教育課程、指導法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害児教育は、障害の無い児童・生徒の通常教育課程の基で、特別な教育的ニーズに応える特別な支援をおこなう教育的営みである。この講義では、どのように障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応えるか、方法論を中心に講義・実習のアクティブラーニングを行う。

〔到達目標〕

本学では知肢病についてはそれぞれの専門科目で履修するが、視覚障害、聴覚障害については、第3欄の科目を履修する必要がある。特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することを目標とする。

■授業の概要

心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む必修科目である。発達障害児等の指導についても講義する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	1 特別な教育的ニーズの早期の把握—脳性麻痺のあるA児を対象に—
第2回	動作法1 基礎的な他者リラクゼーション
第3回	動作法2 基礎的な自己リラクゼーション
第4回	2 連携(家庭・校内・校外・医療・福祉・就労)の在り方 3 保護者支援と家庭との連携
第5回	第6章 特別支援教育に携わる教師が身につけるべき基礎的な力 1 コミュニケーション 2 コーチング 3 ファシリテーション
第6回	自立活動とICF
第7回	4 課題解決力:いわゆる問題行動へのアプローチ
第8回	第7章 今後の特別支援教育 1 インクルーシブ時代における特別支援教育 2 インクルーシブ教育システム構築への道
第9回	3 特別支援教育におけるキャリア教育
第10回	4 特別支援教育におけるICTの活用
第11回	教育支援資料にみる障害児の教育方法1:
第12回	教育支援資料にみる障害児の教育方法2:ADHD児の支援方法
第13回	教育支援資料にみる障害児の教育方法3:学習障害児の支援方法
第14回	教育支援資料にみる障害児の教育方法4:知的障害児の支援方法
第15回	教育支援資料にみる障害児の教育方法5:知的障害児の支援方法

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。指導法を中心とするが、生理・病理・心理の基礎的理解を前提に授業をするので、予習を充分に行うこと。実習的な授業も取り入れるので、動きやすい服装で受講して下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

文科省「教育支援資料」や特別支援学校学習指導要領解説をインターネットで入手し、部分的でも良いので予習しておいてください。

■オフィスアワー

授業後の30分をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。

■評価方法

webのリアクション10%、読書レポート20%、ショート・レポート10%、最終レポート60%。

■教科書

「特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践」北大路書房(2016/10/13)

■参考書

文科省「教育支援資料」(インターネットで入手のこと) その他、適宜指示する。

科目名	重複障害教育総論	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	重複障害 重度・重複障害 ヘレン・ケラー サリバン 視覚・聴覚障害 人間行動の成り立ち 行動の自発				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 重複障害児の実態把握、重複障害教育の理解、個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが重要と理解できる。
 〔到達目標〕
 ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。
 ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。
 ③重複障害児の実践事例を読み込んで、その学習内容と方法が理解できている。

■授業の概要

(重度)重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例を通して考察する。そして、(重度)重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション(重度・重複障害児とは。 歴史の中における重複障害児の実態とその教育実践)
第2回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その1)ヘレン・ケラーとサリバンの対面
第3回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その2)ヘレン・ケラーの食事、しつけとサリバンの教育方針
第4回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その3)つたみどりの家
第5回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その4)物には名前がある
第6回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その5)物には名前があることが理解できたヘレン・ケラーのその後
第7回	(重度)重複障害児の理解 実地見学(施設もしくは学校)
第8回	重複障害教育の実践事例検討② Y盲学校における盲ろう児の指導実践
第9回	重複障害教育の実践事例検討③ G盲学校における弱視ろう児の指導実践
第10回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その1)自発行動の乏しい児童
第11回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その2、3)側臥位。 手と足の働き
第12回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その4、5)定頭困難。視覚障害のある重複障害児
第13回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その6、7)前起こし。机座位
第14回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その8、9)初期学習。意思の表出
第15回	重複障害教育の展望と課題(医療的ケア、教育課程、自立活動、進路指導、諸課題)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児の生活の様子を理解する。
- ②予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に熟読すること。
- ③授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。
- ④授業中に他の学生に迷惑になる行為(私語、携帯電話使用等)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。
- ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
- ③授業の一環として特別支援学校か入所施設を参観するので、日程調節が必要になる場合がある。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

- ①レポート(内容、適切さ)40% ②筆記試験(正確性、客観的、論述)60%
 総合評価は①②の合計が60%を超えていること。

■教科書

- ①アン・サリバン:「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」明治図書 2010
- ②進 一鷹:「重度・重複障がい児の発達と指導法」 明治図書 2010

■参考書

ヘレン・ケラー:「わたしの生涯」角川文庫 1973 他授業の中で適宜紹介する。

科目名	知的障害教育Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知的障害 歴史的背景 学習指導要領 教育課程 領域・教科を合わせた指導 生活単元学習 個別の教育支援計画				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。

〔到達目標〕

- ①知的障害児の特性について理解できている。
- ②知的障害教育の基本的な事項（教育課程、考え方、指導形態、指導方法など）が理解できている。
- ③特別支援学校学習指導要領について理解できている。

■授業の概要

講義を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児の学習指導要領の変遷、知的障害児のあゆみ、知的障害教育の歴史や知的障害児の現況について学習することにより、知的障害教育全般について幅広い知見を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション（知的障害とは 知的障害児の心理と行動傾向について）
第2回	発達障害との関係、知的障害児の歩み、知的障害教育の歴史、学習指導要領の変遷について
第3回	学習指導要領について
第4回	知的障害教育の教育課程について
第5回	教科・領域別の指導について
第6回	教科・領域を合わせた指導について（日常生活の指導）
第7回	教科・領域を合わせた指導について（遊びの指導、生活単元学習）
第8回	教科・領域を合わせた指導について（生活単元学習）
第9回	教科・領域を合わせた指導について（作業学習）
第10回	自立活動の指導について
第11回	特別支援学校と特別支援学級の学級経営について
第12回	特別支援学校と特別支援学級の指導方法について
第13回	個別の指導計画と個別の教育支援計画について
第14回	学校卒業後の課題。進路問題について。キャリア教育について
第15回	特別支援教育の展望と課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①講義の回数に応じて若干授業内容がずれる場合がある。

〔受講のルール〕

- ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。
- ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。
- ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。
- ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

- ①レポート（内容、適切さ）40% ②筆記試験（客観的、論述）60% 総合評価は①②の合計が60%を超えていること。

■教科書

本保恭子他：「知的障害児の教育」 大学教育出版 2012

■参考書

授業の中で適宜紹介、またはプリント配付する。

科目名	肢体不自由教育 I	担当教員 (単位認定者)	大山 知恵子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育 肢体不自由教育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。

〔到達目標〕

- 1 肢体不自由教育の基本知識を習得する。(知識・理解)
- 2 肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。(思考)
- 3 知識を他者に表現することができる。(表現)

■授業の概要

肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、肢体不自由の定義、合理的配慮
第2回	肢体不自由の骨格と関節、筋肉と神経系、脳機能と診断
第3回	肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化
第4回	肢体不自由の心理特性、行動特性
第5回	肢体不自由児の社会的理解
第6回	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用、知能検査、運動検査の方法と活用
第7回	肢体不自由教育における 知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用
第8回	肢体不自由教育における 発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用
第9回	動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎
第10回	肢体不自由教育の歴史 戦前、高木憲次、学校の設立
第11回	肢体不自由教育の歴史 公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備、学習指導要領の制定と改訂
第12回	肢体不自由教育の歴史 養護学校義務制、自立活動の成立と意義、特別支援学校の理念と制度
第13回	肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題、通級による指導の現状と役割
第14回	小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ、特別支援教育に関わる法令、個別の教育支援計画に基づく連携
第15回	肢体不自由教育のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届けること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生の迷惑となる行為(私語、スマホの操作等)、授業の流れや雰囲気壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。(新聞、ニュース等からの情報収集)
 特別支援教育の現場を知ること。(見学、ボランティア等)

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

授業への取り組み(コメントカードの内容、発言等) 20%、定期試験 50%、レポート 30%。

■教科書

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」 2015 ミネルヴァ書房

■参考書

中野尚彦著「障害児心理学ものがたり 小さな秩序系の記録 I II」 2006 2009 明石書房

科目名	知的障害者の心理・生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知的障害、病因、疫学、分類、症状、検査と診断、治療、予後、予防、心理特性とケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義を通して、知的障害児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ①知的障害者（児）の心理・生理・病理特性の基本的知識について説明することができる。
- ②知的障害者（児）の認知特性について説明することができる。

■授業の概要

知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。知的障害の心理・生理・病理の特性を理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	周産期に生じる脳障害
第3回	染色体異常
第4回	先天性風疹症候群
第5回	二分脊椎
第6回	脳炎、髄膜炎
第7回	先天性代謝異常
第8回	頭部外傷、脳血管障害
第9回	てんかん
第10回	先天性筋ジストロフィー
第11回	胎児性アルコール症候群、水俣病
第12回	発達障害
第13回	知的障害児（者）の心理発達と認知特性（1） 乳幼児期
第14回	知的障害児（者）の心理発達と認知特性（2） 思春期・青年期～成人期
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

筆記試験（80%）、ノート（20%）。

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	原因疾患、病因、疫学、分類、症状、検査と診断、治療、予後、予防、看護、心理特性とケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義を通して、肢体不自由児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ①肢体不自由をきたす疾患および障がい者（児）を取り巻く状況について説明することができる。
- ②運動発達と認知発達の関係、肢体不自由者（児）の認知特性について説明することができる。

■授業の概要

肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。特別支援学校教諭として必要な医学知識と障がい者（児）の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	脳性麻痺
第3回	二分脊椎
第4回	筋ジストロフィー
第5回	ペルテス病
第6回	骨系統疾患
第7回	手足の先天奇形
第8回	先天性多発性関節拘縮症
第9回	ウン症の整形外科の合併症
第10回	先天性股関節脱臼
第11回	リハビリテーション
第12回	肢体不自由者（児）の心理（1）障害の受容
第13回	肢体不自由者（児）の心理（2）適応と適応規制
第14回	肢体不自由者（児）の心理（3）心理的な支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

筆記試験（80%）、ノート（20%）。

■教科書

篠田達明監修 肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	知的障害教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	領域・教科を合わせた指導 アヴェロンの野生児 ことば・文字・数 見本合わせ学習 教材・教具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している障害児の実態を考慮しながら、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習内容が理解できる。個々の障害児に合った学習法について考察できる。

〔到達目標〕

- ①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子が理解できる。
- ②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。
- ③特別支援教育の学習の方法が理解できる。

■授業の概要

知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに、知的障害児には難しいといわれている教科的な学習についても、その実践事例を通して理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することにより知的障害教育の支援の方法を知る。今後の知的障害教育の在り方についても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 知的障害教育Ⅰの復習(教育課程 領域・教科別の指導他)
第2回	知的障害教育Ⅰの復習(領域・教科を合わせた指導他)
第3回	知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ① 捕らえられた野生児の様子
第4回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ② 人間の社会に入れられた野生児
第5回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ③ イタールの指導と野生児の変化
第6回	知的障害児の教材・教具について参観
第7回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法①(教材とは、日常生活行動の学習)
第8回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法②(初期学習、課題学習)
第9回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法③(概念行動の学習)
第10回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法④(見本合わせの学習)
第11回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法⑤(記号操作の学習)
第12回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法⑥(絵と実物 文字と単語の学習)
第13回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法⑦(文書と数の学習)
第14回	<ことば・文字・数>基礎学習の教材作りと学習法⑧(ことば・文字・数の基礎学習)
第15回	知的障害児の教育の可能性と学習法、今後の展望について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①知的障害児を指導している現場の視察、もしくは実際に使用している教材・教具の見学を計画予定。
- ②進捗状況によって講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。
- ③予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に必ず熟読すること。
- ④授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。
- ⑤授業中に他の学生に迷惑になる行為(私語、携帯電話使用等)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。
- ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
- ③授業の一環として特別支援学校か教材・教具のあるところを参観するので、日程調節が必要になる場合がある。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

- ①レポート(内容、適切さ)40% ②筆記試験(正確性、客観性、論述)60% 総合評価は①②の合計が60%を超えていること。

■教科書

進 一鷹:「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」 明治図書 2006

■参考書

進 一鷹:「<ことば・文字・数>国語・算数の基礎学習と指導の実際」 明治図書 2007 他プリント配付をする。

科目名	肢体不自由教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大山 知恵子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育 肢体不自由教育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 肢体不自由教育の実践を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。
 〔到達目標〕
 1 肢体不自由教育の実践的知識、技能を獲得する。(知識・理解)
 2 肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。(思考)
 3 知識を他者に表現することができる。(表現)

■授業の概要

肢体不自由児の教育の実践に関する教育・心理・生理、福祉等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、医療的ケア、食事指導、排泄指導
第2回	呼吸障害と姿勢づくり、ポジショニングと変形・側弯
第3回	発作の理解と対応、外部専門家との連携、教育課程の基準と学習指導要領
第4回	教育課程の原理と編成、障害特性をふまえた教科指導、体育の指導
第5回	肢体不自由者と各教科等を合わせた指導、自立と社会参加を目指す総合的な学習の時間、高等部卒業後の進路
第6回	進路指導、キャリア教育、自立活動とは
第7回	自立活動の指導と個別の指導計画、身体の動きの指導、人間関係の形成の指導と評価
第8回	コミュニケーション、チームティーチングの指導と評価、訪問教育、学習指導要領における重複障害者への対応
第9回	肢体不自由特別支援学校の専門性、地域支援、特別支援学校教諭免許状の制度と種類、取得
第10回	特別支援学校教員の養成、採用、現職教員の研修、肢体不自由教育を学ぶ機会、保護者との連携
第11回	脳性まひへの治療と最新アプローチ、小児リハビリテーション、理学療法、障害者福祉関連法
第12回	肢体不自由者、障害児の福祉サービス、身体障害者手帳、肢体不自由者の雇用
第13回	障害者と権利擁護、障害者権利条約、肢体不自由児とインクルーシブ教育、肢体不自由教育における合理的配慮
第14回	就学前の肢体不自由教育・療育、交流及び共同学習
第15回	地域生活と余暇活動、肢体不自由者と家族、肢体不自由者関連団体

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届けること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生の迷惑となる行為(私語、スマホの操作等)、授業の流れや雰囲気壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。(新聞、ニュース等からの情報収集)
 特別支援教育の現場を知ること。(見学、ボランティア等)

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

授業への取り組み(コメントカードの内容、発言等) 20%、定期試験 50%、レポート 30%。

■教科書

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」 2015 ミネルヴァ書房

■参考書

中野尚彦著「障害児心理学ものがたり 小さな秩序系の記録 I II」 2006 2009 明石書房

科目名	病弱児の心理・生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	原因疾患、病因、疫学、分類、症状、検査と診断、治療、予後、予防、心理特性とケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義を通して、病弱児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ①病弱児の生理・心理の基礎知識について説明することができる。
- ②「特別支援教育」などに携わる際に「子どもの慢性疾患」の基本的知識を身につけることができる。

■授業の概要

病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。特別支援学校教諭として必要な医学知識と病弱児の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害
第3回	知的障害を伴わない発達障害と二次障害
第4回	循環器疾患の理解と支援
第5回	呼吸器疾患の理解と支援
第6回	悪性腫瘍の理解と支援
第7回	腎・泌尿器疾患の理解と支援
第8回	成長障害、内分泌疾患の理解と支援
第9回	消化器疾患の理解と支援
第10回	神経系疾患の理解と支援(1) てんかん、脳性まひ、ダウン症
第11回	神経系疾患の理解と支援(2) 知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー
第12回	病気、障害の受容とセルフケア
第13回	病気、障害の子どもの心理的特性
第14回	教育・医療・保健・福祉の連携と支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

筆記試験(80%)、ノート(20%)。

■教科書

小野次朗ら 編著 病弱児の生理・病理・心理 ミネルヴァ書房 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	病弱教育	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	病弱・虚弱 子どもの病気 病気の子どもの気持ち 子どもの不安 親の不安 学校の役割 配慮事項				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病弱教育では特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。また、近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入級してきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解する。

〔到達目標〕

- ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。
- ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。
- ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。

■授業の概要

病弱教育は対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質についても考えながら、病弱教育の専門性と病弱教員としての基本的な知識が習得出来る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 病弱教育とは
第2回	病弱教育の変遷と現状
第3回	病気の理解と指導について～例：色素性乾皮症 膠原病 血管腫 等
第4回	病気の理解と指導について～例：腎疾患 胆道閉鎖症 等
第5回	学校視察 出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
第6回	病気の理解と指導について～例：アレルギーとぜんそく クローン病 等
第7回	病気の理解と指導について～例：肥満 糖尿病 等
第8回	病気の理解と指導について～例：筋ジストロフィー 潰瘍性大腸炎 等
第9回	病気の理解と指導について～例：心疾患 ペルテス病 等
第10回	病気の理解と指導について～例：もやもや病 ムコ多糖症 等
第11回	病気の理解と指導について～例：白血病 血友病 等
第12回	病気の理解と指導について～例：脳腫瘍 悪性リンパ腫 高次脳機能障害 等
第13回	病気の理解と指導について～例：てんかん 心の病気 他
第14回	病気の理解と指導から、病弱教育の教育課程、及び個別の指導計画、個別の教育支援計画について
第15回	病弱教育の展望と課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①病弱教育の現地視察ができれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分に健康に注意する必要がある。
- ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒の知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意する必要がある。
- ③学校参観の日程などは不確実な面がある。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。
- ②将来自分が病弱教育の担任になったつもりで課題を明確にすること。
- ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

①発表（取り組みと内容） 20% ②レポート（内容、適切さ） 20% ③筆記試験（客観 論述） 60%
総合評価は①②③の合計が 60%を超えていること。

■教科書

全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」より引用するのでプリントアウトする。
<http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html>

■参考書

全国病弱養護学校長：病弱教育 Q&A part I 2002

科目名	LD等教育総論	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2,3年次に開講される特別支援学校教諭に関する専門科目を履修することが望ましい。特別支援学校教員免許状取得科目であるが、発達障害の子供たちに対する理解、支援・指導方法を習得したい学生の参加を歓迎する。	免許等指定科目	特別支援学校教員免許状取得		
	カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	LD・ADHD・高機能自閉症 発達障がい 困り感 LD通級指導教室 個別の教育支援計画・指導計画				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。

〔到達目標〕

- LD・ADHD・高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。
- LD・ADHD・高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。
- LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。

■授業の概要

- 特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD, ADHD, 高機能自閉症といわれる発達障がいのある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。
- LD通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探り、個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を学ぶ。
- 学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）	特殊教育から特別支援教育へ
第2回	LDとは	LDの定義・特性（視・聴覚） — アメリカにみる歴史的な背景 —
第3回	ADHDとは	ADHDの定義・特性（感覚と知覚）
第4回	高機能自閉症と自閉症	自閉症の定義・特性（感覚と知覚）
第5回	WISC Ⅲから子どもの特徴を捉える	
第6回	個別の教育支援計画・指導計画	
第7回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	① 読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方
第8回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	② 算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方
第9回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	③ 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方
第10回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	④ 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方
第11回	LD通級指導教室の指導の実際	① 子どもの実態を把握する
第12回	LD通級指導教室の指導の実際	② 子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える
第13回	LD通級指導教室の指導の実際	③ 子どもの実態に合った教材・教具を考える
第14回	LD通級指導教室の指導の実際	④ 教材・教具の有効的な活用方法
第15回	保護者との関わり/まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 授業中に課したミニレポート・チャトルカードを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニレポート）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。

■教科書

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』、東洋館出版、2005年

■参考書

佐藤暁著 『見てわかる 困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社、2008年

科目名	教育実習事前・事後指導（特支）	担当教員 (単位認定者)	小林 義信	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援学校の教育実習にあたり、本実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通して特別支援学校の教員となる資質・意欲を高める。

〔到達目標〕

- 1 特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。
- 2 障害のある児童生徒理解に努め、一人一人の障害特性に合った個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に即した指導方法を組み立てることができる。

■授業の概要

- 1 特別支援学校教育実習の意義・目的を十分理解し、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。
- 2 障害のある児童生徒一人一人の理解に努め、障害特性を踏まえた個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、教育課程の自主編成を理解する。
- 3 本実習終了後、報告書を作成し発表する。研究授業の指導案をもとに授業実習の振り返りを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 教育実習の意義と目的、心構え
第2回	特別支援学校実習にあたり、DVD視聴によるガイダンス（知的障害）
第3回	特別支援学校実習にあたり、DVD視聴によるガイダンス（肢体不自由）
第4回	障害特性の理解（知的障害）と教育課程 ①
第5回	障害特性の理解（知的障害）と教育課程 ②
第6回	障害特性の理解（肢体不自由）と教育課程 ①
第7回	障害特性の理解（肢体不自由）と教育課程 ②
第8回	障害特性の理解（病弱）と教育課程
第9回	学習指導案の作成（知的障害） ①
第10回	学習指導案の作成（知的障害） ②
第11回	学習指導案の作成（肢体不自由） ①
第12回	学習指導案の作成（肢体不自由） ②
第13回	朝の会、帰りの会について（日常生活の指導）
第14回	教育実習で留意すること、教育実習録の書き方
第15回	本実習前オリエンテーション
第16回	教育実習報告会・検討会 ① 教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等（2名ずつの発表）

第 17 回	教育実習報告会・検討会	② 教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等(2名ずつの発表)
第 18 回	教育実習報告会・検討会	③ 教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等(2名ずつの発表)
第 19 回	教育実習報告会・検討会	④ 教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等(2名ずつの発表)
第 20 回	教育実習報告会・検討会	⑤ 教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等(2名ずつの発表)
第 21 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ①
第 22 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ②
第 23 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ③
第 24 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ④
第 25 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ⑤
第 26 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ⑥
第 27 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ⑦
第 28 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ⑧
第 29 回	研究授業の指導案を元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)	1名ずつ 知的・肢体 ⑨
第 30 回	教育実習のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は4年時に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届けること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で実習を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止もあり得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習に向けて、児童生徒の障害特性を理解し、個別の指導計画及び学習指導案の作成に積極的に取り組み、授業構成や教材研究を熱心に行うこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。
- ・実習校の情報に注意を向け、学習支援ボランティア等に積極的に参加すること。
- ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。
- ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容(50%)、実習報告書の内容(40%)、試験またはまとめのレポート(10%)を総合して評価する。

■教科書

群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』
 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』、『解説総則編(幼稚園、小学部、中学部)と(高等部)』、『自立活動編』

■参考書

宮崎英憲 監修 全国特別支援学校長会 編著 『特別支援学校のすべてがわかる 教員をめざすあなたへ』 ジアース教育新社 2017

科目名	特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱)教育実習	担当教員 (単位認定者)	小林 義信	単位数 (時間数)	2 (80)
履修要件	実習履修資格者要件参照	免許等指定科目	教員免許状習得科目		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害のある児童生徒の理解、個別の指導計画・教育支援計画、教育課程の自主編成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害のある児童生徒一人一人の実態に即した教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を立て、児童生徒が主体的に活動し、全人的発達を促せる指導・支援ができるような実践力や指導技術を習得することを目指す。

〔到達目標〕

- 1 特別支援学校の教育活動の場に臨み、特別支援学校の仕組みを知り、障害のある児童生徒の理解に努め、教育課程の自主編成が理解できる。
- 2 一人一人の障害特性にあった個別の指導計画・教育支援計画、学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に即した学習指導(教材教具の開発や工夫等)ができる。チームティーチングの方法を知る。
- 3 保護者理解や地域と学校との関連を理解する。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者。
- 2 特別支援教育とその教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者。
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。
- 4 中学校もしくは高等学校の教員免許状取得可能な単位をもっている者。
- 5 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、知的障害教育Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、肢体不自由教育Ⅱ、重複障害教育総論、LD等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、病弱教育、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。
- 7 1年次より実施する一般教養講座(基礎学力養成講座)を受講する者(原則として3年次まで)。
- 8 ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。
- 9 実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者(都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること)。

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月～11月中に、80時間(2週間)の実習を行う。

※実習校の都合で120時間(3週間)になることもある。実習校の指示に従うこと。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと。
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること。
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること。
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと。
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること。
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること。

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者。
- 2 実習上の注意(1～6)が守れない者。
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習録の評価(40%)

科目名	中学校教育実習（社会科）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	4 (120)
履修要件	実習履修資格者要件参照	免許等指定科目	教員免許状取得科目		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習 教員採用試験対策講座 教科または教職に関する科目 教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者。
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者。
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者。
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）。
- 8 実習後に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者。

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、120時間（3週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと。
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること。
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、特別な理由がない限りその日のうちに指導教員へ提出すること。実習終了後、本学実習指導教員に提出すること。
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと。
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること。
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること。

〔実習中止の措置〕

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者。
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者。
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	幼児理解	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもを理解する、保護者を理解する、保護者との関係				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人間の成長・発達を学び、その過程における子どもや家族の課題を理解したうえで、子どもを対象とした援助者として必要な子どもおよび家族を理解し、支援できる具体的方法を考え、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①子どもを含む人間の成長・発達過程における課題についてを学び、理解する。
- ②子どもを取り巻く環境について学び、理解する。
- ③保護者について学び、理解する。
- ④保護者からの相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。
- ⑤対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。

■授業の概要

子どもの援助を行うためには、子どもの成長・発達の過程を理解するとともに子どもを取り巻く家族の理解も必要である。子どもおよびその家族を支援することができる援助方法や関わり方を学び、子どもおよび家族への援助を考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	本講義のオリエンテーション 講義の進め方および対人援助専門職における自己覚知
第2回	子どもを理解する ①子どもを理解する方法
第3回	子どもを理解する ②絵本をとおして子どもを理解する
第4回	子どもを理解する ③子どもの視点
第5回	子どもを理解する ④子どもの内なる視点
第6回	子どもを理解する ⑤子どもの成長と発達
第7回	子どもを理解する ⑥援助の必要な子どもの特徴
第8回	子どもを理解する ⑦援助の必要な子どもとの関わり方
第9回	保護者を理解する ①子どもにとっての環境
第10回	保護者を理解する ②保護者からの訴え
第11回	保護者を理解する ③保護者との関わり方
第12回	子どもと家族を支援する ①子どもと保護者の特徴を理解する
第13回	子どもと家族を支援する ②背景を理解する
第14回	子どもと家族を支援する ③相談援助と保護者を支えること
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①子どもに関わる対人援助専門職の資格取得にかかわる講義のため、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本となります。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めません。
- ②授業参加状況(相談・連絡・報告ができる、講義理解の確認のためのコメントカードの記述内容)を重視します。
- ③自ら具体的に考え、工夫し、現場における子どもの視点についての視点が持てることを目標に積極的な授業参加を期待します。
- ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。
- ⑤欠席をした場合、授業配布プリント等は次週自ら申し出てください。欠席者の分を出席者が受け取ることはできません。
- ⑥提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ① 授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

講義前後の各30分間。

■評価方法

- ①授業への取り組み(グループワークなど授業への参加状況)20% ②授業レポート(内容および提出状況含む)40%
③定期試験および課題レポート40%

■教科書

幼児理解 谷田貝公昭監修 大沢裕編著 一藝社 2017

■参考書

- ①最新保育講座 こども理解と援助 高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011
- ②新・保育講座3 幼児理解と保育援助 森上史朗+浜口順子編 ミネルヴァ書房 2003
- ③新時代の保育双書 「子どもの理解と保育・教育相談」 小田豊・秋田喜代美編(株)みらい 2009
- ④「子ども理解と保育実践 子どもを知る・自分を知る」塚本美知子編著 萌文書林 2013 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸・田中輝幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	子ども専攻4年次	免許等指定科目	幼稚園教諭		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育実習、責任実習、指導案				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。

〔到達目標〕

- ・子どもの姿のとらえ方、援助の言葉掛け等ができるようにする。
- ・環境構成の考え方を学ぶ。
- ・実習での指導案、日誌、記録が書けるようになる。
- ・運動遊び、製作活動などさまざまな保育が行えるようにする。
- ・責任実習での1日を想定できるようにする。

■授業の概要

事前指導では教育実習(幼稚園)の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに実習日誌の記録方法・指導案立案・保育技術等を習得する。事後指導では実習の総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 教育実習(幼稚園)の意義・目的 実習関係書類作成
第2回	教育実習(幼稚園)の実習計画、実習方法と心構え オリエンテーションについて
第3回	実習記録について 実習記録の意義と内容、実習日誌の書き方
第4回	指導計画①指導計画と指導案の書き方、指導案作成
第5回	指導計画②指導案作成 教材研究と指導技術
第6回	指導計画③指導案作成 教材研究と指導技術
第7回	指導計画④指導案作成
第8回	指導計画⑤指導案作成
第9回	直前指導 実習準備事項の確認
第10回	事後指導①実習総括と自己評価
第11回	事後指導②実習総括と自己課題
第12回	事後指導③実習反省会に向けた準備
第13回	事後指導④実習反省会に向けた準備
第14回	実習反省会
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

製作や運動遊び、手遊び、読み聞かせ等いつでも出来るように準備しておく。

■オフィスアワー

月曜 13:00～15:00 それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。

■評価方法

平常点(授業への取り組み、授業中に課す課題等)50%、授業中に実施したレポート、発表および提出物50%を総合的に評価する。

■教科書

「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学

■参考書

「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)

科目名	幼稚園教育実習	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸・田中輝幸	単位数 (時間数)	4 (160)
履修要件	4年子ども専攻 児童福祉コース	免許等指定科目	幼稚園教諭資格必修		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習、幼稚園、幼稚園教諭				

■授業の目的・到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義、演習を通して得た専門的知識・技能を活かし実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 幼稚園の保育教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 保育教育活動の実践を通して、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神および保育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「幼稚園教諭」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げるものとする。

- ①将来、幼稚園教諭として教育現場で働く意思を強く持っている者。
- ②幼児教育の学習および実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当であると認める者。
- ③「幼稚園教育実習事前事後指導」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。
- ④実習に関する書類を期限内に提出していること。

■実習時期及び実習日数・時間

原則として4学年の6月に160時間(4週間)の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加できる要件を備えていること(必修単位取得)。
- 2 事前ガイダンスの受講および「教育実習の記録」を必須とする。

〔実習中止の措置〕

本学指導教員および実習先指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動等があった場合は直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

・事前ガイダンスへの参加(10%)・実習園の評価(50%)・「教育実習の記録」の評価(40%)。

科目名	生活科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然(植物・生きもの・気象) 行事 文化 身近な人々				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。

〔到達目標〕

- 1) 植物・生き物・気象・年中行事について、子どもが関心を寄せる内容の説明ができる。
- 2) 植物の栽培・生き物の飼育についての知識を身につける。
- 3) 子どもにとって身近な人々や社会とのかかわりについて理解する。
- 4) 上記の1)～3)を四季の変化の中に位置づけることができる。

■授業の概要

四季をとおしての自然と人事(人々や社会とのかかわり)を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス:生活科とは 生活科のめざすものと内容
第2回	身近な自然と文化のとらえ方 「ドリル」をやってみよう
第3回	春の自然と文化:「生活科ずかん」作成にあたっての調べ方と諸注意
第4回	春の自然と文化:春の植物・生き物
第5回	春の自然と文化:春の気象・あそび
第6回	春の自然と文化:春の行事
第7回	夏の自然と文化:夏の植物・生き物
第8回	夏の自然と文化:夏の気象・あそび
第9回	夏の自然と文化:夏の行事
第10回	秋の自然と文化:秋の植物・生き物
第11回	秋の自然と文化:秋の気象・あそび
第12回	冬の自然と文化:秋の行事
第13回	冬の自然と文化:冬の植物・生き物・気象
第14回	冬の自然と文化:冬の行事
第15回	日本の文化:生活の中の日本の文様

■受講生に関わる情報および受講のルール

『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。

- ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。
- ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。
- ・計画的に製作を行うこと。
- ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること(コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など)

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。

■オフィスアワー

金曜日 13:00～15:00

■評価方法

提出物(『生活科ずかん』)(70%)…各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそび を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。 授業への取り組み方(30%)…発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。

■教科書

加藤明・濱田純・吉田豊香ほか 『新編 どきどきわくわく あたらしいせいがかつ』上、東京書籍、2016年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域子育て支援論	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子育て支援 社会的支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。

〔到達目標〕

- ①子育てへの社会的支援の具体的方法を知る。
- ②社会的支援における多職種連携のあり方を理解する。

■授業の概要

テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	子育て支援の理念
第3回	子育て支援の歴史文化的諸相
第4回	幼稚園における子育て支援の取り組み
第5回	幼稚園による地域の子育て支援
第6回	保育所における子育て支援
第7回	子育てセンターの活動と課題
第8回	事例検討
第9回	地域子育て支援活動1
第10回	地域子育て支援活動2
第11回	子育て支援の効果
第12回	父親の子育て支援活動
第13回	事例検討
第14回	子育て支援活動の展望と課題
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで適宜伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで伝える。

■評価方法

期末試験 80%、授業への取り組み等 20%。

■教科書

子育て支援プロジェクト研究会編「子育て支援の理論と実践」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	青少年の理解と援助	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	青少年と現代社会の問題点、教えることと学ぶこと、家庭教育と学校教育、少年期と青年期				

■授業の目的・到達目標

現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、最近の事件をテーマにした話し合いを通して、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。

■授業の概要

不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・キレる青少年・親殺しなどといったことが社会現象になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育、地域社会教育の実態について教育学的視点から分析し、わかりやすく概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方を説明する。
第2回	青少年と教育の現状について。
第3回	教育学の復習：教育とは何か。教えることの意味について。
第4回	学習の意味。
第5回	青少年の人間形成の過程。
第6回	青少年の教育環境。
第7回	DVD鑑賞『禁じられた遊び』
第8回	家庭教育の限界と学校の成立。
第9回	少年期とは。
第10回	少年のころとは：無邪気に遊ぶことの意味。
第11回	青少年の事件簿について話し合う。
第12回	DVD鑑賞『理由なき反抗』（前編：アメリカの青少年の問題）
第13回	DVD鑑賞『理由なき反抗』（後編：青少年の心と大人の反応）
第14回	青年期とは。
第15回	青少年の理解援助のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し授業態度を評価するので、積極的な授業参加や鋭敏な反応を期待する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から青少年に関する事件や情報、文化活動、社会活動等に興味関心を示す態度で生活すること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版、2008

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	人権教育論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人権、国際化、マイノリティー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。

〔到達目標〕

人権の面において、〇〇となるべく新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になることである。

■授業の概要

真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	人権教育の推進は真の国際化につながる
第2回	“みんな同じ”という幻想
第3回	真の人権教育の視点をもった国際理解とは
第4回	足もとの人権
第5回	国際交流では本来、対立が生じることになる
第6回	多様性の中での統一
第7回	偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い
第8回	私達は皆MINORITYであるのか
第9回	政府関係者の差別発言と日本の文明化の問題
第10回	真の国際化と間違った国際化
第11回	二つの外向きの国際化
第12回	善意の姿勢
第13回	「違い」に対する捉え方が全く違うということ
第14回	差別の根拠がないのに差別の実態がある
第15回	経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々に関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

最終試験(70%)、小レポート(20%)、リアクションペーパー(10%)。

■教科書

教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。

科目名	保育原理Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	川端奈津子・吉澤 幸	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	子ども専攻1年次	免許等指定科目	幼稚園教諭・保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育の意義、保育内容・方法、保育の歴史、保育の現状と課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の意義および保育の基本を理解し、保育者としての基本的知識を習得し、保育者としての専門性を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1) 保育の意義について理解する。
- 2) 保育所保育指針における保育の基本を理解する。
- 3) 保育所における子育て支援の基本を理解する。
- 4) 保育の内容と方法の基本について理解する。
- 5) 保育の思想と歴史の変遷について学ぶ。
- 6) 保育の現状と課題について考える。

■授業の概要

保育の思想、歴史、制度等についての基礎的事項および保育の方法や評価方法等について学び、保育の本質について理解できるよう説明していく。また、今日の保育の問題を捉え、新しい動向に対応できる視座を持つことの大切さを説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、教科目としての保育原理の目的と内容
第2回	保育の理念と概念
第3回	保育の社会的役割と責任① 保育所等に期待される役割
第4回	保育の社会的役割と責任② 子どもの虐待防止と保育
第5回	保育の制度的位置づけ① 日本の保育制度
第6回	保育の制度的位置づけ② 社会的養護と保育
第7回	保育所保育指針に基づく保育① 保育所保育指針とは何か
第8回	保育所保育指針に基づく保育② 保育所保育指針と幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第9回	3歳児未満児の保育① 3歳児未満児の保育の基本
第10回	3歳児未満児の保育② 乳児保育の内容
第11回	3歳以上児の保育① 3歳以上児の保育の基礎
第12回	3歳以上児の保育② 個々の子どもの実際と背景
第13回	子育て支援と家庭との連携① 子育てをめぐるさまざまな問題
第14回	子育て支援と家庭との連携② 保育所における地域子育て支援
第15回	前期のまとめ
第16回	保育の目標と方法① 保育所保育指針にみる保育の目標

第 17 回	保育の目標と方法② 生活のなかでの学び
第 18 回	保育の計画・実践および評価① 保育の計画と意義
第 19 回	保育の計画・実践および評価② 保育の評価と改善
第 20 回	諸外国の保育の思想と歴史① 中世までの保育と保育思想
第 21 回	諸外国の保育の思想と歴史② 家族のあり方の変化と子ども
第 22 回	日本の保育の思想と歴史① 近代までの日本の保育の思想と歴史
第 23 回	日本の保育の思想と歴史② 保育制度の整備と保育施設の広がり
第 24 回	諸外国の保育の現状と課題① 世界の保育の制度
第 25 回	諸外国の保育の現状と課題② 世界の保育
第 26 回	日本の保育の現状と課題① 子育てにかかわる現状と課題
第 27 回	日本の保育の現状と課題② 子ども・子育て支援新制度のこれから
第 28 回	日本の保育の現状と課題③ 地域でともに子どもを育てる
第 29 回	後期のまとめ
第 30 回	前・後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

保育についての時事問題にいつも関心を向けておくこと。
保育士資格取得希望の学生は全ての授業に出席すること。
授業中に生じた疑問はそのままにせず、調べる・質問するなどの行動に移すこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に挑むこと。分からない部分は授業で解決するように努力する。

■オフィスアワー

月曜 13:00 ~ 15:00 それ以外の時間はアポイントメントを取って下さい。

■評価方法

筆記試験 60%、授業への取組、授業時に課すレポート 40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに 60%を超えていることが前提となる。

■教科書

①児童育成協会 監修 基本保育シリーズ保育原理 第2版
②幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育、保育要領 チャイルド本社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	社会的養護Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的養護・児童虐待・子どもの権利条約・社会的養護の体系(家庭、施設、里親)				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会的養護及び子どもの権利について理解し、要保護家庭に対する支援方法について基本を学んでいく。

〔到達目標〕

- 1) 児童虐待が急増している現況を認識し、子どもの人権を尊重する意識改革の実践に努めていく。
- 2) 社会的養護の課題及び対応策について考察していく力を養う。

■授業の概要

急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、児童の権利に関する条約等総合的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	・オリエンテーション・社会的養護とは何か
第2回	・社会的養護の基本原則→・ウエルビーイングの実現
第3回	・現代社会に暮らす子どもと家庭→・現在の日本社会
第4回	・日本における家族の置かれた現状・子どもを生き育てることの意味
第5回	・家族は今→理想と現実の狭間で葛藤する家族
第6回	・子どもの権利
第7回	・子どもの権利のとらえ方・社会的擁護を必要とする子どもたちの権利
第8回	・子どもの養護の歴史→・日本の子どもの養護のはじまり・先駆的な取り組み ・日本の第二次世界大戦後の子どもの養護
第9回	・子どもの養護の歴史→・子どもの養護の展開 ・現在の子どもの養護に求められる発想の転換
第10回	・社会的養護の体系→・家庭・施設・里親
第11回	・社会的養護体系の課題・社会的養護の制度→児童相談所・市町村
第12回	・社会的養護の制度→・児童相談所・市町村
第13回	・社会的養護の制度→・家庭養護・ファミリーホーム等
第14回	・社会的養護の制度→・施設養護
第15回	・施設養護の特質→・施設養護の役割・施設で集団で暮らすということ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨みたい。

〔受講のルール〕

・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話等)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・社会的養護に関わる法令については、日頃から社会福祉小六法の活用を怠りなく習慣づけること。
- ・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

定期試験80%、授業中の課題(授業確認のレポート提出)20%で総合評価します。
但し、定期試験が60%未満の場合は、再試験とします。

■教科書

ミネルヴァ書房:新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著

■参考書

社会福祉小六法を授業時に持参すること。

科目名	家庭支援論	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	家族 社会的養護 家庭支援に係る法 子育て支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。
- ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。
- ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。

〔到達目標〕

相談・援助を基盤にした、家庭支援のプロセスを修得する。

■授業の概要

テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	現代社会と家庭
第3回	家庭支援の意義と役割1
第4回	家庭支援の意義と役割2
第5回	家庭支援と法制度
第6回	家庭を支援する技術1
第7回	事例検討
第8回	家庭を支援する技術2
第9回	家庭支援の形態
第10回	家庭支援に関わる社会資源
第11回	子育て支援政策
第12回	保育所の子育て支援機能
第13回	保育所における子育て支援サービス
第14回	特別な配慮の必要な家庭への支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習、復習をすること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで必要に応じて伝える。

■評価方法

期末試験 80%、授業への取り組み 20%。

■教科書

小野・田中・大塚編「家庭支援論」ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	保育内容総論	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	子ども専攻4年次	免許等指定科目	保育士資格・幼稚園教諭免許		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育内容 5領域 保育ニーズ 保育者の専門性 あそび				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育内容とは、保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を示すものであることを理解し、その内容を保育所保育指針及び幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれの目的や方法について学び、基本的な保育内容の意図を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①保育内容の歴史的変遷や保育所保育指針及び幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本を理解する。
- ②多岐にわたる保育ニーズに対応するために保育内容はどうあるべきか自分なりの考えを持てるようになる。
- ③保育内容を実践するために必要な保育観や保育の援助方法について理解する。

■授業の概要

本講義では、保育所・幼稚園・認定こども園における保育内容についての歴史的変遷を知り、様々な事例から保育内容を総合的かつ具体的に理解していきます。また多岐にわたる現代の保育ニーズに対応するために今後の保育内容はどうあるべきか自分なりの考えを持てるようグループワークを多く取り入れていきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育内容の理解
第3回	保育の全体構造と保育内容①養護に関わる内容
第4回	保育の全体構造と保育内容②教育に関わる内容
第5回	保育内容の歴史的変遷
第6回	「環境」を通して行う保育①
第7回	「環境」を通して行う保育②グループワーク
第8回	「あそび」による総合的な保育①
第9回	「あそび」による総合的な保育②グループワーク
第10回	生活や発達の連続性に考慮した保育
第11回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育
第12回	特別な支援を必要とする子どもの保育 DVD学習
第13回	多文化共生の保育
第14回	保育内容と保育者の専門性
第15回	保育内容の今日的課題と保育者の専門性

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞・ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。（レポート提出を予定しています）
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照すること。

■オフィスアワー

前期：金曜 10:30～12:30 後期：火曜 10:30～12:30 それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。

■評価方法

筆記試験（60%）授業内レポート・提出物（40%）の総合評価。

■教科書

保育内容総論 第2版 保育基本シリーズ⑮ 石川 昭義 松川 恵子 編著 中央法規出版

■参考書

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	保育内容（健康）	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	健康、遊び、運動、生活習慣、食育、発育・発達			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもを取り巻く健康の課題を知り、子どもの健康な心とからだを育てられる保育者を目指す。また、自分自身の健康を見直し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①幼児教育の基本や領域「健康」について理解ができる。
- ②子どもの健康をめぐる現状と課題を理解し、保育者として課題に向けてどのようなことができるか考えることができる。
- ③「健康」と、遊び、生活習慣、環境構成、安全教育のつながりを理解し、態度や技能を身につけることができる。

■授業の概要

子どもの発育・発達段階に沿って、心と体の両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに、環境教育、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション ①健康とは ②領域「健康」について
第2回	保育者のさまざまな役割（ロールプレイング計画）
第3回	保育者のさまざまな役割（ロールプレイング発表）
第4回	乳幼児の身体・運動能力の発達
第5回	乳幼児の手指操作の発達
第6回	生活習慣の形成と安全への心構え
第7回	子どもの健康をめぐる現状と課題（生活習慣、食事、運動・遊び）
第8回	子どもの食と食育
第9回	子どもの健康と環境構成
第10回	子どもの健康と遊び（ルールのある遊び）
第11回	子どもの健康と遊び（道具を使った遊び）
第12回	子どもの健康と遊び（さまざまな遊び）
第13回	遊びの中での保育者の援助や配慮
第14回	子どもの健康と安全管理・安全教育
第15回	幼稚園・保育園・小学校の連携 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔資料の取り扱いについて〕

授業で配布するワークシートを用いて、事前の調べ学習を行うことがあるため、手元がない場合には次の回までに教員まで取りに来ること。

〔授業態度〕

グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。

■オフィスアワー

火曜日（16:00～17:30）、木曜日（16:00～17:30）。

■評価方法

授業中の課題・提出物等 30%、筆記試験 70%を総合的に評価する。

■教科書

倉持清美：事例で学ぶ保育内容 領域「健康」改訂版：萌文書林 2010

■参考書

黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2010

科目名	保育内容（人間関係）	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容（人間関係）の意味、保育所保育指針、幼稚園教育要領、保育者と親の人間関係、幼稚園教諭と親の人間関係				

■授業の目的・到達目標

幼児が保育者や親との人間関係の発達の中で、どのように成長していくのかをしっかりと捉え、分析し、理解したうえで保育者としての適切な行動ができるようにする。現場の事例などを参考にしながら学習するので、実習に生かせるような学習効果が期待できる。

■授業の概要

法律に基づいた保育内容(人間関係)の分析と解釈を通して、保育者としての正しい在り方について、事例の説明やグループディスカッションをしながら、幼児や親との人間関係について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方の説明。
第2回	保育内容の『ねらい』の解説
第3回	保育所保育指針の解説(1)、保育所保育指針の解説(2)
第4回	観察記録の分析：幼児と親の人間関係の観察記録について。
第5回	保育所保育指針の解説(3)、保育所保育指針の解説(4)
第6回	保育所保育指針の解説(5)、保育所保育指針の解説(6)
第7回	遊びに関する分析：集団活動に見る人間関係演習について。
第8回	保育所保育指針の解説(7)、保育所保育指針の解説(8)
第9回	保育所保育指針の解説(9)、保育所保育指針の解説(10)
第10回	親子で学ぶこととは：意味と意義について考える。
第11回	保育所保育指針の解説(11)、保育所保育指針の解説(12)
第12回	保育所保育指針の解説(13)、保育所保育指針の解説(14)
第13回	保育内容の取扱い：保育実施上の配慮事項について。
第14回	幼稚園教育要領について解説する。
第15回	保育内容（人間関係）のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し、授業態度を評価するので、積極的な授業参加と俊敏な反応を期待する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から子どもの行動に興味関心を持ち、特に親子や友達の関係における子どもの動きや反応を観察するように心がけること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

定期試験 70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど 30%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容（人間関係）』あるふあ出版、2009

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	保育内容（環境）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	子ども専攻 1 年次	免許等指定科目	保育士資格・幼稚園教諭免許		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育内容 5 領域 教科との違い 環境構成 人的環境 物的環境 保育者				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

今日、多様化した環境の中で成長している子ども達を保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、領域「環境」に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取り巻く環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方や能力を身につけることを目的とします。

〔到達目標〕

- ①子ども達をとりまく様々な環境について理解する。
- ②乳幼児の発達と保育環境の設定の相互関係を理解する。
- ③保育者としてより良い環境を見つけるための視点を身につける。

■授業の概要

乳幼児の発達と保育環境の設定との相互関係を知り、保育環境の意義や役割について考え、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていきます。本講義では、多くの事例から子ども達を取り巻く環境について考え、保育者が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、どう援助すればよいか、それによってどう子どもの伸びる力を引き出すかなどを考察し学んでいきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか
第2回	保育の基本とは
第3回	領域「環境」の位置づけ
第4回	子どもと環境とのかかわり(1)①身近な環境の捉え方
第5回	子どもと環境とのかかわり(1)②身近な自然・生き物とのかかわり
第6回	子どもと環境とのかかわり(2)①物とのかかわり
第7回	子どもと環境とのかかわり(2)②文字や記号・数量とのかかわり
第8回	子どもと環境とのかかわり(3)情報や施設とのかかわり
第9回	さまざまな保育環境について【DVD学習】
第10回	園庭の自然や遊具とのかかわり
第11回	室内の遊具・教材・設備とのかかわり
第12回	飼育・栽培・園外保育
第13回	領域「環境」と保育の実際(1)環境を生活に取り入れる
第14回	領域「環境」と保育の実際(2)文字・数量の感覚を身に付ける
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

前期：金曜 10:30～12:30 後期：火曜 10:30～12:30 それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。

■評価方法

定期試験（60%）、授業内レポート・小テスト（40%）の総合評価。

■教科書

演習 保育内容 環境 柴崎 正行 編著 建帛社

■参考書

保育雑誌 ピッコロ 学研 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	保育内容（言葉）	担当教員 （単位認定者）	吉澤 幸	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	子ども専攻2年次	免許等指定科目	幼稚園教諭・保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	5領域の「言葉」、子どものことばの発達、保育者の指導・支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解する。子ども達の「言葉」の成長を支援できる保育者を目指す。
 〔到達目標〕

- ・領域「言葉」について理解し、保育・教育計画の立案と評価のための視点を獲得。
- ・理論を踏まえてどのように実践が行われているのか理解し、自らの実践に活かす力を養う。
- ・言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援の方法を考えられるようにする。
- ・子どもの言葉の発達を知り、言葉掛けの大切さを学ぶ。

■授業の概要

5領域の「言葉」について基礎、実践、実技、発展という流れで学び、ステップアップしながら学習する。生後間もない乳児への言葉掛けから就学時前の子どもへの言葉掛け、配慮が必要な子どもへの言葉掛け等、子どもの年齢や個人差、性格に合わせた言葉掛けを学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション、保育内容「言葉」の意義 ①幼児教育と保育内容「言葉」
第2回	保育内容「言葉」の意味 ②幼児と言葉
第3回	領域「言葉」のねらいと内容
第4回	子どもの言葉の発達 ①言葉のめばえ
第5回	子どもの言葉の発達 ②言葉による世界の秩序化
第6回	子どもの言葉と環境
第7回	保育者の指導・支援1 0歳児から2歳児までの言葉と保育者のかかわり
第8回	保育者の指導・支援2 3歳児から6歳児までの言葉と保育者のかかわり
第9回	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援 ①言葉の発達が気になる子ども
第10回	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援 ②言葉の発達に障がい・課題を抱える子どもの保育者とのかかわり
第11回	児童文化財① 絵本、素話、紙芝居
第12回	児童文化財② 言葉遊び、演じられる物語
第13回	言葉の指導計画
第14回	発展事例 保育内容「言葉」のまとめ
第15回	言葉と国語教育-小学校教育へ-

■受講生に関わる情報および受講のルール

保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は全ての講義に出席すること。
 予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高める。
 積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用は厳禁）。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

子どもの言葉の発達だけでなく、子どもの発達全般についての理解を深める。児童文化財を積極的に活用すること。

■オフィスアワー

月曜 13:00～15:00 それ以外の時間は、アポイントを取って下さい。

■評価方法

授業への取り組み、授業時に課す課題等 40%、筆記試験 60%。

■教科書

駒井美智子編：保育者を目指す人の保育内容「言葉」：みらい2012

■参考書

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育、保育要領 チャイルド本社

科目名	保育内容（表現）	担当教員 （単位認定者）	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	音楽的表現 造形的表現 ごっこ遊び・劇的表現 オペレッタ			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「領域 表現」における理論的・実践的な学びを通じ、子どもの創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す。また、授業で培った表現力を保育現場で活用できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、「領域 表現」の基本的理論を理解する。
- ②乳幼児の身体や言葉等の表現の特徴を知る。
- ③子どもの育ちを支える、学生自身の「感性・表現力」を磨く。
- ④グループ活動を通じ、保育者に必要な他者との「協力して」「創意工夫する」態度を養う。

■授業の概要

本講義では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」について基本的理解を深めるとともに、保育者を目指す学生にとっての「表現」についての活動を行う。乳幼児の表現行動の特性を知り、グループ活動等のなかで学生自身の「感性・表現力」を磨き、保育者に必要な他者との「協力して」「創意工夫する」態度を養い、保育現場で実践できる力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション ①表現とは ②領域「表現」について
第2回	童話について（日本の昔話、アンデルセン童話、グリム童話、イソップ物語、他）、童話の調べ学習
第3回	乳幼児期の発達と表現
第4回	子どもの豊かな感性と表現を育む環境
第5回	生命に対する感性と表現
第6回	造形に対する感性と表現
第7回	音・音楽に対する感性と表現
第8回	オペレッタについて（概要説明、グループ決め、グループの計画）
第9回	
第10回	オペレッタについて（グループ練習、衣装・小道具製作）
第11回	
第12回	オペレッタについて（発表準備）
第13回	オペレッタについて（グループ発表）
第14回	表現活動を行う際の保育者の役割
第15回	幼稚園・保育所・小学校の連携について まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔資料の取り扱いについて〕

授業で配布するワークシートを用いて、事前の調べ学習を行うことがあるため、手元にない場合には次の回までに教員まで取りに来ること。

〔授業態度〕

グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動や実習において、子どもの遊びや表現行動を意識して観察をする。

■オフィスアワー

火曜日（16:00～17:30）、木曜日（16:00～17:30）。

■評価方法

授業中の課題・提出物等 10%、グループ活動・発表 40%、筆記試験 50%を総合的に評価する。

■教科書

平田智久・小林紀子・砂上史子編：保育内容「表現」：ミネルヴァ書房

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	乳児保育I（演習）	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	子ども専攻3年次	免許等指定科目	保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	乳児保育 3歳未満児 発達 健康と安全 保育所保育指針				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目的とします。また、乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを学んでいきます。

〔到達目標〕

- ①乳児期の発達の特性と発達過程を理解する。
- ②乳児保育における基本的な援助やかかわりについて知る。
- ③保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解する。

■授業の概要

乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習していきます。また保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解し、基本的な援助やかかわりについて学んでいきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 「乳児」とは？ グループワーク
第2回	乳児保育の理念と意義
第3回	乳児保育の役割と機能
第4回	保育所における乳児保育の現状と課題
第5回	新しい保育制度と乳児保育
第6回	乳児保育における基本的な援助やかかわり
第7回	6ヵ月未満児の発達と保育内容① 演習1,2
第8回	6ヵ月未満児の発達と保育内容② 演習まとめ
第9回	6ヵ月から1歳3ヵ月未満児の発達と保育内容① 演習1,2
第10回	6ヵ月から1歳3ヵ月未満児の発達と保育内容② 演習まとめ
第11回	1歳3ヵ月から2歳未満児の発達と保育内容① 演習1,2
第12回	1歳3ヵ月から2歳未満児の発達と保育内容② 演習まとめ
第13回	2歳児の発達と保育内容① 演習1,2
第14回	2歳児の発達と保育内容② 演習まとめ
第15回	まとめ
第16回	乳児院における乳児保育の現状と課題

第 17 回	家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
第 18 回	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第 19 回	グループワーク ～子育て支援について～
第 20 回	乳児保育の計画と記録と評価① 演習 1,2
第 21 回	乳児保育の計画と記録と評価② 演習まとめ
第 22 回	乳児保育の環境づくり① 演習 1,2
第 23 回	乳児保育の環境づくり② 演習まとめ
第 24 回	乳児保育における保育者の役割① 演習 1,2
第 25 回	乳児保育における保育者の役割② 演習まとめ
第 26 回	乳児保育における保護者との連携① 演習 1,2
第 27 回	乳児保育における保護者との連携② 演習まとめ
第 28 回	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携① 演習 1,2
第 29 回	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携② 演習まとめ
第 30 回	後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
 地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜 13:00 ~ 15:00 それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。

■評価方法

講義内でのレポート・小テスト (30%) 提出物 (10%) 定期試験 (60%)。

■教科書

乳児保育 基本保育シリーズ⑯ 寺田清美 大方美香 塩谷香 編集 中央法規出版

■参考書

保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	障害児保育Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解・発達支援・インクルーシブ保育・家族支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現在の保育所・幼稚園には、診断の有無にかかわらず様々な発達課題をもつ子どもが在籍している。それら発達のニーズがある子どもの特性を理解し、その支援方法を知るとともに、インクルーシブ保育の意義や家族への支援について基礎的知識を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①保育場面で出会うことの多い障害の特性と基本的な支援方針や配慮について説明できる。
- ②保護者支援の基本的態度および関係機関との連携の重要性を説明できる。
- ③インクルーシブ保育の意義について説明できる。

■授業の概要

障害のある子への保育形態を理解した上で、保育場面で出会うことの多い障害について特性や支援について学び、個々の状態に合わせた支援提供のための取り組みや家族・関係機関との連携についても理解を深める。また、2学年後期の保育実習指導Ⅰ(施設)の基盤となる科目の一つでもあり、基礎的知識の定着は必須である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要や評価方法等の説明) 障害の概要と対象
第2回	障害児保育の歴史の変遷
第3回	視覚・聴覚障害児の理解と援助
第4回	肢体不自由児の理解と援助
第5回	知的障害児の理解と援助
第6回	発達障害児の理解と援助① ADHD・LD
第7回	発達障害児の理解と援助② 自閉症スペクトラム
第8回	個々の発達をうながす生活や遊びの環境
第9回	子ども同士のかかわりあいと育ち合い
第10回	保育課程に基づく指導計画の作成と記録
第11回	個別の支援計画
第12回	保護者や家庭に対する支援
第13回	地域の専門機関との連携
第14回	小学校との連携(就学に向けた支援)
第15回	福祉・教育における現状と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・私語や携帯電話の操作を慎む。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しませんので、出席者からコピーをとるなど各自で対処して下さい。
- ・毎回の授業で小テストを実施するので、前回授業の復習をして臨んで下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

障害のある子どもとのかかわることのできるボランティアに積極的に参加し、授業で習ったことを確認する機会として下さい。

■オフィスアワー

水曜日(10:00～12:00)。

■評価方法

筆記試験(70%)、小テスト(30%)。

■教科書

障害児保育 基本保育シリーズ⑩ 中央法規出版 2015

■参考書

授業の中で適宜紹介します。

科目名	障害児保育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大山 知恵子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	子ども専攻 4年必須科目	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	障害の理解 人間の尊厳 分離保育 統合保育 親の思い				

■授業の目的・到達目標

まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子どもたちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。

■授業の概要

障害を理解すること、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりを感じ、障害の本質を研究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 障害児保育とは(総論)
第2回	障害児福祉の理念について 障害を持つ子の保育について
第3回	障害の概念について ノーマライゼーションに辿り着くまで
第4回	心身の障害とその理解(1)障害の種類について
第5回	心身の障害とその理解(2)障害の発見について 障害の原因について
第6回	障害児の歴史について(1)社会福祉事業の出發 障害児保育の変遷
第7回	障害児の歴史について(2)福祉の医療と教育について
第8回	心身障害とその理解(知る・理解すること・慣れること)
第9回	障害児に起こりやすい病気について
第10回	健康と発達について 基本的な生活習慣の意義について
第11回	治療教育の考え方 保育・教育の場から社会へ
第12回	保育・療育でのかかわりと育ちについて
第13回	地域・家庭での育ちについて
第14回	障害児保育の形態について 分離・交流・統合保育の特質について
第15回	親の願い 家族の抱える問題 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切に学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

授業に取り組む姿勢 *レポート *提出物(提出期日厳守)

■教科書

指定しない。

■参考書

指定しない。

科目名	保育の表現技術I（音楽）	担当教員 (単位認定者)	平野 恵美子	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	楽譜のきまり 音階 和声 コードネーム 合奏 音楽史				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

音楽の基礎知識を理解し、それに伴い音楽的感性を養い指導に生かせるようにする。

〔到達目標〕

音楽の基礎的な知識を習得することは、単に教養を身につけるというだけでなく、それが良い演奏や良い指導につながることを理解させたい。楽譜の学習に伴って、ソルフェージュを取り入れ、実習することで演奏及び表現の感覚を養っていききたい。また、西洋や日本の音楽史を学習することで、歴史上重要な作曲家の生涯や作品に触れたり、日本の音楽（民謡やわらべ歌）や諸外国の音楽に触れることにより、豊かな音楽感を習得させたい。

■授業の概要

- ①保育者自身の音楽的感性や能力が、そのまま子どもに影響を及ぼすため、音楽の基礎的な知識を習得する。
- ②正しいリズム感、即興的音楽活動をとらえる感覚を養うためのソルフェージュの学習や、コードネームの基礎について学習する。
- ③移調の学習を通して弾き歌いに対する応用力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期オリエンテーション
第2回	楽譜の決まり・手遊び
第3回	音符と休符について・手遊び
第4回	音符の長さリズムについて・リズム打ち・リズム遊び
第5回	音名について（日本名・英名）
第6回	変化記号・調号・異名同音について
第7回	拍子（単純拍子・複合拍子）・拍子記号
第8回	強弱記号・発想記号・反復記号について
第9回	音程について①（長音程・短音程）
第10回	音程について②（完全音程）
第11回	音階について①長音階
第12回	音階について②長音階の調号と主音について
第13回	音階について③短音階
第14回	前期の復習
第15回	前期のまとめ試験
第16回	後期オリエンテーション

科目名	保育の表現技術I（音楽）	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・佃朋子 峯岸梓・曾田梨央	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、ピアノ、表現、音楽、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育や幼児教育の現場において求められている表現活動について理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。音楽、楽譜に対する基礎知識やピアノ演奏についての基本技術を身につける。

〔到達目標〕

保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ演奏について、基本技術（楽譜の読み方や演奏法等）を学び、楽譜の内容を音楽として自力で表現できるようになること。ピアノ技術・能力は向上できるように、個別に指導する。

■授業の概要

（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌うこと、伴奏・コードを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目（前期）オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：歌唱・伴奏（コード）
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：歌唱・伴奏（コード）
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：歌唱・伴奏（コード）
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：歌唱・伴奏（コード）
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：前期試験にむけて
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：前期試験にむけて
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：前期試験にむけて
第15回	前期実技試験について / 前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
第16回	科目（後期）オリエンテーション

第 17 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 18 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 19 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 20 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 21 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 22 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 23 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 24 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 25 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 26 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第 27 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第 28 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第 29 回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第 30 回	後期実技試験について/後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分間。

■評価方法

実技試験 80%・授業内評価 20%。

■教科書

- ①『バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社
- ②『ブルクミュラー 25 の練習曲』全音楽譜出版社
- ③『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社
- ④『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
- ⑤『こどものうた 200』小林美実編：チャイルド本社
- ⑥『続こどものうた 200』小林美実編：チャイルド本社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術I (図画工作)	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	表現 表出 造形表現 幼稚園教育要領 領域「表現」 描画の発達段階 表現にあらわれる類型				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼児が表現を通して豊かな感性を育むことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。
- ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。
- ③現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、表現を体験することから教材研究を行い、教材の概要をとらえ、子どもを想像し、造形活動を構想することができる。
- ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。

■授業の概要

幼児の造形活動の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション	(授業の概要説明、学習のための準備等の確認)	「表現」の意味の発見
第2回	子どもの「表現」とは	幼児期と造形表現の特質	
第3回	幼稚園教育要領から	領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い	
第4回	製作	トレイのギター	(身の回りの材料をつかって)
第5回	製作	二つ折りの動物	(紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。)
第6回	製作	吊す飾り	(保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる)
第7回	子どもの描画の発達段階(幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期)		
第8回	子どもの描画の発達段階(幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期)		
第9回	子どもの描画の表現の傾向と類型(表現にあらわれる類型)		
第10回	子どもの描画の表現の傾向と類型(傾向と問題点)		
第11回	紙素材による制作方法について	(紙の様々な加工技術について)	直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる)
第12回	製作	物語の中の人物	(アイディアスケッチ、試作、製作)
第13回	製作	物語の中の人物	(製作 有効な紙の加工技法を用いて製作)
第14回	製作	物語の中の人物	(製作 仕上げ、鑑賞)
第15回	色彩の基礎	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。
- はさみ、2B鉛筆を用意すること。
- 授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

- 次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。
- 実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。

■オフィスアワー

毎時間授業終了後 30 分まで対応可能。

■評価方法

定期試験(50%)、教材製作作品及び小課題(50%)。

■教科書

長谷喜久一著 「図画工作」 建帛社

■参考書

鬼丸吉弘著 「児童画のロゴス 一身体性と視覚」 勁草書房 (2005)

科目名	保育の表現技術I (図画工作)	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	造形表現 表出と表現 版画製版				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。
造形的な創造活動の能力を培い豊かな情操を養う。

〔到達目標〕

- ①美しいものや優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高めることができる。
- ②発想や構想の能力を高めることができる。
- ③幼児への指導技術を高めることができる。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識をもったとき、それが表現の原点であることを身につけることができる。

■授業の概要

図画工作において、表現と鑑賞の2つの活動で構成されている表現を「A表現」、鑑賞を「B鑑賞」と表記しており、A表現には(1)と(2)、B鑑賞には(1)の領域があり、この表現と鑑賞は、それぞれ独立して働くものではなく、子どものなかで一体的に高まっていくことを学習する。尚、版画の教育的意義を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 図画工作を考える
第2回	発想 表現 鑑賞について、描き作ることの意味
第3回	美術の概念 1.芸術のジャンル 2.美術というもの
第4回	新しい造形と教育 近代美術と個性 造形と教育
第5回	わたしのランチョンマット作成 給食の時間おやつの時間に使って楽しめるもの
第6回	わたしのランチョンマット作成(染物) クレヨンで絵を描き、乳幼児でもできるのがメリット
第7回	スクラッチの制作について(スクラッチの種類と方法 年少児のためのスクラッチ)
第8回	スクラッチ制作(1回 塗りの台紙作りによるもの、参考作品づくり)
第9回	スクラッチ制作(2回 塗りの台紙作りによるもの、参考作品づくり)
第10回	マーブリング(墨流し)の制作 マーブリングは水面に絵具を浮かし紙で写しとる方法
第11回	紙版画の制作 写実的な表現にこだわらないようにする
第12回	紙版画の制作 版作りをする時の接着は科学接着剤を使う
第13回	ドライポイント(金属板版画)の製版の準備 用具としてはニードル等
第14回	ドライポイント(金属板版画)の製版の準備 用具としてはルーレット等
第15回	製版の実践刷り 作品の完成 紙による印刷効果の違いの確認

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し積極的に授業に取り組むこと。
授業中の私語は十分つつしむこと。
工作室等で定められた座席を守ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し授業に臨むこと。次回の授業に該当する授業資料を事前に配布する。

■オフィスアワー

授業前後30分は対応可能。

■評価方法

課題作品 70%(作品の構成バランス・プロポーシオン・コントラスト等で評価します。) レポート 30%等の総合評価。

■教科書

長谷喜久一(著) 図画工作 建帛社

■参考書

磯部錦司(著) 造形表現・図画工作 建帛社

科目名	保育の表現技術I(体育)	担当教員 (単位認定者)	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照	
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	遊び、運動遊び、健康、発育・発達			

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

乳幼児の発育・発達に応じた運動遊びを実践的に学び、実際に子どもに指導できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助方法を理解できる。
- ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。
- ③さまざまな運動遊びの体験を通して、支援・援助方法が行える。

■授業の概要

乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全に遊べるかを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 運動遊びの必要性和目的
第2回	乳幼児の心身の発達、運動遊びの指導の実際
第3回	「歩く」「走る」運動遊び
第4回	「ボール」を使った運動遊び
第5回	「縄」を使った運動遊び
第6回	「新聞紙」を使った遊び
第7回	様々な道具を使った遊び
第8回	伝承遊び、鬼遊び
第9回	課題研究(班での計画・立案)
第10回	課題研究(用具・遊びの準備)
第11回	課題研究(発表準備)
第12回	
第13回	課題研究発表(班別発表)
第14回	
第15回	課題研究発表振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔授業態度〕

グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。2人組や、グループで行う活動があるため、積極的に参加をすること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。

■オフィスアワー

火曜日(16:00～17:30)、木曜日(16:00～17:30)。

■評価方法

実技・発表試験 50%、レポート試験 50%を総合的に評価する。

■教科書

岩崎洋子 保育実用シリーズ 体育遊び 120:チャイルド本社

■参考書

黒井信隆:0～5歳児たのしい運動遊び:いかだ社:2010

科目名	保育教職実践演習	担当教員 (単位認定者)	田中輝幸 吉澤 幸・川端奈津子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	子ども専攻4年次	免許等指定科目	保育士資格・幼稚園教諭免許		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育職・教職に対する使命感・責任感 子ども理解 学級経営力 保育内容の指導力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これまで保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の履修を通じて習得してきた保育者・教育者として必要な資質能力の総仕上げとして、演習により主体的かつ体験的・実践的に協働した学びを通して、保育者・教育者として必要な実践力を多角的に身につけることを目的としている。講義だけでなく、グループ討議や模擬保育など多様な形態の授業を通じて、これまで学んだ知識や技術をより精度の高いものにすることを目指す。

〔到達目標〕

講義や実習等で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めていきます。「保育職・教職に対する使命感・責任感」「社会性や対人関係能力」「子ども理解や学級経営力」「保育内容の指導力」を高め、保育者としての資質のさらなる向上を目指します。

■授業の概要

保育現場に立つ前の総まとめとして、4年間の講義や実習で学んだ様々な体験をもとに、実践的指導力を有する保育者としてのスキルを高める学習として、事例検討や模擬保育等のグループ討議を多く実施します。また、保育職・教職の意義や役割・責任感、保育者の専門性等のテーマにより、子ども専攻の複数の教員をはじめ、保育現場より外部講師を迎え、より幅広い保育実践力の向上を目指していきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育者への歩みと足跡（履修カルテ記入・確認）
第3回	子どもの理解の方法と実際①
第4回	子どもの理解の方法と実際②模擬保育
第5回	園の安全管理
第6回	協同的な学びと育ちへ
第7回	幼保小の接続
第8回	気になる子どもの行動の理解と対応①
第9回	気になる子どもの行動の理解と対応②グループワーク
第10回	保護者および地域との関係づくり
第11回	保育内容と保育方法の研究①（外部講師）
第12回	保育内容と保育方法の研究②グループワーク
第13回	保育者の専門性
第14回	保育職・教職に就くものとしての使命感・責任感（外部講師）
第15回	自分の保育者像を目指して

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・幼児教育に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
実習やボランティア等での体験をまとめておくこと。

■オフィスアワー

前期：金曜 10:30～12:30 後期：火曜 10:30～12:30 それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。

■評価方法

グループ活動への参加状況（50%）提出物・レポート（50%）の総合評価。

■教科書

保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 小櫃 智子 矢藤 誠慈郎 編著 わかば社

■参考書

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）	担当教員 （単位認定者）	川端 奈津子	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の意義と目的 実習施設の理解 実習記録の理解 事前学習 実習の心構え				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実習における施設実習の意義と目的を理解し、施設保育士の倫理や役割を理解が深まる効果的な実習とするために必要な知識と態度を習得する。

〔到達目標〕

- ①実習の意義と目的を理解し、実習生としての心得を身につけ実行できる。
- ②実習施設の法的根拠、目的、利用児（者）の状況、1日の流れ、配置職員等を説明できる。
- ③実習施設の利用児（者）に対する基礎的な支援方法を想定できる。
- ④実習記録や関係書類を適切に記載することができる。

■授業の概要

前期では、施設実習の意義と目的を確認し、様々な種別の実習施設について法的根拠、設置目的、業務内容等を広く学ぶ。さらに、事前学習として実習先へのボランティア活動を実施することで、実習施設についての理解を深めていく。後期は、実習施設の概要や利用児（者）について理解した上で、実習計画書を作成する。また、実習日誌の書き方や関係書類の作成方法、実習オリエンテーションの対応方法や実習直前の再確認を行うなかで実習への意識を高めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（保育実習体系・授業概要・1年間の流れの確認）
第2回	施設実習の意義と目的・実習先種別の理解
第3回	実習施設の理解と実習内容① 乳児院
第4回	実習施設の理解と実習内容② 児童養護施設
第5回	実習施設の理解と実習内容③ 児童相談所および一時保護所
第6回	実習施設の理解と実習内容④ 福祉型障害児入所施設
第7回	実習施設の理解と実習内容⑤ 医療型障害児入所施設
第8回	実習生紹介表を書いてみよう
第9回	実習施設の理解と実習内容⑥ 児童発達支援センター
第10回	実習施設の理解と実習内容⑦ 障害者支援施設
第11回	実習施設の理解と実習内容⑧ 障害福祉サービス事業所
第12回	障害のある子どもが楽しめるおもちゃを作ろう
第13回	先輩講話（前年度の実習生から話を聴く）
第14回	実習施設概要書の作成
第15回	夏期休業中の事前学習指導
第16回	児童発達支援センターでの体験学習

科目名	保育実習指導I(施設)事後指導	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の振り返り 自己評価 スーパービジョン 実習報告会 職業倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

自らの実習を振り返ることで、保育士となるための今後の自己課題を明確化する。また、他者の報告をとおして体験を共有することで、幅広く児童福祉施設等の社会福祉施設についての理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①自分の実習を客観的に振り返り、自己課題を発見できる。
- ②自分の実習先以外の施設についても概要を理解し、基本的事項を説明できる。
- ③支援者となるための職業倫理を身につけ言語化できる。

■授業の概要

実習報告書の作成や自己評価を行うことにより、自身の課題を明確化した上で、グループ単位(種別ごと)で実習を振り返る。さらに、実習スーパービジョンを行い個々で実習レポートを作成し、報告会を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(振り返りの意義・自己評価と実習先評価・自己課題の明確化)	
第2回	グループで体験の共有① 施設の概要・実習内容	
第3回	グループで体験の共有② 子ども(利用者)および職員とのかかわり	
第4回	グループで体験の共有③ 事前学習のあり方・記録の視点	
第5回	グループで体験の共有④ グループ発表	
第6回	個別スーパービジョン(学籍番号01～08)、実習レポートおよび報告会資料(PP)の作成①	
第7回	個別スーパービジョン(学籍番号09～16)、実習レポートおよび報告会資料(PP)の作成②	
第8回	個別スーパービジョン(学籍番号17～24)、実習レポートおよび報告会資料(PP)の作成③	
第9回	個別スーパービジョン(学籍番号25～32)、実習レポートおよび報告会資料(PP)の作成④	
第10回	個別スーパービジョン(学籍番号33～40)、実習レポートおよび報告会資料(PP)の作成⑤	
第11回	実習報告会①(乳児院・児童養護施設)	
第12回	実習報告会②(児童発達支援センター・福祉型障害児入所施設)	
第13回	実習報告会③(医療型障害児入所施設・障害者支援施設)	
第14回	実習報告会④(障害者支援施設)	
第15回	実習報告会⑤(障害福祉サービス事業所)	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻や欠席の連絡は必ず事前に届け出ること。
- ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意する。配付資料の予備は保管しないので、出席者からコピーしてください。
- ・実習体験の共有化を図るために他者の発表は真剣に聴くこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

明確化された個々の課題克服にむけた目標を立てること。施設を就職先の選択肢として考慮する場合は、日頃からボランティア等を継続しておくこと。

■オフィスアワー

金曜(10:30～12:00)

■評価方法

授業内での発表・取り組み姿勢(30%)、実習関係書類の提出状況(20%)、実習レポートの内容(50%)。

■教科書

- 1 群馬医療福祉大学『実習へのガイドブック』群馬医療福祉大学 2016
- 2 施設実習パーフェクトガイド わかば社 2017

■参考書

福祉小六法編集委員会『福祉小六法』 みらい 2017

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員 (単位認定者)	田中輝幸・吉澤 幸	単位数 (時間数)	1 (60)
履修要件	子ども専攻3年次	免許等指定科目	保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育士 観察実習 部分実習 実習記録 指導案 保育実技				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。

〔到達目標〕

- ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。
- ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。
- ③発達年齢に合わせた保育実技等を習得し実践することができる。

■授業の概要

本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習の流れ、依頼の仕方
第3回	保育実習の具体的内容の実習計画
第4回	実習施設の理解①実習園を知る
第5回	実習施設の理解②デイリープログラム
第6回	保育実技①集団遊び・リズム体操
第7回	保育実技②新聞紙遊び等
第8回	観察実習のポイント
第9回	実習課題の明確化
第10回	個人調書と自己紹介
第11回	実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等
第12回	実習の心構えと理解②実習生としての心構え
第13回	保育実技③読み聞かせについて
第14回	保育実技④紙芝居について
第15回	前期まとめ
第16回	後期オリエンテーション

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）	担当教員 (単位認定者)	田中輝幸・吉澤 幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	子ども専攻4年次	免許等指定科目	保育士資格		
	カリキュラム上の位置づけ	資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育士 参加実習 責任実習 指導案				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。また責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。

〔到達目標〕

- ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。
- ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。
- ③発達年齢に合わせた指導案を作成し実践することができる。

■授業の概要

本講義は保育所実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。特に責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習Ⅰ（保育所）振り返り
第3回	実習課題の明確化
第4回	実習の心構えと理解
第5回	責任実習のポイント 指導案について①4、5歳児のポイント
第6回	責任実習のポイント 指導案について②3、4歳児のポイント
第7回	責任実習のポイント 指導案について③未満児のポイント
第8回	保育実習の具体的内容と実習計画
第9回	保育実技について（手作り教材等）
第10回	オリエンテーションについて
第11回	実習中の注意事項について 守秘義務・個人情報等
第12回	保育実習直前指導
第13回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導①自己評価表及び報告書の作成
第14回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導②グループワーク及び評価面談
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

前期：金曜 10:30～12:30 後期：火曜 10:30～12:30 それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。

■評価方法

提出物（50%）、授業内レポート（30%）、小テスト（20%）の総合評価。

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	児童文化（演習）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸・吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	子ども専攻2年次	免許等指定科目	保育士資格・幼稚園教諭免許		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	児童文化、保育実践、あそび、視覚的教材				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育現場における児童文化財の活用・実践を理解し、児童文化を介した豊かな遊びを作り出す企画・実践力を養う。

〔到達目標〕

- ①「児童文化」の歴史や考え方を学び、「児童文化」の概念を理解する。
- ②児童文化財の保育への展開を理解し、実践することができる。
- ③児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つことができる。

■授業の概要

児童文化財を保育にいかす方法や児童文化財を用いた実践事例について解説し、児童文化財ごとに実践の場につなげるための基礎知識を学び、実際に体験することで理解を深めていく。また児童文化財を各自製作し、グループ発表等を通して実践の場で活用できるスキルを高めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実践としての児童文化
第3回	季節の折り紙（春～夏）
第4回	児童文化の現状と課題
第5回	児童文化が保育実践に与える効果
第6回	児童文化財1 絵本①発達年齢ごとの絵本について
第7回	児童文化財1 絵本②グループワーク
第8回	児童文化財2 紙芝居①8場面の紙芝居について
第9回	児童文化財2 紙芝居②グループワーク
第10回	児童文化財3 おはなし
第11回	児童文化財4 ことばあそび
第12回	児童文化財5 ペープサート①概要説明
第13回	児童文化財5 ペープサート②製作
第14回	児童文化財5 ペープサート③グループワーク
第15回	前期まとめ
第16回	後期オリエンテーション 季節の折り紙（秋～冬）

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・佃朋子 峯岸梓・曾田梨央	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅰ（音楽）にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められる表現活動についてより深く理解し、速やかに実践できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

バイエルを修了し、ブルグミュラー、ソナチネ等を演奏することができる。弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができる。こどもの発達に即したパフォーマンスができる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じて個別にレッスンする。弾き歌いについては基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。また、総合的な表現の発表や指導ができるよう、こどもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目（前期）オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第15回	前期実技試験について / 前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
第16回	科目（後期）オリエンテーション

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	表現 表出 造形表現 領域「表現」 模擬保育 指導案 教材研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1) 幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。
- 2) 現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。
- 3) 造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。
- 4) 保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。

■授業の概要

1年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）」の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション（授業概要の説明、実技実習の準備等の確認）				
第2回	表現の本質	表出と表現	領域「表現」のねらいと内容	造形表現の分類	造形表現の特質
第3回	幼児期と造形表現		造形表現の指導のねらい		
第4回	ポップアップカードの技法 基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）				
第5回	ポップアップカード製作（構想—試作—図面書き—カッティング—折る（筋引き）—組み立て）				
第6回	子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）				
第7回	子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」				
第8回	教材研究（素材遊び） 折り染め 染めた紙で役に立つ小物づくり				
第9回	教材研究 紙コップでつくるパクパク人形				
第10回	教材研究（素材遊び） 吹き散らしと流し絵				
第11回	指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方）				
第12回	指導の過程（指導の段階） a事前の準備 b動機づけ c展開 dまとめ				
第13回	紙レリーフの表現技法練習（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等）				
第14回	保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界） アイデアスケッチ—試作—製作				
第15回	保育室の壁面を紙レリーフで表現する		試作—製作		
第16回	保育室の壁面を紙レリーフで表現する		製作—鑑賞		

第 17 回	園内作品展開催の意義 展示計画・設営 (大学祭時の教材展開催の展示の方法について)
第 18 回	教材研究 (各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする) 指導案の書き方
第 19 回	教材研究と指導案作成 (各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する)
第 20 回	指導案作成(教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する)
第 21 回	自然物を使って作る (松ぼっくりのミニツリー)
第 22 回	模擬保育、造形表現研究会① (デカルコマニー)
第 23 回	模擬保育、造形表現研究会② (身につける飾り)
第 24 回	模擬保育、造形表現研究会③ (はじき絵)
第 25 回	模擬保育、造形表現研究会④ (にじみ絵)
第 26 回	模擬保育、造形表現研究会⑤ (野菜の型押し版画)
第 27 回	模擬保育、造形表現研究会⑥ (コラージュ)
第 28 回	教材研究発表会① (教材名、本教材の目的・内容 導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等)
第 29 回	教材研究発表会② (教材名、本教材の目的・内容 導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等)
第 30 回	造形表現のまとめ (幼児の造形活動の支援の方法)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。
- はさみ、2B鉛筆を用意すること。
- 授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- 次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。
- 模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。

■オフィスアワー

毎時間授業終了後 30 分は対応可能。

■評価方法

定期試験 (50%)、教材製作作品及び指導案、小規模課題等 (50%)。

■教科書

村内哲二編著 「保育内容 造形表現の指導 [第 3 版]」 建帛社。

■参考書

開 仁志編著 「保育指導案 大百科事典」 一藝社 (2012)

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	担当教員 (単位認定者)	平野 恵美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い コードネーム 伴奏付け 移調 音楽表現活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

音楽表現の国での活動内容を理解し、指導するための知識や技能を習得する。

〔到達目標〕

「表現」の構造から学び、乳幼児の発達とそれに伴う音楽表現についての認識・理解を深め、表現技術Ⅰで習得した技術を十分生かしながら、歌・手遊び・表現遊び・合奏など、様々な実践的音楽活動を通して、学生自身の感受性、表現力を向上させ乳幼児が楽しんで音楽にかかわり、自由な音楽表現が育つよう、発達段階に即した音楽指導を習得する。

■授業の概要

- ①保育の音楽表現におけるいくつかの活動が単体での活動ではなく、発達段階を考慮しながら園での生活の中に総合的に取り入れられていることを理解し、活動の指導法や留意点を習得する。
- ②保育の様々な場面で展開される音楽活動の基礎となる歌唱や弾き歌いなどに対し、幼児の感性や表現力を養い、表現活動を活発にするための指導法やコードネームによる伴奏付けを習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期オリエンテーション
第2回	コードネーム①音程と三和音の関係・基礎コードについて
第3回	コードネーム②メジャーコードとマイナーコード
第4回	コードネーム③セブンスコードとその他のコード
第5回	ハ長調、ヘ長調、ト長調における和音進行とコードの関係
第6回	和音の転回形による和音進行
第7回	各調（ハ調、ヘ調、ト調）におけるコードネームによる伴奏付け
第8回	即興的な伴奏法と伴奏の変化（分散和音等）について
第9回	前奏、後奏、アインザッツの入れ方
第10回	「手遊び」「指遊び」について年齢別指導のポイントについて
第11回	学生による「手遊び」「指遊び」
第12回	伴奏付けにおける旋律に対する和音の選択について
第13回	和音の選択と非和声音について
第14回	前期の復習
第15回	前期のまとめ試験
第16回	後期オリエンテーション

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・佃朋子 峯岸梓・曾田梨央	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。こどもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンをを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目（前期）オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第15回	前期実技試験について / 前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
第16回	科目（後期）オリエンテーション

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	担当教員 (単位認定者)	足立勤一・佃朋子 峯岸梓・曾田梨央	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、弾き歌い、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。

〔到達目標〕

保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。

■授業の概要

有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個人レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目（前期）オリエンテーション
第2回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶをつけて演奏できる）
第3回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶをつけて演奏できる）
第4回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる）
第5回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる）
第6回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく）
第7回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく）
第8回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる）
第9回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる）
第10回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる）
第11回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる）
第12回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第13回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第14回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
第15回	前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
第16回	科目（後期）オリエンテーション
第17回	進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上

第 18 回	進度に応じたレッスン:総合的な表現技術の向上
第 19 回	進度に応じたレッスン:総合的な表現技術の向上
第 20 回	進度に応じたレッスン:総合的な表現技術の向上
第 21 回	進度に応じたレッスン:総合的な表現技術の向上
第 22 回	進度に応じたレッスン:お楽しみ会準備①(弾き歌い・ピアノ曲)
第 23 回	進度に応じたレッスン:お楽しみ会準備②(弾き歌い・ピアノ曲)
第 24 回	進度に応じたレッスン:お楽しみ会準備③(弾き歌い・ピアノ曲)
第 25 回	進度に応じたレッスン:お楽しみ会準備④(歌詞を感情移入し朗読で表現する:コーラス)
第 26 回	進度に応じたレッスン:お楽しみ会準備⑤(身体的パフォーマンスで表現する:カップス)
第 27 回	お楽しみ会(保育・小学校現場の実際と表現活動指導について):後期試験にむけて
第 28 回	進度に応じたレッスン:後期試験にむけて
第 29 回	進度に応じたレッスン:後期試験にむけて
第 30 回	後期実技試験について/後期のまとめ(試験は暗譜で公開演奏する)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に初等教育コースの学生は[学習指導要領(音楽)]を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用(WEB フォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、こどもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分間。

■評価方法

実技試験 70%・授業内評価 30%。

■教科書

- ①『こどものうた 200』小林美実編:チャイルド本社
- ②『続こどものうた 200』小林美実編:チャイルド本社
- ③『フルクミュラー 25 の練習曲』全音楽譜出版社
- ④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社
- ⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
- ⑥『小学校教科書(音楽)』:初等教育コース

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	国語科概論	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教科に関する科目 (必修)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	国語科学習指導要領・解説、教材研究、学習指導案、国語力、模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の基本的な指導法を理解する。

〔到達目標〕

- ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。
- ②国語科の基本的な指導方法を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導要領の内容が実際の国語科教科書にどのように具体化しているか、理解する。
- 2 学習指導要領解説「国語編」を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。
- 3 上記1と2を踏まえ、グループで教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション、国語科指導の基礎基本①(敬語1、範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説1)、教師の体験談1(初任時の失敗談)
第2回	国語科指導の基礎基本②(敬語2、文学史、学習指導要領及び解説2、担当漢字1年)、教師の体験談2(1年生は宇宙人)
第3回	国語科指導の基礎基本③(文法1、板書法、学習指導要領及び解説3、担当漢字2年)、教師の体験談3(20代の頃)
第4回	国語科指導の基礎基本④(文法2、教材の配列・系統、学習指導要領及び解説4、書写、担当漢字3・4年)、教師の体験談4(学級経営、教育委員会)
第5回	学習指導案の作成方法(主な項目と作成の流れ、実際の学習指導案「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項」から学ぶ)、担当漢字5・6年
第6回	教材研究の仕方(実際に教科書教材「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項」を用い、学ぶ。)
第7回	学習指導案の作成(「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項」について、A班・B班に分かれ、グループで協力し作成する。)
第8回	模擬授業の準備(「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項」について、A班・B班で教材作成、授業シミュレーションを行う。)
第9回	模擬授業(A班)、授業研究会(A班)「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項 全3時間中の第2時」
第10回	模擬授業(B班)、授業研究会(B班)「2年上 かたかなで書く言葉 言語事項 全3時間中の第3時」
第11回	学習指導案の作成(「3年上 すみれとあり 説明文」について、A班・B班に分かれ、グループで協力し作成する。)
第12回	模擬授業の準備(「3年上 すみれとあり 説明文」について、A班・B班で教材作成、授業シミュレーションを行う。)
第13回	模擬授業(B班)、授業研究会(B班)「3年上 すみれとあり 説明文 全18時間中の第4時」
第14回	模擬授業(A班)、授業研究会(A班)「3年上 すみれとあり 説明文 全18時間中の第5時」
第15回	学習指導要領及び解説のまとめ、教員採用試験の国語科領域について、シャトルカードを用いた半期の振り返りと発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。
- ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

火曜日:9時～12時、水曜日:9時～12時。

■評価方法

学期末試験(50%)、授業への取り組み・模擬授業(30%)、ミニテスト(20%)。

■教科書

- 1 文部科学省:「小学校学習指導要領 国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他:「小学校児童用教科書「ひろがる言葉」1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版
- 3 名古屋大学日本語研究会GK7:「スキルアップ!日本語力」東京書籍、2012年9月

■参考書

- ・牛頭 哲宏・森篤 嗣:「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年
- ・桂 聖『「考える音読」の授業 文学アイデア50』東洋館出版社、2011年
- ・その他、講義の中で、随時紹介する。

科目名	社会科概論	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	子ども専攻初等教育コース 2年次必修科目	免許等指定科目	小学校教諭一種		
カリキュラム上の位置づけ		教職課程(小学校教諭一種) 専門科目			
キーワード	生きる力 知識及び技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性 伝統・文化教育の充実 問題解決能力 公民としての資質・能力の基礎				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領のポイントを理解すること。
- ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。
- ③各学年の学習内容を理解すること。
- ④基礎となる考え方を理解すること。

■授業の概要

「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイントについて学ぶ。
指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容を体系的にまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント
第2回	社会科の目標、小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)
第3回	小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)、学年別学習内容構成(指導要領の見方②)
第4回	第3学年の学習内容①・身近な地域や市区町村の様子、地域に見られる生産や販売の仕事
第5回	第3学年の学習内容②・地域の安全を守る働き、市の様子の変り変わり
第6回	第4学年の学習内容①・都道府県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働き
第7回	第4学年の学習内容②・人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動
第8回	第5学年の学習内容①・我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり
第9回	第5学年の学習内容②・我が国の農業や水産業における食料生産、我が国の工業生産
第10回	第5学年の学習内容③・我が国の産業と情報との関わり
第11回	第6学年の学習内容①・我が国の政治の働き
第12回	第6学年の学習内容②・我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)
第13回	第6学年の学習内容③・我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)
第14回	第6学年の学習内容④・我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)
第15回	第6学年の学習内容⑤・グローバル化する世界と日本の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようしておくこと。
地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。

■オフィスアワー

火曜日の14:30～17:30

■評価方法

定期試験及び授業後の確認テストにて評価する。

■教科書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	数学概論	担当教員 (単位認定者)	片山 哲也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校における数概念・図形概念の指導原理、算数用語、算数・数学公式				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

算数教育の背景となる基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方を働かせた数学的活動の理解を深め、小学校教師としての基本的知識と技能を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数指導の基本原則を理解し、算数指導に役立てることができる。
- ②算数指導における用語・記号活用の意義や方法を理解し、算数指導に役立てることができる。
- ③算数指導における操作活動や数学ゲームなど算数指導の充実を図る創造力を養い、算数指導に役立てることができる。
- ④アルゴリズムの理解と整数論・集合論など数学的思考や活動に役立つ基本概念を学び、算数指導の質の向上に役立てることができる。
- ⑤数学の基本的知識を理解し、教員採用試験（一般教養）の回答に役立てる。

■授業の概要

テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著に基づき、小学校算数教育の背景となる基本概念を講義・意見交換などで理解を深めるとともに、関連する数学理論の基本的理解を深める。操作活動や教材作成など実際の算数授業を体験しながら資質向上を図る。授業は全員参加で問題解答、操作活動、数学ゲームなどに取り組み、アクティブラーニングを旨とする。数学的思考はノートづくりから始まりノートづくりでまとまるものであり、授業ノートをレポートとする。ノート作成は各自創意工夫するものだが、試験にノート持ち込み可（テキスト不可）として考えて記録すること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	講義・演習	オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動	テキスト24,25	公式用語理解(数)
第2回	講義・演習	数の表し方(記数法・名数法)	テキスト1,2	数学広場(数の誕生・連続量) 公式用語理解(四則計算)
第3回	講義・演習	倍数・約数・素数・分数	テキスト3,4	数学広場(互除法、友愛数) 公式用語理解(等式、分数)
第4回	講義・演習	計算の意味と作問(増加、合併、求残、求差)	テキスト5	数学広場(箱の中の数字当て) 公式用語理解(アルゴリズム)
第5回	講義・演習	かけ算、わり算と数直線(仮商、真商)	テキスト8,10	数学広場(外的スキーマ、概念形成) 公式用語理解(分数)
第6回	講義・演習	少数、分数の掛け算割り算の説明	テキスト8,11,12	数学広場(循環小数) 公式用語理解(比と比例式)
第7回	講義・演習	量の比較や測定	テキスト13	数学広場(文字の数学) 公式用語理解(方程式)
第8回	講義・演習	単位量当たりの大きさ	テキスト15	数学広場(集合) 公式用語理解(方程式2)
第9回	講義・演習	図形の定義・性質と操作活動、平面図形の求積	テキスト14	数学広場(三角形と多角形) 公式用語理解(図形1)
第10回	講義・演習	基本的な図形概念	テキスト16	数学広場(タングラム) 公式用語理解(図形2)
第11回	講義・演習	帰納的な考え方と演繹的な考え方	テキスト17	数学広場(重心・ピタゴラスの定理) 公式用語理解(図形3)
第12回	講義・演習	正多角形と円・円周率	数学広場(円) テキスト18	公式用語理解(図形4)
第13回	講義・演習	立体図形	テキスト19	数学広場(正多面体・準多面体) 公式用語理解(関数1)
第14回	講義・演習	関数的な考え方と式・グラフ	テキスト20	数学広場(ブラックボックス) 公式用語理解(関数2)
第15回	講義・演習	算数的活動(数学的活動)を楽しむ	テキスト23	数学広場(関数とグラフ) 公式用語理解(関数3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ、USBメモリーは常時持参。
- ・テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著は必携。
- ・講義は小学校の授業を想定し、授業のルールを守り、誠実は授業態度で出席のこと。
- ・演習は教員採用試験一般教養の数学問題に取り組みます。(数学広場・公式用語理解で扱い)

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教員採用試験の対策を念頭に問題解答など演習の時間を毎回作るので準備すること。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

- ・毎時間の学習ノートをレポートとして提出。(50%)
- ・授業参加の意欲(発言、発表、回答)(30%)
- ・算数に関する形成的評価(20%)

■教科書

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著 教育出版

■参考書

講義中に適宜紹介します。

科目名	理科概論	担当教員 (単位認定者)	高山 幸延	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生きる力 学習指導要領 PISA 学習到達度調査 小学校理科の目的 内容区分 問題解決				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校理科学習指導要領の目的・内容を理解し、生きる力と理科教育の関連性について考察する。
小学校理科の内容区分、及び各学年の学習内容について理解を深める。
理科教育における今日的な課題について把握し、今後の理科教育の在り方について各自考えを持つ。

〔到達目標〕

- ・理科学習指導要領及び解説（小学校理科の目的）について理解することができる。
- ・知識基盤社会における理科教育の重要性を認識し、これからの理科教育の在り方について考察することができる。
- ・講義では、グループワーク等において積極的に自分の意見を発表することができる。

■授業の概要

- 1 「生きる力」の教育理念のもとに、小学校理科の在り方について学ぶ。学ぶ過程においては、講義にアクティブラーニングを取り入れ、学生たちが積極的に意見を交換し合う中で学びを深めていく。
- 2 毎回の講義では、講師の配布するワークシートをもとにして学習を進める。課題に対して自分の意見を積極的に発表することが望ましい。講義終了に際して、「振り返りシート」をていねいにまとめ、本時の振り返りを行う。疑問・質問があれば記述する。（講師が次時までコメントを返す）

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学習内容の理解と学習を進める上での留意点等の確認
第2回	子どもたちに身に付けさせたい生きる力、生きる力と理科教育との関わり
第3回	全国学力・学習状況調査の検証 その1（班で実際に問題を解く）
第4回	全国学力・学習状況調査の検証 その2、PISA調査における児童の学力状況の考察
第5回	21世紀型スキル、学び方の学習と理科教育の関わり
第6回	学外体験学習（少年科学館見学、理科実験の実際、プラネタリウムによる冬の空）
第7回	小学校理科学習指導要領解説「理科編」の理解（理科の目標）
第8回	小学校理科の内容区分A、Bの理解と学習内容 31単元のフラッシュカード作り
第9回	生涯学習センター「少年科学館」での体験実習 プラネタリウム鑑賞 理科施設利用の実態
第10回	「自然に親しむこと」、「自然を愛する心情の育成」の定義とその実際
第11回	演習：「自然を愛する心情の育成を実際の授業に取り入れる工夫を考え、班毎に発表する」
第12回	「実感を伴った理解」の定義とその実際
第13回	「問題解決の能力の育成」の定義とその実際、問題解決能力の各学年ごとのステージの理解
第14回	「問題解決の能力の育成」における各学年のステージと授業での具体例
第15回	理科教育と言語活動の充実、アクティブラーニングの基本的な考え方の理解、学習指導要領改訂の趣旨と今後の方向

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 小学校教諭、保育士等、教職を目指す者としての自覚を持ち講義に臨むこと。
- 2 講義においては、学習課題に対して自らの考えをしっかりと持ち、積極的に意見発表するよう努めること。
- 3 振り返りシートに講義の感想や質疑を毎回明記すること。
- 4 毎回配布されるワークシートの保管をきちとしておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ワークシート）

■授業時間外学習にかかわる情報

理科（科学）や教育の今日的な課題等に関わるニュース、新聞記事、書籍に触れる習慣を身に付けること。
 普段の生活の中で身の回りの自然を観察する習慣を付けること。

■オフィスアワー

質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。毎回、講師がコメントを返却する。
 講義後の30分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。

■評価方法

学期末試験(60%)、レポート・プレゼン(30%)、授業への取り組み(GWでの積極性、意見発表、振り返り、ノート整理)(10%)。

■教科書

小学校学習指導要領解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行 新しい理科）

■参考書

講義の中で随時紹介する。
 文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページを時々閲覧すること。

科目名	音楽概論	担当教員 (単位認定者)	平野 恵美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 音楽教育 表現(歌唱・楽器・音づくり) 鑑賞 共通事項				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科学習指導要領の目的・内容を理解し、音楽科の基本的な知識や能力を培い指導法を理解する。

〔到達目標〕

①音楽科学習指導要領及び解説について理解することができる。

②教科の目標及び各学年の目標と学習内容を理解し、音楽科の指導方法を身につけることができる。

■授業の概要

音楽科を教えるための基本的な理論と知識を学習し、学習指導要領の学習内容が授業でどのように具体化されているか理解し、内容に応じた指導法を学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の説明等)
第2回	音楽の本質と要素
第3回	音楽教育の目標と芸術教育の目標
第4回	小学校音楽科目標の組み立て(教科目標・学年目標)
第5回	総括目標(音楽性・情操・創造性)
第6回	表現(歌唱・楽器・音づくり)・鑑賞・共通事項の具体的目標
第7回	指導内容 表現(歌唱) 基礎技能
第8回	指導内容 表現(歌唱) リズム・音程・和声・読譜
第9回	指導内容 表現(楽器) 楽器の種類・奏法・合奏
第10回	指導内容 表現(楽器) 指導上の問題点
第11回	指導内容 表現(音づくり)
第12回	指導内容 鑑賞 意義・聴き方について
第13回	指導内容 鑑賞 教材選択について
第14回	表現・鑑賞の各活動における共通事項との関連性について
第15回	音楽教育の他教育との関わりについて

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習や事前準備をしっかりと、積極的に授業に臨むこと。
スマホ等の電源は切っておく。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

筆記試験80%、授業への取り組み(レポート提出・出欠等)20%。

■教科書

最新・初等科音楽教育法〔改訂版〕 音楽之友社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	美術概論	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	造形活動の意義 美術の機能 図画工作の目標・内容 学習指導要領(図画工作編) 領域 共通事項				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。

〔到達目標〕

- ①造形活動の意義や特性について理解することができる。
- ②学習指導要領に掲載されている図工科の目標及び内容等を理解することができる。
- ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。
- ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。

■授業の概要

造形活動がいかに人間をリフレッシュさせているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業の進め方の説明) ○芸術・美術の概念
第2回	造形教育の理念と構造 ○自然主義の教育観と表現の意味の発見
第3回	造形活動の意義と図画工作 ○「美術の機能」と図画工作科教育 ○美術を通じた教育
第4回	図画工作科の目標 ○教科の目標 ○学年の目標
第5回	図画工作科の内容 ○内容の構成 ○各領域及び〔共通事項〕の内容
第6回	指導計画の作成と内容の取扱い ○指導計画作成上の配慮事項 ○内容の取扱いと指導上の配慮事項
第7回	「造形遊び」の指導 ○造形遊びの意義 ○各学年の造形遊びの目的・内容について ○段ボールを使った制作(小3、4年)
第8回	「絵に表す」の指導 ○初めての水彩絵の具の使い方指導(小3、4年) ○水彩画の技法について(重ね塗り、にじみ、ぼかし等)
第9回	「絵に表す」の指導 ○にじみ、ぼかしの技法を使った小品制作 「花を描く」(小5、6年)
第10回	「立体に表す」の指導 ○「立体に表す」活動の特質(立体性、素材性、触知性、心象性) ○人体の針金の芯作りの制作(小5、6年)
第11回	「工作に表す」の指導 ○「紙工作」の指導の方法 ○「おってたてたら」(小1、2年) ○「幸せを運ぶカード」(小1、2年)
第12回	「工作に表す」の指導 ○「針金工作」の指導の方法 ○「立ち上がり!マイ・ライン」
第13回	「鑑賞活動」の指導 ○「カードを使って」(小5、6年) ○「どんだんならべて」(小1、2年)
第14回	児童画の見方・育て方 ○思春期の絵画の危機の指導 ○様々な児童の作品のよさやおもしろさ、美しさを見付け、鑑賞し合う。
第15回	図画工作科教育の歴史 現代の諸相 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。

○はさみ、2B鉛筆を用意すること。

○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。 必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。

■オフィスアワー

毎授業後30分間応じる。

■評価方法

定期試験70%、実技制作作品及びレポート等30%。

■教科書

新井哲夫編著 「小学校図画工作科の指導」 建帛社、 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 日本文教出版

■参考書

高階 秀爾監修 「西洋美術史」 美術出版社 (2007)

科目名	家庭科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	小学校教員免許状		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活(衣・食・住・家庭管理)に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。

〔到達目標〕

- 1) 衣・食・住・家庭管理に関する知識を、自身の生活の中に明確に位置づけることができる。
- 2) 1)をいつでも引き出して実践することができる。
- 3) 「家庭科」は、より良い家庭生活を構築するための教科であることを常に意識し、家族に対する「思い」を持ち続けることができる。

■授業の概要

“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済の各分野についての基礎知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス：「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第2回	家庭科とは：実践的・体験的教科としての家庭科 “生活を科学する”とは
第3回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）： 家族・家庭生活の現状 家族周期と生活設計 生活時間
第4回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）： 家庭経済と消費生活 消費生活の課題 環境問題
第5回	食事への関心（食生活）： 身体の機能と栄養 食品の成分と保存・保管 食品の安全
第6回	食事への関心（食生活）： 献立作成と調理 食材の選び方
第7回	食事への関心（食生活）： 食材の調理法 調理操作の概要
第8回	衣服への関心（衣生活）： 衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣服への関心（衣生活）： 被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣服への関心（衣生活）： 被服の管理 汚れ落としのメカニズム（衣生活、住生活）
第11回	衣類への関心（衣生活）： 基礎縫い
第12回	住まいへの関心（住生活）： 住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住まいへの関心（住生活）： 住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化： 衣・食・住における日本の文化
第15回	まとめ：生活を統合する（総合科学としての家庭科）

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

■オフィスアワー

金曜日 13:00～15:00

■評価方法

試験（50%）、提出物（30%）、授業における積極性（発言・発表等）（20%）。

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年 文部科学省 『小学校学習指導要領解説家庭編』
 内野紀子・鳴海多恵子・石井克枝他 『小学校わたしたちの家庭科5・6』開隆堂、2016年

■参考書

授業内に適宜紹介する。

科目名	体育概論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年次(初等教育)	免許等指定科目	小学校教諭		
カリキュラム上の位置づけ		小学校教職(選択)			
キーワード	体育の特性、学習指導要領、発育・発達、体力、生活、運動指導、安全、保健				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 小学校体育科の指導に必要な知識・技能を習得し、実践できることを目的とする。
 〔到達目標〕
 ①生涯スポーツの基礎づくりになる理論と実技を身につけることができる。
 ②児童の発育・発達段階に応じた教材の特性と内容を習得することができる。
 ③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導・助言を行うことができる。

■授業の概要

- 1 体育科を指導するための基礎的な理論と知識を学習し、学習内容に応じた実技の基礎動作を習得する。
- 2 児童が各種の運動に親しみ、自ら進んで体力を高めることができるような方法を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 体育の特色(概念、改定の趣旨、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法と体育)
第2回	学習指導要領の読み方(概念、改定の趣旨、体育の目標)
第3回	発育・発達(発育の概要、運動機能の発達、運動指導)
第4回	小学生の体力(体力の理解、児童期の体力要素、運動手段、体力測定評価)
第5回	子どもの生活(環境の変化、運動、栄養、休養、生活リズム)
第6回	小学生に対する運動指導(発達の視点に立つ構成要素、運動技能の捉え方、練習・指導、好き嫌い)
第7回	子どもの安全(学校安全、体育活動時における安全)
第8回	保健(毎日の生活と健康、育ちゆくからだと私、心の健康、ケガの防止、病気の予防)
第9回	体づくり運動(体づくり運動とは、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、体力を高める運動)
第10回	器械運動(基本の動き、器械・器具を使つての運動遊び、器械運動)
第11回	陸上運動(基本の動き、走の運動、跳の運動)
第12回	水泳(基本の動き、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳)
第13回	ボール運動(ゴール型、ネット型、ベースボール型)
第14回	表現運動(表現リズム遊び、表現運動)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講者に関する事項〕
 ・前半は講義、後半は実技を中心とする。
 ・水泳は夏期集中講義でおこなう。
 ・運動着、運動靴やメモ用紙の準備をする。
 〔受講のルール〕
 ・着替えは迅速にして授業の用具準備をおこなう。
 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子どもたちの状況を理解しておく。

■オフィスアワー

木曜日 13:00～16:00 他の時間帯を希望の場合はアポイントをお願いしたい。

■評価方法

筆記試験、レポート(50%)、実技試験(50%)の総合評価。

■教科書

文部科学省:小学校学習指導要領解説体育編:東洋出版社:平成20年 高島二郎:小学校体育:玉川大学:平成28年

■参考書

下山伸二:体育の教科書:山と溪谷社:平成23年

科目名	小学校教科教育法（国語）	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目（必修）		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。

②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。
- 3 上記1と2を踏まえ、個人で教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①（実際に教科書を見ながら、どのように具体化されているか考える。）
第2回	学習指導要領と解説の理解②（配当漢字、教科の目標、各学年の目標と内容、各領域と伝国・言語事項）
第3回	国語科教師の基礎基本①（国語科におけるT・T、ノート指導、ワークシート作成、書写の指導）
第4回	国語科教師の基礎基本②（ことわざ・慣用句・故事成語、漢字・平仮名・片仮名の由来）
第5回	国語科教師の基礎基本③（音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ、分かりやすい話し方、正しく整った文字の書き方）
第6回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方①（細案、T・Tの学習指導案の書き方、児童の実態の把握方法）
第7回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方②（細案、児童の実態の書き方）、漢字指導用黒板について
第8回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方③（細案、考察・評価規準以降の書き方）
第9回	学習指導案事前検討会（説明文「めだか」：授業者は代表学生1名）
第10回	模擬授業①、授業研究会①（説明文「めだか」）
第11回	学習指導案事前検討会（物語文「一つの花」T・T：授業者は代表学生2名）
第12回	模擬授業②、授業研究会②（物語文「一つの花」T・T）
第13回	学習指導案事前検討会（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」：授業者は代表学生1名）
第14回	模擬授業③、授業研究会③（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」）
第15回	漢字の指導方法（漢字の基礎知識【漢字の成り立ち、音訓、平仮名・片仮名の由来等】、現場の漢字指導の実践例を紹介する）
第16回	学習指導案事前検討会（文化「日本語のひびきを味わおう『春はあけぼの』」T・T：授業者は代表学生2名）

科目名	小学校教科教育法（社会）	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	子ども専攻初等教育コース 4年次必修科目	免許等指定科目	小学校教諭一種		
カリキュラム上の位置づけ		教職課程（小学校教諭一種）専門科目			
キーワード	主体的な学び 対話的な学び 深い学び 問題解決学習 見学・調査 表現活動 博物館・資料館の活用 地図を読む 4観点 評価と指導の一体化（形成的評価） 発問				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

授業とはどのようなものか学ぶこと。
 小学校社会科の指導方法や教材・教具について学ぶこと。
 学習評価について学ぶこと。
 指導案の作成について学ぶこと。

〔到達目標〕

授業の組み立てや求められる授業技術について理解する。
 求められる資質・能力を育てるための授業について理解する。
 主な指導方法や教材・教具について理解する。
 地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。
 学習評価について理解すること。
 指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。

■授業の概要

授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。
 様々な学習指導方法や教材・教具について理解すること。
 実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけること。
 地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶこと。
 社会科における学習評価について学ぶこと。
 指導案の作成方法を学ぶこと。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、「主体的対話的で深い学び」とは何か。
第2回	授業とは①・・・授業の組み立て。本時の授業をつくる。
第3回	授業とは②・・・求められる授業技術（発問・板書・ノート）
第4回	授業とは③・・・動機付け、主体性と指導性
第5回	授業とは④・・・望ましい学習環境のあり方
第6回	社会科の授業とは①・・・社会科の教科目標
第7回	社会科の授業とは②・・・主体的に調べて考える授業
第8回	社会科の授業とは③・・・能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業
第9回	社会科の学習・指導方法①・・・個別学習、グループ学習、一斉学習、ごっこ・劇化・構成活動
第10回	社会科の学習・指導方法②・・・系統学習、問題解決学習
第11回	社会科の学習・指導方法③・・・作業学習、体験学習・プログラム学習
第12回	社会科の学習・指導方法④・・・ロールプレイング、ディベート、シミュレーションゲーム
第13回	社会科の学習・指導方法⑤・・・問答、討議法、講義法、支援
第14回	社会科の学習・指導方法⑥・・・表現活動、ティーム・ティーチング、複線型授業

科目名	小学校教科教育法（算数）	担当教員 (単位認定者)	片山 哲也	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校算数指導要領内容（数と計算、量と測定、図形、数量関係）領域別指導法、算数授業技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深め、指導案を作成して模擬授業ができるようにする。さらに算数教師としての必要な数学的知識・技能の習得を通して、教員採用試験の数学問題に対応できる能力を向上させることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①指導要領改訂期にあり、現行と新指導要領の改訂ポイントをつかみ、算数指導に役立てることができる。
- ②小学校学習指導要領（算数）の解説書を活用して教材研究ができる。
- ③学習指導案の作成の仕方を理解し、模擬授業のための指導案が作成できる。
- ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、わかる授業を行うための創意工夫の仕方がわかる。

■授業の概要

授業前半は指導要領の学年別目標の理解と、領域別の指導内容の理解を深め、教科書・教材等を具体的に究明する。これらの成果を生かして、後半は指導案作成と模擬授業を実施し、相互に授業分析等を通して小学校教師としての算数指導力を磨きあう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 前期の学習内容や学習上の留意点について
第2回	講義・演習 小学校指導要領 算数 学年別目標と新指導要領改訂内容
第3回	講義・演習 小学校指導要領 算数 領域別ポイントと新指導要領改訂内容
第4回	講義・演習 第1・2学年の「数と計算」
第5回	講義・演習 第3・4学年の「数と計算」
第6回	講義・演習 第5・6学年の「数と計算」
第7回	講義・演習 第1・2学年の「量と測定」
第8回	講義・演習 第3・4学年の「量と測定」
第9回	講義・演習 第5・6学年の「量と測定」
第10回	講義・演習 第1・2学年の「図形」
第11回	講義・演習 第3・4学年の「図形」
第12回	講義・演習 第5・6学年の「図形」
第13回	講義・演習 第1・2学年の「数量関係」
第14回	講義・演習 第3・4学年の「数量関係」
第15回	講義・演習 第5・6学年の「数量関係」
第16回	後半授業オリエンテーション 模擬授業（ビデオ等鑑賞もしくは師範授業）

第 17 回	模擬授業の分担計画と指導案作成準備
第 18 回	指導案作成の実際 1
第 19 回	指導案作成の実際 2
第 20 回	指導案作成の実際 3
第 21 回	「数と計算」領域に関する模擬授業の展開 1
第 22 回	「数と計算」領域に関する模擬授業の展開 2
第 23 回	「量と測定」領域に関する模擬授業の展開 1
第 24 回	「量と測定」領域に関する模擬授業の展開 2
第 25 回	「図形」領域に関する模擬授業の展開 1
第 26 回	「図形」領域に関する模擬授業の展開 2
第 27 回	「数量関係」領域に関する模擬授業の展開 1
第 28 回	「数量関係」領域に関する模擬授業の展開 2
第 29 回	模擬授業の分析、指導案の改善
第 30 回	指導案、ノート、模擬授業の反省等の提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ、USBメモリーは常時持参。
- ・テキスト「小学校指導要領の解説」は常時持参。
- ・講義は小学校の授業を想定し、授業のルールを守り、誠実な授業態度で出席のこと。
- ・授業方法はアクティブラーニングを旨として受講者全員が参加型のものとする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教員採用試験に関する資料を配布するので、試験対策も併行して行うこと。
- ・模擬授業実施に当たっては先輩模擬授業を参考にすること。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

- ・授業ノート (板書・問題解答) をレポートとする。40%。
- ・模擬授業の充実度 (指導案、教材準備、授業態度、発問等の指導力) 30%。
- ・授業への積極性 30%。

■教科書

- ・小学校学習指導要領解説 算数編
- ・文部省検定済教科書 模擬授業実施学年のものは各自購入する (分担が決まったら一括購入します)

■参考書

授業内に講師が紹介します。

科目名	小学校教科教育法（理科）	担当教員 (単位認定者)	高山 幸延	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 指導案作成 模擬授業 ものづくり 日常生活との関連 理科施設体験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校理科の内容区分、及び各学年の学習内容について理解を深める。
小学校理科の指導に必要な知識や技能を獲得し、実際の現場にて活用できる力を身に付ける。

〔到達目標〕

教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業の実践を通して、理科における実践的指導力を身に付ける。
知識基盤社会における理科教育の重要性を認識し、これからの理科教育の在り方について考察する。
講義では、グループワーク等において積極的に自分の意見を発表することができる。

■授業の概要

- 1 「生きる力」の教育理念のもとに、小学校理科の在り方について学ぶ。学ぶ過程においては、講義にアクティブラーニングを取り入れ、学生たちが積極的に意見を交換し合う中で学びを深めていく。
- 2 毎回の講義では、講師の配布するワークシートをもとにして学習を進める。課題に対して自分の意見を積極的に発表することが望ましい。講義終了に際して、「振り返りシート」をていねいにまとめ、本時の振り返りを行う。疑問・質問があれば記述する。（講師が次時までコメントを返す）

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、学習内容の理解と学習を進める上での留意点等の確認
第2回	教育実習対策－1 使用教科書 年間の指導計画の確認 3年「チョウを育てよう」の指導の実際 種まき実習
第3回	教育実習対策－2 理科学習指導案作成の意義と作成の留意点
第4回	教育実習対策－3 指導計画と単元構想の留意点 子どもの興味関心を喚起する授業づくり
第5回	教育実習対策－4 5年「物の溶け方」をもとにした指導案作成の留意点 問題解決型授業構成の工夫
第6回	教育実習対策－5 4年「植物の発芽、成長、結実」 6年「人の体のつくりと働き」の単元理解 気体検知管実習(安全な実験)
第7回	教育実習を振替って 各実習校における理科指導の実践報告 課題解決のためのグループワーク
第8回	教員採用試験対策のための理科指導実践研究、及び問題演習
第9回	5年「物の溶け方」全13時間 指導の実際－1 指導計画の分担と各自略案作成
第10回	5年「物の溶け方」全13時間 指導の実際－2 「本時の学習」略案発表会と質疑応答、感想発表
第11回	3年「物と重さ」の単元考察 基礎的知識の確認(質量と重さの違い、浮力等) 子どもの心をつかむ学習活動とは
第12回	群馬県立自然史博物館(富岡市)での理科体験実習(アンモナイトのレプリカ作り、植物の種のモデル作り)
第13回	体験発表会及び理科授業への活用の考察 理科施設利用の意義
第14回	ぐんま昆虫の森(桐生市)での理科体験実習(昆虫採集、現地におけるフィールドワーク、バックヤード体験)
第15回	体験発表会及び理科授業への活用の考察 理科施設利用の意義
第16回	理科教育における今日的課題(理科への関心低下、科学的思考低下)と改善のための方策(自然体験とものづくりの意義)

第 17 回	3年「電気の通り道」の単元分析 基礎的知識の確認(電池のしくみ、回路図、オームの法則等) ものづくりの意義
第 18 回	ものづくり体験 3年「灯りのつくおもちゃを作ろう」を題材としたグループワークと発表会
第 19 回	理科指導における安全管理の重要性 理科室使用上の留意点
第 20 回	5年「電流の働き」の単元分析 基礎的知識の確認(磁界、フレミングの法則等) 簡易モーターづくり
第 21 回	県立ぐんま天文台事前学習 天文に関する基礎知識(天球、天体の動き、星座等) 星座ソフト「mitaka」の視聴
第 22 回	県立ぐんま天文台における理科体験実習(望遠鏡の設置と使い方、月の観察、650mm望遠鏡体験)
第 23 回	体験発表会及び理科授業への活用の考察 理科施設利用の意義 日常生活との関連
第 24 回	子どもの興味関心を高める理科実験 「カラフル海ほたる」(アルギン酸ナトリウム、乳酸カルウム) 「スライム」(ホウ砂)づくり
第 25 回	子どもの興味関心を高める理科観察 「顕微鏡」「実体双眼顕微鏡」を使ってミクロの世界を体験
第 26 回	「環境教育」の意義 小学校理科教育との関わり 環境の保全の必要性 6年生「生き物とくらしの環境」との関連
第 27 回	「防災教育」の意義 小学校理科教育との関わり 地震と津波 6年「大地のつくり」との関連
第 28 回	「生命科学」と小学校理科との関わり ips細胞等分子生物学の話題 5年「人の誕生」との関連
第 29 回	今なぜ「言語活動」なのか 言語活動の意義と役割 小学校理科における言語活動の実際
第 30 回	まとめ 小学校理科の意義と教師の役割 1年間の学びの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 小学校教諭、保育士等、教職を目指す者としての自覚を持ち講義に臨むこと。
- 2 講義においては、学習課題に対して自らの考えをしっかりと持ち、積極的に意見発表するよう努めること。
- 3 振り返りシートに講義の感想や質疑を毎回明記すること。
- 4 毎回配布されるワークシートの保管をきちとしておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 (ワークシート)

■授業時間外学習にかかわる情報

理科 (科学) や教育の今日的な課題等に関わるニュース、新聞記事、書籍に触れる習慣を身に付けること。
 普段の生活の中で身の回りの自然を観察する習慣を付けること。

■オフィスアワー

質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。毎回、講師がコメントを返却する。
 講義後の 30 分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。

■評価方法

学期末試験 (60%)、レポート・プレゼン (30%)、授業への取り組み (GWでの積極性、意見発表、振り返り、ノート整理) (10%)。

■教科書

小学校学習指導要領解説 理科編、小学校理科教科書 (東京書籍発行 新しい理科)

■参考書

講義の中で随時紹介する。
 文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページを時々閲覧すること。

科目名	小学校教科教育法（生活）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	小学校教員免許状		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然 社会 家庭 文化（行事）				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。

〔到達目標〕

- 1) 児童が体験・実践・共同学習をとおして学ぶために効果的なワークシートを作成することができる。
- 2) 児童の様々な発語をすくい上げながら授業を展開することができる。
- 3) 幼児教育からの接続を意識するとともに、3年生以降の学習への興味につなげる内容を工夫できる。

■授業の概要

生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス（生活科の目標・生活科の内容）
第2回	実践研究：春の景色（四季の変化を理解するために適する場所を選んでスケッチする）〈定点でのスケッチ〉
第3回	実践研究：植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実施する）〈開始〉
第4回	実践研究：春を探そう（春の植物を探し、それをもとに研究する）
第5回	実践研究：春を探そう（春に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第6回	実践研究：生きものの採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる）
第7回	実践研究：植物の栽培と観察
第8回	実践研究：夏の景色（スケッチを行い、春の景色と夏の景色の違いを理解する）
第9回	実践研究：夏を探そう（夏の植物を探し、それをもとに研究する）
第10回	実践研究：夏を探そう（夏に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第11回	課題研究：家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える）
第12回	課題研究：自分を取り巻く環境について考えよう（学校生活の中でお世話になっている人たち・地域の生活などについて気づかせる方法を考える）
第13回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）〈事前調査・計画〉
第14回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）〈製作〉
第15回	実践研究：植物の栽培と観察のまとめ
第16回	生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等）

科目名	小学校教科教育法（音楽）	担当教員 (単位認定者)	小嶋 彩	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 基礎能力の育成 学習指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラム構造と内容を理解する。
- ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得する。
- ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につける。

■授業の概要

小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を演習を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	前期オリエンテーション（授業の進め方・課題・評価方法の説明等）
第2回	音楽科の目標と指導内容
第3回	音楽科の学習指導計画と評価
第4回	授業実践にあたって
第5回	歌唱の学習と指導（1）「歌唱」の意義と留意点について
第6回	歌唱の学習と指導（2）歌唱の指導法について
第7回	歌唱の学習と指導（3）歌唱教材研究について
第8回	器楽の学習と指導（4）「器楽」の意義と留意点について
第9回	器楽の学習と指導（5）器楽の指導法について
第10回	器楽の学習と指導（6）器楽教材研究について
第11回	音楽づくりの学習と指導（1）「音楽づくり」の意義と留意点について
第12回	音楽づくりの学習と指導（2）音楽づくりの指導法について
第13回	鑑賞の学習と指導（1）「鑑賞」の意義と留意点について
第14回	鑑賞の学習と指導（2）鑑賞の指導法、教材研究について
第15回	表現と鑑賞の関連
第16回	後期オリエンテーション（授業の進め方・課題・評価方法の説明等）

第 17 回	学習指導案の作成について(1) 題材目標の設定と学習内容・学習活動の計画
第 18 回	学習指導案の作成について(2) 学習指導案作成演習
第 19 回	学生による模擬授業(1) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 20 回	学生による模擬授業(2) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 21 回	学生による模擬授業(3) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 22 回	学生による模擬授業(4) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 23 回	学生による模擬授業(5) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 24 回	学生による模擬授業(6) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 25 回	学生による模擬授業(7) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 26 回	学生による模擬授業(8) 学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
第 27 回	日本の伝統音楽と諸外国の音楽
第 28 回	校種間の連携と音楽科
第 29 回	音楽科と他教科等との関連
第 30 回	小学校における音楽科の指導法についてのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

リコーダーの実習があるため、ソプラノリコーダーを各自用意し、授業へ毎回持ってくること。
 予習、事前準備をしっかりと授業に臨むこと。
 課題の提出期限は必ず守ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用(WEB フォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

テキスト該当箇所の予習を必須とする。
 歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。また、リコーダーの演奏技術向上のため、演習の復習を各自ですること。
 様々な音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。

■オフィスアワー

授業後 30 分間は対応可能。

■評価方法

筆記試験(40%)、学習指導案作成と模擬授業及び授業検討会への取り組み(40%)、実技試験及びレポート課題(20%)。

■教科書

「最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕 小学校教員養成課程用」 音楽之友社

■参考書

小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

科目名	小学校教科教育法（図工）	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領（図画工作編） 指導案 模擬授業 授業研究会 教材研究 教材開発				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。

〔到達目標〕

- ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。
- ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。
- ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。

■授業の概要

図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 造形活動の意義				
第2回	学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い）				
第3回	「造形遊び」の授業の実際（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動）				
第4回	「絵に表す」の授業の実際（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）				
第5回	「立体に表す」の授業の実際（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）				
第6回	「工作に表す」の授業の実際（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）				
第7回	「鑑賞」の授業の実際（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）				
第8回	授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等）				
第9回	教材研究の方法 （各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。）				
第10回	指導案作成 （造形遊びの中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）				
第11回	指導案作成 （各自が選択した題材について、指導案を作成する。）				
第12回	模擬授業&授業研究会①	（造形遊び）	1、2年	「ならべて つんで」	
第13回	模擬授業&授業研究会②	（造形遊び）	3、4年	「切ってつないで大へんしん」	
第14回	教材研究	紙工作の指導方法	1、2年	「まどをひらいて」 用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等）	
第15回	教材研究	紙工作の教材開発	3、4年	「幸せを運ぶカード」 飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える	
第16回	教材研究	紙工作の教材開発	5、6年	「おどれ!わりピンキャラクター」 紙工作の面白い立体化の仕組みを考える。	

科目名	小学校教科教育法（家庭）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	小学校教員免許状		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭経済 家庭経営 環境問題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。

〔到達目標〕

- 1) 実践的・体験的な授業を考案することができる。
- 2) 「家庭生活と家族」「衣食住の生活」「消費生活と環境」について、それぞれの領域にまたがる総合的な考え方ができる。

■授業の概要

家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイデア豊かな教育方法も考案する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	ガイダンス：家庭科教育の意義(家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育)
第2回	家庭科教育の目標： 家庭・地域社会との関連 現代の家族
第3回	家庭生活と家族： 家族の生活と役割しらべ
第4回	家庭生活と家族： ライフコースの作成
第5回	物や金銭の使い方と買い物： 賢い消費者になるための工夫・環境への配慮
第6回	衣服への関心： 衣服の形態・素材の観察
第7回	衣服への関心： 洗濯に関する実験
第8回	生活に役立つものの製作①
第9回	生活に役立つものの製作②
第10回	食事への関心： 献立作り
第11回	簡単な調理： 調理実習(計画)
第12回	簡単な調理： 調理実習(実践)
第13回	住まいへの関心： 汚れ調べと清掃に関する実験
第14回	住まいへの関心： 明るさ・風通し・暖かさ(涼しさ)に関する実験・実践
第15回	家庭生活の工夫： 家族との団らんの工夫
第16回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①： 指導の形態(一斉指導・グループ学習・個別学習など)

科目名	小学校教科教育法（体育）	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	3年次（初等教育）	免許等指定科目	小学校教諭		
カリキュラム上の位置づけ		小学校教職（選択）			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育・発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校体育科の指導について必要な知識・技能を学び、実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解ができる。
- ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的にできる。
- ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通してながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法） 小学校教科教育法（体育）とは
第2回	体づくり運動①（体ほぐし運動） 体ほぐし運動のねらい、運動の具体例
第3回	体づくり運動②（多様な動きをつくる運動） 多様な動きをつくる運動のねらい、運動の具体例
第4回	体づくり運動③（体力を高める運動） 体力を高める運動のねらい、運動の具体例
第5回	体づくり運動④（体づくり運動の模擬授業と指導研究） グループ別模擬授業と授業研究
第6回	器械運動①（マット運動） マット運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第7回	器械運動②（鉄棒運動） 鉄棒運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第8回	器械運動③（跳び箱運動） 跳び箱運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第9回	器械運動④（器械運動の模擬授業と指導研究） グループ別模擬授業と授業研究
第10回	陸上運動①（走の運動） 短距離・リレーの指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第11回	陸上運動②（跳の運動） 幅跳び・ハードル走の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第12回	陸上運動③（陸上運動の模擬授業と指導研究） グループ別模擬授業と授業研究
第13回	水泳①（基本の動き、水遊び、浮き・泳ぎ運動）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第14回	水泳②（基礎泳法：クロール・平泳ぎ）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第15回	水泳③（応用泳法：背泳・ターン・飛込み）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
第16回	水泳④（水泳の模擬授業と指導研究） グループ別模擬授業と授業研究

科目名	初等教育実習事前・事後指導(3年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	観察実習、教育実習の理解、模擬授業、授業検討会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。
- ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。
- 2 現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。
- 3 模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解①(意義と目的、3年次・4年次の流れ)、実習アンケート、実習書類の確認1
第2回	教育実習の理解②(実習オリエンテーション)、観察実習について(前橋市立大利根小学校にて5・6月実施)、実習アンケートの結果、実習書類の確認2、履修カルテの記入
第3回	小学校教師の基礎基本①(諸注意【SNS、体罰、守秘義務】、児童の心身の発達、教師の一日)
第4回	小学校教師の基礎基本②(職員・保護者とのコミュニケーション)、実習書類の確認、観察実習に向けての諸注意
第5回	観察実習の実施①(前橋市立大利根小学校 低学年:朝の会・朝行事・第1～3校時、休み時間の参観と参加)
第6回	観察実習の実施②(前橋市立大利根小学校 低学年:朝の会・朝行事・第1～3校時、休み時間の参観と参加)
第7回	観察実習の実施③(前橋市立大利根小学校 中学年:朝の会・朝行事・第1～3校時、休み時間の参観と参加)
第8回	観察実習の実施④(前橋市立大利根小学校 中学年:朝の会・朝行事・第1～3校時、休み時間の参観と参加)
第9回	観察実習の実施⑤(前橋市立大利根小学校 高学年:朝の会・朝行事・第1～3校時、休み時間、特別支援教育について)
第10回	観察実習の実施⑥(前橋市立大利根小学校 実習中の本学4年生による研究授業の参観及び授業研究会)
第11回	観察実習の報告会①(うまくいったこと・課題等5名が発表)
第12回	観察実習の報告会②(うまくいったこと・課題等5名が発表)
第13回	観察実習の振り返り(観察実習記録の提出、振り返りアンケート等)、教育実習の理解③(書類の確認、実習校の理解)
第14回	学習指導と生活指導①(具体的な場面、「忘れ物」「学校のきまり」「安全指導」)
第15回	学習指導と生活指導②(学級経営、「友達のよさを認め合う活動」「休み時間の大切さ」「発達障害」)
第16回	教育実習を迎えるにあたって①(悩みや不安の軽減、コミュニケーション能力)

科目名	初等教育実習事前・事後指導(4年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目(必修)		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	教育実習の準備と整理、教育実習の省察				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力」を身に付けることを目的とする。
〔到達目標〕
①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。
②教育実習後の報告会を通して、教育実習の省察をすることができる。

■授業の概要

1 現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。
2 模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合うことができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解(実習の心構え、事務手続き、実習録のファイル作成・記入方法)
第2回	教育実習の理解と手続き①(諸注意【特にSNS、体罰、守秘義務】、実習計画、事前打ち合わせ日の決定、実習録の記入1)
第3回	教育実習の理解と手続き②(参観授業、授業実践、研究授業の方法、三種の挨拶【職員室で、全校の前で、配属学級で】)
第4回	教育実習の理解と手続き③(実習校の理解:事前に調べておき、実習録該当ページに記入する。)
第5回	教育実習の理解と手続き④(児童・先生方への対応、休み時間や給食の対応、事前打ち合わせの報告1)
第6回	教育実習の理解と手続き⑤(実習録の記入2、お礼状の書き方、事前打ち合わせの報告2)
第7回	教育実習の理解と手続き⑥(褒め方・叱り方、朝の会・帰りの会、事前打ち合わせの報告3)
第8回	教育実習の理解と手続き⑦(トラブルの対応、特別支援教育、事前打ち合わせの報告4)
第9回	教育実習報告会その1(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)
第10回	教育実習報告会その2(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)
第11回	教育実習報告会その3(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)
第12回	教育実習
第13回	教育実習
第14回	教育実習
第15回	教育実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕
・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。
〔受講のルール〕
・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。
・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。
・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。

■オフィスアワー

火曜日:9時~12時、水曜日:9時~12時。

■評価方法

教育実習報告会(50%)、提出物(30%)、授業中への取り組み(20%)。

■教科書

群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

・時田詠子その他:「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

科目名	小学校教育実習	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (160)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目 (必修)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童理解、学習指導、生活指導、学級経営、使命感、実習録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能を修得することができる。
- 2 教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことができる。
- 3 「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。

■実習履修資格者

本学における小学校教育実習を履修できる者は、原則として教育職員免許法に定める「小学校教諭一種免許状」取得を目指す4年次の学生で、次に掲げる要件を全て満たす者である。

- ① 将来、小学校教諭として小学校の現場で働く意思を強く持っている者
- ② 心身の健康状態が、実習を行うのに適当である者
- ③ 上記免許状取得に必要な教育実習事前事後指導、各教科概論、各教科教育法等の単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ④ 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱの単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ⑤ 1年次より実施する基礎学力養成講座を受講する者（原則として3年次まで受講：内規）
- ⑥ 実習後に各自治体で実施している小学校教員採用試験を受験する者

■実習時期及び実習日数・時間

原則として第4学年の6月中に、160時間（20日間）の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加する要件を備えていること（必修単位取得）。
- 2 事前ガイダンスの受講及び「教育実習の記録」の提出を必須とすること。

【実習中止の措置】

本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動があった場合は、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- 実習校の評価（50％）
- 実習報告会（30％）
- 「教育実習録」の評価（20％）

科目名	教職実践演習（小学校）	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	教職に関する科目（必修）		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教師に求められる力量、模擬授業、学級経営、現代的な教育課題、履修カルテ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

今までの大学での学習を振り返り、次年度、教職にスムーズにつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけることができる。
- ②教師に求められる力量、学級経営、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。

■授業の概要

- 1 次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、発達障害、学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。
- 2 まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なKJ法、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。
- 3 自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、履修カルテの記入、教師に求められる力量①（KJ法により班ごとにまとめる。）
第2回	教師に求められる力量②（班ごとに発表をする。）、教育者・哲学者の格言（カント・モンテスキュー等）
第3回	映像授業①「発達障害」（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）
第4回	映像授業②「多様な性について」（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）
第5回	模擬授業①、授業研究会①（道徳：代表学生が教育実習時実施した授業をさらに改善したものを提示する。）
第6回	次期学習指導要領について（アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネジメント、道徳・英語の教科化等）
第7回	模擬授業②、授業研究会②（外国語活動：代表学生の授業提示が無理な場合は、他領域・教科を実施する。）
第8回	小学校教育実習報告会（4年生は、教育実習録を提示しながら、後輩に報告する。班別及び全体の協議を行う。1～4年合同）
第9回	小学校現場の先輩教師の講話（本学既卒の初任者より志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場1年目の様子等を話してもらう。1～4年合同）
第10回	学校・学年・学級経営（学校組織、学級経営案、学級通信）
第11回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい 1～4年合同）
第12回	「宝自慢～自己そして友の再発見～」（自己の大切にしている物、体験等を発表する）
第13回	現代的な教育課題①（いじめ、体罰など）、履修カルテの記入
第14回	現代的な教育課題②（教師のメンタルヘルス、特別支援教育など）
第15回	魅力的な指導者を目指して（児童理解、保護者対応、感じのいい話し方・聞き方など）、履修カルテの提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

- ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。
- ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。
- ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。

■オフィスアワー

火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時。

■評価方法

授業への取り組み（50%）、提出物（30%）、グループ活動（20%）。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。

■参考書

- ・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
- ・その他、講義の中で、随時紹介する。

科目名	保育実習Ⅰ（施設）	担当教員 （単位認定者）	川端 奈津子	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	保育士養成課程の必修		
カリキュラム上の位置づけ		保育士養成課程における専門科目			
キーワード	施設保育士 養護 障害 実習記録 自己評価 児童福祉施設				

■授業の目的・到達目標

- ①児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。
- ②観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。
- ③既習の教科内容をふまえ、子ども・利用者への保育（養護・療育・介助・介護）及び保護者への支援を総合的に学ぶ。
- ④保育（養護・療育・介助・介護）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ⑤保育士等の専門職種職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

■実習履修資格者

- ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設の現場で働く意志を強くもっている者。
- ②児童福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うにあたって適当と認められる者。
- ③保育士資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込のある者。
- ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込のある者。

■実習時期及び実習日数・時間

- ①実習は2年次後期において実施する。
- ②実習時間は、12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を厳守すること。

実習生の帰すべき責任によって、実習の継続が困難と判断される次の事態が生じた場合は、実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③実習目標の達成状況（10%）
 - ④実習日誌等記録の内容（10%）
 - ⑤実習報告書の内容（10%）
 - ⑥その他提出物の提出状況（10%）
- *実習が終了しても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。
*「保育実習指導Ⅰ（施設）」の単位を同一年度において取得できなかった場合は、単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	子ども専攻 3 年次	免許等指定科目	保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 観察実習 参加実習 部分実習				

■授業の目的・到達目標

- ①保育所の役割と機能を理解する。
- ②乳幼児を観察し理解する。
- ③保育士の役割と仕事内容を理解する。
- ④多様な保育内容を理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

〔実習中止の措置〕

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	子ども専攻3・4年次	免許等指定科目	保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		資格取得に必要な専門科目			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 指導案 参加実習 責任実習				

■授業の目的・到達目標

- ①乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。
- ②保育士としての資質・能力・技術を習得する。
- ③多様な保育内容に参加する。
- ④家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3・4年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3・4年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

〔実習中止の措置〕

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	子どもの保健Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子ども、健康、発育、発達、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につける。

〔到達目標〕

- 1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
- 2) 子どもの身体の成長や運動機能・生理機能・精神機能の発達について理解できる。
- 3) 子どもが健康に成長できる環境について考えることが出来る。
- 4) 子ども保健の講義で学んだことを、社会人(親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。

■授業の概要

子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。前期では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、後期では、子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション、「子ども」の健康概念
第2回	「健やか親子21(第2次)」
第3回	子どもの保健の実践と課題
第4回	子どもの発育・発達
第5回	新生児期の身体発育
第6回	乳児期以降の身体発育
第7回	乳幼児身体発育の評価
第8回	呼吸・循環機能の発達
第9回	免疫機能・消化機能の発達
第10回	尿排泄機能・水分代謝・体温調節機能の発達
第11回	内分泌機能の発達、睡眠リズム
第12回	感覚機能の発達
第13回	神経機能の発達
第14回	精神機能・情緒・行動の発達
第15回	前期のまとめ
第16回	後期オリエンテーション、子どもの病気の特徴

第 17 回	ウイルス性感染症
第 18 回	細菌性感染症
第 19 回	先天異常
第 20 回	アレルギー性疾患
第 21 回	消化器疾患
第 22 回	呼吸器・循環器・血液系の疾患
第 23 回	神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の疾患
第 24 回	眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
第 25 回	人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
第 26 回	子どもの心の健康
第 27 回	発達障害
第 28 回	保育現場における衛生管理との安全対策
第 29 回	主な母子保健対策と保育
第 30 回	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

期末筆記試験 (80%) とノート (20%) を総合して評価する。

■教科書

佐藤益子編著 子どもの保健 I ななみ書房 最新版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	子どもの保健Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発育、発達、保育、養護、病状の観察、看護、救急処置、安全環境の確保				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもの心身の健康増進と健やかな生活の確立をめざし、実際の保育現場で実践できる子どもの保健に関する知識や技能の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。
- ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。
- ③保育における安全な環境を提供することができる。

■授業の概要

子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション、日常の保育における健康観察
第2回	発育の観察
第3回	生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価
第4回	子どもの健康増進と保健環境
第5回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(1)食事、排泄
第6回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(2)衣服着脱、清潔
第7回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア
第8回	子どもの疾病と適切な対応
第9回	事故防止および健康安全管理
第10回	保育の場における救急蘇生法
第11回	子どもにおける一次救命処置
第12回	起こりやすい事故と応急手当
第13回	予防すべき感染症
第14回	予防接種、保育の場で行う感染の予防
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

筆記試験 (80%)、ノート (20%)。

■教科書

今井七重 編著 子どもの保健Ⅱ (株)みらい 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	社会的養護内容	担当教員 (単位認定者)	大山 知恵子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	子ども専攻2年必須科目	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	保育を取り巻く社会環境 女性の就労の増大 保育ニーズの多様化 各施設の養護特性				

■授業の目的・到達目標

保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活を根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。本演習では、総合的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。

■授業の概要

施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 社会的養護の内容とは(総論)
第2回	児童福祉施設入所の意義について
第3回	児童福祉施設の社会的養護について
第4回	子どもの権利の特徴について 子どもの心の理解
第5回	生存と発達の保障について
第6回	児童福祉施設における援助・支援の理念
第7回	保育士の倫理及び責務について
第8回	児童福祉施設における子どもの心の理解について
第9回	各施設における具体的な養護の援助内容(乳児院・母子生活支援施設)
第10回	各施設における具体的な養護の援助内容(児童養護施設・児童自立支援・里親委託)
第11回	各施設における具体的な養護の援助内容(知的障害児施設・肢体不自由施設・重症心身児施設)
第12回	ファミリーホーム・自立援助ホーム・家庭支援センターの課題と将来像
第13回	児童福祉施設の援助者の役割について 施設人員配置の課題と将来像
第14回	家庭支援の基本とその内容について
第15回	児童福祉施設における社会的養護の課題と将来像について まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切に学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後30分。

■評価方法

授業に取り組む姿勢 *リポート *提出物(提出期日厳守)

■教科書

養護内容 福永博文編者 北大路書房

■参考書

指定しない。

科目名	子どもの食と栄養	担当教員 (単位認定者)	梅山 節子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの食と栄養				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもの保育が社会化している現代、身体的、社会的にも精神的にも安定し健康であるために乳幼児期からの食環境を整えたい。

〔到達目標〕

人間形成の上で小児期の持つ意味は非常に大きい。小児にとって「遊ぶ」ことを通しての発達とならんで「食べる」ことを通しての体力作り、人間形成が極めて重要である。

保育園・認定こども園利用が増加している現状をふまえ、食育は保育の根源となる。

■授業の概要

なぜバランス良く食べなければいけないの、なぜ食事前に手洗いするの、元気の力の源は？

食物アレルギー、食中毒のこわさなどを考慮しつつ食育が行われるよう一部実習を加え、知識・技術を習得し、保育の現場で実践できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方、評価法	
第2回	栄養と食品に関する基礎知識	
第3回	子どもの食生活の現状と課題	
第4回	子どもの発育と発達	
第5回	子どもの栄養と生理	
第6回	献立作成と調理の基本 特別な配慮を要する子どもの食と栄養・アレルギー	
第7回	授乳期 離乳期 幼児期の食生活	
第8回	調理実習 (離乳食)	講義と実習
第9回	〃 (幼児食・和食)	〃
第10回	〃 (幼児食・洋食)	〃
第11回	〃 (幼児食・おやつ)	〃
第12回	〃 (幼児食・弁当)	〃
第13回	〃 (幼児食・行事食)	〃
第14回	〃 (幼児食・カルシウム、鉄の多い食事)	〃
第15回	まとめ	ノート提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中は受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁。

実習中はエプロン、三角巾、ハンドタオルを身につける。

長つめ、マニキュア、アクセサリ禁止。髪は束ねる。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

筆記試験 50%、授業への取り組み (身支度・ノート提出) 50%。

■教科書

子どもの食と栄養演習 2,700 円+税 小川雄二 建帛社

■参考書

食品成分表

科目名	保育者論	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	子ども専攻3年	免許等指定科目	保育士資格		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育者の役割・保育士の専門性・保育者の協働				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育者の役割と職務内容について理解し、保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①保育者の役割と倫理について理解する。
- ②保育士の制度的位置づけについて理解する。
- ③保育士の専門性について考察し、理解する。
- ④保育者の協働について理解する。
- ⑤保育者の専門職的成長について理解する。

■授業の概要

保育士の制度的な位置づけから、保育者に求められる役割や倫理について理解する。また、保育士に求められる専門性について考察を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	保育現場が求める保育者像
第3回	園での保育者の役割と信頼
第4回	保育者の仕事内容と留意点① 保育者の仕事と役割
第5回	保育者の仕事内容と留意点② 子どもに寄り添う生活者としての保育者
第6回	保育者の仕事内容と留意点③ 子どもの安全に対する配慮
第7回	保護者・地域社会と保育者の役割① 信頼される保育者になるために
第8回	保護者・地域社会と保育者の役割② 子ども理解を深める
第9回	行事に対する保育者の取り組み① 「行事」はなぜ必要か
第10回	行事に対する保育者の取り組み② 「行事」における保育者の役割
第11回	保育環境の課題と問題点① 多様化する保育需要
第12回	保育環境の課題と問題点② 保幼小連携
第13回	諸外国の保育から学ぶこと
第14回	保育者の専門職的成長① 専門性の発達
第15回	保育者の専門職的成長② 生涯発達とキャリア形成

■受講生に関わる情報および受講のルール

保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること。

- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

保育についていつも関心を持っておくこと（保育関係の時事問題には必ず目を向けること）。

■オフィスアワー

月曜 13:00～15:00 それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。

■評価方法

筆記試験 60%、授業への取組、授業時に課すレポート 40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに 60%を超えていることが前提となる。

■教科書

上野恭裕編：プロとしての保育者論 保育出版社・2011

■参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

科目名	保育課程論	担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育と教育の実際 日案作り 教育課程とカリキュラム カリキュラムの意義				

■授業の目的・到達目標

保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程の編成、指導計画の作成を行う。この教育課程の作成は単なる技術論ではない。幼児教育の本質に根ざしていなければならない。保育者はこども一人ひとりの特性と発達の課題に即した教育環境を構成する。

■授業の概要

世界とわが国における幼児教育の歴史を振り返り、現状の諸問題点を探る。入園から卒園までのこどもの生活を総括的に知り、保育所の保育計画を含めたカリキュラム、教育課程、指導案について考察を加える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	自己紹介と授業の進め方
第2回	幼稚園教育の歴史を知る
第3回	幼稚園教育の目的と意義を知る
第4回	幼稚園教育要領の理解 基本・目標
第5回	幼稚園教育要領の理解 ねらい・内容
第6回	保育と教育方針 保育の実際と指導計画
第7回	年間計画 月案計画 日案計画(基本的事項と手順)
第8回	教育課程の編成と指導計画の作成
第9回	教育課程の意義
第10回	教育課程と指導経緯の評価の実例 長期指導計画
第11回	演習問題 ディベート
第12回	日案作成 環境の構成・再構成
第13回	日案作成 指導計画 カリキュラム
第14回	指導の必要性 指導の評価
第15回	幼稚園と保育所および小学校の連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席や遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。授業中は私語を慎む。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容に関係する内容をレポートでまとめる課題が課せられたら、必ず指定日までに提出すること。

■オフィスアワー

月曜日 10時30分～12時30分。

■評価方法

定期試験(60%) レポート(20%) 授業への取り組み(20%) ディベートなどで総合的に判断する。

■教科書

岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院

■参考書

マリア・モンテッソーリ著『子ども—社会—世界』ドンボスコ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	介護体験実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	介護等体験が必要な 教諭免許状取得希望者	免許等指定科目	高等学校教諭「福祉」 中学校教諭 小学校教諭		
	カリキュラム上の位置づけ		専門科目		
キーワード	教員免許 社会福祉総合実習 介護等体験 対人援助技術 コミュニケーションスキル				

■授業の目的・到達目標

※この科目は、高等学校教諭1種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか1科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭1種免許状並びに小学校教諭1種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習(社会福祉施設での実習に限る)」のうちいずれか1科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。

〔授業の目的〕

上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。

■授業の概要

障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践の体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

■授業計画

実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
実習先の指導計画に従って実習をする。
障害者・高齢者等とのコミュニケーションを積極的にとる。
障害者・高齢者等との日常生活支援(介護・介助)を体験する。
実習記録を作成し、提出後に指導を受ける。

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。
また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

実習記録の作成、実習報告書の作成。

■オフィスアワー

火曜日 10時～12時。

■評価方法

社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。

■教科書

教師をめざす人の介護等体験ハンドブック(大修館書店)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	道徳の理論及び指導法	担当教員 (単位認定者)	神保 昌之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	教員免許状取得希望者は履修を推奨する	免許等指定科目	教職に関する科目 (選択)		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	道徳科学習指導要領・解説、道徳教育、指導計画、教材研究、学習指導案、模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 道徳科学習指導要領の目標・内容を理解し、道徳科の理論や基本的な指導法を身に付けることができる。
〔到達目標〕 ①「領域としての道徳」及び「特別の教科としての道徳科」誕生の背景について理解することができる。 ②道徳科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ③道徳科の理論や基本的な指導法を身に付けることができる。

■授業の概要

1 道徳科の学習指導要領の目標・内容が実際の道徳教科書にどのように具体化しているか、理解する。
2 学習指導要領及び解説「道徳編」を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。
3 上記1と2を踏まえ、グループで教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	オリエンテーション(全15回の授業概要、本授業の学生への評価方法等)、道徳科指導の基礎基本①(「道徳」の本質・意義について、「道徳性」、「道徳の時間」と「道徳教育」の違い)、教師の体験談1(道徳科授業の実践例:小学校低学年「いじめ」)
第2回	道徳科指導の基礎基本②(道徳教育の歴史:「領域としての道徳」の誕生から現在の「特別の教科としての道徳」まで、特に考え議論する道徳について)、教師の体験談2(道徳科授業の実践例:小学校中学年「勤勉・粘り強さ」)
第3回	道徳科指導の基礎基本③(道徳の指導計画:全体計画・年間指導計画について)、教師の体験談3(道徳科授業の実践例:小学校高学年「生命尊重」)
第4回	道徳科指導の基礎基本④(学習指導案の基本的な作成方法、児童生徒の実態把握の方法、各教科・他領域との横断的指導)、教師の体験談4(道徳科授業の実践例:中学校「情報モラル」)
第5回	様々な指導法(チーム・ティーチング<管理職と担任、複数担任、地域人材と担任>、ロールプレイング、新聞利用、ペーパーサートや場面絵、発問の工夫、類型化、討論、板書の仕方、ワークシート、板書、ネームプレート、説話の活用等)
第6回	評価方法(記述による評価・個人内評価・ポートフォリオ評価、座席表・通知表・指導要録等、管理職や道徳教育推進教師等との組織的な評価)
第7回	教材研究の仕方について①(実際の学習指導案概要「小学校 1年 はしのうえのおおかみ」から学ぶ。具体的な自作教材として動物のお面、紙芝居、ペーパーサート、指人形等を扱う。)
第8回	教材研究の仕方について②(実際の学習指導案概要「中学校 1年 この子のために」から学ぶ。具体的な指導方法としてネームプレートやディベートを扱う。)
第9回	学習指導案の作成・模擬授業準備①(小学校班は「1年 はしのうえのおおかみ」、中学校班は「1年 この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。)
第10回	学習指導案の作成・模擬授業準備②(小学校班は「1年 はしのうえのおおかみ」、中学校班は「1年 この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。)
第11回	学習指導案の作成・模擬授業準備③(小学校班は「1年 はしのうえのおおかみ」、中学校班は「1年 この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。)
第12回	模擬授業・授業研究会①(小学校班代表者2名が「1年 はしのうえのおおかみ」の「1」模擬授業者となり45分間の模擬授業を行う。その後、授業研究会を開き、省察を行う。)
第13回	模擬授業・授業研究会②(中学校班代表者が「1年 この子のために」の模擬授業者となり50分間の模擬授業を行う。その後、授業研究会を開き、省察を行う。)
第14回	道徳教科書の概観。道徳教育用教材「わたしたちの道徳(小学校)」「私たちの道徳(中学校)」について(学習指導要領が本教材にどのように反映されているか探求する。道徳の目標・内容、内容項目の指導の観点等)
第15回	学習指導要領及び解説の総復習、道徳科と学級経営、まとめ(シヤトルカードを用いた半期の振り返りと発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要を見て、予習・復習を行うこと。
〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをすること。 ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式	<input checked="" type="checkbox"/> シヤトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用(WEBフォームやメールなど)
<input type="checkbox"/> その他()		

■授業時間外学習にかかわる情報

道徳科や教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。
--

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

学期末試験(50%)、授業への取り組み・模擬授業・学習指導案作成(30%)、ミニテストまたはレポート(20%)。
--

■教科書

1 文部科学省:「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」廣済堂あかつき、2015年7月。
2 文部科学省:「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」教育出版、2015年7月。

■参考書

・文部科学省:「わたしたちの道徳(小学校1・2年、3・4年、5・6年)」各文溪堂、教育出版、廣済堂あかつき 2015年6月。
・文部科学省:「私たちの道徳(中学校)」廣済堂あかつき、2015年6月。
・文部科学省:「私たちの道徳」活用のための指導資料。
・講義の中で、随時紹介する。

科目名	中・高 教職対策講座I (3年生)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	—
履修要件	教育原理、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育方法論、 日本国憲法、道徳教育、取得希望免許状の教科教育法 (社会科教育法Ⅰ・Ⅱ、日本史Ⅰ・Ⅱ、介護技術Ⅰ、福祉科 教育法、公民科教育法)、生徒指導論、特別活動論、 教育相談論を履修済もしくは履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験 関連法規 教職教養 専門教養				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。

〔到達目標〕

- 1 教職教養の知識を身につける。
- 2 各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。
- 3 面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

- 1 4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取り組む。
- 2 個人面接、集団面接試験対策を行う。
- 3 学内模擬試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	学習指導要領の変遷—改訂の推移—
第2回	小学校学習指導要領—総則を読み解く—
第3回	中学校学習指導要領—総則を読み解く—
第4回	高等学校学習指導要領—総則を読み解く—
第5回	関連法規の概要—教育基本法、学校教育法、学校保健安全法—
第6回	教育基本法—教育の目的・理念—
第7回	学校教育に関する法規 ① 答申からみる
第8回	学校教育に関する法規 ② 学校教育法
第9回	教職員に関する法規 ① 答申からみる
第10回	教職員に関する法規 ② 地方公務員法
第11回	児童生徒に関する法規 ① 答申からみる
第12回	児童生徒に関する法規 ② 学校保健安全法
第13回	生徒指導のあり方（生徒指導提要、答申）
第14回	個人面接の内容・進め方
第15回	集団面接の内容・進め方

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求めます。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニレポート）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。

■教科書

- 1 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』、東山書房
- 2 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2019年度版
- 3 時事通信出版局 『月刊 教員養成セミナー』

■参考書

東京アカデミー 『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等

科目名	中・高 教職対策講座I (4年生)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	—
履修要件	教育原理、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育方法論、 日本国憲法、道徳教育、取得希望免許状の教科教育法 (社会科教育法Ⅰ・Ⅱ、日本史Ⅰ・Ⅱ、介護技術Ⅰ、福祉科 教育法、公民科教育法)、生徒指導論、特別活動論、教育相 談論を履修済もしくは履修中であることが望ましい。	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験 願書・自己アピール 直前対策 面接試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。

〔到達目標〕

- 1 願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。
- 2 各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。
- 3 面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

- 1 3年次の後期から開講している教職対策講座Iを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。
- 2 外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。
- 3 願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。
- 4 学内模擬試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明 教員採用試験対策 教員採用試験の概要説明)
第2回	願書の書き方
第3回	自己アピール文の作成方法・解説
第4回	小論文の書き方
第5回	試験直前対策問題 ① 教育原理・専門教養
第6回	試験直前対策問題 ② 教育原理・専門教養
第7回	試験直前対策問題 ③ 教育原理・専門教養
第8回	試験直前対策問題 ④ 教育法規・専門教養
第9回	試験直前対策問題 ⑤ 教育法規・専門教養
第10回	試験直前対策問題 ⑥ 教育法規・専門教養
第11回	試験直前対策問題 ⑦ 教育時事・専門教養
第12回	試験直前対策問題 ⑧ 教育時事・専門教養
第13回	個人面接試験対策
第14回	集団面接試験対策
第15回	集団討論試験対策

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておき、授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
- 4 全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他(ミニレポート)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時 それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容(50%)、試験またはまとめのレポート(50%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)/高等学校学習指導要領』、東山書房
- 2 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2019年度版
- 3 時事通信出版局 『月刊 教員養成セミナー』
- 4 時事通信出版局 5月号別冊 パーフェクト予想問題

■参考書

東京アカデミー 『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等

社会福祉学部 カリキュラム一覧

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		福心士	福心士 精保士	心 認定心理	心H30 公認心理師	心~H29	教 中学校	教 教(公認)	教 教(備)	教 特別支援	児・初 保育士	児・初 幼稚園	初 小学校	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択													
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●											●			
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●												●		
3	心理学理論と心理的支援(心理学概論)	1	2	●		●		●		●		●		●	●	●	●	▲						●		
4	社会理論と社会システム	1	2	●		●		●		●		●		●	●											
5	日本国憲法	2	2		●		●	●		●		●												●		●
6	道徳教育	1	2	●		●		●		●		●													●	
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●												●		
8	スポーツ及びレクリエーション実技	1	2	●		●		●		●		●												●	●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●												●	●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●		●		●		●													
11	英語Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●												●	●	●
12	英語Ⅱ	1	2	●		●		●		●		●													●	●
13	英語Ⅲ	2	2		●		●		●		●		●												▲	
14	英語Ⅳ	2	2		●		●		●		●		●												▲	
15	韓国語Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●													
16	韓国語Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●													
17	中国語Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●													
18	中国語Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●													
19	英会話	4	2		●		●		●		●		●											▲	●	
20	経済学	2	2		●		●		●		●		●						●	●						
21	政治学Ⅰ	4	2		●		●		●		●		●						●	●						
22	政治学Ⅱ	4	2		●		●		●		●		●						●	●						
23	人間と宗教	4	2		●		●		●		●		●						●							
24	生涯学習概論	4	2		●		●		●		●		●							●						
25	児童文学	3	2		●		●		●		●		●												▲	
26	読書指導と文芸	4	2		●		●		●		●		●												▲	
27	マスメディア論	4	2		●		●		●		●		●						▲	▲						
28	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●		●		●		●													
29	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●								●						
30	教育原理	1	2		●		●	●		●		●								●	●	●		●	●	●
31	日本史Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●							●						
32	日本史Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●							●						
33	世界史	2	2		●		●		●		●		●							●						
34	地理学	2	2		●		●		●		●		●							●						
35	国際文化論	1	2		●		●		●		●		●													
36	美術技法	1	2		●		●		●		●		●													
37	音楽(一般)	1	2		●		●		●		●		●													
38	基礎演習Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●												●		
39	基礎演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●												●		
40	総合演習Ⅰ	3	2	●		●		●		●		●												●		
41	総合演習Ⅱ	4	2	●		●		●		●		●												●		
42	ボランティア活動Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●							●	●	●					●
43	ボランティア活動Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●							●	●	●					●
44	ボランティア活動Ⅲ	3	1		●		●		●		●		●													
45	ボランティア活動Ⅳ	4	1		●		●		●		●		●													
46	チームケア入門Ⅰ	1	1		●		●		●		●		●													
47	チームケア入門Ⅱ	2	1		●		●		●		●		●													
48	医療・福祉・教育の基礎	1	2		●		●		●		●		●													
49	海外語学研修(カナダ)	1~3	2																							
50	海外医療福祉研修(フィリピン)	1~3	2																							

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイダンスで確認してください。

No.	科目名	配当年度	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	公認心理師	認・理・心	中学校	高校(公)	高校(備)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択														
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●		●	●		●	●	IV			●			
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●		●	●							●			
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●		●	●								●		
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●		●	●							●			
5	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	2	●		●		●		●		●		●	●							●			
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●		●	●							●		●	
7	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4	●		●		●		●		●		●	●							●			
8	相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4	●		●		●		●		●		●	●							▲			
9	相談援助演習Ⅰ	1	1	●			●		●	●				●	●							●		●	
10	相談援助演習Ⅱ	2	2	●			●		●	●				●	●							▲		●	
11	相談援助演習Ⅲ	3	2		●		●		●	●				●	●							▲			
12	相談援助実習指導Ⅰ	2	1		●		●		●	●				●	●							●			
13	相談援助実習指導Ⅱ	3	2		●		●		●	●				●	●							●			
14	相談援助実習	3	4		●		●		●	●				●	●							●			
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●			●		●	●				●	●										
16	地域福祉の理論と方法	3	4	●			●		●	●				●	●							▲	●		
17	社会福祉特講Ⅰ	1	1		●		●		●	●				▲											
18	社会福祉特講Ⅱ	2	2		●		●		●	●				▲											
19	社会福祉特講Ⅲ	3	2		●		●		●	●				▲											
20	社会福祉特講Ⅳ	4	2		●		●		●	●				▲											
21	社会保障	2	4	●			●		●	●				●	●					▲	●	▲			
22	権利擁護と成年後見制度	4	2	●			●		●	●				●	●					▲	▲				
23	更生保護制度	4	1	●			●		●	●				●	●					▲	▲				
24	社会調査の基礎	2	2	●			●		●	●				●	●						▲				
25	相談援助の基盤と専門職	1	4	●		●		●		●		●		●	●										
26	福祉行政と福祉計画	1	2	●			●		●	●				●	●										
27	福祉サービスの組織と経営	3	4	●			●		●	●				●	●										
28	就労支援サービス	4	1	●			●		●	●				●	●										
29	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●				▲	●	●	III			●	●		
30	社会福祉史	1	2	●			●		●	●												▲			
31	福祉事務所運営論	4	2	●			●		●	●															
32	精神疾患と治療	4	4		●		●							●		●		▲	IV						
33	精神保健の課題と支援	4	4		●		●							●											
34	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	1	2		●		●							●											
35	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	4		●		●							●											
36	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	4		●		●							●											
37	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	4		●		●							●											
38	精神障害者の生活支援システム	4	2		●		●							●											
39	精神保健福祉援助演習(基礎)	3	2		●		●							●											
40	精神保健福祉援助演習(専門)	4	2		●		●							●											
41	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		●		●							●											
42	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2		●		●							●											
43	精神保健福祉援助実習	4	4		●		●							●											
44	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●		●		●	●		●													
45	心理学研究法	1	2		●	●			●							●	●	●	I						
46	学習心理学(学習・言語心理学)	1	2		●	●			●							▲	●	●	II						
47	発達心理学	1	4		●	●			●							▲	●	●	II			▲			
48	保育の心理学Ⅰ	1	2						●		●												●	●	●
49	心理統計学(心理統計法)	2	4		●	●			●							●	●	●	I						
50	老人心理学	2	2		●	●			●							▲						●			
51	障害児(者)心理学	2	2		●	●			●							▲	●	●	II			●			
52	教育心理学(教育・学校心理学)	1	2		●	●		●								●	●	●	III	●	●	●			
53	保育の心理学Ⅱ	1	2						●		●												●	●	●
54	認知心理学(知覚・認知心理学)	3	2		●	●			●							▲	●	●	II						
55	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	3	2		●	●			●							▲	●	●	II						
56	臨床心理学(臨床心理学概論)	3	2		●	●			●	●						▲	●	●	I				●		
57	カウンセリング(心理演習)	4	2		●	●			●	●						▲	●	●	V			▲			
58	青年心理学	2	2		●		●		●																
59	公衆衛生学	2	2		●		●		●		●														
60	心理療法(心理学的支援法)	3	2		●		●		●							▲	●	●	V						
61	人間関係論(産業・組織心理学)	2	2		●	●			●							▲	●	●	III						
62	国際福祉論	4	2		●		●		●		●														
63	人格心理学(感情・人格心理学)	3・4	2		●		●		●							▲	●	▲	II						

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	公認心理師	師範・特	中学校	高校(公民)	福祉(福祉)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択														
64	住環境福祉論	4	2		●		●		●		●		●												
65	社会福祉法制(関連行政論)	3	2		●		●		●		●		●				●								
66	相談心理学(公認心理師の職責)	4	2		●		●		●		●		●			▲	●								
67	介護技術Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●									●			
68	介護技術Ⅱ	3	2		●		●		●		●		●									▲			
69	卒業論文指導	3	2		●		●		●		●		●												
70	卒業論文	4	4		●		●		●		●		●												
71	心理学実験実習Ⅰ(心理学実験)	2	4			●										●	●	●	I						
72	心理学実験実習Ⅱ	3	2			●										●									
73	心理学実験実習Ⅲ(心理的アセスメント)	3	2			●										▲	●	●	V						
74	発達心理学特講(健康・医療心理学)	4	2				●									▲	●	▲	III						
75	臨床心理学特講(神経・生理心理学)	3・4	2				●									▲	●	▲	II						
76	教職概論	2	2					●			●	●								●	●	●		●	●
77	教育社会学	2	2					●			●	●								●	●	●		●	●
78	社会科教育法Ⅰ	2	4						●											●					
79	社会科教育法Ⅱ	2	4						●											●					
80	公民科教育法	3	4						●												●				
81	福祉科教育法	2	4						●												●				
82	特別活動研究	3	2					●			●		●							●	●	●			●
83	教育方法論	2	2					●			●	●								●	●	●		●	●
84	生徒指導論	3	2					●			●		●							●	●	●		●	●
85	教育相談論	3	2					●			●		●							●	●	●		●	●
86	教職実践演習(中・高)	4	2					●			●		●							●	●	●		●	●
87	教育実習事前・事後指導(中・高)	2・3	1					●			●		●							●	●	●		●	●
88	高等学校教育実習	3	2					●			●		●							●	●			●	●
89	学校経営と学校図書館	3	2					●			●		●							●	●			●	●
90	学校図書館メディアの構成	3	2					●			●		●							●	●			●	●
91	学習指導と学校図書館	3	2					●			●		●							●	●			●	●
92	読書と豊かな人間性	3	2					●			●		●							●	●			●	●
93	情報メディアの活用	3	2					●			●		●							●	●			●	●
94	特別支援教育総論	2	2					●			●		●									●			
95	障害児支援法総論	2	2					●			●		●									●			
96	重複障害教育総論	2	1					●			●		●									●			
97	知的障害教育Ⅰ	2	2					●			●		●									●			
98	肢体不自由教育Ⅰ	2	2					●			●		●									●			
99	知的障害者の心理・生理・病理	3	2					●			●		●									●			
100	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2					●			●		●									●			
101	知的障害教育Ⅱ	3	2					●			●		●									●			
102	肢体不自由教育Ⅱ	3	2					●			●		●									●			
103	病弱者の心理・生理・病理	4	2					●			●		●									●			
104	病弱教育	4	2					●			●		●									●			
105	LD等教育総論	4	2					●			●		●									●			
106	教育実習事前・事後指導(特支)	4	1					●			●		●									●			
107	特別支援学校教育実習	4	2					●			●		●									●			
108	中学校教育実習	3	4					●			●		●								●				
109	幼児理解	4	2							●	●												●	●	
110	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2							●	●													●	
111	幼稚園教育実習	4	4							●	●													●	
112	生活科概論	2	2							●		●												▲	●
113	地域子育て支援論	4	2							●		●											●	▲	
114	青少年の理解と援助	4	2							●		●												▲	
115	人権教育論	4	2		●		●		●		●		●											▲	
116	保育原理Ⅰ	1	4							●		●											●	●	
117	社会的養護Ⅰ	2	2							●		●											●		
118	家庭支援論	4	2							●		●											●	●	
119	保育内容 総論	4	1							●		●											●	●	
120	保育内容 健康	1	1							●		●											●	●	
121	保育内容 人間関係	2	1							●		●											●	●	
122	保育内容 環境	1	1							●		●											●	●	
123	保育内容 言葉	2	1							●		●											●	●	
124	保育内容 表現	3	1							●		●											●	●	
125	乳児保育Ⅰ(演習)	3	2							●		●											●		

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉 C		福祉心理 C		学校教育 C		児童福祉 C		初等教育 C		社福士	精保士	認定心理	公認心理師	調理師	中学校	高校(公民)	専攻(福祉)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択															
126	障害児保育Ⅰ	2	1							●		●											●			
127	障害児保育Ⅱ	4	1							●		●												●		
128	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	1							●		●												●	●	
129	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2							●		●												●	●	
130	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1							●		●												●	●	
131	保育教職実践演習	4	2							●		●												●	●	
132	保育実習指導Ⅰ(施設)	2・3	1							●		●												●		
133	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1							●		●												●		
134	保育実習指導Ⅱ(保育所)	4	1							●		●												●		
135	社会的養護Ⅱ	2	2							●		●												●		
136	児童文化(演習)	2	2							●		●												●		
137	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2	2							●		●												●	●	
138	保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2							●		●												●	●	
139	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2							●		●												●	●	
140	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2								●		●											▲	▲	▲
141	国語科概論	2	2										●													●
142	社会科概論	2	2										●													●
143	数学概論	2	2										●													●
144	理科概論	2	2										●													●
145	音楽概論	2	2										●													●
146	美術概論	2	2										●													●
147	家庭科概論	2	2										●													●
148	体育概論	2	2										●													●
149	小学校教育法(国語)	3	2										●													●
150	小学校教育法(社会)	4	2										●													●
151	小学校教育法(算数)	3	2										●													●
152	小学校教育法(理科)	4	2										●													●
153	小学校教育法(生活)	4	2										●													●
154	小学校教育法(音楽)	4	2										●													●
155	小学校教育法(図工)	3	2										●													●
156	小学校教育法(家庭)	4	2										●													●
157	小学校教育法(体育)	3	2										●													●
158	初等教育実習事前・事後指導	3・4	1										●													●
159	小学校教育実習	4	4										●													●
160	教職実践演習(小学校)	4	2										●													●
161	保育実習Ⅰ(施設)	2	2								●		●											●		
162	保育実習Ⅰ(保育所)	3	2								●		●											●		
163	保育実習Ⅱ(保育所)	4	2								●		●											●		
164	子どもの保健Ⅰ	4	4								●		●											●		
165	子どもの保健Ⅱ	3	1								●		●											●		
166	社会的養護内容	2	1								●		●											●		
167	子どもの食と栄養	2	2								●		●											●		
168	保育者論	3	2								●		●											●		
169	保育課程論	3	2								●		●											●	▲	
170	介護体験実習Ⅰ	3・4	1		●		●		●		●		●								▲		▲			▲
171	介護体験実習Ⅱ	3・4	1		●		●		●		●		●								▲		▲			▲
172	介護体験実習指導	3・4	1		●		●		●		●		●								▲		▲			▲
173	道徳の理論と指導法	4	2							●		●														

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイドンスで確認してください。

教科書の購入について

各シラバスに記載されている教科書は必ず購読し、毎授業に持参することが大学生としての基本です。

文部科学省は『大学における教育内容・方法の改善等について』において以下のように答申している。

単位制度は、教室での授業と授業の事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与することを前提としており、各大学において1単位当たりの必要な授業時間を確保するとともに、学生には大学の教室で授業を受けるだけでなく、教室外においても自主的な学習を行うことが求められます。

つまり、大学において単位を取得するためには教室での授業及び授業の事前・事後の準備学習・復習が重要です。事前・事後の準備学習・復習のためには教科書の購入が必須であり、学校のロッカーに教科書を入れているという現状はこの準備学習・復習をしていないということを顕著に表しています。

今年度は必ず、教科書を購入するとともに自宅で準備学習・復習をする習慣を身に付けてください。また、学習方法がわからない場合や学習内容でわからない場合は、教職員に聞いてみましょう。また、図書館で学習する習慣をつけることで、最終学年で受験するであろう社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験の受験対策にもつながります。

以下に専攻・コースにおける必携書籍を提示するので、必ず購入し授業及び準備学習・復習に役立ててください。

社会福祉学部及び短期大学部の学生

◆社会福祉6法（社会福祉小6法）

※出版社は指定しないが法改正があるため、毎年購入することが望ましい。

◆国語辞典

◆漢和辞典

◆英和辞典

※国語辞典、漢和辞典、英和辞典は高校等で使っていたものでかまわない。

◆社会福祉用語辞典

索引

アルファベット

L

LD 等教育総論 243

かな

あ

アクティビティ・サービス援助技術 167

い

医療・福祉・教育の基礎 90

え

英会話 49

英語 I (子ども専攻) 40

英語 I (社会福祉専攻) 39

英語 II (子ども専攻) 42

英語 II (社会福祉専攻) 41

英語 III 43

英語 IV 44

お

音楽概論 300

か

「海外医療福祉研修 (フィリピン)」 93

「海外語学研修 (カナダ)」 91

介護技術 I 194

介護技術 II 196

介護体験実習 I 337

介護体験実習 II 338

介護体験実習指導 339

カウンセリング (心理実習) 184

学習指導と学校図書館 229

学習心理学 (学習・言語心理学) 170

学校経営と学校図書館 227

学校図書館メディアの構成 228

家庭科概論 302

家庭支援論 258

韓国語 I 45

韓国語 II 46

き

基礎演習 I 70

基礎演習 II 72

教育原理 (子ども専攻) 62

教育原理 (社会福祉専攻) 61

教育実習事前・事後指導 (特支) 244

教育実習事前・事後指導 (幼稚園) 249

教育社会学 207

教育心理学 (教育・学校心理学) 178

教育相談論 220

教育方法論 217, 218

教職概論 206

教職実践演習 221

教職実践演習 (小学校) 326

け

経済学 50

健康論 33

現代社会と福祉 98

権利擁護と成年後見制度 130

こ

公衆衛生学 186

更生保護制度 131

高等学校教育実習 (公民科) 225

高等学校教育実習 (福祉科) 226

公民科教育法 212

高齢者に対する支援と介護保険制度 100

国語科概論 296

国際福祉論 189

国際文化論 67

子どもの食と栄養 334

子どもの保健 I 330

子どもの保健 II 332

し

肢体不自由教育 I 236

肢体不自由教育 II 240

肢体不自由者の心理・生理・病理 238

児童文化 (演習) 284

児童文学 55

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 103

社会科概論 297

社会科教育法 I 208

社会科教育法 II 210

社会心理学 (社会・集団・家族心理学) 181

社会調査の基礎 (子ども専攻) 133

社会調査の基礎 (社会福祉専攻) 132

社会調査の基礎 (編入組) 134

社会的養護 I 257

社会的養護 II 283

社会的養護内容 333

社会福祉史 145

社会福祉特講 I 121

社会福祉特講 II 122

社会福祉特講 III 124

社会福祉特講 IV 126

社会福祉法制 (関連行政論) 192

社会保障 128

社会理論と社会システム 30

住環境福祉論 191

就労支援サービス 143

生涯学習概論 54

障害児支援法総論 233

障害児 (者) 心理学 177

障害児保育 I 267

障害児保育 II 268

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 102

小学校教育実習 325

小学校教科教育法 (音楽) 314

小学校教科教育法 (家庭) 318

小学校教科教育法（国語）	304
小学校教科教育法（算数）	308
小学校教科教育法（社会）	306
小学校教科教育法（図工）	316
小学校教科教育法（生活）	312
小学校教科教育法（体育）	320
小学校教科教育法（理科）	310
情報処理演習	36
情報メディアの活用	231
初等教育実習事前・事後指導（3年）	322
初等教育実習事前・事後指導（4年）	324
人格心理学（感情・人格心理学）	190
人権教育論	254
人体の構造と機能及び疾病	96
心理学研究法	169
心理学実験実習Ⅰ（心理学実験）	200
心理学実験実習Ⅱ	202
心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）	203
心理学理論と心理的支援（心理学概論）	29
心理統計学（心理学統計法）	174
心理療法（心理学的支援法）	187
す	
数学概論	298
スポーツ及びレクリエーション実技	34
せ	
生活科概論	251
政治学Ⅰ	51
政治学Ⅱ	52
青少年の理解と援助	253
精神疾患とその治療	147
精神障害者の生活支援システム	158
精神保健の課題と支援	149
精神保健福祉援助演習（基礎）	159
精神保健福祉援助演習（専門）	161
精神保健福祉援助実習	166
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	163
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	164
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	151
精神保健福祉に関する制度とサービス	156
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	152
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	154
生徒指導論	219
青年心理学	185
世界史	65
そ	
総合演習Ⅰ	74
総合演習Ⅱ	76
相談援助演習Ⅰ	109
相談援助演習Ⅱ	110
相談援助演習Ⅲ	112
相談援助実習	117
相談援助実習指導Ⅰ	114
相談援助実習指導Ⅱ	115
相談援助の基盤と専門職（子ども専攻）	137
相談援助の基盤と専門職（社会福祉専攻）	135

相談援助の理論と方法Ⅰ	105
相談援助の理論と方法Ⅱ	107
相談心理学（公認心理師の職責）	193
卒業論文	199
卒業論文指導	198
た	
体育概論	303
ち	
地域子育て支援論	252
地域福祉の理論と方法	119
チームケア入門Ⅰ	88
チームケア入門Ⅱ	89
知的障害教育Ⅰ	235
知的障害教育Ⅱ	239
知的障害者の心理・生理・病理	237
中学校教育実習（社会科）	247
中・高 教育実習事前事後指導（2年生）	222
中・高 教育実習事前事後指導（3年生）	224
中・高 教職対策講座Ⅰ（3年生）	341
中・高 教職対策講座Ⅰ（4年生）	342
中国語Ⅰ	47
中国語Ⅱ	48
重複障害教育総論	234
地理学	66
て	
低所得者に対する支援と生活保護制度	118
哲学	26
と	
道徳教育	32
道徳の理論及び指導法	340
読書指導と文芸	56
読書と豊かな人間性	230
特設科目・論語	60
特別活動研究	216
特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）教育実習	246
特別支援教育総論	232
に	
日本国憲法	31
日本史Ⅰ	63
日本史Ⅱ	64
乳児保育Ⅰ（演習）	265
人間関係論（産業・組織心理学）	188
人間と宗教	53
認知心理学（知覚・認知心理学）	180
は	
発達心理学	171
発達心理学特講（健康・医療心理学）	204
ひ	
美術概論	301
美術技法	68

病弱教育	242	臨床心理学特講（神経・生理心理学）	205
病弱児の心理・生理・病理	241	臨床心理学（臨床心理学概論）	182
		倫理学	27,28
ふ		れ	
福祉科教育法	214	レクリエーション活動援助法	58
福祉行財政と福祉計画（子ども専攻）	140	ろ	
福祉行財政と福祉計画（社会福祉専攻）	139	老人心理学	176
福祉サービスの組織と経営	141		
福祉事務所運営論	146		
福祉情報処理	38		
福祉心理学	144		
ほ			
保育課程論	336		
保育教職実践演習	276		
保育原理Ⅰ	255		
保育実習Ⅰ（施設）	327		
保育実習Ⅰ（保育所）	328		
保育実習Ⅱ（保育所）	329		
保育実習指導Ⅰ（施設）	277		
保育実習指導Ⅰ（施設）事後指導	279		
保育実習指導Ⅰ（保育所）	280		
保育実習指導Ⅱ（保育所）	282		
保育者論	335		
保育内容 環境	262		
保育内容 健康	260		
保育内容 言葉	263		
保育内容総論	259		
保育内容 人間関係	261		
保育内容 表現	264		
保育の心理学Ⅰ	173		
保育の心理学Ⅱ	179		
保育の表現技術Ⅰ（音楽）	269,271		
保育の表現技術Ⅰ（図画工作）	273,274		
保育の表現技術Ⅰ（体育）	275		
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）	286		
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	290,292		
保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	288		
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	294		
保健医療サービス	97		
ボランティア活動Ⅰ（子ども専攻）	80		
ボランティア活動Ⅰ（社会福祉専攻）	78		
ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	84		
ボランティア活動Ⅱ（社会福祉専攻）	82		
ボランティア活動Ⅲ	86		
ボランティア活動Ⅳ	87		
ま			
マスメディア論	57		
よ			
幼児理解	248		
幼稚園教育実習	250		
り			
理科概論	299		
臨床心理学（子ども専攻）	183		